2025年度

学修ガイド

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

P

福岡大学

2025年度新入生(25台)の皆さんへ

この学修ガイドは、卒業まで

使用します。大切に保管してください。

※学修ガイドの内容は、FU ポータルでも閲覧できます。

この学修ガイドには、履修登録、授業、試験など、学修をすすめるうえでの重要事項や情報を掲載しています。よく読み、理解するようにしてください。

なお、掲載内容に変更が発生した場合は、FU ポータル等でお知らせします。

＜注意＞

入学後の各種ガイダンスでこの学修ガイドを使用しますので、必ず持参して参加してください。

2025年度

学修ガイド

薬学部

Faculty of Pharmaceutical Sciences

P

福岡大学

目次

Ⅰ 学部教育の理念と目標

003 学部教育の理念と目標

Ⅱ 学年ごよみ・事務窓口

007 2025年度学年ごよみ
009 2025年度年間カレンダー
011 事務窓口案内
◎教務関係事務部署について
◎各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口
◎窓口事務時間
◎事務休業日

Ⅲ 授業・試験

015 大学からの連絡
017 単位と授業時間
018 休講および補講
018 振替授業日および休日授業日
019 出席の確認
019 欠席届
020 教室の表示等
020 テキスト（教科書）の購入
021 試験
024 成績・進級
026 在学の年限
026 卒業
026 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
027 前期・後期　試験時間割

Ⅳ 履修の手引

033 諸規程と履修登録
034 シラバス
035 FU プラスアップ授業
036 履修登録上の注意事項
044 履修登録等の日程
046 全学部共通留意事項
077 各学部留意事項
087 クリニカルファーマシスト養成プログラム
092 薬学部実習時間割
093 薬学部教員教室一覧表
094 履修登録ガイダンス
095 Web 履修登録スケジュール（新入生）
096 履修登録流れ図（新入生）
097 Web 履修登録スケジュール（在学生）
098 履修登録流れ図（在学生）
099 外国語科目クラス別担当者一覧

Ⅴ その他

111 大学院受験（飛び級制度）
111 特待生制度
112 国際交流・海外留学支援

Ⅵ 諸規程

119 福岡大学学則〔新入生（令和７年度入学生）適用〕
139 授業科目の履修等について〔新入生（令和７年度入学生）適用〕
142 年次別授業科目表（学科履修規程　第４条別表）
154 福岡大学学科履修規程
221 福岡大学成績考査規程
224 その他諸規程

Ⅶ 薬学部参考資料

241 六年制で学ぶこと（カリキュラム・マップ／カリキュラム・ツリー）
269 薬剤師国家試験出題基準
291 モデル・コア・カリキュラム対応表

Ⅷ オフィス・アワー

381 オフィス・アワー

Ⅸ 学籍について

413 学籍について
◎学籍とは
◎休学
◎復学
◎退学
◎除籍
◎再入学
◎転部・転科
◎氏名・性別・国籍等の学籍情報変更
◎住所変更・保証人変更

巻末 履修登録の手引

CONTENTS

I

学部教育の理念と目標

● 学部教育の理念と目標

学部教育の理念と目標

福岡大学の理念と薬学部教育研究の目的

薬学部長◉松　末　公　彦

Ⅰ．建学の精神

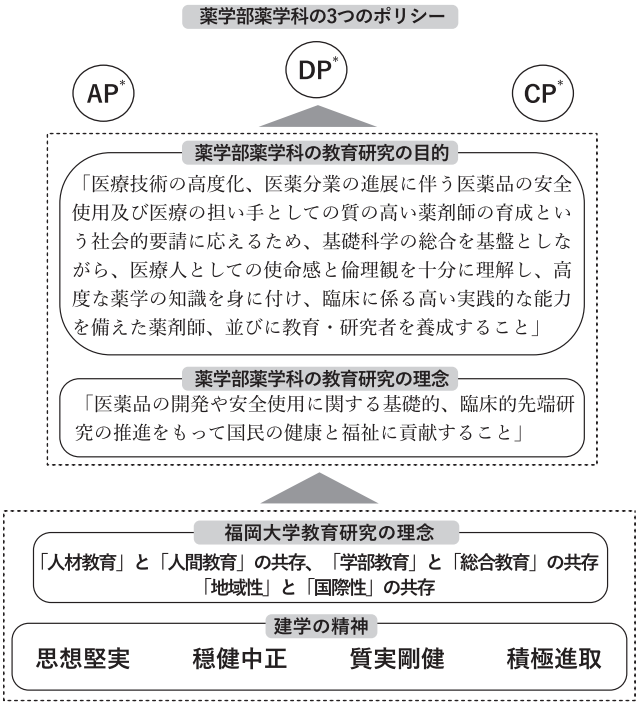
福岡大学の建学の精神は、時代や社会の変動・変遷にかかわらず常に一貫して存在価値を高め現在にいたっています。建学の精神としてかかげている「思想堅実」「穏健中正」「質実剛健」「積極進取」のそれぞれの精神は、人格形成のうえで一体となって本学教育の基本理念となっています。

“思想堅実”考えや考え方が、自然の法則や人と社会の在り方に広く、深く根ざしていること

“穏健中正”穏やかでしっかりしており、公正・公平で偏りがないこと

“質実剛健”言葉や容姿を飾ることなく、誠実で、心身ともに強く健やかであること

“積極進取”積極的に、自らの道を切り拓くこと



* AP: アドミッションポリシー、DP: ディプロマーポリシー
CP: カリキュラムポリシー

Ⅱ．福岡大学教育研究の理念（３つの共存）

・**「人材教育」**と**「人間教育」**の共存

「人材教育」と「人間教育」は、共存することによって「知」と「心」を磨き、高い倫理観をもって社会的責任を果たし、真に豊かで夢を描くことができる社会づくりに貢献する21世紀型市民の育成を可能とします。

・**「学部教育」**と**「総合教育」**の共存

「学部教育」と「総合教育」は、共存することによって学部や大学院における専門分野に特化した教育研究を異分野横断型の学際的教育研究へと発展させ、より高いレベルの新しい知と技術を創造しそれらを社会に還元していくことを可能とします。

・**「地域性」**と**「国際性」**の共存

「地域性」と「国際性」は、共存することによって地域を支える人材を育てるとともに、国際的に活躍できる、異文化を理解する寛容な精神をもった人材の育成を可能とします。

Ⅲ．「薬学部薬学科教育研究の目的」と「福岡大学の理念」とのつながり

“「人材教育」と「人間教育」の共存”とのつながり

薬学部では、医療人としての「人材教育」と、豊かな人間性を育む「人間教育」の両方を大切にしています。たとえば、高度な薬学の知識や実践的な臨床能力を身につけることは、医療人教育です。一方で、医療人としての使命感や倫理観を育むことは、人間教育です。つまり、技術と心の両方を持ち合わせた薬剤師を育成することが薬学部の使命です。

“「学部教育」と「総合教育」の共存”とのつながり

薬学部では、薬学の専門教育だけでなく、幅広い科学知識を学ぶことも重視しています。薬剤師になるための専門的な知識や技能を学ぶのは、もちろん大切な「学部教育」です。しかし、それだけでなく「基礎科学の総合」を基盤とすることで、より広い視野と深い洞察力を持った薬剤師や研究者を育成することが重要です。これは「総合教育」の考え方そのものです。

“「地域性」と「国際性」の共存”とのつながり

薬学部では、地域の医療に貢献できる人材と、国際的な視野を持つ人材の両方を育てることを目指しています。地域の薬局や病院で、安全に医薬品を提供できる薬剤師を育てることは、地域への貢献につながります。同時に、最新の医療技術に対応できる能力や研究者としての素養を育てることで、グローバルに活躍できる人材の育成に取り組んでいます。

このように、薬学部教育研究の目的には大学の理念をバランスよく取り入れています。専門知識と人間性、専門分野の深い学びと幅広い教養、地域への貢献と国際的な活動、これらをすべて包含した「全人教育」の理念のもと、確かな知識と豊かな人間性を兼ね備えた薬剤師や研究者の輩出を目指し、全人教育の理念に基づいた教育を実践していくことが福岡大学薬学部の崇高な使命です。

Ⅳ．薬学部教育研究の現状

薬 学 部 DP

1．幅広い教養と基礎的科学力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
2．薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
3．教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

近年の社会状況の変化、全人的医療への転換など21世紀の新しい医療のあり方を背景に、全国薬学部は平成18年度より４年制学部に加え、６年制学部が導入されました。これを機に、福岡大学薬学部も６年制薬学科に一本化し、本学の「建学の精神と三つの共存（教育研究の理念）」のもと、「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念としました。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究上の目的としています（前ページ図参照）。この目的を達成するための本学部のディプロマポリシー（DP　学位授与の方針）は、３項目（上図薬学部 DP 参照）からなり、これらの能力を修得した者に対して学士（薬学）の学位を授与しています。

令和４年度、全国６年制薬学部共通の教育指針である薬学教育モデル・コア・カリキュラムの改定を受け、本学部は教育カリキュラムを大幅に改正いたしました。新カリキュラムでは、全科目を基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学、薬学研究の各分野に体系的に分類し、段階的な学習を可能としました。また、実践的な薬物療法や感染制御を学ぶための臨床系演習科目およびアクティブラーニング科目を拡充するとともに、医療業界の急速な AI・デジタル化に対応するため、ICT 関連科目も新設しました。さらに、高度な専門性を持つ薬剤師の育成を目指し、既存の「がん薬物治療学コース」に加え、「感染症薬物治療学コース」を新たに設置しました。「感染症薬物治療学コース」を設置することで、新たに感染症対策や治療の専門知識を学ぶ機会を提供し、感染症に対して効果的な薬物療法を実践できる薬剤師の育成を強化しています。これらのコースでは、各専門分野に特化した知識・技能を講義・演習・実習を通じて体系的に修得することができます。教育支援体制においては、低学年のリメディアル教育に力を入れ、薬学教育支援センターの専任教員によるリメディアル授業や専門科目の確認試験に基づく補講授業を実施しています。また、教育支援の充実と薬学教育の質的向上を目指し、新たに薬学教育学研究室を設置し、教育手法の研究や教材開発を行い、より効果的な薬学教育の実現に取り組んでいます。これらを含む薬学部の新たな教育体制は、薬学共用試験および薬剤師国家試験における高い合格率の維持・向上に寄与するものと確信しています。

福岡大学の特長として、同一キャンパス内に医学部および大学病院を有し、実務実習などの総合医療（チーム医療）教育において優れた環境を提供しています。さらに、多様な理系・文系学部との共存により、充実した全人教育・教養教育の場を実現しています。薬学部は今後も、医療人としての確固たる倫理観と研究マインドを持ち、国民の健康と福祉に貢献する薬剤師および教育・研究者の輩出に邁進していきます。

Ⅱ

学年ごよみ・事務窓口

- 2025年度 学年ごよみ
- 2025年度 年間カレンダー
- 事務窓口案内

2025年度 学年ごよみ

前期		後期	
期　日	事　項	期　日	事　項
7．3．21（金）	在学生履修登録開始	7．9．1（月）	後期集中講義開始
3．28（金）	在学生履修登録終了	9．3（水）	後期履修登録変更開始（12時）
		9．5（金）	後期履修登録変更終了（16時）
		〃	後期集中講義終了
4．1（火）	学年開始・前期開始	9．8（月）	FU プラスアップ視聴開始
〃	入学式	9．12（金）	FU プラスアップ視聴終了
4．2（水）	新入生ガイダンス	9．14（日）	後期開始
〃	FU プラスアップ視聴開始	9．15（月）	後期授業開始
4．3（木）	新入生履修登録開始	〃	「敬老の日」（授業日）
4．6（日）	新入生履修登録終了	11．4（火）	学園祭に伴う休講日
4．9（水）	FU プラスアップ視聴終了	12．25（木）	月曜日の振替授業日
4．11（金）	前期授業開始	12．27（土）	冬季休業開始
4．29（火）	「昭和の日」（授業日）		
5．21（水）	創立記念日	8．1．4（日）	冬季休業終了
7．4（金）	火曜日の振替授業日	1．5（月）	後期授業再開
7．21（月）	「海の日」（授業日）		
7．22（火）	前期授業終了（全体補講日）	1．13（火）	後期授業終了（全体補講日）
7．23（水）	前期試験開始	1．14（水）	後期試験開始
8．1（金）	前期試験終了（予備日含む）	1．27（火）	後期試験終了（予備日含む）
8．4（月）	夏季休業開始	2．12（木）	４年次生等成績発表開始
〃	前期集中講義開始	〃	医学部医学科第１学年成績発表予定
8．8（金）	前期集中講義終了	2．20（金）	追・再試験開始
8．27（水）	前期追試験開始	2．27（金）	追・再試験終了
8．31（日）	前期追試験終了（予備日含む）	3．13（金）	１～３年次生成績発表開始
9．1（月）	前期成績発表開始	3．19（木）	卒業式
9．3（水）	前期成績（追試含む）発表開始	3．21（土）	在学生履修登録開始
9．13（土）	夏季休業終了	3．30（月）	在学生履修登録終了
9．27（土）	前期卒業式	3．31（火）	学年終了

［試　　験］　前期試験期間中の土曜日は、試験を実施する。

［補　講　日］

	指定する土曜日（１～５時限）	指定する（補講可能な）週（６時限のみ）※１	前・後期試験前の指定する日　※２	その他指定する日（１～５時限）
前期	５月24日（土） ６月28日（土） ７月12日（土）	５月19日（月）～23日（金） ６月23日（月）～27日（金） ７月７日（月）～11日（金）	７月22日（火）	
後期	11月８日（土）	10月20日（月）～24日（金） 11月10日（月）～14日（金） 12月15日（月）～19日（金）	１月13日（火）	12月24日（水） 12月26日（金） １月７日（水） １月８日（木） １月９日（金）

※１　商学部第二部は、指定する週の６時限目の補講は実施しない。
※２　昼間部は１～５時限、商学部第二部は夜１，２時限に補講を実施する。

［振替授業日］　振替前と同じ時限・教室で実施

前期	火曜日の振替授業日　７月４日（金）
後期	月曜日の振替授業日　12月25日（木）

［休日授業日］　通常の曜日の授業を実施

前期	４月29日（火）「昭和の日」 ７月21日（月）「海の日」
後期	９月15日（月）「敬老の日」

※医学部医学科（第２学年以上）については、学年暦が異なる場合がある。

2025年度　年間カレンダー

日	曜	4　月	日	曜	5　月	日	曜	6　月	日	曜	7　月	日	曜	8　月	日	曜	9　月	日	曜	10　月	日	曜	11　月	日	曜	12　月	日	曜	1　月	日	曜	2　月	日	曜	3　月
1	火	学年開始・前期開始 入学式	1	木③		1	日		1	火⑪		1	金	定期試験	1	月	後期集中講義開始 前期成績発表開始 （追試験分９／３～）	1	水③		1	土	学園祭	1	月⑨		1	木	元日	1	日		1	日	
2	水	新入生 ガイダンス	2	金④		2	月⑦		2	水⑫		2	土		2	火		2	木③		2	日		2	火⑩		2	金		2	月		2	月	
3	木	新入生 履修登録開始	3	土	憲法記念日	3	火⑦		3	木⑫		3	日		3	水	後期履修登録変更開始 （12時～）	3	金③		3	月	文化の日	3	水⑫		3	土		3	火		3	火	
4	金		4	日	みどりの日	4	水⑧		4	金	火曜日の振替授業日 （火⑫）	4	月	夏季休業開始 前期集中講義開始	4	木		4	土		4	火	学園祭に伴う 休講日	4	木⑫		4	日	冬季休業終了	4	水		4	水	
5	土		5	月	こどもの日	5	木⑧		5	土		5	火		5	金	後期集中講義終了 後期履修登録変更終了 （～16時）	5	日		5	水⑧		5	金⑫		5	月⑭		5	木		5	木	
6	日	新入生 履修登録終了	6	火	振替休日	6	金⑨		6	日		6	水		6	土		6	月④		6	木⑧		6	土		6	火⑭		6	金		6	金	
7	月		7	水④		7	土		7	月⑫	補講週6時限目	7	木		7	日		7	火③		7	金⑧		7	日		7	水	全体補講日 （１～５限）	7	土		7	土	
8	火		8	木④		8	日		8	火⑬		8	金	前期集中講義終了	8	月	FUプラスアップ授業 視聴期間	8	水④		8	土	全体補講日 （１～５限）	8	月⑩		8	木	全体補講日 （１～５限）	8	日		8	日	
9	水		9	金⑤		9	月⑧		9	水⑬		9	土		9	火		9	木④		9	日		9	火⑪		9	金	全体補講日 （１～５限）	9	月		9	月	
10	木	教室割公開	10	土		10	火⑧		10	木⑬		10	日		10	水		10	金④		10	月⑦	補講週6時限目	10	水⑬		10	土		10	火		10	火	
11	金①	前期授業開始	11	日		11	水⑨		11	金⑬		11	月	山の日	11	木		11	土		11	火⑦		11	木⑬		11	日		11	水	建国記念の日	11	水	
12	土		12	月④		12	木⑨		12	土	全体補講日 （１～５限）	12	火		12	金	教室割公開	12	日		12	水⑨		12	金⑬		12	月	成人の日	12	木	成績発表開始 （４年次生他）	12	木	
13	日		13	火④		13	金⑩		13	日		13	水		13	土	夏季休業終了	13	月	スポーツの日	13	木⑨		13	土		13	火	全体補講日	13	金		13	金	成績発表開始 （在学生）
14	月①		14	水⑤		14	土		14	月⑬		14	木		14	日	後期開始	14	火④		14	金⑨		14	日		14	水	定期試験	14	土		14	土	
15	火①		15	木⑤		15	日		15	火⑭		15	金		15	月①	後期授業開始 敬老の日 **（授業日）**	15	水⑤		15	土		15	月⑪		15	木		15	日		15	日	
16	水①		16	金⑥		16	月⑨		16	水⑭		16	土		16	火①		16	木⑤		16	日		16	火⑫		16	金		16	月		16	月	
17	木①		17	土		17	火⑨		17	木⑭		17	日		17	水①		17	金⑤		17	月⑧		17	水⑭		17	土		17	火		17	火	
18	金②		18	日		18	水⑩		18	金⑭		18	月		18	木①		18	土		18	火⑧		18	木⑭		18	日		18	水		18	水	
19	土		19	月⑤		19	木⑩		19	土		19	火		19	金①		19	日		19	水⑩		19	金⑭		19	月		19	木		19	木	卒業式
20	日		20	火⑤		20	金⑪		20	日		20	水		20	土		20	月⑤		20	木⑩		20	土		20	火		20	金	後期追試験	20	金	春分の日
21	月②		21	水⑥	創立記念日	21	土		21	月⑭	海の日 **（授業日）**	21	木		21	日		21	火⑤		21	金⑩		21	日		21	水		21	土		21	土	在学生 履修登録開始
22	火②		22	木⑥		22	日		22	火	全体補講日 前期授業終了	22	金		22	月②		22	水⑥		22	土		22	月⑫		22	木		22	日		22	日	
23	水②		23	金⑦		23	月⑩		23	水		23	土		23	火	秋分の日	23	木⑥		23	日	勤労感謝の日	23	火⑬		23	金		23	月	天皇誕生日	23	月	
24	木②		24	土	全体補講日 （１～５限）	24	火⑩		24	木		24	日		24	水②		24	金⑥		24	月	振替休日	24	水	全体補講日 （１～５限）	24	土		24	火		24	火	
25	金③		25	日		25	水⑪		25	金		25	月		25	木②		25	土		25	火⑨		25	木	月曜日の振替授業日 （月⑬）	25	日		25	水		25	水	
26	土		26	月⑥		26	木⑪		26	土		26	火		26	金②		26	日		26	水⑪		26	金	全体補講日 （１～５限）	26	月		26	木		26	木	
27	日		27	火⑥		27	金⑫		27	日		27	水		27	土	前期卒業式	27	月⑥		27	木⑪		27	土	冬季休業開始	27	火		27	金		27	金	
28	月③		28	水⑦		28	土	全体補講日 （１～５限）	28	月		28	木		28	日		28	火⑥		28	金⑪		28	日		28	水		28	土		28	土	
29	火③	昭和の日 **（授業日）**	29	木⑦		29	日		29	火		29	金		29	月③		29	水⑦		29	土		29	月		29	木					29	日	
30	水③		30	金⑧		30	月⑪		30	水		30	土		30	火②		30	木⑦		30	日		30	火		30	金					30	月	在学生 履修登録終了
			31	土					31	木		31	日					31	金⑦					31	水		31	土					31	火	学年終了

FUプラスアップ授業　視聴期間（注２）

（注１）①～⑭は講義回数

（注２）この期間は新入生が履修登録から第１週目の授業までに視聴する期間を示しています（２年生以上は３月のシラバス公開時から視聴可能）。FU プラスアップ授業は、履修登録時の科目選びの参考、登録科目選びの参考、登録科目の初回授業部分の視聴のほか、年間を通した予習・復習での利用など、様々な活用が可能です。詳細は p. 35をご覧ください。

事務窓口案内

1 教務関係事務部署について

所属する学部	事務部署	業務内容
	教務一課	休学、退学、転部・転科、再入学、科目等履修生、研究生に関すること
人文学部 法学部 経済学部 商学部 商学部第二部	教務二課	履修登録、授業、試験、成績、授業の欠席などの学部事務に関すること
理学部 工学部 薬学部 スポーツ科学部	教務三課	
医学部	医学部事務課	

2 各種証明書の発行・諸届・諸願の事務窓口

	こんな時は	事務窓口
各種証明書等の発行	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書等が必要なとき	教務二・三課 医学部事務課
	学生証を紛失・破損したとき	学生課
	通学定期券を購入したいとき	
	学割を利用して帰省や旅行をしたいとき	
	健康診断証明書が必要なとき	保健センター事務室
諸届・諸願	学費の納入などについて	会計課
	氏名などが変わったとき（p. 416参照）	教務一課
	休学、復学、退学、再入学をしたいとき（p. 413～416参照）	教務一・二・三課 医学部事務課
	1週間以上欠席するとき（p. 19参照）	教務二・三課 医学部事務課
	再試験を受験したいとき（p. 23参照）	
	追試験を受験したいとき（p. 22参照）	学生課

※商学部第二部関係の事務は2号館事務室で対応します。
※各種証明書は、次ページの場所に設置した証明書自動発行機より出力できます。

設置場所		稼働時間
文系センター棟	1階 高層棟ロビー「プラザ50」	8：50～22：00
学生部事務室棟	1階 学生課ロビー	下記窓口事務時間参照
2号館	1階 エントランス	
9号館	1階	
11号館	1階 ロビー	
医学部研究棟本館	1階 医学部事務課内	
16号館	1階 ロビー	
第二記念会堂	3階	

※証明書自動発行機は、各種証明書等発行申込書および証紙の発行も取り扱います。
※下記の事務休業日は、証明書自動発行機の利用はできません。

3 窓口事務時間

平日　8：50～16：50
（2号館事務室は8：50～20：00）
※休暇期間中は一部時間を変更することがあります。

4 事務休業日

・土曜日（定期試験実施日等を除く）
・日曜日
・国民の祝日に関する法律に規定する日（休日授業日等を除く）
・年末年始　　12月28日（日）～1月4日（日）
・盆休および休業日　8月12日（火）～20日（水）
※日程は変更になることがありますので、FUポータル等で確認をしてください。

Ⅲ

授業・試験

- 大学からの連絡
- 単位と授業時間
- 休講および補講
- 振替授業日および休日授業日
- 出席の確認
- 欠　席　届
- 教室の表示等
- テキスト(教科書)の購入
- 試　　験
- 成績・進級
- 在学の年限
- 卒　　業
- 交通機関の乱れや台風・積雪等による授業の休講等
- 前期・後期　試験時間割

大学からの連絡

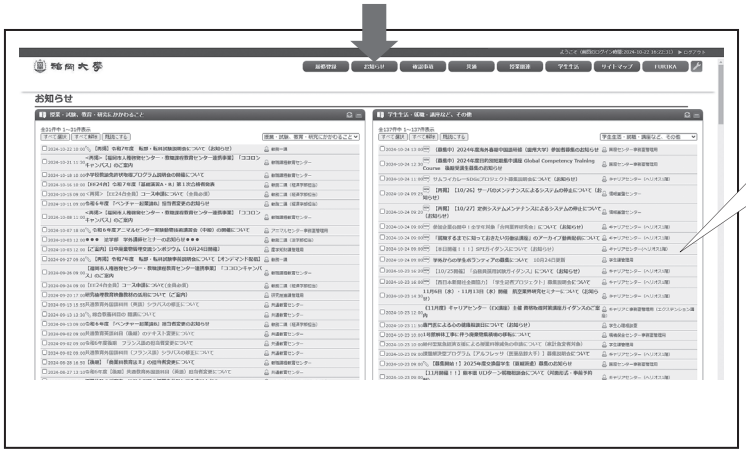
大学からの連絡事項は、**「FU ポータル」「大学が付与するメールアドレス」「掲示板」**を通じてお知らせします。

これらの告示、通知、呼び出し等を見なかったために生じる不利益は、学生本人の責任となります。常に最新の情報を確認する習慣を身につけ、責任を持って行動してください。

（1）FU ポータル

FU ポータルとは、Web 上で提供される福岡大学の様々なサービスの入口となるページです。学生一人ひとりが持つ自分専用のポータルページで、必要な情報やシステムにアクセスすることができます。

◆FU ポータル画面　**お知らせ** をクリック



（例）
学生の皆さん
成績発表に関するスケジュールを公開します。
不明な点は窓口にお尋ねください。

○ FU ポータル

◆FU ポータルで確認できること

内　容	参照メニュー
最新のお知らせを見たい	お知らせ
シラバスを閲覧したい	授業関連 ➢ WEB シラバス
履修登録をしたい	授業関連 ➢ Web 履修登録 ➢ 履修申請
教室を確認したい	授業関連 ➢ Web 履修登録 ➢ 時間割表(教室割)照会
休講・補講情報を見たい	授業関連 ➢ 休講・補講
成績を見たい	授業関連 ➢ 教務 ➢ 成績発表
履修科目の担当教員からの連絡を見たい	授業関連 ➢ 授業支援 ➢ 授業管理（学生）
FU_box を使いたい	共　　通 ➢ 福岡大学公認クラウドストレージサービス
メールを確認したい	共　　通 ➢ Web メール

※主な機能を示しています。これら以外にも各種機能があります。

（2）大学が付与するメールアドレス（@cis メール）

入学の際、学生の皆さんへ次のようなメールアドレスを付与します。大学からの様々な連絡が届きますので、毎日確認してください。

学籍番号@cis.fukuoka-u.ac.jp（例：ee123456@cis.fukuoka-u.ac.jp）

◆FU ポータル画面

Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンにインストールし、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインせずに確認することができます。

○教育用メール（@cis）

（3）掲示板

大学から学生へお知らせするにあたり、紙による掲示を併用する場合もあります。掲示板は、全学部共通の中央掲示板（A棟前）のほか、理系の各学部に設置しています。

FU ポータルとメールは必ず 1 日 1 回確認すること！

●無線 LAN（Wi-Fi）の利用

学内各所に無線 LAN（Wi-Fi）を設置しています。
ノート PC・タブレット端末・スマートフォンなどを接続して
検索や学習に活用しましょう。

○ Wi-Fi 接続について

●授業、試験、成績等の問い合わせ先

対象窓口	メールアドレス	対象窓口	メールアドレス
教務二課（人文学部）	jinbun@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課（医学）	ijimu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課（法 学 部）	hogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	医学部事務課（看護学）	nurse@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課（経済学部）	keizai@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課（薬学部）	yaku@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課（商 学 部）	sho@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務三課（スポーツ科学部）	sport@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務二課（商学部第二部）	sho2@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課（教務担当）	kyomu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課（理 学 部）	rigaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課（共通教育担当）	kyotu@adm.fukuoka-u.ac.jp
教務三課（工 学 部）	kogaku@adm.fukuoka-u.ac.jp	教務一課（教職担当）	kyosyoku@adm.fukuoka-u.ac.jp

単位と授業時間

1 単位制

〔単位制〕

単位制とは、授業科目にそれぞれ定められた単位があり、その授業科目を履修して、合格の評価を得ることによって、卒業に必要な単位数を修得する制度です。

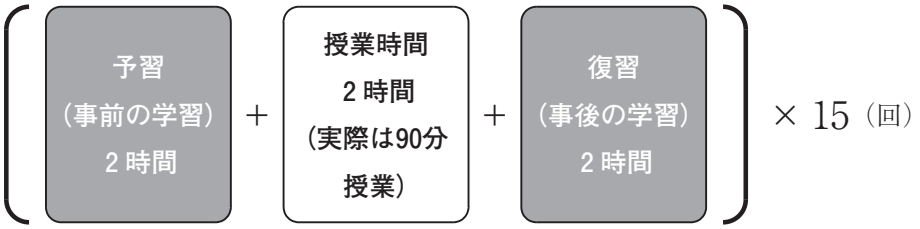
〔単位について〕

単位とは、授業科目を修得するために必要な学修の量を数値で表すものであり、１単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。この45時間には、教室で行う授業時間だけではなく、予習復習等の自主学習も含まれます。

〈例〉

半期２単位の講義科目の場合

（１単位45時間のため、単位修得には90時間が必要）



※実際の授業時間は90分間です。単位計算上は１つの授業90分を２時間として計算します。

※半期２単位の講義科目の場合、本学では毎週１回の90分授業を15回実施し、それに自主学習として行う各２時間相当の予習・復習の時間を加えて単位を認めています。授業を受講するだけではなく、自主学習として、予習・復習等を行うことが重要となるため、必ず各授業科目のシラバスを確認してください。

2 授業形態

授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行われます。

また、各学部が教育上有益と認めるときは、多様なメディアを高度に利用して、教室等以外の場所で履修することのできる授業が実施される場合があります。（学則第32条の２および第32条の２第２項参照）

3 授業時間

●全学部（商学部第二部を除く）

1　時　限	9 ： 00	～	10 ： 30
2　時　限	10 ： 40	～	12 ： 10
3　時　限	13 ： 00	～	14 ： 30
4　時　限	14 ： 40	～	16 ： 10
5　時　限	16 ： 20	～	17 ： 50
6　時　限	18 ： 00	～	19 ： 30

●商学部第二部

1　時　限	18 ： 00	～	19 ： 30
2　時　限	19 ： 40	～	21 ： 10

休講および補講

授業が休講となる場合、FU ポータルでお知らせします。なお、休講の掲示が出ていないにもかかわらず授業が始まらない場合は、所属学部の事務部署の窓口まで申し出てください。

また、休講に伴い補講を実施する場合は、原則として、補講日の一週間前に FU ポータルで日時・教室等をお知らせします。詳細は「履修登録の手引」を参照してください。

※補講は、指定する土曜日、試験前の指定する日および指定する週の６時限目に実施します。
補講日については、「Ⅱ　学年ごよみ・事務窓口」の2025年度学年ごよみを参照してください。

※交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による授業の休講や授業時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータルでお知らせします。

振替授業日および休日授業日

各曜日の授業回数を確保するため、振替授業日および休日授業日を設定しています。

[2025年度振替授業日]　振替前と同じ時限・教室で実施

前期	火曜日の振替授業日　７月４日(金)
後期	月曜日の振替授業日　12月25日(木)

[2025年度休日授業日]　通常（暦上）の曜日の授業を実施

前期	４月29日(火)「昭和の日」 ７月21日(月)「海の日」
後期	９月15日(月)「敬老の日」

※医学部医学科（第２学年以上）については、学年暦が異なる場合がある。

出席の確認

学生証を使い、センサーを設置した教室等で授業の出席状況を記録します。

この出席管理システムは、学生の皆さんが自ら生活管理を行い、着実に修学を進めていくためのものです。必ずしも成績評価に利用することを目的としたものではありませんが、担当教員によってはこの情報を成績評価に利用することもあります。また、皆さんの修学や生活指導のデータとしても活用します。本学開催の父母懇談会などでの相談の際にも、皆さんの大学での生活状況の一端としてご父母にお知らせします。

なお、授業の出席率は、修学支援新制度の適格認定（学業）時に利用されます。

出席確認は教室入室時に、教室内のセンサーに学生証をかざしてください。

【注意点】

・授業開始時刻の10分前～授業開始時刻まで ⇨ 「出席」と記録されます。
（１時限目および３時限目は授業開始の20分前～授業開始時刻まで）
・授業開始時刻以降 ⇨ ５分刻みで、開始時刻からの経過時間が記録されます。

欠　席　届

欠席に関する取扱いについては、担当教員の判断となります。授業を欠席する（した）場合は、各自で担当教員に速やかに報告して指示に従ってください。

なお、本学に公欠の制度はなく、欠席できる日数について特段の定めはありませんが、１週間以上欠席する場合は、福岡大学学生規程に基づき、次のような手続きをしてください。

① FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある「欠席届ダウンロード」から出力した「欠席届」に必要事項を記入のうえ捺印します。
② 記入・捺印した「欠席届」および欠席を証明する書類を添え、各自で各担当教員に報告した後、所属学部の事務部署に提出します。

証明する書類の例……診断書、医証（病気・怪我の場合）等

※詳細は、FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある「授業等の欠席の取扱について」を確認してください。

▶医学部の学生については、前記諸届・諸願に関する相談・取次ぎを医学部事務課で行います。

教室の表示等

●教室は、A棟・２号館から18号館までと、文系センター低層棟、医学部看護学科棟、人文学部教育・臨床心理学科棟にあります。

〔A棟・２～18号館の教室表示〕

例

A	7	13	（教室番号）	8	2	3	（教室番号）	2	3	A	（教室番号）
…	…	…		…	…	…		…	…	…	
A棟	7階	番号		8号館	2階	番号		2号館	3階	記号	

○例外的な教室表示
A棟地下１階……〔ＡＢ01、ＡＢ02〕　２号館地下１階…〔２Ｂ１〕

※授業の教室割は、開講日までにFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web履修登録」の「時間割表(教室割）照会」でお知らせします。
※理系学部の教室変更・未定分については学部の掲示板に掲示します。

テキスト(教科書)の購入

授業で使用するテキスト(教科書)は、学修ガイド、シラバス(医学部医学科の専門科目は「学修要項」)等を参照し、**履修する科目のテキスト名を確認した上で、購入してください。**

なお、科目によってはテキスト不要の場合や、後期完結科目で後期開講前に販売される場合もあります。
※購入したテキスト（教科書）は、購入時に破損、欠損しているもの以外は返品はできません。
※４月11日の前期授業開始日前後は大変混み合いますので、インターネット注文を利用されるか、早めに購入するようにしてください。

1 販売日時及び販売場所

販売期間：2025年４月２日（水）～４月18日（金）　【土曜日、日曜日を除く】
販売時間：９：00～19：00（４月７日～４月16日）
　　９：00～18：00（４月２日～４月４日、４月17・18日）
販売場所：福岡大学　有朋(ゆうほう)会館２階ラウンジ

※４月21日（月）以降は、ヘリオス文庫で販売します。(休日授業日以外の土曜日・日曜日・祝日を除く。)
※後期の共通教育科目（英語）で使用するテキストは、９月開講時に販売します。
※医学部の専門教育科目については、神陵文庫（医学部研究棟別館地階）にて販売します。期間と時間については書店に確認してください。

2 インターネット注文について

インターネット経由で注文すると、宅配サービスの利用が可能です。

【福岡大学教科書販売サイト　https://fukudai-text.net】

【インターネット注文における注意点】
・『宅配サービス』の受付期間は、４月２日（水）から４月10日（木）までとなっています。なお、宅配サービスは前期のみのサービスです。
・宅配サービスの送料及び代引き手数料は別途必要となりますので、詳細については上記の福岡大学教科書販売サイトで確認してください。
・**申込みから配達まで約３～４日かかります。**特に開講日前日は申込みが集中し、配達日が遅くなることもありますので、開講日までに揃うように早めに申し込んでください。

試　　験

履修登録した授業科目については、試験に合格（60点以上）しなければ「単位」として認定されません。試験は定期試験・追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）・再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）の三種類があります。

※定期試験を実施しない授業科目があります。シラバスを必ず確認し、評価方法をよく理解したうえで履修登録を行ってください。なお、上記の授業科目について、履修の手引（p. 74～76、p. 80）を参照してください。

1 定期試験

本学では、学期を前期（４月１日～９月13日）と後期（９月14日～３月31日）に分けており、前期・後期それぞれ試験を実施します。

通年の授業科目は、前期・後期共に受験する必要があり、一方だけ受験しても「単位」は与えられません。また、前期または後期完結の授業科目は、授業が開講された学期だけ受験すればよいことになります。

なお、授業科目の試験時間が重複していると受験できません。履修登録の際は、試験時間割表（p. 27～30）で試験が重複しないように注意して、授業時間割を作成してください。詳しくは、履修の手引「試験の重複」（p. 38）を参照してください。

●前期試験（７月23日～８月１日〔予備日を含む〕）

●後期試験（１月14日～１月27日〔予備日を含む〕）

●交通機関の大きな乱れや台風・積雪等による試験の取扱い

試験日あるいは試験時間の変更等がある場合は、福岡大学公式 Web サイト、FU ポータル等でお知らせします。

2 定期試験についての心得

・試験についての注意事項、教室割、試験時限などは、試験前に掲示や FU ポータルでお知らせしますので、事前に確認してください。

・試験では、各人の座席をすべて指定します。**試験は必ず自分の学籍番号の座席で受験してください。**
座席表は、教室入口近くの掲示板に掲示します。座席がない場合は試験事務室（A棟地下１階）に行ってください。

・成績考査規程を十分心得ておいてください。

・学生証は常に携帯し、受験中は必ず写真面を上にして机の座席番号側の見やすいところに置いてください。
学生証を所持していない場合は受験することができません。忘れた場合は直ちに証明書自動発行機より仮学生証を出力してください。

・試験開始後20分を経過した遅刻者は受験をすることができません。
試験開始後20分経過時に合図のチャイムが鳴りますが、チャイムが鳴り始めると一切入室できません。

・試験開始後30分を経過しなければ退出を許可しません。

・試験中、学生相互の物品の貸借は禁止します。

・監督者の指示があるまで次の時限の受験者は教室に入ることはできません。

・不正行為者については成績考査規程第５条により、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目の評価を「放棄」とします。

・答案はいかなる理由でも持ち出してはなりません。答案を持ち出した者に対しては、成績考査規程第５条の２により、その受験科目の評価を「放棄」とします。

・その他、試験場では監督者の指示に従わなければなりません。

3 定期試験時間表

●全学部（商学部第二部を除く）

1 時 限	9 ： 30	～	10 ： 30
2 時 限	10 ： 50	～	11 ： 50
3 時 限	12 ： 30	～	13 ： 30
4 時 限	13 ： 50	～	14 ： 50
5 時 限	15 ： 10	～	16 ： 10
6 時 限	16 ： 30	～	17 ： 30

●商学部第二部

1 時 限	18 ： 20	～	19 ： 20
2 時 限	19 ： 50	～	20 ： 50

▶医学部医学科については、別に示されます。

4 追試験（定期試験を受けられなかった場合の試験）

追試験は、定期試験を、病気その他やむを得ない事情によって受験できなかった者に所定の手続と審議を経て許可される試験です。これには、

・受験料を必要とします。（１科目2,000円）

・願い出た者全員が許可されるとは限りません。

・欠試の理由によって、得点が制限されます。

以上の制約があり、皆さんにとって不利益ともなります。したがって、万難を排して定期試験を受けるようにしてください。

手続及び不明な点の問い合わせは学生課（医学部医学科専門教育科目は医学部事務課（医学）、看護学科専門基礎科目・専門教育科目は医学部事務課（看護学））で取り扱っています。手続の際は必ず欠試の理由を証明する書類（例：病気の場合は医師の診断書）、および印鑑を持参してください。

追試験の申込期間・実施日等の日程については、定期試験前に FU ポータル等でお知らせしますので、見落とさないように注意してください。

また追試験については、成績考査規程第６・７・８・11条を参照してください。

●前期追試験（８月27日～８月31日に実施予定〔予備日を含む〕）

●後期追試験（２月20日～２月27日に実施予定）

●定期試験を実施しない授業科目は、追試験を実施しません。

5 再試験（定期試験が不合格となった場合の試験）

定期試験で不合格となった者については、願い出により再試験を行うことがあります。しかし、次のような制限があります。

・人文・法・経済・商・商二・工・スポーツ科の各学部は４年次生以上に対して実施します。
・理学部は２・４年次生に対して実施します。
・医学部医学科は全学年の学生に対して実施します。
・医学部看護学科は１年次生および２年次生については、試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込みのある者、３年次生については、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目について不合格の成績評価を得た者で、再試験により３年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者および４年次生に対して実施します。
・薬学部は１年次生から５年次生に対して試験の結果、不合格の成績評価を得た者で、再試験により進級の見込のある者および６年次生に対して実施します。ただし、３年次生に対しては共通教育科目の再試験は実施しません。
　なお、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とします。
・受験資格や受験することができる単位数は成績考査規程第12条、第13条を参照してください。
・前期に履修した授業科目が不合格となり、後期登録変更を行うことで同一科目を後期に再履修した場合の再試験の取り扱いは次のとおりです。
　⑴　前期および後期の成績がともに欠点による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみを再試験受験の対象科目とする。
　⑵　前期の成績が欠点による不合格で、後期の成績が放棄による不合格の場合、後期に履修した授業科目のみが再試験の対象となるが、当該授業科目を放棄しているため再試験の受験資格を与えない。
・合格した場合の評点は60点となります。
・受験料（１単位1,000円）を必要とします。
・医学部医学科の時間制の専門教育科目は１科目4,000円を必要とします。

２月中旬に上記の学生を対象に成績発表を行い、その結果願い出た者について再試験を実施します。必ず成績発表の日にFUポータルのカテゴリ「授業関連」にある「教務」の「成績発表」で自分の成績を確認してください。手続は成績考査規程第13条を参照してください。

●再試験（２月20日～２月27日に実施予定）
●医学部看護学科の３年次の再試験は前期開講科目について実施するため、手続や期間が異なります。
●卒業要件と課程修了要件を満たすために必要な科目が重複した場合、その再試験科目を申請する際、再試験の科目として申請できない場合がありますので注意してください。
※詳細については、教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程を履修する場合は教職課程教育センター、日本語教員課程を履修する場合は教務二課（人文学部）に確認してください。
●定期試験を実施しない授業科目は、再試験を実施しません。

成績・進級

前・後期それぞれの定期試験の成績発表日以降、FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある教務（学生メニュー）の「成績発表」より各自で「成績通知書」を確認することができます。

1 成績評価

・成績は100点法によって評価され、60点以上が合格となり所定の単位が与えられます。
・成績通知書には科目ごとに点数が表示されます。
・不合格者（59点以下）の場合は、点数の末尾に「F」が表示されます。
・放棄の場合は、「H」が表示されます。
※放棄「H」とは、「試験の放棄又は成績評価不能」を示しています。（福岡大学成績考査規程第３条第２項第６抜粋）
※「試験の放棄」とは、定期試験・追試験および再試験を受験しなかった場合であり、「成績評価不能」とは、試験によらず成績を評価する科目について、学生の課題等の提出状況、受講状況その他の成績評価の前提条件を満たしておらず、点数を付けることができないと担当教員が認めた場合となります。

素点範囲	成績評語
100～90	秀
89～80	優
79～70	良
69～60	可
59点以下	不可
試験の放棄又は成績評価不能	放棄

2 成績・進級

学年末には「成績通知書」を確認の上、次年度の履修登録を行うことになります。誤った履修登録を行うと、修業年限（４年間。医学部医学科および薬学部は６年間。）内で卒業できない事態を招きかねません。自分の修得科目や単位数を十分に把握し、学則や学科履修規程を熟読して慎重に履修登録をするよう心がけてください。

また、修得単位数が少ない場合、理系学部では規定により登録できる科目が制限されたり、進級できずに「留年」となる場合があります。不断の努力を重ね、修業年限内での卒業をめざしてください。

3 GPA 制度

成績通知書に、成績評価指標としての GPA を付記します。

GPA（Grade Point Average）は、次に示した算出基準・計算式で計算される履修科目の評点に単位数を加味した加重平均値です。大学での学修が、単に卒業単位を取得するのみではなく、より真剣に学ぶことにより大学教育を実質化し、大学の教育の質を保証するためのシステムの一環でもあります。途中で受講をやめたり、試験を放棄したりすると GPA が低下します。したがって、学生の皆さんには履修責任が求められることになります。

●GPA の算出基準

履修した科目の成績評価は100点満点で行います。点数に応じて科目毎に GP 評点を算出します（下表参照）。

素点範囲	成績評語	GP 評点
100～90	秀	4.0
89～80	優	3.0
79～70	良	2.0
69～60	可	1.0
59点以下	不可	0.0
試験の放棄又は成績評価不能	放棄	0.0

●GPA の計算式と対象

$$\text{GPA}=\frac{\text{【秀の修得単位数×4】＋【優の修得単位数×3】＋・・＋【不可・放棄の単位数の和×0】}}{\text{秀＋優＋良＋可＋不可＋放棄の総履修単位数}}$$

・GPA は「卒業要件に関わる履修科目」および「課程科目を含む全履修科目」について、それぞれ「当該セメスターに履修した科目」および「当該セメスターまでに履修した全科目」の括りで算出します。
・不合格となった科目を後に再履修して合格となった場合、セメスター毎の GPA は元の成績で算出しますが、通算の GPA は合格した際の成績のみを対象として算出します。
・他大学等で履修した科目の単位で、本学の履修科目として修得が認められた単位（認定単位）については GPA の対象とはなりません。

●GPA の利用

学部・学科により、特待生の選考やゼミの選考などに利用されます。なお、成績証明書には記載されません。

4 成績評価に関する問合せ制度について

成績評価は厳格かつ正確に行われるよう留意していますが、万一成績評価に疑問がある場合には、所属学部の事務部署に申し出れば、皆さんに代わって授業担当者に問合せを行います。受付期間は、成績発表開始日から 3 日間としています。詳細については、FU ポータル等により皆さんにお知らせします。

なお、この制度は成績評価の厳格さと正確さを担保するためのものです。授業担当者との評点の交渉や、成績不振者に対する救済の機会を提供するものではありません。

在学の年限

学生は、８年を超えて在学することができません。

なお、医学部医学科および薬学部の学生については、12年を超えて在学することができず、同一学年・年次に在学できる年数は２年が限度です。

上記在学期間が満了した場合は除籍になりますので、十分留意の上勉学に励んでください。

卒　　業

1 卒業の認定

修業年限および「福岡大学学科履修規程」に定められた各学部の卒業に必要な科目・単位数を満たした者には３月に卒業の認定を行います。

2 前期卒業

修業年限を満たし、前期完結科目の合格によって前期で卒業要件科目および単位を修得した場合、本人の希望により前期終了日付で卒業の認定を受けることができます。

※前期卒業については、本人による事前の手続が必要です。２月に実施する４年次生以上の成績発表後に成績を確認した上で、必ず３月の履修登録前に所属学部の事務部署の窓口で相談してください。

交通機関の乱れや台風･積雪等による授業の休講等

交通機関の大きな乱れや台風・積雪等により、授業や試験の予定に変更が生じる場合は、福岡大学公式Webサイト、FUポータル等でお知らせします。

○福岡大学公式 Web サイト

2025年度　前期・後期　試験時間割(共通教育科目：薬学部用)

1．授業時間割、試験時間割をよく見て、授業においても試験においても重複しないように注意して登録してください。試験日が重複した科目の登録は認められません。
2．専門教育科目の試験時間割は、各定期試験前に FU ポータルに掲載します。
3．試験時間割を変更する場合は FU ポータルに掲載するので特に注意してください。
4．定期試験期間中の土曜日（前期・後期）は通常どおり試験が行われますので注意してください。
5．試験時間割に記載されていない授業科目は平常の授業時に試験が行われることがあります。
6．通年科目は前期・後期とも受験しなければ単位は認定されません。

	前　期　7月23日（水） 後　期　1月14日（水）		前　期　7月24日（木） 後　期　1月15日（木）		前　期　7月25日（金） 後　期　1月19日（月）		前　期　7月26日（土） 後　期　1月20日（火）	
Ⅰ 9：30 ～ 10：30	教	統計入門［後］	教 教 教 教	芸術Ａ［前］ 芸術Ｂ［後］ 地理学Ａ［前］ 地理学Ｂ［後］	教	物理の世界［後］		
Ⅱ 10：50 ～ 11：50		第２外国語ⅡＡ［通年］		インターミディエイト・イングリッシュⅠ［前］(再含む) インターミディエイト・イングリッシュⅡ［後］(再含む)		第２外国語ⅠＡ［通年］		フレッシュマン・イングリッシュⅠ［前］（再のみ） フレッシュマン・イングリッシュⅡ［後］（再のみ）
Ⅲ 12：30 ～ 13：30	教 教 教 教 教	法学Ａ［前］ 法学Ｂ［後］ 地球環境［後］ 福岡大学で考える現代社会（山本）［後］						
Ⅳ 13：50 ～ 14：50			教 教 教 教	商学Ａ［前］ 商学Ｂ［後］ 社会学Ａ［前］ 社会学Ｂ［後］			教 教 教 教 教 教	日本文学Ａ［前］ 日本文学Ｂ［後］ 西洋文学Ａ［前］ 西洋文学Ｂ［後］ アジアの文学Ａ［前］ アジアの文学Ｂ［後］
Ⅴ 15：10 ～ 16：10								
Ⅵ 16：30 ～ 17：30					教 教	日本国憲法［前］ 日本国憲法［後］		
二部 Ⅰ 18：20 ～ 19：20				インターミディエイト・イングリッシュⅡ［前］(再のみ)		フレッシュマン・イングリッシュⅡ［前］（再のみ）		

	前　期　7月28日（月） 後　期　1月21日（水）		前　期　7月29日（火） 後　期　1月22日（木）		前　期　7月30日（水） 後　期　1月23日（金）		前　期　7月31日（木） 後　期　1月26日（月）	
Ⅰ 9：30 〜 10：30	教 教 教 教 教 教 教 教	倫理学Ａ［前］ 倫理学Ｂ［後］ 論理学Ａ［前］ 論理学Ｂ［後］ 心理学Ａ［前］ 心理学Ｂ［後］ 哲学Ａ　［前］ 哲学Ｂ　［後］						
Ⅱ 10：50 〜 11：50				フレッシュマン・イングリッシュⅢ［前］（再のみ） フレッシュマン・イングリッシュⅣ［後］（再のみ）		第２外国語ＩＢ［通年］		インターミディエイト・イングリッシュⅢ ［前］(再含む) インターミディエイト・イングリッシュⅣ ［後］(再含む)
Ⅲ 12：30 〜 13：30							教 教 教 教	経済学Ａ［前］ 経済学Ｂ［後］ 政治学Ａ［前］ 政治学Ｂ［後］
Ⅳ 13：50 〜 14：50			教 教 教 教 教 教 教 教	日本史Ａ［前］ 日本史Ｂ［後］ 東洋史Ａ［前］ 東洋史Ｂ［後］ 西洋史Ａ［前］ 西洋史Ｂ［後］ 宗教学Ａ［前］ 宗教学Ｂ［後］				
Ⅴ 15：10 〜 16：10	教 教 教 教	国際化と日本［後］ 現代を生きる［後］ 福岡大学で考える現代社会 （重松･辻部･飛田･三島･山﨑･渡邉）[後] 第２外国語ⅡＢ［通年］						
Ⅵ 16：30 〜 17：30							教 教	文化人類学Ａ［前］ 文化人類学Ｂ［後］
二部 Ⅰ 18：20 〜 19：20		インターミディエイト・イングリッシュⅣ ［前］(再のみ)		フレッシュマン・イングリッシュⅣ［前］（再のみ）				

Ⅳ

履修の手引

- 諸規程と履修登録
- シラバス
- FU プラスアップ授業
- 履修登録上の注意事項
- 履修登録等の日程
- 全学部共通留意事項
- 各学部留意事項
- クリニカルファーマシスト養成プログラム
- 薬学部実習時間割
- 薬学部教員研究室一覧
- 履修登録ガイダンス
- Web 履修登録スケジュール
- 履修登録流れ図
- 外国語科目クラス別担当者一覧

諸規程と履修登録

大学において単位を修得し卒業するためには、学則・学科履修規程ならびにそれらに準じて取り扱われる規程に従って学習を進めていかなければなりません。

履修方法を誤ったり、多くの授業科目で不合格になると、進級できなかったり、４年間（医学部医学科および薬学部は６年間）で卒業できないようなことになりかねません。

授業内容を考慮することはもちろん、規程をよく理解したうえで、履修する授業科目を選択し、学習計画を立てるようにしてください。

分からないことがあれば、所属学部の事務部署へ気軽に尋ねてください。規程の内容を確認したり、学習計画を立てるうえでの相談やアドバイスを受けたりすることができます。

1 諸規程の適用

学則・学科履修規程など履修に関する諸規程は、在学中に改正される場合もありますが、卒業のための要件は原則として入学時の規程が適用されます。

「学則」をはじめとする諸規程の中には、入学時に配付する印刷物にしか掲載していないものもあります。入学した年度の「学修ガイド」を卒業するまで大切に保管してください。

2 諸規程の改正

入学から卒業までの間に改正された学則・学科履修規程などが在学生に適用されることがあります。

この場合は、改正された内容が毎年度配付する『学修ガイド』に掲載されますので、入学時の規程と対比してどのように改正されたかを把握し、間違った履修をしないようにしてください。

3 履修登録とは

履修登録とは、各自が年間の履修計画を立て、その計画に基づき授業科目を申請する手続きのことです。

そのために、『学修ガイド』あるいは学部から配付される履修登録に関する資料などをよく読み、「授業時間割」「試験時間割」「シラバス」をもとに自分の履修計画に沿って、FU ポータルより履修登録を行ってください。

履修登録を正しく行わなかった場合、その授業科目の受講・受験は認められず、単位も修得できません。履修登録は、各自の責任において行うことを自覚してください。

シ ラ バ ス

1 シラバスとは何か

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。次のように活用してください。

●履修計画を立てる時の参考とする。
大学の学修は、自分で必要な科目を選択します。関心をもった科目は、まずシラバスをよく読んで履修するかどうか決めましょう。
シラバスには、各授業科目の概要や到達目標、成績評価基準および方法等が掲載されていますので、どのような授業を受けたいのか、また授業を通してどのような知識・理解を深めたいのかを考える時の参考にしてください。

●日々の授業の予習・復習に役立てる。
シラバスには、各授業科目の授業計画やテキスト等が掲載されていますので、予習・復習等に役立ててください。

2 シラバスの項目

主な項目	内　　容
科目名	履修申請をする際に表示される科目名が記載されています。
授業形態	授業が以下のどの形態で行われるかが記載されています。 【①講義、②講義（外国語による）、③演習、④実験、⑤実習、⑥実技、⑦講義及び演習、⑧講義及び実習】
担当教員	担当教員名が記載されています。
実務経験	「有り」と表記されている場合は、担当教員が授業科目に関連する実務経験を有しており、その経験を活かした授業を行います。また、どのような実務経験を有し、どのような授業を行うのか、「概要」欄に記載されます。
科目水準	科目が以下のどの水準であるかが記載されています。 【①入門、②初級、③中級、④上級】
授業の種類	科目が「対面授業科目」であるか「遠隔授業科目」であるかが記載されています。
概要	授業内容に加えて、本科目の位置づけ、科目のねらい、授業概要等が記載されています。
授業の進行・方法	授業の具体的な進め方、学習の方法などわかりやすく記載されています。
アクティブ･ラーニング	１回でもとりいれている授業の場合は、「あり／Yes」と記載されています。
到達目標	授業を全て受けることで、みなさんが到達することのできる目標が記載されています。授業終了後には、各到達目標をどの程度達成できたかを「授業アンケート（FURIKA）」にて振り返ります。
授業時間外の学習（予習・復習）	授業の事前・事後に行う自主学習について記載されています。 ☞本書「授業・試験」→「単位と授業時間」参照（p. 17）
成績評価基準および方法	「到達目標」に対するみなさんの達成度をどういった基準で評価するのか、また、どのような方法（定期試験、平常点（小テスト、課題等）、レポート等）で評価するのかが記載されています。
テキスト、参考書	授業で使用するテキストが記載されています。テキストは授業開始日までに購入しておくようにしましょう。 ☞本書「授業・試験」→「テキストの購入」参照（p. 20）
履修上の留意点	履修するにあたっての留意点や前提となる知識・能力などが記載されています。
授業計画	15回の授業計画がわかりやすく記載されています。

※項目名は、授業科目により異なる場合があります。
※アクティブ・ラーニングとは、次のような要素を取りいれた授業方法を指します。
・PBL（課題解決型学習）　・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
・ディスカッション、ディベート　・グループワーク　・プレゼンテーション　・学習、フィールドワーク
出典：令和元年度私立大学等改革総合支援事業（タイプ１- ４アクティブ・ラーニング）

3 シラバスの閲覧

●閲覧方法

シラバスは、FU ポータルから閲覧することが可能です。FU ポータルにログインし、「授業関連」タブ⇒「WEB シラバス」⇒「シラバス閲覧（学部）」にアクセスしてください。教員名、科目名、学部・学科等から検索し、閲覧することができます。詳細は「履修登録の手引」を参照してください。

> **☞FU ポータルとは？**
> 福岡大学生のためのポータルサイトで、Web 上で提供される様々なサービスの入口となります。
> 詳細は、本書「授業・試験」→「大学からの連絡（⑴「FU ポータル」）」を参照してください。
> （p. 15）

●公開日

履修登録に先立ち、３月上旬に公開します。

FU プラスアップ授業

本学の授業は、原則として半期に15回で構成されています。前期・後期ともに15回の授業のうち、授業週として14週を設定し、残り１回分は動画配信による遠隔授業で実施します。この遠隔授業のことを「FU プラスアップ授業」と称します。

「FU プラスアップ授業」は、実施時期、内容により、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」に二分され、どちらの授業で実施されるかは科目によって異なります。自身の履修する科目がどちらの授業で実施されるかについては、各科目のシラバス内の「授業計画」で確認してください。

スタートアップ授業を行う科目では、第１回目の授業はスタートアップ授業で行われます。前期・後期ともに、第１週の授業（第２回授業）開始前までに自身が受講する科目のスタートアップ授業を必ず視聴するようにしてください（前期は３月上旬～第１週の授業まで、後期は８月下旬～第１週の授業までに受講してください）。

※「FU プラスアップ授業」は、学期開始前に、自分がどの科目を履修するかを決めるための情報源として活用したり、自分が所属する学部以外のさまざまな学部の授業動画を見て関心を広げたりできるなど、活用の仕方はさまざまです。

〈例：新入生の場合〉

視聴目的	期　　間
履修登録前に参考として視聴する場合	令和７年４月２日～令和７年４月５日
第１回目の授業として視聴する場合	令和７年４月２日～第１回の対面授業日まで
復習や自身の関心を広げるために視聴する場合	令和７年４月２日～令和８年３月31日

※在学生はシラバス公開時から、翌年３月末日まで視聴可能です。自身の目的に合わせて視聴してください。

●スタートアップ授業

＜概要＞

第１回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生はすべてスタートアップ授業を３月上旬から１年間、いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、より主体的な履修選択ができます。

また、科目の狙いや到達目標、成績評価の基準などを学期期間中にいつでも参照できることで、より計画的、自律的な学習や授業期間中の振り返りを促すことを目的としています。

＜視聴方法＞

シラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたURLから授業動画を確認できます。

※第１週目の授業に関係する内容が含まれている場合があるため、必ず第１週目の授業開始までに視聴してください。

＜スタートアップ授業の主な流れ＞

①**履修登録開始前、**履修する科目選びの参考にするため視聴します。

（関心を持った科目のスタートアップ授業の「イントロダクション部分」を視聴してください。）

②**履修登録後、**第１回授業の内容を学ぶため、第１週の授業（第２回授業）前までに視聴します。

（履修登録した科目の「授業内容紹介」を視聴してください。なお、課題が課される場合もあります。）

●中間フォローアップ授業

＜概要＞

第６回目から第９回目を目安に行われる中間振り返り授業です。

学期の中間地点で学修を振り返り、自身の到達度を確認することで、学習内容の定着を図ることを目的としています。

※中間フォローアップ授業では、その時点までにおいて自身がその授業の到達目標にどの程度到達したか、確認するための課題が課されます。

＜視聴方法＞

シラバスからは視聴できません。各科目担当教員の指示に従ってください。

＜中間フォローアップ授業の主な流れ＞

①**主に６～９回目、**中間フォローアップ授業を視聴し、課された課題に取り組みます。

②**課題提出後、**自身の到達状況を確認し、授業後半の学習計画を見直します。

※通年授業や半期30回授業等で、学期中に中間フォローアップ授業を２回行う場合があります。担当教員から、中間フォローアップ授業の回数や時期を聞いて確認してください。

※FUプラスアップ授業の詳細については、『「FUプラスアップ授業」学生用マニュアル』を参照ください。

履修登録上の注意事項

1 履修登録の方法

FUポータルで履修科目の登録手続きを行います。

インターネット環境があれば、自宅など学外から登録手続きを行えます。

2 準備するもの

履修登録を行うにあたり、次の書類・資料を準備してください。
・学修ガイド（特に「履修の手引」「試験時間割」「諸規程」「履修登録の手引」）
・授業時間割
・「学科基本クラス分け一覧表」（在学生は学修ガイド（p. 41～43）に記載）
・その他、各学部が作成した履修登録に関する資料
※シラバスは、FU ポータルから参照できます。（シラバスについては、学修ガイド p. 34参照）

3 授業時間割の見方

① 曜日・時限別に区分された枠内に、そこで開講される授業の科目名・担当者・開講期別・クラスなどが表示されています。
　時間割上で学部・学科あるいはクラスが指定されている授業科目は、それにしたがって履修登録してください。
② 学部記号が〇で囲まれている授業科目は、その学部の全学科の学生が登録できることを示しています。
　〔例〕Ⓙ（法学部）……JJ（法律学科）、JB（経営法学科）とも登録可能。
　　Ⓖ（スポーツ科学部）……GS（スポーツ科学科）、GH（健康運動科学科）とも登録可能。
③ 学部や学科が指定されている授業科目は、指定の学部や学科の学生のみ登録することができます。
　〔例〕Ⓔ・CC……経済学部全学科および商学部商学科のみ登録可能
④ 前期または後期で完結する 4 単位の授業科目については、週 2 回の授業が行われます。
⑤ 履修登録では、自分が登録することができる授業科目のみ表示されます。
※授業時間割表は、FU ポータルから参照できます。

4 クラス表示

授業時間のクラス表示については、下表に従い履修登録してください。

<table>
<tr><th>対　象　者</th><th>英　　語</th><th>英語以外の科目</th><th>備　　考</th></tr>
<tr><td>1 年次生（25台）
2025年度入学生</td><td rowspan="2">PE、CE、IE（注 1）は事前に登録していますので、p. 65 4 外国語科目「1 外国語科目の履修登録について」の「● 英語の履修登録について」を参照の上クラスを確認してください。
（再履修者は除く）</td><td>「学科基本クラス分け一覧表」で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。</td><td>「学科基本クラス分け一覧表」は FU ポータルにて確認してください。</td></tr>
<tr><td>2 年次生（24台）
2024年度入学生
・
3 年次生（23台）
2023年度入学生</td><td rowspan="2">「学科基本クラス分け一覧」（p. 41～43参 照）で該当する学科基本クラスをもとに登録してください。</td><td rowspan="2">—</td></tr>
<tr><td>4 年次生(22台以前)
2022年度入学生</td><td>—</td></tr>
</table>

（注 1）PE……Practical English
　　CE……Core English
　　IE ……インターミディエイト・イングリッシュ
※東アジア地域言語学科［2024年度（24台）以前入学生］の IE Ⅲ・Ⅳおよび［2025年度（25台）以降入学生］の PE Ⅰ・CE Ⅱについては事前登録されていませんので、履修する場合は各自で履修登録してください。

「フレッシュマン・イングリッシュ」「インターミディエイト・イングリッシュ」の再履修については、4 外国語科目「2 英語の履修について」の「●再履修について（FE・IE)」(p. 67〜）を参照してください。

〔クラス表示の例〕

	クラス名称		
英語クラス	J （学部）	PRO―1 （クラス）	「英語」の登録用クラス
学科基本クラス	JJ （学部・学科）	5 （クラス）	「英語」以外の履修登録用クラス ※学科基本クラス分け一覧表参照

5 授業の重複

開講する期別・曜日・時限が同じ授業科目については、ひとつの授業科目しか登録することができません。

通年で開講する授業科目と前期または後期のみ開講する授業科目についても、曜日・時限が同一であれば、どちらかの授業科目しか登録できません。

6 試験の重複

履修登録しようとする授業科目が定期試験の同じ期日・時限で重複しないよう、試験時間割（p. 27〜30）をよく見て登録してください。授業科目の開講曜日・時限が異なっていても試験が重複している科目はいずれか１つしか登録できません。

7 履修登録上の注意

① 履修登録を行う日程は学部・学科・学籍年台により異なります。
詳しくは **FU ポータルの「履修登録の手引き」p. 2 を参照してください。**
② 履修登録の日時や期限は厳守してください。後述する「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。
③ 履修登録の方法については、FU ポータル「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
④ 登録が正しく行われていない場合、卒業や進級ができなくなる場合も考えられます。必ず**「授業科目確認表」**を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。
⑤ 集中講義で開講される科目や商学部第二部で受講する教職課程科目等も履修登録が必要です。
⑥ 教職課程科目・博物館学芸員課程科目・社会教育主事課程科目を登録する場合は、学部の授業科目と重複しないよう授業時間割および定期試験時間割上で確認してください。

『履修登録の手引』の中にある「履修登録用紙（下書き用)」および「Web プロフィール（下書き用)」について必ず事前に記入して履修登録を行ってください。シラバスを事前に参照することも可能です。

8 履修登録の流れ

年度始めに皆さんが行う履修登録作業は概ね次のとおりです。学部によっては、この他にも必要なことがありますので、学修ガイドや配付物、掲示物等を注意して確認してください。

✍事前に確認すること

1．1年間に登録できる単位数の上限 ○学部、学科、年次などにより、1年間に登録できる単位数が異なります。 ○ただし、教職課程等の課程科目を登録するときの単位数は、上限の単位数に含みません。	☞ 学修ガイド「各学部留意事項」（p. 77参照）
2．卒業（進級）要件単位数 ○学部、学科、年次などにより、卒業に必要な単位数が異なります。また、理系学部では上位年次への進級に必要な単位数が決められている場合があります。 ○卒業（進級）要件単位数を考慮して履修計画を立ててください。	☞ 学修ガイド「各学部留意事項」（p. 78～79参照）
3．クラス ○クラス指定がある授業科目は、自分のクラスで登録を行う必要があります。あらかじめ自分のクラスを確認してください。	☞ 1年次はFUポータル参照 2年次以上は学修ガイド「学科基本クラス分け一覧」（p. 41～43参照）

▼

✍登録科目の選択

4．登録することができる科目 ○「年次別授業科目表」を開き、自分が登録することができる科目を把握してください。2年次生以上の場合、既に単位を修得した科目は登録できません。	☞ 学修ガイド「学科履修規程（年次別授業科目表）」（p. 142～153参照）
5．上位年次に開講される授業科目は登録できない ○例えば、1年次生は1年次設置科目のみ、2年次生は1・2年次に開講される科目が登録できます。	
6．必修科目、選択必修科目を優先して登録 ○総合教養科目はできるだけ下位年次で履修するようにしてください。	
7．シラバスを参考に ○シラバスには、各授業科目の概要や評価基準および方法、授業計画等が掲載されています。また、スタートアップ授業を実施する科目については、授業動画を視聴することもできます。よく読んで、登録する科目を決めてください。	☞ 学修ガイド「シラバス」（p. 34参照）
8．定期試験の時間割が重複していないか ○受講が可能であっても、試験日時が重複していれば登録できません。	☞ 学修ガイド「試験時間割」（p. 27～30参照）
9．登録制限科目を登録する場合 ○科目によっては登録人数を制限するものがあります。「履修の手引」などの指示に従って事前に登録手続きを行ってください。	☞ 学修ガイド「履修の手引」（p. 47～60、p. 81）
10．授業時間割への記入 ○登録しようとする授業科目にマーカーなどで印を付けてください。	

▼

11．下書き用紙への記入 ○学修ガイド「履修登録の手引」に入っている「履修登録用紙（下書き用）」に登録する授業科目を記入してください。 ○また、同じく「Webプロフィール（下書き用）」に必要事項を記入してください。（履修登録の際、同時に入力します。） **※履修登録を効率的に行うために、必ず下書きした用紙を履修登録当日に参照しながら履修登録を行ってください。**	☞ FUポータル「履修登録の手引」

▼

✐履修登録

12．履修登録 ○履修登録の操作方法等はFUポータル「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。 ○登録作業が済んだら、必ず**「授業科目確認表」**を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。	☞ FUポータル 「履修登録の手引」
13．履修登録の日程 ○履修登録を行う日程等は学部・学科・学籍年台により異なります。 ○履修登録の日時や期限は厳守してください。「後期開講科目の登録変更」および「履修登録の撤回」の場合を除き、期限経過後は変更できません。	☞ FUポータル 「履修登録の手引」 「履修登録等の日程」 （p. 44～45参照）

▼

✐前期授業の開始

14．授業教室割の通知
○開講日までにFUポータル「時間割表（教室割）照会」で、授業教室をお知らせしますので、あらかじめ確認して登学してください。
○理・工・医・薬・スポーツ科学部で開講する科目については、掲示等で教室をお知らせする場合があります。

15. FUプラスアップ授業の視聴
○各科目のシラバス内の「授業計画」で「FUプラスアップ授業」の種類を確認してください。
○「スタートアップ授業」の場合、第１週の授業までにシラバス内の「スタートアップ授業」に記載されたＵＲＬから授業動画を視聴してください。
※後期開講科目については、８月下旬～後期第１回授業までに授業動画を視聴してください。
○「中間フォローアップ授業」の場合、授業期間中に教員の指示に従い、授業動画を視聴してください。

9 前期成績発表と後期開講科目の登録変更

１年間に履修する科目については、あらかじめ前期授業開始前に通年、前・後期完結科目を全て登録しますが、後期の科目については、前期の成績を確認して、既に登録している履修科目を変更（削除・追加）することができます。前期成績発表および後期開講科目の登録変更日程については、**p. 44～45「履修登録等の日程」を参照してください。**

●注意点

通年開講科目については登録を変更することができません。また、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、登録変更をすることができない場合があります。

なお、変更にあたっては、１年間あるいは前期・後期に履修することができる単位数（登録上限単位）の範囲内であることが必要です。

10 履修登録の撤回

「履修登録した授業の内容が想定したものと違っていた」「このまま履修を続けるより他の科目に集中して取り組みたい」などと判断した場合、その学期の開講から３週間以内に申し出れば、前後期それぞれ２科目以内かつ８単位以内に限って履修登録を撤回（削除）できます。撤回した科目の単位数は当該年度の履修登録単位数から除外されます。ただし、撤回した科目の代わりに他の科目を追加登録することはできません。

むやみに撤回すると卒業や進級に必要な単位数が不足する可能性もあるため、慎重な対応が必要です。

なお、必修科目や登録制限科目など各学部の教授会等が指定した科目および共通教育科目の一部については、撤回することができない場合があります。また、後期については、通年開講科目を撤回することはできません。さらに後期開講の集中講義科目のうち、夏季休業中に開講されるものは、前期の撤回期間中のみ撤回することができます。（夏季休業中に開講される後期集中講義科目は、講義開始後に撤回することはできません。）

履修登録撤回の手続き・日程等については**p. 44～45「履修登録等の日程」を参照してください。**

11 学科基本クラス分け一覧

2024年度入学生（24台）

学部学科	クラス	学籍番号
ＬＣ	1	ＬＣ240001～ＬＣ240056
	2	ＬＣ240057～ＬＣ240111
ＬＨ	1	ＬＨ240301～ＬＨ240345
	2	ＬＨ240346～ＬＨ240389
ＬＪ	1	ＬＪ240501～ＬＪ240540
	2	ＬＪ240541～ＬＪ240580
ＬＰ	1	ＬＰ241501～ＬＰ241551
	2	ＬＰ241552～ＬＰ241602
ＬＥ	1	ＬＥ240701～ＬＥ240755
	2	ＬＥ240756～ＬＥ240809
ＬＧ	1	ＬＧ全員
ＬＦ	1	ＬＦ全員
ＬＡ	1	ＬＡ241301～ＬＡ241334
	2	ＬＡ241335～ＬＡ241368
ＪＪ	1	ＪＪ240001～ＪＪ240047
	2	ＪＪ240048～ＪＪ240094
	3	ＪＪ240095～ＪＪ240141
	4	ＪＪ240142～ＪＪ240188
	5	ＪＪ240189～ＪＪ240235
	6	ＪＪ240236～ＪＪ240282
	7	ＪＪ240283～ＪＪ240329
	8	ＪＪ240330～ＪＪ240376
	9	ＪＪ240377～ＪＪ240423
	10	ＪＪ240424～ＪＪ240470
ＪＢ	1	ＪＢ242001～ＪＢ242042
	2	ＪＢ242043～ＪＢ242084
	3	ＪＢ242085～ＪＢ242126
	4	ＪＢ242127～ＪＢ242168
	5	ＪＢ242169～ＪＢ242209
ＥＥ	1	ＥＥ240001～ＥＥ240041
	2	ＥＥ240042～ＥＥ240082
	3	ＥＥ240083～ＥＥ240123
	4	ＥＥ240124～ＥＥ240164
	5	ＥＥ240165～ＥＥ240205
	6	ＥＥ240206～ＥＥ240246
	7	ＥＥ240247～ＥＥ240287
	8	ＥＥ240288～ＥＥ240328
	9	ＥＥ240329～ＥＥ240368
	10	ＥＥ240369～ＥＥ240408
	11	ＥＥ240409～ＥＥ240448
	12	ＥＥ240449～ＥＥ240488
ＥＩ	1	ＥＩ242001～ＥＩ242056
	2	ＥＩ242057～ＥＩ242112
	3	ＥＩ242113～ＥＩ242167
	4	ＥＩ242168～ＥＩ242222
ＣＣ	1	ＣＣ240001～ＣＣ240046
	2	ＣＣ240047～ＣＣ240092
	3	ＣＣ240093～ＣＣ240138
	4	ＣＣ240139～ＣＣ240183
	5	ＣＣ240184～ＣＣ240228
	6	ＣＣ240229～ＣＣ240273

学部学科	クラス	学籍番号
ＣＢ	1	ＣＢ241001～ＣＢ241048
	2	ＣＢ241049～ＣＢ241095
	3	ＣＢ241096～ＣＢ241142
	4	ＣＢ241143～ＣＢ241189
	5	ＣＢ241190～ＣＢ241236
	6	ＣＢ241237～ＣＢ241283
ＣＦ	1	ＣＦ242001～ＣＦ242049
	2	ＣＦ242050～ＣＦ242098
	3	ＣＦ242099～ＣＦ242147
	4	ＣＦ242148～ＣＦ242196
ＢＢ	1	ＢＢ240001～ＢＢ240030
	2	ＢＢ240031～ＢＢ240060
	3	ＢＢ240061～ＢＢ240089
	4	ＢＢ240090～ＢＢ240118
	5	ＢＢ240119～ＢＢ240147
	6	ＢＢ240148～ＢＢ240176
ＳＭ	1	ＳＭ240001～ＳＭ240037
	2	ＳＭ240038～ＳＭ240052
		ＳＭ241001～ＳＭ241021
ＳＰ	1	ＳＰ240201～ＳＰ240230
	2	ＳＰ240231～ＳＰ240260
ＳＣ	1	ＳＣ240401～ＳＣ240440
	2	ＳＣ240441～ＳＣ240480
ＳＥ	1	ＳＥ240601～ＳＥ240636
	2	ＳＥ240637～ＳＥ240671
ＴＭ	1	ＴＭ240001～ＴＭ240056
	2	ＴＭ240057～ＴＭ240112
ＴＥ	1	ＴＥ240301～ＴＥ240352
	2	ＴＥ240353～ＴＥ240404
ＴＬ	1	ＴＬ241201～ＴＬ241240
	2	ＴＬ241241～ＴＬ241280
	3	ＴＬ241281～ＴＬ241320
	4	ＴＬ241321～ＴＬ241359
ＴＫ	1	ＴＫ241501～ＴＫ241552
	2	ＴＫ241553～ＴＫ241604
ＴＣ	1	ＴＣ240601～ＴＣ240654
	2	ＴＣ240655～ＴＣ240708
ＴＡ	1	ＴＡ240901～ＴＡ240963
	2	ＴＡ240964～ＴＡ241025
ＭＭ	1	ＭＭ240001～ＭＭ240056
	2	ＭＭ240057～ＭＭ240110
ＭＮ	1	ＭＮ242001～ＭＮ242056
	2	ＭＮ242057～ＭＮ242110
ＰＰ	1	ＰＰ240001～ＰＰ240041
	2	ＰＰ240042～ＰＰ240082
	3	ＰＰ240083～ＰＰ240122
	4	ＰＰ240123～ＰＰ240162
	5	ＰＰ240163～ＰＰ240202
	6	ＰＰ240203～ＰＰ240242
ＧＳ	1	ＧＳ240001～ＧＳ240039
	2	ＧＳ240040～ＧＳ240077
	3	ＧＳ240078～ＧＳ240115
	4	ＧＳ240116～ＧＳ240153
	5	ＧＳ240154～ＧＳ240191
	6	ＧＳ240192～ＧＳ240229
ＧＨ	1	ＧＨ240301～ＧＨ240338
	2	ＧＨ240339～ＧＨ240375

2023年度入学生（23台）

学部学科	クラス	学籍番号
ＬＣ	1	ＬＣ230001～ＬＣ230050
	2	ＬＣ230051～ＬＣ230100
ＬＨ	1	ＬＨ230301～ＬＨ230335
	2	ＬＨ230336～ＬＨ230370
ＬＪ	1	ＬＪ230501～ＬＪ230536
	2	ＬＪ230537～ＬＪ230571
ＬＰ	1	ＬＰ231501～ＬＰ231562
	2	ＬＰ231563～ＬＰ231623
ＬＥ	1	ＬＥ230701～ＬＥ230746
	2	ＬＥ230747～ＬＥ230791
ＬＧ	1	ＬＧ全員
ＬＦ	1	ＬＦ全員
ＬＡ	1	ＬＡ231301～ＬＡ231332
	2	ＬＡ231333～ＬＡ231364
ＪＪ	1	ＪＪ230001～ＪＪ230044
	2	ＪＪ230045～ＪＪ230088
	3	ＪＪ230089～ＪＪ230132
	4	ＪＪ230133～ＪＪ230175
	5	ＪＪ230176～ＪＪ230218
	6	ＪＪ230219～ＪＪ230261
	7	ＪＪ230262～ＪＪ230304
	8	ＪＪ230305～ＪＪ230347
	9	ＪＪ230348～ＪＪ230390
	10	ＪＪ230391～ＪＪ230433
ＪＢ	1	ＪＢ232001～ＪＢ232044
	2	ＪＢ232045～ＪＢ232088
	3	ＪＢ232089～ＪＢ232132
	4	ＪＢ232133～ＪＢ232175
	5	ＪＢ232176～ＪＢ232218
ＥＥ	1	ＥＥ230001～ＥＥ230040
	2	ＥＥ230041～ＥＥ230080
	3	ＥＥ230081～ＥＥ230120
	4	ＥＥ230121～ＥＥ230160
	5	ＥＥ230161～ＥＥ230200
	6	ＥＥ230201～ＥＥ230240
	7	ＥＥ230241～ＥＥ230280
	8	ＥＥ230281～ＥＥ230320
	9	ＥＥ230321～ＥＥ230360
	10	ＥＥ230361～ＥＥ230400
	11	ＥＥ230401～ＥＥ230440
	12	ＥＥ230441～ＥＥ230479
ＥＩ	1	ＥＩ232001～ＥＩ232052
	2	ＥＩ232053～ＥＩ232104
	3	ＥＩ232105～ＥＩ232156
	4	ＥＩ232157～ＥＩ232207
ＣＣ	1	ＣＣ230001～ＣＣ230044
	2	ＣＣ230045～ＣＣ230087
	3	ＣＣ230088～ＣＣ230130
	4	ＣＣ230131～ＣＣ230173
	5	ＣＣ230174～ＣＣ230216
	6	ＣＣ230217～ＣＣ230259

学部学科	クラス	学籍番号
ＣＢ	1	ＣＢ231001～ＣＢ231041
	2	ＣＢ231042～ＣＢ231082
	3	ＣＢ231083～ＣＢ231123
	4	ＣＢ231124～ＣＢ231164
	5	ＣＢ231165～ＣＢ231205
	6	ＣＢ231206～ＣＢ231245
ＣＦ	1	ＣＦ232001～ＣＦ232045
	2	ＣＦ232046～ＣＦ232090
	3	ＣＦ232091～ＣＦ232135
	4	ＣＦ232136～ＣＦ232179
ＢＢ	1	ＢＢ230001～ＢＢ230027
	2	ＢＢ230028～ＢＢ230053
	3	ＢＢ230054～ＢＢ230079
	4	ＢＢ230080～ＢＢ230105
	5	ＢＢ230106～ＢＢ230131
	6	ＢＢ230132～ＢＢ230157
ＳＭ	1	ＳＭ230001～ＳＭ230033
	2	ＳＭ230034～ＳＭ230047
		ＳＭ231001～ＳＭ231019
ＳＰ	1	ＳＰ230201～ＳＰ230226
	2	ＳＰ230227～ＳＰ230247
		ＳＰ231201～ＳＰ231205
ＳＣ	1	ＳＣ230401～ＳＣ230433
	2	ＳＣ230434～ＳＣ230458
		ＳＣ231401～ＳＣ231407
ＳＥ	1	ＳＥ230601～ＳＥ230637
	2	ＳＥ230638～ＳＥ230674
ＴＭ	1	ＴＭ230001～ＴＭ230056
	2	ＴＭ230057～ＴＭ230112
ＴＥ	1	ＴＥ230301～ＴＥ230359
	2	ＴＥ230360～ＴＥ230417
ＴＬ	1	ＴＬ231201～ＴＬ231238
	2	ＴＬ231239～ＴＬ231275
	3	ＴＬ231276～ＴＬ231312
	4	ＴＬ231313～ＴＬ231349
ＴＫ	1	ＴＫ231501～ＴＫ231550
	2	ＴＫ231551～ＴＫ231599
ＴＣ	1	ＴＣ230601～ＴＣ230657
	2	ＴＣ230658～ＴＣ230714
ＴＡ	1	ＴＡ230901～ＴＡ230955
	2	ＴＡ230956～ＴＡ231009
ＭＭ	1	ＭＭ230001～ＭＭ230055
	2	ＭＭ230056～ＭＭ230110
ＭＮ	1	ＭＮ232001～ＭＮ232055
	2	ＭＮ232056～ＭＮ232110
ＰＰ	1	ＰＰ230001～ＰＰ230041
	2	ＰＰ230042～ＰＰ230082
	3	ＰＰ230083～ＰＰ230123
	4	ＰＰ230124～ＰＰ230164
	5	ＰＰ230165～ＰＰ230205
	6	ＰＰ230206～ＰＰ230245
ＧＳ	1	ＧＳ230001～ＧＳ230039
	2	ＧＳ230040～ＧＳ230078
	3	ＧＳ230079～ＧＳ230117
	4	ＧＳ230118～ＧＳ230156
	5	ＧＳ230157～ＧＳ230194
	6	ＧＳ230195～ＧＳ230232
ＧＨ	1	ＧＨ230301～ＧＨ230338
	2	ＧＨ230339～ＧＨ230375

2022年度入学生（22台）

学部学科	クラス	学籍番号
ＬＣ	1	ＬＣ220001～ＬＣ220050
	2	ＬＣ220051～ＬＣ220103
ＬＨ	1	ＬＨ220301～ＬＨ220335
	2	ＬＨ220336～ＬＨ220371
ＬＪ	1	ＬＪ220501～ＬＪ220536
	2	ＬＪ220537～ＬＪ220572
ＬＰ	1	ＬＰ221501～ＬＰ221555
	2	ＬＰ221556～ＬＰ221610
ＬＥ	1	ＬＥ220701～ＬＥ220746
	2	ＬＥ220747～ＬＥ220791
ＬＧ	1	ＬＧ220901～ＬＧ220951
ＬＦ	1	ＬＦ221101～ＬＦ221148
ＬＡ	1	ＬＡ221301～ＬＡ221335
	2	ＬＡ221336～ＬＡ221370
ＪＪ	1	ＪＪ220001～ＪＪ220043
	2	ＪＪ220044～ＪＪ220086
	3	ＪＪ220087～ＪＪ220129
	4	ＪＪ220130～ＪＪ220172
	5	ＪＪ220173～ＪＪ220215
	6	ＪＪ220216～ＪＪ220258
	7	ＪＪ220259～ＪＪ220301
	8	ＪＪ220302～ＪＪ220344
	9	ＪＪ220345～ＪＪ220387
	10	ＪＪ220388～ＪＪ220429
ＪＢ	1	ＪＢ222001～ＪＢ222041
	2	ＪＢ222042～ＪＢ222081
	3	ＪＢ222082～ＪＢ222121
	4	ＪＢ222122～ＪＢ222161
	5	ＪＢ222162～ＪＢ222201
ＥＥ	1	ＥＥ220001～ＥＥ220039
	2	ＥＥ220040～ＥＥ220078
	3	ＥＥ220079～ＥＥ220117
	4	ＥＥ220118～ＥＥ220155
	5	ＥＥ220156～ＥＥ220193
	6	ＥＥ220194～ＥＥ220231
	7	ＥＥ220232～ＥＥ220269
	8	ＥＥ220270～ＥＥ220307
	9	ＥＥ220308～ＥＥ220345
	10	ＥＥ220346～ＥＥ220383
	11	ＥＥ220384～ＥＥ220421
	12	ＥＥ220422～ＥＥ220460
ＥＩ	1	ＥＩ222001～ＥＩ222051
	2	ＥＩ222052～ＥＩ222102
	3	ＥＩ222103～ＥＩ222153
	4	ＥＩ222154～ＥＩ222207
ＣＣ	1	ＣＣ220001～ＣＣ220042
	2	ＣＣ220043～ＣＣ220084
	3	ＣＣ220085～ＣＣ220126
	4	ＣＣ220127～ＣＣ220168
	5	ＣＣ220169～ＣＣ220209
	6	ＣＣ220210～ＣＣ220252

学部学科	クラス	学籍番号
ＣＢ	1	ＣＢ221001～ＣＢ221042
	2	ＣＢ221043～ＣＢ221084
	3	ＣＢ221085～ＣＢ221126
	4	ＣＢ221127～ＣＢ221168
	5	ＣＢ221169～ＣＢ221210
	6	ＣＢ221211～ＣＢ221254
ＣＦ	1	ＣＦ222001～ＣＦ222047
	2	ＣＦ222048～ＣＦ222093
	3	ＣＦ222094～ＣＦ222139
	4	ＣＦ222140～ＣＦ222186
ＢＢ	1	ＢＢ220001～ＢＢ220028
	2	ＢＢ220029～ＢＢ220055
	3	ＢＢ220056～ＢＢ220082
	4	ＢＢ220083～ＢＢ220109
	5	ＢＢ220110～ＢＢ220136
	6	ＢＢ220137～ＢＢ220165
ＳＭ	1	ＳＭ220001～ＳＭ220033
	2	ＳＭ220034～ＳＭ220048
		ＳＭ221001～ＳＭ221020
ＳＰ	1	ＳＰ220201～ＳＰ220228
	2	ＳＰ220229～ＳＰ220247
		ＳＰ221201～ＳＰ221209
ＳＣ	1	ＳＣ220401～ＳＣ220433
	2	ＳＣ220434～ＳＣ220455
		ＳＣ221401～ＳＣ221410
ＳＥ	1	ＳＥ220601～ＳＥ220631
	2	ＳＥ220632～ＳＥ220661
ＴＭ	1	ＴＭ220001～ＴＭ220055
	2	ＴＭ220056～ＴＭ220111
ＴＥ	1	ＴＥ220301～ＴＥ220353
	2	ＴＥ220354～ＴＥ220406
ＴＬ	1	ＴＬ221201～ＴＬ221238
	2	ＴＬ221239～ＴＬ221276
	3	ＴＬ221277～ＴＬ221314
	4	ＴＬ221315～ＴＬ221353
ＴＫ	1	ＴＫ221501～ＴＫ221552
	2	ＴＫ221553～ＴＫ221604
ＴＣ	1	ＴＣ220601～ＴＣ220649
	2	ＴＣ220650～ＴＣ220698
ＴＡ	1	ＴＡ220901～ＴＡ220959
	2	ＴＡ220960～ＴＡ221020
ＭＭ	1	ＭＭ220001～ＭＭ220055
	2	ＭＭ220056～ＭＭ220110
ＭＮ	1	ＭＮ222001～ＭＮ222053
	2	ＭＮ222054～ＭＮ222105
ＰＰ	1	ＰＰ220001～ＰＰ220040
	2	ＰＰ220041～ＰＰ220079
	3	ＰＰ220080～ＰＰ220118
	4	ＰＰ220119～ＰＰ220157
	5	ＰＰ220158～ＰＰ220196
	6	ＰＰ220197～ＰＰ220235
ＧＳ	1	ＧＳ220001～ＧＳ220038
	2	ＧＳ220039～ＧＳ220076
	3	ＧＳ220077～ＧＳ220114
	4	ＧＳ220115～ＧＳ220151
	5	ＧＳ220152～ＧＳ220188
	6	ＧＳ220189～ＧＳ220225
ＧＨ	1	ＧＨ220301～ＧＨ220337
	2	ＧＨ220338～ＧＨ220375

履修登録等の日程

シラバスや履修登録関係書類で事前に履修計画を立てられます。また、巻末の『履修登録の手引(p. 3)』の「履修登録用紙（下書き用)」を事前に記入し、履修登録に臨んでください。

1 履修登録スケジュール

履修計画の作成

	日　程	行 事 内 容
在学生	3月6日㈭	**次年度シラバス公開** ※FUポータルで確認できます。 **スタートアップ授業動画視聴開始**
在学生	3月14日㈮	**成績発表開始**
在学生	3月14日㈮ ～ 3月18日㈫ (土･日除く)	**次年度履修登録関係書類配付** ※履修登録に必要な資料（学修ガイド、時間割表など）を配付します。

	日　程	行 事 内 容
新入生	4月1日㈫	**入学式** **履修登録関係書類配付** ※入学式終了後、指定された教室で配付します。
新入生	4月2日㈬	**履修登録指導ガイダンス** **スタートアップ授業動画視聴開始**

履修登録

	日　程	行 事 内 容
在学生	3月21日㈮ ～ 3月23日㈰	**制限科目登録期間**
在学生	3月24日㈪ ～ 3月28日㈮	**履修登録期間** ※学部により履修登録の時間が異なります。「各学部留意事項」、「履修登録の手引」p. 2で確認し早めの登録を心がけてください。

	日　程	行 事 内 容
新入生	4月3日㈭ 4月4日㈮	**制限科目登録**
新入生	4月5日㈯ 4月6日㈰	**履修登録期間** ※学部学科によって履修登録の時間を制限しています。必ずその時間に行うようにしてください。(「履修登録の手引き」p. 2参照)

日　程	行　　事	内　　容
4月10日㈭	前期授業教室割公開	FUポータルから個人の授業教室割を閲覧・出力できます。
4月11日㈮	前期授業開始	

取消撤回

日　程	行　　事	内　　容
4月11日㈮ ～ 5月1日㈭	前期登録済科目の撤回受付期間	登録した授業の内容が想定と違っていた場合、登録している科目を撤回（登録を削除）することができます。 ※科目や単位数には制限があります。 ※Web上での手続きはできません。学部事務室で手続きを行ってください。

前期成績発表

日　程	行　　事	内　　容
9月1日㈪ 〜	**前期成績発表開始**	**FU ポータルにて各自参照** ※成績評価に疑問がある場合には、学部事務室を窓口として、科目担当者に問合せることができる制度を設けています。なお、受付期間は、成績発表から3日間となっています。詳細については、FU ポータル等よりお知らせします。

後期開講科目の登録変更

日　程	行　　事	内　　容
9月3日㈬12時 〜 9月5日㈮16時	**後期開講科目の登録変更**	FU ポータルのカテゴリ「授業関連」にある「Web 履修登録」にて申請。

日　程	行　　事	内　　容
9月12日㈮	後期授業教室割公開	FU ポータルから個人の授業教室割を閲覧・出力できます。
9月15日㈪	後期授業開始	

取消撤回

日　程	行　　事	内　　容
9月15日㈪ 〜 10月7日㈫	後期登録済科目の撤回受付期間	登録した授業の内容が想定と違っていた場合、登録している科目を撤回（登録を削除）することができます。 ※科目や単位数には制限があります。 ※Web 上での手続きはできません。学部事務室で手続きを行ってください。

全学部共通留意事項

学部別、分野毎に、設置科目および開講科目が決められています。
設置科目とは、学則の教育課程に設置している科目であり、開講科目とは、その年度に開講される科目のことです。学部によっては、年度により開講しない科目がありますので、学修ガイドを参照し、学科履修規程を正しく理解し、履修していくことが必要です。

1 共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更について

総合教養科目・外国語科目・保健体育科目における履修登録の撤回と後期開講科目の登録変更は、下表のように取り扱います。「○」印は可能、「×」印は不可を示しています。

	授業科目の区分、学部、年次、科目名等		登録撤回（p. 40参照）		登録変更（p. 40参照）	
			前期	後期	追加	削除
総合教養科目	登録制限科目（注１参照）	登録制限科目①	○	○	×	○
		登録制限科目②（注２参照）	×	×	○	×
	学修基盤科目	データサイエンス・AI入門	×	×	×	×
	それ以外の科目（注３参照）		○	○	○	○
外国語科目	アドバンスト・イングリッシュⅡ（2024年度（24台）以前入学生） ※所定の登録人数に達しない場合に限る（注４参照）		×	×	○	×
	それ以外の科目 ※学部留学生対象の日本語を含む		×	×	×	×
保健体育科目	選択科目	生涯スポーツ演習Ⅱ～Ⅳ、生涯スポーツ論	○	○	○	○
	必修科目（商学部第二部を除く学部）	１年次生（25台） 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ	×	×	×	×
		２年次生（24台） 生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ	×	×	○	○
		生涯スポーツ演習Ⅲ・Ⅳ 生涯スポーツ論	×	×	×	×
		３年次生以上（23台以前） 生涯スポーツ演習Ⅰ～Ⅳ 生涯スポーツ論	×	×	○	○
	必修科目（商学部第二部）	１年次生（25台） 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論	×	×	×	×
		２年次生以上（24台以前） 生涯スポーツ演習Ⅰ、生涯スポーツ論	×	×	○	○

開講年次：生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ…１年次
生涯スポーツ演習Ⅲ・Ⅳ…２年次
生涯スポーツ論…２年次（商学部第二部は１年次）
…事前登録

（注１）登録制限科目の種類や対象科目等は、p. 47の「２登録制限科目について」を参照してください。
（注２）登録制限科目②の科目（p. 53～54の表３、およびp. 55～56の表４を参照）の中で、定員に達していない後期開講科目に限り、登録変更期間に定員の範囲内で「先着順」による追加募集を行います。詳細は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加募集で登録が許可された科目も、履修登録の撤回はできません。
（注３）**登録変更期間は登録定員を300人とし、「先着順」による登録制限を行います。**前期に登録完了した科目でも、登録エラーになると、未登録の状態になり、エラーを解消するまでの間に当該科目が満員となり登録できなくなることがあります。登録変更時はエラーにならないよう気をつけてください。
（注４）追加登録を行う場合は、登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。
（注５）保健体育科目は、学科基本クラスや履修年次等によってあらかじめ時間割が指定されており、指定外の時間割は履修登録できません（p. 61の「３保健体育科目について」を参照）。

2 総合教養科目関係

1 授業科目の定員について

総合教養科目は、１クラス当たりの登録者数を適正な規模にするため、登録人数に定員を設けています。

履修登録期間に履修登録する科目で、申請時に定員オーバーのエラーが出た場合は、その時点では定員に達しています。エラーとなった科目は一旦削除してください。

2 登録制限科目について

総合教養科目には、あらかじめ登録者数を制限する授業科目（登録制限科目）があります。登録制限科目は制限理由により、以下の２種類に分かれます。履修希望者は各科目の注意事項および要領等に従い、「履修登録の手引」p. 13～14を参照のうえ、申請してください。

登録制限科目①…登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目
登録制限科目②…ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目

2 - 1 登録制限科目①（登録者数が多数になることが予想されるため登録者数を制限する科目）

「抽選」で登録者を決定します。表１、２（p. 48～52）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から申請してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。なお、２年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、その分を１年次生の登録定員に追加して受け付けます。

登録エラーの表示（赤色で表示）が出た場合は、科目の選択をやり直し、エラーがない状態にしてください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合（赤色で表示）はその科目を削除してください。

表１、２の科目の登録が許可された場合は、登録の取り消しはできません。授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。

表１　登録制限科目①【２～４限】

No.	科　目　名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員		選考方法および登録受付日時
						2年次以上	1年次	
1	哲学A	竹花　洋佑	前期	水	2	140	160	
2	哲学B	竹花　洋佑	後期	木	4	140	160	
3	倫理学A	広川　　明	前期	火	3	140	160	
4	倫理学A	安居　　誠	前期	木	4	140	160	
5	倫理学B	広川　　明	後期	火	3	140	160	
6	宗教学A	岸根　敏幸	前期	月	2	140	160	
7	宗教学A	岸根　敏幸	前期	月	3	140	160	
8	宗教学A	大坪加奈子	前期	月	4	140	160	
9	宗教学A	岸根　敏幸	前期	水	2	140	160	
10	宗教学A	岸根　敏幸	前期	水	3	140	160	
11	宗教学A	東谷　孝一	前期	金	3	140	160	**【２年次生以上】抽選** **申請期間** ３月21日（金）12：00～ ３月22日（土）17：59 **結果発表** ３月23日（日）18：00 **【１年次生】抽選** **申請日** ４月３日（木） ９：00～12：59 **結果発表** ４月３日（木）20：00 ※１年次生は「表１」と「表２」で申込日が異なりますので注意してください。
12	宗教学A	東谷　孝一	前期	金	4	140	160	
13	宗教学B	岸根　敏幸	後期	月	2	140	160	
14	宗教学B	岸根　敏幸	後期	月	3	140	160	
15	宗教学B	岸根　敏幸	後期	水	2	140	160	
16	宗教学B	岸根　敏幸	後期	水	3	140	160	
17	宗教学B	東谷　孝一	後期	金	3	140	160	
18	宗教学B	東谷　孝一	後期	金	4	140	160	
19	日本史A	松木　俊暁	前期	水	3	140	160	
20	日本史A	松木　俊暁	前期	水	4	140	160	
21	日本史B	桃崎　祐輔	後期	水	2	140	160	
22	西洋史A	山本　達夫	前期	月	4	140	160	
23	西洋史A	山本　達夫	前期	火	4	140	160	
24	西洋史B	山本　達夫	後期	火	4	140	160	
25	日本文学A	竜口佐知子	前期	水	4	140	160	
26	日本文学A	大木　桃子	前期	木	2	140	160	
27	日本文学A	須藤　　圭	前期	金	2	140	160	
28	日本文学B	大木　桃子	後期	木	2	140	160	
29	日本文学B	須藤　　圭	後期	金	2	140	160	
30	西洋文学A	鶴田　　学	前期	木	3	140	160	
31	西洋文学B	鶴田　　学	後期	木	3	140	160	
32	芸術A	植野　健造	前期	月	3	140	160	
33	芸術A	落合　桃子	前期	木	2	140	160	
34	芸術A	落合　桃子	前期	木	4	140	160	
35	芸術B	植野　健造	後期	月	3	140	160	
36	芸術B	落合　桃子	後期	木	3	140	160	
37	芸術B	落合　桃子	後期	木	4	140	160	
38	芸術B	川浪　千鶴	後期	金	4	140	160	
39	西洋教育史	岡野亜希子	前期	金	2	140	160	

次のページへ続く

表１　登録制限科目①【２～４限】

No.	科　目　名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員		選考方法および登録受付日時
						2年次以上	1年次	
40	法学A	守谷　賢輔	前期	火	2	140	160	
41	法学A	守谷　賢輔	前期	水	4	140	160	
42	法学B	守谷　賢輔	後期	火	3	140	160	
43	法学B	三宮　　希	後期	金	2	140	160	
44	日本国憲法	守谷　賢輔	前期	金	3	140	160	
45	日本国憲法	守谷　賢輔	後期	金	2	140	160	
46	政治学A	李　　鍾成	前期	月	2	140	160	
47	政治学A	廣澤　孝之	前期	月	3	140	160	
48	政治学B	李　　鍾成	後期	月	2	140	160	
49	政治学B	廣澤　孝之	後期	月	3	140	160	
50	経済学A	主計　　浩	前期	水	3	140	160	**【２年次生以上】抽選** **申請期間** ３月21日（金）12：00～ ３月22日（土）17：59 **結果発表** ３月23日（日）18：00 **【１年次生】抽選** **申請日** ４月３日（木） ９：00～12：59 **結果発表** ４月３日（木）20：00 ※１年次生は「表１」と「表２」で申込日が異なりますので注意してください。
51	経済学A	李　　錦東	前期	金	3	140	160	
52	経済学A	李　　錦東	前期	金	4	140	160	
53	経済学B	主計　　浩	後期	水	3	140	160	
54	経済学B	李　　錦東	後期	金	3	140	160	
55	経済学B	李　　錦東	後期	金	4	140	160	
56	社会学A	高岡　弘幸	前期	月	2	140	160	
57	社会学A	高岡　弘幸	前期	月	3	140	160	
58	社会学A	本多　康生	前期	火	4	140	160	
59	社会学A	開田奈穂美	前期	水	4	140	160	
60	社会学A	井手　靖子	前期	木	2	140	160	
61	社会学A	開田奈穂美	前期	木	3	140	160	
62	社会学A	花野　裕康	前期	金	3	140	160	
63	社会学A	花野　裕康	前期	金	4	140	160	
64	社会学B	高岡　弘幸	後期	月	2	140	160	
65	社会学B	高岡　弘幸	後期	月	3	140	160	
66	社会学B	森　　康司	後期	火	2	140	160	
67	社会学B	井手　靖子	後期	木	2	140	160	
68	社会学B	開田奈穂美	後期	木	3	140	160	
69	社会学B	開田奈穂美	後期	木	4	140	160	
70	社会学B	花野　裕康	後期	金	4	140	160	
71	教育論A	中世古貴彦	前期	火	4	140	160	
72	教育論B	中世古貴彦	後期	火	4	140	160	
73	教育の原理・課程論	橋場　　論	後期	火	3	140	160	
74	教育の原理・課程論	橋場　　論	後期	水	3	140	160	
75	地理学A	藤村　健一	前期	木	2	140	160	
76	地理学A	藤村　健一	前期	木	4	140	160	
77	地理学A	藤村　健一	前期	金	4	140	160	
78	地理学B	近藤　祐磨	後期	金	3	140	160	

次のページへ続く

表１　登録制限科目①【２～４限】

No.	科　目　名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員		選考方法および登録受付日時
						2年次以上	1年次	
79	心理学A	古川　善也	前期	水	3	140	160	
80	心理学A	古川　善也	前期	木	3	140	160	
81	心理学B	古川　善也	後期	水	3	140	160	
82	心理学B	古川　善也	後期	木	3	140	160	
83	文化人類学A	中村　　亮	前期	月	4	140	160	
84	文化人類学A	宮岡真央子	前期	水	2	140	160	**【２年次生以上】抽選**
85	文化人類学B	中村　　亮	後期	月	4	140	160	
86	文化人類学B	宮岡真央子	後期	水	2	140	160	**申請期間** ３月21日（金）12：00～ ３月22日（土）17：59
87	数学入門	田中　尚人	前期	水	4	140	160	
88	数学入門	田中　尚人	前期	木	3	140	160	
89	統計入門	藤木　　淳	前期	水	2	140	160	**結果発表** ３月23日（日）18：00
90	統計入門	藤木　　淳	前期	水	3	140	160	
91	物理の世界	林　　壮一	後期	木	2	140	160	
92	自然界と物質の化学	弟子丸正伸	前期	月	2	140	160	
93	生活と環境の化学	弟子丸正伸	後期	月	2	140	160	**【１年次生】抽選**
94	地球圏科学入門	田上　　響	前期	木	4	140	160	
95	地球圏科学入門	赤木　　右	前期	金	2	140	160	**申請日** ４月３日（木） ９：00～12：59
96	新しい地球観	小山内康人	後期	月	2	140	160	
97	新しい地球観	小山内康人	後期	金	2	140	160	
98	ミクロの生物科学	中川　　緑	前期	火	2	140	160	**結果発表** ４月３日（木）20：00
99	ミクロの生物科学	中川　裕之	前期	木	2	140	160	
100	マクロの生物科学	中川　　緑	後期	火	2	140	160	
101	マクロの生物科学	伊東　綱男	後期	火	3	140	160	※１年次生は「表１」と「表２」で申込日が異なりますので注意してください。
102	マクロの生物科学	中川　裕之	後期	木	2	140	160	
103	自然科学入門	林　　辰弥	前期	月	2	140	160	
104	自然科学入門	西園　幸久	前期	火	4	140	160	
105	自然科学入門	中川　　緑	前期	木	3	140	160	
106	自然科学と人間	桑原　義博	後期	水	2	140	160	
107	自然科学と人間	西園　幸久	後期	水	3	140	160	
108	自然科学と人間	中川　　緑	後期	木	3	140	160	

表２　登録制限科目①【１・５限】

No.	科　目　名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員		選考方法および登録受付日時
						２年次以上	１年次	
1	哲学Ａ	竹花　洋佑	前期	月	1	140	160	
2	哲学Ａ	飯泉　佑介	前期	火	1	140	160	
3	哲学Ａ	飯泉　佑介	前期	火	5	140	160	
4	哲学Ｂ	竹花　洋佑	後期	水	1	140	160	
5	倫理学Ａ	安居　　誠	前期	木	5	140	160	
6	宗教学Ａ	大坪加奈子	前期	月	5	140	160	
7	西洋史Ｂ	山本　達夫	後期	月	5	140	160	
8	日本文学Ｂ	大坪　亮介	後期	木	1	140	160	
9	芸術Ａ	落合　桃子	前期	木	5	140	160	
10	芸術Ｂ	落合　桃子	後期	木	5	140	160	
11	西洋教育史	岡野亜希子	前期	金	1	140	160	**【２年次生以上】抽選** **申請期間** ３月21日（金）12：00～ ３月22日（土）17：59 **結果発表** ３月23日（日）18：00 **【１年次生】抽選** **申請日** ４月４日（金） ９：00～12：59 **結果発表** ４月４日（金）20：00 ※１年次生は「表１」と「表２」で申込日が異なりますので注意してください。
12	法学Ｂ	守谷　賢輔	後期	金	1	140	160	
13	日本国憲法	守谷　賢輔	前期	火	1	140	160	
14	日本国憲法	守谷　賢輔	後期	火	1	140	160	
15	日本国憲法	守谷　賢輔	後期	水	5	140	160	
16	政治学Ａ	東原　正明	前期	木	1	140	160	
17	政治学Ａ	朝倉　拓郎	前期	木	5	140	160	
18	政治学Ｂ	東原　正明	後期	木	1	140	160	
19	経済学Ａ	山崎　好裕	前期	火	5	140	160	
20	経済学Ａ	主計　　浩	前期	金	1	140	160	
21	経済学Ｂ	山崎　好裕	後期	火	5	140	160	
22	経済学Ｂ	主計　　浩	後期	金	1	140	160	
23	社会学Ａ	本多　康生	前期	火	5	140	160	
24	社会学Ａ	井手　靖子	前期	木	1	140	160	
25	社会学Ｂ	森　　康司	後期	火	1	140	160	
26	社会学Ｂ	井手　靖子	後期	木	1	140	160	
27	教育の原理・課程論	山岸賢一郎	後期	金	1	140	160	
28	地理学Ａ	磯田　則彦	前期	火	5	140	160	
29	地理学Ａ	磯田　則彦	前期	水	1	140	160	
30	地理学Ａ	近藤　祐磨	前期	金	5	140	160	
31	地理学Ｂ	近藤　祐磨	後期	金	5	140	160	
32	心理学Ａ	縄田　健悟	前期	木	1	140	160	
33	心理学Ａ	古川　善也	前期	木	5	140	160	
34	心理学Ａ	古川　善也	前期	金	5	140	160	
35	心理学Ｂ	古川　善也	後期	木	5	140	160	
36	心理学Ｂ	古川　善也	後期	金	5	140	160	
37	文化人類学Ａ	宮岡真央子	前期	水	1	140	160	
38	文化人類学Ｂ	宮岡真央子	後期	水	1	140	160	
39	自然界と物質の化学	弟子丸正伸	前期	金	1	140	160	

次のページへ続く

表２　登録制限科目①【１・５限】

No.	科　目　名	担当者	期別	曜日	時限	登録定員		選考方法および登録受付日時
						2年次以上	1年次	
40	生活と環境の化学	弟子丸正伸	後期	金	1	140	160	**【2年次生以上】抽選** **申請期間** 3月21日（金）12：00～ 3月22日（土）17：59 **結果発表** 3月23日（日）18：00 **【1年次生】抽選** **申請日** 4月4日（金） 9：00～12：59 **結果発表** 4月4日（金）20：00 ※1年次生は「表1」と「表2」で申込日が異なりますので注意してください。
41	地球圏科学入門	赤木　右	前期	金	1	140	160	
42	新しい地球観	小山内康人	後期	月	1	140	160	
43	新しい地球観	小山内康人	後期	金	1	140	160	
44	ミクロの生物科学	伊東　綱男	前期	月	5	140	160	
45	ミクロの生物科学	中川　緑	前期	火	1	140	160	
46	ミクロの生物科学	中川　裕之	前期	木	1	140	160	
47	マクロの生物科学	中川　緑	後期	火	1	140	160	
48	マクロの生物科学	中川　裕之	後期	木	1	140	160	
49	自然科学入門	林　辰弥	前期	月	1	140	160	
50	自然科学と人間	桑原　義博	後期	水	1	140	160	
51	自然科学と人間	柴田　智郎	後期	木	1	140	160	
52	自然科学と人間	柴田　智郎	後期	金	5	140	160	

2 - 2 登録制限科目②

（ゼミナール形式やオムニバス形式など授業形態に合わせて登録者数を制限する科目）

科目の種類や年次により登録者の選考方法が異なりますので注意してください。履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。登録エラーの表示が出た場合は、科目の選択をやり直しエラーがない状態にしてください。

【対象科目：教養ゼミを除く科目】

2年次生以上は「先着順」、1年次生は「抽選」で登録者を決定します。表3の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「制限科目を選択」から登録してください。登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

●表3の科目に関する注意事項

①「登録定員」欄に示した人数は2年次生以上と1年次生の合計定員です。

②**表3の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業や試験時間割との重複等がないか確認のうえ申請してください。**

表3　登録制限科目②　教養ゼミの科目を除く

No.	科　目　名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
1	哲学A	大西　克智	前期	木	2	80	全学年	
2	哲学A	大西　克智	前期	木	3	80	全学年	
3	哲学A	大西　克智	前期	木	5	80	全学年	
4	哲学B	大西　克智	後期	木	2	80	全学年	
5	哲学B	大西　克智	後期	木	3	80	全学年	
6	哲学B	大西　克智	後期	木	5	80	全学年	
7	論理学A	林　　誓雄	前期	火	2	150	全学年	**【2年次生以上】先着順申請期間** 3月21日（金）12：00～ 3月23日（日）23：59
8	論理学A	林　　誓雄	前期	水	2	150	全学年	
9	論理学A	林　　誓雄	前期	水	3	150	全学年	
10	論理学A	林　　誓雄	前期	金	2	150	全学年	
11	論理学B	林　　誓雄	後期	火	2	150	全学年	
12	論理学B	林　　誓雄	後期	水	2	150	全学年	**【1年次生】抽選申請日** 4月4日（金） 9：00～12：59
13	論理学B	林　　誓雄	後期	火	1	150	全学年	
14	論理学B	林　　誓雄	後期	金	2	150	全学年	**結果発表** 4月4日（金）20：00
15	倫理学A	中村　未来	前期	月	4	80	全学年	
16	倫理学A	中村　未来	前期	火	2	80	全学年	
17	倫理学A	中村　未来	前期	水	4	80	全学年	**登録定員に達しない場合** 4月5日（土）9：00～ 先着順で追加募集を実施
18	倫理学B	中村　未来	後期	月	2	80	全学年	
19	倫理学B	中村　未来	後期	火	2	80	全学年	
20	倫理学B	中村　未来	後期	水	4	80	全学年	
21	アジアの文学A	間　ふさ子	前期	月	5	60	全学年	
22	アジアの文学A	何　　憶鴿	前期	火	5	80	全学年	
23	経済学A	楊　　光洙	前期	火	4	40	全学年	
24	経済学A	楊　　光洙	前期	火	5	40	全学年	
25	経済学B	楊　　光洙	後期	火	4	40	全学年	
26	経済学B	楊　　光洙	後期	火	5	40	全学年	

次のページへ続く

表３　登録制限科目②　教養ゼミの科目を除く

No.	科　目　名	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	登録対象年次	選考方法および登録受付日時
27	心理学A	大上　涉	前期	火	3	200	全学年	
28	心理学A	大上　涉	前期	火	4	200	全学年	
29	心理学B	大上　涉	後期	火	3	200	全学年	
30	心理学B	大上　涉	後期	火	4	200	全学年	
31	文化と教育	鈴木　美香	前期	水	4	15	22台以前	
32	文化と教育	鈴木　美香	後期	水	4	15	22台以前	**【２年次生以上】先着順** **申請期間** ３月21日（金）12：00～ ３月23日（日）23：59
33	福岡大学で考える現代社会	岩山　隆寛	前期	木	5	100	25~23台のみ	
34	福岡大学で考える現代社会	鈴木　学	後期	火	2	24	25~23台のみ	
35	福岡大学で考える現代社会	鈴木　学	後期	火	3	24	25~23台のみ	
36	福岡大学で考える現代社会	須長　一幸	前期	金	2	24	25台のみ	
37	福岡大学で考える現代社会	飛田　努	後期	金	2	100	25~23台のみ	
38	福岡大学で考える現代社会	橋場　論	前期	水	5	40	24・25台のみ	**【１年次生】抽選** **申請日** ４月４日（金） ９：00～12：59
39	福岡大学で考える現代社会	須長　一幸	後期	月	5	40	24・25台のみ	
40	福岡大学で考える現代社会　文系	熊丸　憲男	後期	火	4	12	25~23台のみ	
41	福岡大学で考える現代社会　理系	熊丸　憲男	後期	火	4	13	25~23台のみ	
42	福岡大学で考える現代社会	鈴木　美香	前期	水	4	85		**結果発表** ４月４日（金）20：00
43	福岡大学で考える現代社会	鈴木　美香	後期	水	4	85		
44	福大生のためのキャリアデザイン	植上　一希	前期	月	1	200	25台のみ	**登録定員に達しない場合** ４月５日（土）９：00～ 先着順で追加募集を実施
45	福大生のためのキャリアデザイン	植上　一希	前期	月	2	200	25台のみ	
46	アカデミックスキルズゼミⅠ	紺田　広明	前期	火	5	50	25~23台のみ	
47	アカデミックスキルズゼミⅠ	道山　治延	前期	木	1	48	25~23台のみ	
48	アカデミックスキルズゼミⅡ	吉田　秀幸	後期	木	1	48	25~23台のみ	
49	アカデミックスキルズゼミⅡ	鈴木　学	後期	火	5	50	25~23台のみ	
50	福岡大学を学ぶ･福岡大学でいかに学ぶか	平田　暢	前期	火	3	50	25台のみ	
51	福岡大学を学ぶ･福岡大学でいかに学ぶか	平田　暢	前期	火	2	50	25台のみ	

【対象科目：教養ゼミの科目】

「抽選」で登録者を決定します。表４（p.55～56）の科目の履修希望者は、履修登録画面上の「選択科目を選択」から申請してください。

結果発表後、履修登録画面上で当否を確認し、抽選に外れた場合（赤色で表示）はその科目を削除してください。登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ登録は完了です。

なお、２年次生以上が登録定員に達しなかった科目は、不足分を１年次生の登録定員に追加して受け付けます。

●表４の科目に関する注意事項

①**「教養ゼミ」の科目は前期１科目、後期１科目、前期と後期の合計で２科目までしか登録できません。**
前期または後期に２科目以上登録しようとすると、登録エラーになります。

②「登録定員」欄に示した人数は２年次生以上と１年次生の合計定員です。

③「教養ゼミ」の科目は定期試験を実施しない授業科目であるため、追試験・再試験は実施しません。

④**表４の科目の登録が許可された場合は、登録の取消しはできません。また、履修登録の撤回、後期登録変更時の削除もできませんので、授業時間割との重複等に十分に注意して申請してください。**

表４　登録制限科目②　「教養ゼミ」の科目

No.	科　目　名 （サブタイトル）	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	備考	選考方法および登録受付日時
1	哲学Ａ （哲学対話を通した哲学入門）	竹花　洋佑	前期	水	1	15		**【２年次生以上】抽選** **申請期間** ３月21日（金） 12：00～23：59 **結果発表** ３月22日（土） 16：00 **登録定員に達しない場合** ３月24日（月） ９：00～ 先着順で追加募集を実施 **【１年次生】抽選** **申請日** ４月４日（金） ９：00～12：59 **結果発表** ４月４日（金） 20：00 **登録定員に達しない場合** ４月５日（土） ９：00～ 先着順で追加募集を実施
2	哲学Ｂ （哲学入門）	竹花　洋佑	後期	水	2	15		
3	哲学Ａ （思考実験からの哲学入門①）	飯泉　佑介	前期	水	3	15		
4	哲学Ｂ （思考実験からの哲学入門②）	飯泉　佑介	後期	水	3	15		
5	倫理学Ａ （中国古典に見る人間観）	中村　未来	前期	火	4	15		
6	倫理学Ｂ （無為自然を説く道家の世界）	中村　未来	後期	火	4	15		
7	宗教学Ａ （生の教説①）	小笠原史樹	前期	月	5	15		
8	宗教学Ｂ （生の教説②）	小笠原史樹	後期	月	5	15		
9	日本史Ａ （日本近代史を学び憲法改正問題を考える）	梶原　良則	前期	月	3	15	登録対象：25台のみ	
10	日本史Ｂ （沖縄の歴史を学び基地問題を考える）	梶原　良則	後期	月	3	15	登録対象：25台のみ	
11	東洋史Ａ （現代中国・アジアについて語る）	山根　直生	前期	木	3	15		
12	東洋史Ｂ （現代中国・アジアについて語り、議論する）	山根　直生	後期	木	3	15		
13	西洋史Ａ （疫病の歴史を考える）	渡邉　裕一	前期	火	4	16		
14	西洋史Ｂ （「ユダヤ人」から見るヨーロッパの歴史）	渡邉　裕一	後期	火	4	16		
15	日本文学Ａ （近現代文学の精読と分析）	畑中　佳恵	前期	火	2	20	登録対象：25台のみ	
16	日本文学Ａ （『徒然草』輪読）	大坪　亮介	前期	木	3	20		
17	日本文学Ｂ （ミャークフツ入門）	衣畑　智秀	後期	月	3	30		

次のページへ続く

表４　登録制限科目②　「教養ゼミ」の科目

No.	科　目　名 （サブタイトル）	担当者	開講期別	曜日	時限	登録定員	備考	選考方法および登録受付日時
18	日本文学Ｂ （日本近現代の短編小説を読む）	永井　太郎	後期	水	4	15		**【２年次生以上】抽選** **申請期間** ３月21日（金） 12：00～23：59 **結果発表** ３月22日（土） 16：00 **登録定員に達しない場合** ３月24日（月） ９：00～ 先着順で追加募集を実施 **【１年次生】抽選** **申請日** ４月４日（金） ９：00～12：59 **結果発表** ４月４日（金） 20：00 **登録定員に達しない場合** ４月５日（土） ９：00～ 先着順で追加募集を実施
19	西洋文学Ａ （Speculative Japan２）	ｸﾛｽ,ﾃｨﾓｼｰ	前期	月	5	15	授業は英語で実施	
20	西洋文学Ｂ （Speculative Japan３）	ｸﾛｽ,ﾃｨﾓｼｰ	後期	月	5	15	授業は英語で実施	
21	アジアの文学Ａ （韓国・朝鮮文学を読む）	柳　　忠熙	前期	火	1	24		
22	アジアの文学Ｂ （中国20世紀文学を読む）	何　　憶鴿	後期	火	5	24		
23	経済学Ａ （『アクティブ・ラーニングで学ぶ日本の経済』）	田中　昌宏	前期	月	5	20		
24	経済学Ｂ （『イングランド銀行公式 経済がよくわかる10章』）	田中　昌宏	後期	月	5	20		
25	教育論Ａ （戦没学生の手記を読もう）	勝山　吉章	前期	木	2	15	登録対象：25台のみ	
26	地理学Ａ （現実世界の多様性を考えるⅠ）	磯田　則彦	前期	火	4	15		
27	地理学Ｂ （現実世界の多様性を考えるⅡ）	磯田　則彦	後期	火	4	15		
28	地理学Ａ （学術的な旅行の企画立案Ⅰ　国内編）	近藤　祐磨	前期	水	2	16		
29	地理学Ｂ （学術的な旅行の企画立案Ⅱ　海外編）	近藤　祐磨	後期	水	4	16		
30	心理学Ａ （犯罪者プロファイリングとは何か）	大上　　渉	前期	水	4	15		
31	心理学Ｂ （事例で学ぶ犯罪心理学）	大上　　渉	後期	水	4	15		
32	心理学Ａ （心の仕組みを学ぶ）	縄田　健悟	前期	水	2	16		
33	心理学Ｂ （心の働きを学ぶ）	縄田　健悟	後期	水	2	16		
34	文化人類学Ａ （文化人類学の思考を学ぶ）	中村　　亮	前期	月	2	15		
35	文化人類学Ｂ （身近な文化を調べ考える）	宮岡真央子	後期	月	2	16		
36	物理科学入門 （ためして物理を理解する）	西　　憲敬	前期	月	5	15		
37	生活と環境の化学 （衣食住の実験化学）	松原　公紀	後期	火	3	12		

3 総合系列科目について

総合系列科目は、現代の諸問題を考える科目です。授業はオムニバス（学部や専門分野の異なる複数の教員が授業を担当する）形式で行われます。

履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 47「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申請してください。

表 5 - 1　総合系列科目（22台以前）

No.	科　目　名 （サブタイトル）	担当者	開講期別	曜日	時限	定期試験の有・無	留意事項
1	地球環境 （資源循環と地球環境）	山本　俊浩	後期	水	5	有	
2	国際化と日本 （Globalization of Japan）	鈴木　孝将	後期	金	3	無	
3	国際化と日本 （ヨーロッパを知る―その多様性と統一―）	辻部　大介	後期	月	5	有	
4	国際化と日本 （東アジアと福岡）	三島　健司	後期	金	4	有	
5	国際化と日本 （グローカルな平和論）	渡邉　裕一	後期	月	5	有	
6	文化と教育 （スペインの社会と文化から学ぶ）	鈴木　美香	前期	水	4	無	登録制限科目②
7	文化と教育 （イスパノアメリカの社会と文化から学ぶ）	鈴木　美香	後期	水	4	無	登録制限科目②
8	現代を生きる （災害から自分や家族を守る）	重松　幹二	後期	水	5	有	

表５－２　総合系列科目（23台以降）

科目名：「福岡大学で考える現代社会」

No.	サブタイトル	担当者	開講期別	曜日	時限	定期試験の有・無	留意事項
1	皆で考える地球温暖化とカーボンニュートラル	岩山　隆寛	前期	木	5	無	登録制限科目②
2	ものづくり体験から学ぶ企画・制作力	熊丸　憲男	後期	火	4	無	登録制限科目②
3	災害から自分や家族を守る	重松　幹二	後期	水	5	有	
4	Globalization of Japan	鈴木　孝将	後期	金	3	無	
5	スペインの社会と文化から学ぶ	鈴木　美香	前期	水	4	無	登録制限科目②
6	イスパノアメリカの社会と文化から学ぶ	鈴木　美香	後期	水	4	無	登録制限科目②
7	大学生のための現代社会論	鈴木　　学	後期	火	2	無	登録制限科目②
8	大学生のための政治経済論	鈴木　　学	後期	火	3	無	登録制限科目②
9	「言葉の力」を身につける	須長　一幸	前期	金	2	無	登録制限科目②
10	主体性・社会性・協働性を身につける	須長　一幸	後期	月	5	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
11	ヨーロッパを知る ―その多様性と統一―	辻部　大介	後期	月	5	有	
12	アントレプレナーシップを学ぶ	飛田　　努	後期	金	2	有	登録制限科目②
13	主体性・社会性・協働性を身につける	橋場　　論	前期	水	5	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
14	東アジアと福岡	三島　健司	後期	金	4	有	
15	Innovation for a Sustainable Society （持続可能な社会のためのイノベーション）	安井　英俊	前期	火	3	無	登録制限科目②
16	多職種連携で支える人生100年時代	安元　佐和	前期	木	5	無	
17	貨幣の謎 ―新型コロナウイルスから解明する	山﨑　好裕	後期	火	4	有	
18	資源循環と地球環境	山本　俊浩	後期	水	5	有	
19	グローカルな平和論	渡邉　裕一	後期	月	5	有	

4 学修基盤科目について

学修基盤科目は、学問と向き合うための正しい姿勢や学問的技法、学ぶことの意義を理解するための科目です。なお、履修登録画面上には、自分が登録することのできる科目のみ表示されます。

登録制限科目の履修希望者は、p. 47「2 登録制限科目について」の注意事項および要領等に従い申請してください。

表 6　学修基盤科目

No.	科　目　名 （サブタイトル）	担当者	開講期別	曜日	時限	定期試験の有・無	留意事項
1	福大生のためのキャリアデザイン （大学生活を設計する）	植上　一希	前期	月	1	無	登録制限科目② 登録対象：25台のみ
2	福大生のためのキャリアデザイン （大学生活を設計する）	植上　一希	前期	月	2	無	登録制限科目② 登録対象：25台のみ
3	アカデミックスキルズゼミⅠ （読む・書く・話す・聞くことのレッスン）	紺田　広明	前期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
4	アカデミックスキルズゼミⅠ （読む・書く・話す・聞くことのレッスン）	道山　治延	前期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
5	アカデミックスキルズゼミⅡ （思考と発想のレッスン）	鈴木　　学	後期	火	5	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
6	アカデミックスキルズゼミⅡ （思考と発想のレッスン）	吉田　秀幸	後期	木	1	無	登録制限科目② 登録対象：24～25台のみ
7	福岡大学を学ぶ･福岡大学でいかに学ぶか	平田　　暢	前期	火	2	無	登録制限科目② 登録対象：25台のみ
8	福岡大学を学ぶ･福岡大学でいかに学ぶか	平田　　暢	前期	火	3	無	登録制限科目② 登録対象：25台のみ
9	データサイエンス・AI 入門	香野　　淳	前期	集中	集中	無	登録対象：25台のみ
10	データサイエンス・AI 入門　BB	香野　　淳	前期	集中	集中	無	登録対象：25台のみ
11	データサイエンス・AI 入門	香野　　淳	後期	集中	集中	無	登録対象：25台のみ
12	データサイエンス・AI 入門　BB	香野　　淳	後期	集中	集中	無	登録対象：25台のみ

データサイエンス・AI 入門の詳細については、p. 60「学修基盤科目データサイエンス・AI 入門について」を参照してください。

5．履修登録の停止について

総合教養科目では、**制限①②以外の科目についても、大学が定める登録者数の一定の上限を超えた科目が発生した場合、履修登録期間中であってもその科目の登録受付を停止**することがあります。

登録停止となった科目については、FU ポータルのお知らせを確認して下さい。

学修基盤科目 データサイエンス・AI 入門について

●科目の概要

インターネットやニュースなどでよく見聞きするようになった「AI」とは何か知っていますか。現在、膨大なデータを収集して傾向などを分析し、社会やビジネスの課題解決につなげることを目指すデータサイエンスや AI（Artificial Intelligence：人工知能）の利活用が盛んになっています。これからは AI の時代とも言われ、文系・理系を問わず大学生のうちに、データサイエンス・AI の知識・技術を学び、素養（デジタル社会の読み・書き・そろばん）を身に付けておくことが求められています。

この科目は、データサイエンス・AI について学び、そのリテラシー（適切に理解し、活用する力）を習得するための入門科目で、全学部の 1 年次生が履修できる共通教育科目として2022年度から新たに開講されています。e-Learning を活用し、オンデマンド型で学ぶことができるため、都合の良い時間に受講することができます（受講する曜日・時限は決まっておらず、自ら計画を立てて学んでいきます）。

科目の詳細については、シラバスを参照してください。

※文部科学省が推進する認定制度「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム（リテラシーレベル）」に適合する内容となっています。

●身に付けることができる能力

- データサイエンス・AI の必要性を理解し、説明できるようになる
- 社会で活用されているデータ・AI 活用の事例について説明できるようになる
- どのような思考方法でデータを扱うかを理解し、説明できるようになる
- データを読み、説明できるようになる
- Excel などの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱えるようになる
- データ・AI を扱う上での留意事項を説明できるようになる
- 数理・データサイエンス・AI について自ら学び、活かす姿勢を身に付ける

●e-Learning を活用したオンライン学習の科目

本科目は、オンライン上で e-Learning を使って自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。所定の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学習を進め、また各回の小テストや課題に取り組むことで理解を深めていきます。

●学びを深めるサポート体制

オンラインまたは教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で質問を受け付け、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。

●対象学生

全学部 1 年次生

●開講学期

前期と後期に開講

●成績評価

この科目は、合否で成績を評価する単位認定科目です。よって、GPA 評価の対象にはなりません。

●履修登録方法

4 月 5 日㈯～ 4 月 6 日㈰の web 履修登録期間中に、履修登録画面最下部の「集中講義科目等を選択」ボタンから前期または後期いずれかの科目を選択して登録します。

※履修登録の「撤回」、「後期登録変更」はできませんのでご注意ください。

3 保健体育科目について

本学の保健体育科目は、生涯スポーツ演習と生涯スポーツ論より構成されています。前者は実技と理論による演習形式で、後者は講義形式で実施されます。

生涯スポーツ演習は、学生が様々なスポーツ活動の体験・学習を通して、その楽しさを知るとともに、心身の健康を回復・保持・増進し、学生生活を豊かにすることを目的としています。また、学生が生涯にわたるスポーツ活動の必要性を、健康・体力のみならず、生きがいという面からも理解し、その実践に必要な技能・知識・態度を身につけることも目的としています。

生涯スポーツ論は、学生が本学スポーツ科学部編集のテキスト(『大学生のスポーツと健康生活』)によって、健康の増進に寄与する科学的知識を学ぶとともに、スポーツ活動に関わる自然・人文・社会科学的な理解を深めることで、スポーツ活動を生涯にわたって「行う」「観る」「支える」「調べる」ようになることを目的としています。

こうした保健体育科目での学修を通して、学生が在学期間のみならず、生涯にわたって様々なスポーツ活動に親しみ、健康で充実した生活を送れるようになることを目指しています。

1 登録手続等について

スポーツ科学部以外の学部

生涯スポーツ演習Ⅰ (前期または後期) 生涯スポーツ演習Ⅱ (前期または後期)	1年次生(25台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください(但し、医学部医学科を除く)。 2年次生以上(24台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。 **〔次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。〕** **※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。**
生涯スポーツ演習Ⅲ(前期) 生涯スポーツ演習Ⅳ(後期) **※理・薬学部のみ**	授業時間割で決められた曜日・時限(理学部:火曜2限、薬学部:金曜4限)に登録してください。 **※授業の第1週目はオリエンテーションを行いますので、第二記念会堂に集合してください。なお、このときトレーニングウェアは不要です。**
生涯スポーツ論 (前期または後期)	2年次生(24台)…授業時間は学科基本クラスごとに指定されています。生涯スポーツ論を必修科目としている人文学部、法学部、経済学部、商学部については、授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。なお、別科目の受講を優先する等の事情により2年次生での受講を希望しない場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。 生涯スポーツ論を選択科目としている理学部、医学部看護学科、薬学部については、授業時間割で決められた曜日・時限に登録してください。 3年次生以上(23台以前)…本人が所属する学部のいずれかのクラスに登録してください。他の必修科目と授業が重複する等の事情により、他学部のクラスの受講を希望する場合は、所属学部の事務部署に申し出てください。 **〔次ページに掲載しているクラス分け一覧を参照してください。〕**

スポーツ科学部

生涯スポーツ演習Ⅰ（前期） 生涯スポーツ演習Ⅱ（後期） 生涯スポーツ演習Ⅲ（前期） 生涯スポーツ演習Ⅳ（後期）	授業時間割で決められた曜日・時限にあらかじめ事前登録していますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。詳しくは授業開始前に掲示にてお知らせします。

生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱクラス分け一覧

時限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	Ⅰ：CB１－４ Ⅱ：CB５－６	Ⅰ：CB５－６ Ⅱ：CB１－４	Ⅰ：JB１－３ Ⅱ：JB４－５	Ⅰ：JB４－５ Ⅱ：JB１－３	Ⅰ：JJ４－６	Ⅱ：JJ４－６	Ⅰ：JJ１－３ Ⅰ：MM(20名) Ⅰ：保健コース Ⅱ：保健コース	Ⅱ：JJ１－３ Ⅱ：MM(20名) Ⅰ：保健コース Ⅱ：保健コース	Ⅰ：EE１－４	Ⅱ：EE１－４
2	Ⅰ：CF１－２ Ⅱ：CF３－４	Ⅰ：CF３－４ Ⅱ：CF１－２	Ⅰ：EE５－８	Ⅱ：EE５－８	Ⅰ：JJ７－９ Ⅰ：MM(30名) Ⅱ：LG･JJ10	Ⅰ：LG･JJ10 Ⅱ：JJ７－９ Ⅱ：MM(30名)	Ⅰ：CC１－３ Ⅱ：CC４－６	Ⅰ：CC４－６ Ⅱ：CC１－３	Ⅰ：PP１－２ Ⅱ：PP３－６	Ⅰ：PP３－６ Ⅱ：PP１－２
3	Ⅰ：SM・SP Ⅱ：SC・SE	Ⅰ：SC・SE Ⅱ：SM・SP	Ⅰ：EE９－12 Ⅰ：MM(10名)	Ⅱ：EE９－12 Ⅱ：MM(10名)	Ⅰ：TM Ⅱ：TE	Ⅰ：TE Ⅱ：TM	Ⅰ：EI１－２ Ⅱ：EI３－４ Ⅰ：GS・GH	Ⅰ：EI３－４ Ⅱ：EI１－２ Ⅱ：GS・GH	Ⅰ：TL１－２ Ⅰ：MM(20名) Ⅱ：TL３－４	Ⅰ：TL３－４ Ⅱ：TL１－２ Ⅱ：MM(20名)
4	Ⅰ：TA･LP１ Ⅱ：TK･LP２	Ⅰ：TK･LP２ Ⅱ：TA･LP１	Ⅰ：LF・LA Ⅰ：MM(30名) Ⅱ：MN	Ⅰ：MN Ⅱ：LF・LA Ⅱ：MM(30名)	Ⅰ：TC	Ⅱ：TC	Ⅰ：LC・LH Ⅱ：水泳 Ⅰ：保健コース Ⅱ：保健コース	Ⅱ：LC・LH Ⅱ：水泳 Ⅰ：保健コース Ⅱ：保健コース	Ⅰ：LE・LJ	Ⅱ：LE・LJ

（注１）前・後期の木曜４限目に水泳を開講します。詳細は３水泳クラスについてに記載している事項をご確認ください。
（注２）前・後期の木曜３限目のＧＳ・ＧＨクラスはスポーツ科学部の学生のみ履修可能。
（注３）医学部医学科（ＭＭ）の新入生は、指定する複数クラス（火曜３時限、火曜４時限、水曜２時限、木曜１時限、金曜３時限）の中から先着順で登録者を決定します。なお、登録要領等については、履修登録ガイダンスの際にお知らせします。

生涯スポーツ論クラス分け一覧

時限	月		火		水		木		金	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
1	LC・LH	LJ･LE LP･P	EE１－３	EE４－６	EE７－９	EE10－12	EI１－２	EI３－４	CF１－２	CF３－４
2	JJ１－３	JJ４－６	CC１－３ S	CC４－６ S	JJ７－８	JJ９－10	CB１－３	CB４－６	JB１－３	JB４－５
3	LG･LF･LA MN・P									

2 保健コースについて

●生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱの履修者のうち、疾患および障がい等のため激しい運動ができない学生を対象とします。
●保健コースの登録を希望する人は、まず時間割で指定されたクラスに出席してください。第１週目の授業（オリエンテーション）にて面談を行います。その結果、コースの変更が必要と判断された場合は、保健コース（木曜日１時限または４時限）への変更手続きを行います。なお、変更手続きの際に診断書の提出を求めることもあります。

3 水泳クラスについて

前・後期の木曜４限目の生涯スポーツ演習Ⅱにおいて、水泳を実施します。
受講を希望する方は、以下の点にご留意下さい。

⑴　授業シラバスを読み、履修上の条件を確認すること。
⑵　事前登録されている生涯スポーツ演習Ⅱの学期の木曜４限目に水泳クラスが入りますので、他の科目を入れないよう注意すること。
⑶　授業１週目のオリエンテーションは事前登録されているクラスで出席すること。

4 その他

●生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳおよび生涯スポーツ論における前期・後期の登録撤回、および後期の登録変更の取り扱いについては、「共通教育科目の履修登録の撤回および後期開講科目の登録変更について」（p. 46）を参照してください。
●生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業ではトレーニングウェア（水泳の場合には水着）を着用してください。また、体育館シューズも用意してください。詳しくは授業１週目のオリエンテーションで説明します。
●生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択できるのは、医学部と薬学部を除く学部の３年次生までの学生です。なお、生涯スポーツ演習Ⅱでスキーを選択する人は実習費として110,000円程度必要になります（実習費は12月に徴収します）。但し、経済状況により実習費は変動することがあります。実習地は山形県蔵王スキー場を予定しています。

4 外国語科目

共通教育科目の外国語科目は、７つの外国語と学部留学生を対象とした日本語（注１）が設置されています。各学部・学科の外国語科目の開講は下表の通りです。

2025年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表（2025年度（25台）の入学生）

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">学部・学科</th><th colspan="4">外国語科目</th></tr>
<tr><th colspan="2">第１外国語</th><th colspan="2">第２外国語（注３）</th></tr>
<tr><td rowspan="4">人文学部</td><td>文化学科・歴史学科
日本語日本文学科
教育臨床心理学科
英語学科</td><td>英語</td><td>必修（６単位）
選択（２単位）</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択必修
（８単位）</td></tr>
<tr><td>ドイツ語学科</td><td>ドイツ語</td><td>必修（８単位）</td><td>・英語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択必修
（８単位）</td></tr>
<tr><td>フランス語学科</td><td>フランス語</td><td>必修（８単位）</td><td>・英語・ドイツ語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択必修
（８単位）</td></tr>
<tr><td>東アジア地域言語学科（注２）</td><td colspan="4">中国語・朝鮮語・英語……必修（12単位）および選択必修（４単位）
英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語……選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">法・経済・商学部</td><td>英語</td><td rowspan="4">必修（６単位）
選択（２単位）</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">商学部第二部</td><td>英語</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択</td></tr>
<tr><td colspan="2">理・工学部</td><td>英語</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択必修
（４単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">薬学部</td><td>英語</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択</td></tr>
<tr><td rowspan="2">医学部</td><td>医学科</td><td>英語</td><td>必修（６単位）</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択</td></tr>
<tr><td>看護学科（注２）</td><td colspan="4">英　語……必修（６単位）、選択（２単位）
ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・朝鮮語
……選択必修（２単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">スポーツ科学部</td><td>英語</td><td>必修（６単位）
選択（２単位）</td><td>・ドイツ語・フランス語
・中国語・ロシア語
・スペイン語・朝鮮語</td><td>選択</td></tr>
</table>

（注１） 学部留学生を対象とした日本語の取り扱いについては、P.73「学部留学生のための授業科目「日本語」について」を参照してください。
（注２） 人文学部東アジア地域言語学科および医学部看護学科については、第１外国語・第２外国語の区別はありません。
（注３） 第２外国語は、同一言語で４単位以上修得しない場合、卒業要件単位として認められないことがあります。学部によって取扱いが異なりますので注意してください。
（注４） 上記の科目以外に海外英語研修があります。詳細は、P.113「海外英語研修」を参照してください。

2025年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表（2024年度（24台）以前の入学生）

2024年度（24台）以前の入学生は、以下の QR コードで2025年度外国語科目学部・学科別開講一覧表をご確認ください。

1 外国語科目の履修登録について

●外国語科目の履修は、下位年次科目から順次登録しなければなりません。

●外国語科目は、**履修登録の撤回・後期開講科目の登録変更を認めていません。**

※2024年度（24台）以前の入学生のアドバンスト・イングリッシュⅡ（後期科目）のみ、所定の登録人数に達しない場合に限り、登録変更期間に追加登録を行います。追加登録を行う場合は登録変更期間前にFUポータルでお知らせします。なお、追加登録を行った場合も履修登録の撤回はできません。

●英語の履修登録について

【2025年度（25台）の入学生】

英語には、以下の3種類があり（カッコ内は略称）、Advanced English以外は履修するクラスが決まっています。クラスは事前登録してありますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。

Practical English（PE）
Core English（CE）
Advanced English（AE）

※1 Advanced English（アルファベット表記）は、2026年度から開講予定です。履修登録に関する注意事項、授業内容等は今後FUポータルや次年度発行予定の学修ガイド等で公開します。
2 人文学部東アジア地域言語学科のPE Ⅰ・CE Ⅱは事前登録を行いませんので、各自で履修登録してください。
3 人文学部ドイツ語学科とフランス語学科は各自で英語の事前登録を取り消すことができます。
4 休学や留学等によりPE・CEの履修年度が遅れた場合は再履修と同様各自で履修登録が必要です。詳細は、今後FUポータルや次年度発行予定の学修ガイド等で公開します。

【2024年度（24台）以前の入学生】

英語には以下の3種類があり（カッコ内は略称）、インターミディエイト・イングリッシュ（IE）のみ履修するクラスが決まっています。IEのクラスは事前に登録してありますので、履修登録の画面で登録されているクラスを確認してください。

フレッシュマン・イングリッシュ（FE）
インターミディエイト・イングリッシュ（IE）
アドバンスト・イングリッシュ

※1 アドバンスト・イングリッシュ（カナ表記）は開講される学部・学科・年台が決まっています。授業科目表を参照してください。履修希望者は各自で履修登録が必要です。
2 東アジア地域言語学科のIE Ⅲ・Ⅳは、事前登録を行いませんので各自で履修登録してください。
3 人文学部ドイツ語学科とフランス語学科は各自で英語の事前登録を取り消すことができます。
4 休学や留年等によりFE・IEの履修年度が遅れた場合は再履修と同様各自で履修登録が必要です。下の「●再履修の履修登録について（2年次生以上）」を読んでください。

履修登録画面の時間割表に事前登録されている英語の科目の🄸をクリックすると【履修科目の詳細情報】が表示され、クラスを確認することができます。

●その他の外国語の履修登録について

選択する外国語によって、登録するクラスが指定されている科目や、いくつかのクラスの中から選んで登録できる科目、登録できるクラスのペアが定められている科目などがあります。詳細は「3 英語以外の外国語について」（p. 72〜）を読んでください。

●再履修の履修登録について（2年次生以上）

再履修の場合は、英語・その他の外国語ともに事前登録はしませんので各自で履修登録が必要です。

また、再履修クラスが開講されている科目と、開講されていない科目があります。再履修クラスが開講されていない場合、所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録することができます。その場合、自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。

詳細は各語学の説明（p. 67〜）を読んでください。

●「海外英語研修」

全学部を対象に「海外英語研修」(２単位）を開設しています。応募方法など詳細はp. 113の「２ 短期留学」を参照してください。

なお、この科目は研修に参加した翌年度に事前登録され、事前登録された年度の前期に成績が評価される科目です。

2 英語の履修について

【2025年度（25台）の入学生】

共通教育英語科目は、学部・学科により、履修年次・期別が違いますので、各学科の年次別授業科目表で確認してください。

●Practical English Ⅰ・Ⅱ（１年次生)、Ⅲ（２年次生）

・予め受講クラスが決められていて自分で変更できません。

・PE Ⅱ・PE Ⅲは習熟度別にクラスを編成するため、CE で受験するテストの結果に伴いクラスが決められます。PE Ⅱは仮で全員同じクラスが事前に登録されていますが、前期終了後にクラスが変わります。PE Ⅱの最終的な受講クラスは、後期の履修登録変更期間に履修登録の画面で必ず確認してください。

・Practical English の各科目では以下の授業を行います。

PE Ⅰ　Productive English（略称：PRO）

プレゼンテーションやライティングを中心に、英語を使いながら学び、英語を学びながら使っていきます。

PE Ⅱ　Reading & Writing（略称：REA）

批判的に読む力と英語を用いて論理的に書く力を総合的に高めます。

PE Ⅲ　Communicative English（略称：COM）

英語の話す力と聞く力に焦点を当て、対話力を高めます。

●Core English Ⅰ・Ⅱ（１年次生)、Ⅲ（２年次生）

・Core　English は、一人ひとりの苦手な部分にカスタマイズされた e-Learning 教材で、英語の文法、語彙・表現の知識、および「読む」「聞く」という受信力を強化します。

・授業では、TOEIC® IP テスト（オンライン）を指定された日時および教室で受験します。

・授業には、ノートパソコンおよびイヤフォン（有線を推奨）を持参する必要があります。

●Advanced English Ⅰ・Ⅱ（２・３年次生）

・Advanced English（アルファベット表記）は、2026年度から開講予定です。科目の概要や履修登録方法などは次年度発行の学修ガイドで確認してください。

【2024年度（24台）以前の入学生】

●フレッシュマン・イングリッシュⅠ～Ⅳ

フレッシュマン･イングリッシュは再履修クラスのみ開講されます。再履修クラスについては、「●再履修について（FE・IE)」の項目を確認してください。

●インターミディエイト・イングリッシュⅠ～Ⅳ（２・３年次生）

インターミディエイト・イングリッシュⅠ～Ⅳは、学部･学科により履修年次が違いますので、各学科の年次別授業科目表で履修年次を確認してください。

IE は「目的別クラス選択制」を導入しています。開講クラスは下記のとおりで、プレイスメントテスト受験の際に選択した希望順位をもとに受講クラスが決定され、事前登録されています。IE Ⅰ～Ⅳすべて同じ種類の目的別クラスを受講します。

R&W：リーディング＆ライティング
ＥＳＰ：検定対策英語
C＆O：CALL＆オーラル・コミュニケーション

※1　人文学部東アジア地域言語学科はIE Ⅰ・Ⅱのみが必修科目ですが、選択科目としてIE Ⅲ・Ⅳを履修することができます。
2　医学部医学科のIE Ⅰ～Ⅳは、すべて1年次の後期科目です。
3　アスリート特別選抜および留学生クラスのIE Ⅰ～Ⅳは目的別クラスではありません。

●アドバンスト・イングリッシュⅠ・Ⅱ（3年次生以上、L（LH，LJ）・S・Mを除く学部）

アドバンスト・イングリッシュは、ⅠあるいはⅡのみの受講も可能です。必修科目ではありませんので、履修希望者は履修登録が必要です。なお、アドバンスト・イングリッシュは**TOEIC® L&Rのスコアが500点以上相当の英語運用能力を有する学生を想定した授業内容となっていますので、500点に満たない場合は、単位の修得が困難となる場合がありますので、注意してください。**

●再履修について（FE・IE）

FEとIEを再履修する場合は、再履修者用のクラスを受講できます。また、IEの場合は下位年次生が受講するレギュラークラス（目的別クラス）での受講を選択することもできます。

※　PEとCEの再履修クラスについては、2026年度の履修登録前に学修ガイドなどで周知します。

再履修クラスを受講する場合

下記《再履修クラス登録方法》を参照のうえ、自分で履修登録をしてください。

前期卒業する場合

「FE Ⅱ・Ⅳ」および「IE Ⅱ・Ⅳ」は本来後期科目ですが、前期にも各1クラス開講しています。
これらの科目の履修が必要な場合、このクラスに履修登録しなければなりません。
登録人数には定員を設けており、先着順に受け付けますので、早めに履修登録してください。
【注意】上記4クラスの定期試験は二部（夜間部）の時間帯で実施しますので、履修登録時に試験日・時限を必ず確認してください。

※　医学部医学科の学生（再履修者）は、医学部事務課の窓口で指示を受けてください。

《再履修クラス登録方法》

[1]　下表で、再履修しようとする科目の講義形態を確認してください。
学部によって受講できる講義形態が決まっていますので注意してください。

【英語再履修クラスの講義形態】

学部・学科	科　目	講義形態	定期試験日程	講義日程
人文学部 法学部 経済学部 商学部 スポーツ科学部	FE Ⅰ・Ⅲ	前期科目	定期試験期間中に実施。	p. 68 [2] へ
	FE Ⅱ・Ⅳ	前期科目	定期試験期間中に**二部の時間帯**で実施。	
		後期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE Ⅰ・Ⅲ	前期科目	定期試験期間中に実施。	
	IE Ⅱ・Ⅳ	前期科目	定期試験期間中に**二部の時間帯**で実施。	
		後期科目	定期試験期間中に実施。	
理・工・薬学部 医学部看護学科	FE Ⅰ～Ⅳ	夏季集中講義	夏季集中講義期間中に実施。	p. 69 [3] へ
	IE Ⅰ～Ⅳ			

※　工学部社会デザイン工学科の3年次以上で、キャリアデザインを登録する学生は「前期科目」または「後期科目」で受講してください。

[2]　下表で受講するクラスの期別・日程を確認してください。

【再履修クラス】

フレッシュマン・イングリッシュ（FE）

科目	学部学科	組	期別	曜日	時限	担当者
FE Ⅰ	LJECG	再①	前期	火	5	福原俊平
		再②		水	5	毛利優花
		再③		金	4	棚町　温
	STM(MNP)	集中再	前期	集中		光冨省吾
FE Ⅱ	LJECG	再①	後期	火	5	毛利史生
		再②		水	5	今川京子
		再③		金	4	大村孝紀
		再④	前期	火	5	迫　由紀子
	STM(MNP)	集中再	後期	集中		クロス
FE Ⅲ	LJECG	再①	前期	水	4	坂井　隆
		再②		木	4	銅堂恵美子
		再③		金	5	岩崎雅之
	STM(MNP)	集中再	前期	集中		石垣恵一
FE Ⅳ	LJECG	再①	後期	水	4	武内梓朗
		再②		木	4	高木留美
		再③		金	5	森竹希望
		再④	前期	金	5	森田　司
	STM(MNP)	集中再	後期	集中		毛利史生

インターミディエイト・イングリッシュ（IE）

科目	学部学科	組	期別	曜日	時限	担当者
IE Ⅰ	LJECG	再①	前期	月	4	大村孝紀
		再②		火	4	毛利優花
		再③		木	5	高木留美
		再④		金	4	伊藤益代
	STM(MNP)	集中再	前期	集中		山田英二
IE Ⅱ	LJECG	再①	後期	月	4	大島由起子
		再②		火	4	シルバーマン
		再③		木	5	森田　司
		再④		金	5	岩崎雅之
		再⑤	前期	月	5	毛利史生
	STM(MNP)	集中再	後期	集中		石垣恵一
IE Ⅲ	LJECG	再①	前期	月	5	武内梓朗
		再②		火	4	西村　恵
		再③		水	4	今川京子
		再④		木	4	園田暁子
	STM(MNP)	集中再	前期	集中		太田　梢
IE Ⅳ	LJECG	再①	後期	月	5	高橋美知子
		再②		火	5	棚町　温
		再③		水	4	久保善宏
		再④		木	4	一瀬陽子
		再⑤	前期	月	4	大島由起子
	STM(MNP)	集中再	後期	集中		山田英二

3月24日（月）からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録から履修申請をしてください。半期完結の再履修クラスは1クラスあたりの登録人数に定員を設けていて、先着順に受け付けます。登録ができない場合は他の再履修クラスに履修申請してください。

[3]　夏季集中講義について

このクラスを受講できるのは、理・工・薬学部および医学部看護学科の学生のみです。それ以外の学部学生は受講できませんので注意してください。

【夏季集中講義日程】

期別	科目名	期　　間	授業時間	試験日・時限
前期	FE Ⅰ・Ⅲ IE　Ⅰ・Ⅲ	8月4日(月)～8日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	8月8日3限目 (13:00～14:00)
後期	FE Ⅱ・Ⅳ IE　Ⅱ・Ⅳ	9月1日(月)～5日(金)	1時限～3時限 ただし最終日は 1時限～2時限	9月5日3限目 (13:00～14:00)

※　授業時間［1時限］9：00～10：30　［2時限］10：40～12：10　［3時限］13：00～14：30

3月24日(月)からの履修登録期間中に「FUポータル」にログインし、Web履修登録の履修申請画面で**「集中講義科目等を選択」**から受講するクラスを選択し、履修申請してください。各クラスとも登録人数に定員はありませんが、前期と後期1科目ずつしか登録できませんので、**複数の再履修がある場合**、夏季集中講義に登録できない再履修科目は前期科目または後期科目の再履修クラスに履修登録してください。また、IEのみ履修登録期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きすれば、希望する曜日・時限のレギュラークラスに登録することも可能です。

［IEのみ］レギュラークラスで受講する場合

自学部の履修登録可能期間中に共通教育センター（文系センター棟1階）で手続きが必要です。登録できるクラス・人数に定員がありますので、早めに申し出てください。

また、休学等により、当該年次の英語が受講できなかった場合も、レギュラークラスを受講することができます。

※1　商学部第二部の学生（再履修者）がレギュラークラスへの登録を希望する場合は、2号館事務室で対応します。

2　再履修者のレギュラークラスへの登録方法については、共通教育センターのホームページ(http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/）に詳しい説明を掲載しています。

【2025年度（25台）の入学生へ】外部試験の成績による単位認定について

1．下表の外部試験の成績により、2025年度履修登録科目（Core English）の中から3単位を上限として認定を申請することができます。

認定対象科目（単位）					
Core English Ⅰ～Ⅲ（各1単位）					
TOEIC® Listening & Reading（以下 TOEIC® L&R）	IELTS	TOEFL iBT®	実用英語技能検定（以下英検）	認定上限単位数	成績標語評価
800点以上	6.5以上	90以上	1級	3	秀（A）90点
700点以上800点未満	6.0	80以上90未満		2	
600点以上700点未満	5.5	70以上80未満	準1級	1	

※1　単位認定科目は、**申請時に履修登録されている**上表の認定対象科目の中から、認定上限単位数の範囲内で申請者が選択することができます。

※2　上表の科目を再履修する場合でも単位認定を申請できますが、履修登録をしていなければ申請できませんので、注意してください。なお、再履修は下位年次から順次登録しなければなりません。

※3　申請後、休学等により登録科目が取り消される場合、外部試験により認定された科目がそこに含まれる時は、認定も取り消されます。

※4　外部試験の成績により単位認定された対象科目は、**特待生の選考にあたって考慮されません。また、GPA評価の対象にもなりません。**

※5　単位認定の対象となる外部試験の詳細は下表のとおりです。

外部試験	単位認定の対象となるテストや受験方式
TOEIC® L&R	公開テストおよび本学で実施されたIPテスト ※IPテスト（オンライン）のテスト結果は単位認定に使用できません。 ※デジタル公式認定証を利用しての申請には、スマートフォン等モバイル端末を窓口に持参してください。
IELTS	ペーパー版・コンピューター版の受験方式によるIELTS（IELTS Onlineは除く）
TOEFL iBT®	試験会場での受験
英検	英検および英検　S-CBT

2．単位認定の申請受付けは、下表の要領で4月と9月に行います。

申請期間	2025年4月11日（金）～4月17日（木）	2025年9月15日（月）～9月19日（金）
対象科目	2025年度前・後期登録科目のCE	2025年度後期登録科目のCE
受付場所	文系センター棟1階　共通教育センター （受付時間　月～金曜日のうち授業日の8：50～16：50）	
提出物	・外部試験の成績による単位認定申請書 ・各外部試験の成績認定証の原本等 ※詳細はFUポータルのお知らせ・共通教育センターのホームページに掲載の実施要領を確認してください。	
対象となる成績	申請日から過去2年以内に取得した外部試験の成績 ※入学初年度に申請する場合（編入学、転入学等した者を含む）は、入学日から過去1年以内に取得した外部試験の成績を対象とする。	
対象となる成績	（新入生）2024年4月2日以降に取得した外部試験の成績	

※1　認定上限単位数が申請単位数を超過したときは、当該の外部試験の成績を次学期以後の申請期間に提出することにより、超過分に係る単位認定の申請手続を行うことができます。但し、申請時の「対象となる成績」の条件を満たしたものに限ります。
※2　共通教育外国語科目は、後期開講科目の履修登録を変更することはできませんので、9月に単位認定を申請できる科目は、前期開講前に履修登録された後期登録科目（夏季集中講義科目を除く）に限ります。
※3　商学部第二部の学生に限り、申請期間中の受付時間内に申請ができない場合は、2号館事務室の窓口事務時間内に申請書類を提出してください。後日共通教育センターより申請の可否について連絡します。なお、申請期間以外の申請はできません。

3．外部試験の成績による単位認定を受けた者が、その後更に上位の成績を取得した場合には再度単位認定を申請することができます。ただし、認定上限単位数から既に認定を受けた単位数を差し引いた単位数までしか申請できません。

4．**外部試験の成績による単位認定の詳細および申請用紙は、FU ポータルのお知らせ・共通教育センターのホームページに掲載していますので、申請前に必ず確認してください**。
【共通教育センターのホームページ】http://www.adm.fukuoka-u.ac.jp/fu871/

【2024年度（24台）以前の入学生へ】TOEIC® L&R による単位認定について

TOEIC® L&R による単位認定については、以下の QR コードより確認してください。

3 英語以外の外国語について

●英語以外の外国語には、**1年次開講科目の「ＩA・ＩB」**（医学部看護学科は**「Ｉ」**のみ）と**2年次開講科目の「ⅡA・ⅡB」**があります。p. 64の「2025年度 外国語科目 学部・学科別開講一覧表」および以下の説明を参考に受講科目を決めて、履修申請してください。

●ロシア語科目について、人文学部・理学部・工学部の2025年度（25台）の入学生は、履修登録画面に表示されません。ロシア語の履修を希望する場合は、所属学部の窓口にご相談ください。

※　人文学部・理学部・工学部の2024年度（24台）以前の入学生は、履修登録の画面に表示されます。

●商学部第二部（23台以前）で開講される各外国語の「Ｉ・Ⅱ」と医学部看護学科で開講される各外国語の「Ｉ」は、週１回授業が行われる通年科目です。

●商学部第二部（23台以前）の学生については、昼間部の時間で各外国語の「Ｉ」と「Ⅱ」が開講されます。

●クラス指定がある外国語で、指定のクラスに登録できない等英語以外の外国語の登録について不明な点があれば、当該学生の履修登録期間中の窓口が開いている時間に共通教育センター（文系センター棟１階）で相談してください。

●**制限科目登録日に履修登録が必要な科目はありません。**

所属する学部・学科の履修登録期間中に履修申請してください。なお、定員に達していて履修申請を行うことができない場合は、他の外国語を履修申請してください。

⑴ＩA・ＩBについて

○各外国語のＩA・ＩBは、１年次に履修登録する場合は必ず両科目とも登録してください。片方だけの登録は認められません。また、登録できるクラスは学科基本クラスにより指定されています。p. 99以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。

※1　日本語は開講されているクラスが複数ある場合は、その中から登録するクラスを選択できます。ただし、ＩA･ＩBは同じクラスのＩA・ＩBに登録しなければなりません。

2　FUポータルで履修申請をする際に、ＩA･ＩBのいずれか片方だけ選択して申請ボタンをクリックしても、エラーとなり登録できません。ＩA･ＩBとも選択した状態で申請ボタンをクリックして登録してください。

○英語以外の外国語科目は、同一外国語のＩA（２単位）とＩB（２単位）の計４単位を取得しなければ外国語科目として卒業要件単位に算入されません。なお、学部・学科によっては英語以外の外国語科目で２単位のみ取得した場合に自由履修単位として卒業要件に算入する場合があります。

○英語以外の外国語科目は通年科目です。

※　人文学部ドイツ語学科の「ドイツ語ＩA（前期）」･「ドイツ語ＩB（後期）」、フランス語学科の「フランス語ＩA（前期）」･「フランス語ＩB（後期）」、東アジア地域言語学科の「中国語ＩA（前期）」･「中国語ＩB（後期）」と、「朝鮮語ＩA（前期）」･「朝鮮語ＩB（後期）」はそれぞれ週２回授業が行われ、前期または後期完結になります。

⑵ⅡA・ⅡBについて

○「ⅡA・ⅡB」は、人文学部東アジア地域言語学科の中国語・朝鮮語を除き、それぞれ週１回授業が行われる通年科目で、**登録するクラスが指定されています**。p.99以降の各外国語の「クラス別担当者一覧」を参照してください。

※１　理学部・工学部はⅡAまたはⅡBのいずれか一方しか登録できません。
　２　ⅡA・ⅡBは、ⅠA・ⅠBの内容を修得していることを前提に授業が行われます。

○**東アジア地域言語学科の中国語と朝鮮語**は、ⅡA・ⅡBとも週２回授業が行われる前期または後期完結科目です。

○**人文学部**は、ⅠA・ⅠBを修得した外国語のⅡA・ⅡB両方の単位を修得しなければ第２外国語に関する卒業要件を満たすことができません。所属する学科の指定クラスで登録してください。ただし、時間割の都合上所属するクラスでの履修ができない場合は、他のクラスに登録できます（ただし同じクラスのⅡA・ⅡBに登録しなければなりません）。

※　ドイツ語のＬＧクラス、フランス語のＬＦクラス、中国語のＬＡクラス、朝鮮語のＬＡクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

○**人文学部以外の学部**は、ⅡA・ⅡBのどちらか１つだけ履修することも可能です。時間割の都合で所属する学部のクラスに登録できない、または、所属する学部にクラスが開講されていない場合は、前項の※にあるクラス以外の人文学部のクラスに登録できます。

⑶再履修について

○**再履修者は**、各科目の所属する学部のクラスに登録することを原則としますが、時間割の都合上所属する学部のクラスに登録できない場合は、他の学部のクラスに登録できます（p.99～参照）。ただし、ⅠA・ⅠBまたはⅡA・ⅡBを同時に再履修する場合は、同じクラスのⅠA・ⅠBまたはⅡA・ⅡBに登録してください。

※　ドイツ語のＬＧクラス、フランス語のＬＦクラス、中国語のＬＡクラス、朝鮮語のＬＡクラスへの登録は、指定の学科に限られます。

学部留学生のための授業科目「日本語」について

学部留学生は、外国語科目（「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」、「スペイン語」、「ロシア語」）のうち、自らの母語である言語を外国語科目として履修することができません。母語である言語が必修科目に指定されている場合は下記の「日本語」を履修し、所定の単位を修得することで、８単位を限度として当該外国語科目の単位を修得したものとして取り扱います。

また、上記外国語科目に母語が含まれない学部留学生が「日本語」を履修し単位を修得した場合は、その単位を第２外国語の単位として取り扱います。

１年次　日本語ⅠA（通年２単位）、日本語ⅠB（通年２単位）
２年次　日本語ⅡA（通年２単位）、日本語ⅡB（通年２単位）

5 単位互換科目について

福岡市の西部地区に位置する五大学（九州大学、中村学園大学、西南学院大学、福岡歯科大学および本学）連携事業の一環として、各大学の授業を相互に開放し、単位を認定する「単位互換制度」を実施しています。これは、他大学のキャンパスで、他大学の開講科目を受講できる制度となっています。この制度に則った他大学の受講科目を「単位互換科目」と言います。

出願資格は、２年次生以上となっています。また、学部によって単位の認定についての詳細が異なりますので、履修希望者は、FU ポータルあるいは窓口で配布する履修者募集要項を確認してください。詳しくは、３月中旬に FU ポータルに掲示します。

※学修ガイド「福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程」(p. 226～227)を参照。

6 試験について

定期試験を実施しない授業科目

下記科目については、定期試験期間中に試験は実施しません。

各科目の成績評価方法については、シラバスで必ず確認したうえで履修申請を行ってください。

⑴ 総合教養科目

①「教養ゼミ」の科目（※p. 55～56の表 4 を参照）

②化学実験・物理学実験・生物学実験

③データサイエンス・AI 入門

④下表の科目

No.	科　　目　　名	担当者	開講期別	曜日	時限
1	図形情報	奈尾　信英	後期	木	2
2	哲学Ａ	大西　克智	前期	木	2
3	哲学Ａ	大西　克智	前期	木	3
4	哲学Ａ	大西　克智	前期	木	5
5	哲学Ｂ	大西　克智	後期	木	2
6	哲学Ｂ	大西　克智	後期	木	3
7	哲学Ｂ	大西　克智	後期	木	5
8	論理学Ａ	林　　誓雄	前期	火	2
9	論理学Ａ	林　　誓雄	前期	水	2
10	論理学Ａ	林　　誓雄	前期	水	3
11	論理学Ａ	林　　誓雄	前期	金	2
12	論理学Ｂ	林　　誓雄	後期	火	2
13	論理学Ｂ	林　　誓雄	後期	水	2
14	論理学Ｂ	林　　誓雄	後期	火	1
15	論理学Ｂ	林　　誓雄	後期	金	2
16	倫理学Ａ	中村　未来	前期	月	4
17	倫理学Ａ	中村　未来	前期	火	2
18	倫理学Ａ	中村　未来	前期	水	4
19	倫理学Ｂ	中村　未来	後期	月	2
20	倫理学Ｂ	中村　未来	後期	火	2
21	倫理学Ｂ	中村　未来	後期	水	4
22	日本史通論Ａ	久保　知里	前期	月	3

No.	科　　目　　名	担当者	開講期別	曜日	時限
23	日本史通論Ｂ	久保　知里	後期	月	3
24	外国史通論Ａ	森　　丈夫	前期	水	5
25	外国史通論Ｂ	森　　丈夫	後期	水	5
26	人文地理学	近藤　祐磨	後期	水	2
27	人文地理学　ＢＢ	近藤　祐磨	前期	木	二部２
28	アジアの文学Ａ	間　ふさ子	前期	月	5
29	アジアの文学Ａ	何　　憶鴿	前期	火	5
30	経済学Ａ	楊　　光洙	前期	火	4
31	経済学Ａ	楊　　光洙	前期	火	5
32	経済学Ｂ	楊　　光洙	後期	火	4
33	経済学Ｂ	楊　　光洙	後期	火	5
34	教育論Ａ	中世古貴彦	前期	火	4
35	教育論Ｂ	中世古貴彦	後期	火	4
36	地理学Ａ	近藤　祐磨	前期	金	5
37	地理学Ｂ	近藤　祐磨	後期	金	3
38	地理学Ｂ	近藤　祐磨	後期	金	5
39	心理学Ａ	大上　　涉	前期	火	3
40	心理学Ａ	大上　　涉	前期	火	4
41	心理学Ｂ	大上　　涉	後期	火	3
42	心理学Ｂ	大上　　涉	後期	火	4
43	法律学概論	畑中　久彌	後期	金	5
44	地誌学	近藤　祐磨	後期	木	5
45	国際化と日本	鈴木　孝将	後期	金	3
46	文化と教育	鈴木　美香	前期	水	4
47	文化と教育	鈴木　美香	後期	水	4
48	福岡大学で考える現代社会	安井　英俊	前期	火	3
49	福岡大学で考える現代社会	岩山　隆寛	前期	木	5
50	福岡大学で考える現代社会	鈴木　　学	後期	火	2
51	福岡大学で考える現代社会	鈴木　　学	後期	火	3
52	福岡大学で考える現代社会	須長　一幸	前期	金	2
53	福岡大学で考える現代社会	安元　佐和	前期	木	5
54	福岡大学で考える現代社会	橋場　　論	前期	水	5
55	福岡大学で考える現代社会	須長　一幸	後期	月	5
56	福岡大学で考える現代社会	鈴木　孝将	後期	金	3
57	福岡大学で考える現代社会	熊丸　憲男	後期	火	4
58	福岡大学で考える現代社会	鈴木　美香	前期	水	4
59	福岡大学で考える現代社会	鈴木　美香	後期	水	4
60	福大生のためのキャリアデザイン	植上　一希	前期	月	1
61	福大生のためのキャリアデザイン	植上　一希	前期	月	2
62	アカデミックスキルズゼミⅠ	紺田　広明	前期	火	5
63	アカデミックスキルズゼミⅠ	道山　治延	前期	木	1
64	アカデミックスキルズゼミⅡ	吉田　秀幸	後期	木	1
65	アカデミックスキルズゼミⅡ	鈴木　　学	後期	火	5
66	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田　　暢	前期	火	3
67	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	平田　　暢	前期	火	2

⑵　保健体育科目

生涯スポーツ演習Ⅰ　　生涯スポーツ演習Ⅱ
生涯スポーツ演習Ⅲ　　生涯スポーツ演習Ⅳ　　生涯スポーツ論

⑶　課程科目

課程科目のうち定期試験を実施しない授業科目についての留意事項は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程　履修の手引』を参照してください。

⑷　外国語科目

①英語科目（PE Ⅰ～Ⅲ、CE Ⅰ～Ⅲ、AE Ⅰ・Ⅱ（25台以降）、IE Ⅰ～ⅣのC&Oクラス、左記以外で授業シラバスの試験実施欄に「無し」と記載されているクラス）
②ドイツ語科目（※LGクラスを除く　ドイツ語Ⅰ・Ⅱ、ドイツ語ⅠA・ⅠB、ドイツ語ⅡA・ⅡB）
③フランス語科目（※LFクラスを除く　フランス語Ⅰ・Ⅱ、フランス語ⅠA・ⅠB、フランス語ⅡA・ⅡB）
④スペイン語科目（スペイン語Ⅰ、スペイン語ⅠA・ⅠB、スペイン語ⅡA・ⅡB）

上記の「定期試験を実施しない授業科目」については、追試験・再試験を実施しません。

各学部留意事項

試験や履修登録に関するお知らせなど学修に関する重要な情報を、ガイダンスや掲示板、学生ポータルサイト（FU ポータル）を通して通知していきますので、必ず確認してください。

また、FU ポータルへのアクセスをはじめ、履修登録や修正、証明書の発行や各種申請などの手続きには、情報基盤センター発行の福大 ID が必要です。パスワードの有効期限は変更後 1 年間となっていますので、1 年に 1 回は必ずパスワードの確認と変更を行ってください。

薬　学　部

1 履修登録全般についての注意事項

⑴　2025年度に登録できる単位数は次のとおりです。ただし、関門に該当した場合は、当該在学年次によります。

	登録上限単位数	
	25台・24台	23台～15台
1 年次生	49単位	49単位
2 年次生	49単位	49単位
3 年次生	49単位	40単位
4 年次生	38単位	36単位
5 年次生	37単位	34単位
6 年次生	29単位	37単位

（注）　GPA 導入に伴う撤回および後期の登録修正の際には上限単位数、進級・卒業要件単位数に注意してください。

⑵　全ての必修科目と実験・実習および下記の科目については、登録の撤回ならびに削除はできません。

	科　　目　　名	年次
25～24台	早期臨床体験Ⅰ	1
	早期臨床体験Ⅱ	2
23～15台	早期臨床体験Ⅰ	1

⑶　カリキュラム改正に伴い、入学年台により学則、学科履修規程及び成績考査規程に異なる部分がありますので、「学修ガイド」の関係箇所を熟読して履修登録を行ってください。

⑷ 「学科履修規程第５条の３第１項」に基づいて、関門該当者が教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に上位年次の科目（実習科目・必修科目を除く）を登録する場合、単位数や科目について制限があるので、Web 履修登録を行う前に、必ず教務三課に届出し許可を得てください。

⑸ 原則として下位年次の専門教育科目を登録することはできません。（学科履修規程第５条の３第２項）

⑹ 登録は原則として自分の所属する学部に開講された時間割内で行ってください。学籍番号指定・クラス指定に注意してください。（指定の時限に登録できない場合は、Web 履修登録を行う前に教務三課へ申し出て指示を受けてください。）

⑺ 専門教育科目については、原則として前半クラス（Ｐ－ａ）と後半クラス（Ｐ－ｂ）の２クラスに分割して授業を実施します。（クラス分けの詳細については、別紙「１年次生学科基本クラス分け一覧表」を参照してください。）

⑻ 薬学部の専門教育科目の試験時間割は定期試験前に発表します。ただし、共通教育科目はあらかじめ試験時間割が決まっているので、試験が重複しないように注意して登録してください。（p. 27～30試験時間割参照）

2 進級制限（関門）について

⑴ 薬学部には次のような進級制限が設けられています。修得単位が不足した場合、上位年次へ進級できずに「留年」となります。同一学年に在学できる年数は２年を限度としますので、不断の努力を重ね、修業年限（６年）で卒業できるように心がけてください。（学科履修規程第６条の８）

入学年台	適用される関門（年次）
25台～15台	・２年関門（１→２年次）　・３年関門（２→３年次） ・４年関門（３→４年次）　・５年関門（４→５年次） ・６年関門（５→６年次）

⑵ 進級・卒業要件単位

	学年	共通教育科目				専門教育科目																												合計
						1年				2年						3年						4年					5年	6年							
							選択必修				選択必修						選択必修						選択必修											
		総合教養	第1外国語	保健体育	計	必修	基礎薬学	臨床薬学	計	必修	基礎薬学	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	基礎薬学	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	必修	選択	計				
25台	1年→2年	10	2	2	20	1	9	3	15																					16	36			
	2年→3年	12	6		26	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27															48	74			
	3年→4年	12	6		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25									80	108			
	4年→5年	12	6		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14				107	135			
	5年→6年	12	6		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32			139	167			
	卒業要件	12	6		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32	14	5	158	186			

	学年	共通教育科目				専門教育科目																												合計
						1年				2年						3年						4年					5年	6年							
							選択必修				選択必修						選択必修						選択必修												
		総合教養	第1外国語	保健体育	計	必修	基礎薬学	臨床薬学	計	必修	基礎薬学	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	基礎薬学	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	衛生薬学	医療薬学	臨床薬学	計	必修	必修	選択	計					
24台	1年→2年	10	2	2	20	1	9	3	15																					16	36			
	2年→3年	12	6		26	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27															48	74			
	3年→4年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25									80	108			
	4年→5年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14				107	135			
	5年→6年	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32			139	167			
	卒業要件	12	8		28	1	9	3	15	5	16	2	4	1	27	7	4	4	10	3	25	13	2	8	2	14	32	14	5	158	186			

| | 学年 | 共通教育科目 | | | | 専門教育科目 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

3 共通教育科目について

⑴　第１外国語は必修ですが、第２外国語は必修ではありません。
⑵　第１外国語、第２外国語の履修については、p. 64～73を参照してください。**再履修する場合は、p. 67～69、73を参照してください。**
⑶　保健体育科目の履修については、p. 61～63を参照してください。（科目によっては、別途手続きが必要な場合があるので注意してください。）
⑷　保健体育科目の保健コースを希望する場合は、p. 62および授業時間割の下部欄外「履修登録上の注意」を参照してください。

4 専門教育科目について

⑴　２～３年次の実習科目については、「2025年度薬学部実習時間割」（p. 92）を参照してください。
　また、実習が行われる時限に他の科目を登録することはできません。外国語等の再履修のために実習時間と重複する場合は、Web 履修登録を行う前までに教務三課へ申し出て指示を受けてください。
⑵　演習及び実習科目は、成績考査規程第２条の２第２項の規程により、定期試験を実施せず、ルーブリック評価等により成績を評価します。また、再試験（再評価）も実施しません。

5 登録制限科目等について（専門教育科目）

次の「登録制限科目」等については、講義の教育効果を高めるために登録者数を制限します。希望者は、科目ごとの注意事項および要領等に従い申請してください。

●6年生の制限科目について

・講義科目

曜日	時限	期別	科目名	担当教員	登録定員	選考方法	申込期間・発表期間	備　考
水	2	前期	薬剤師職能論	山内　淳史	100	抽選	●申込期間 3月22日（土） 9：00～ 3月23日（日） 13：00 ●選考結果発表 3月24日（月） 13：00までに発表 （Web履修登録画面上）	登録の撤回および削除はできません
水	3	前期	医薬品開発論	今給黎　修	100			
水	4	前期	薬事行政論	林　　稔展	100			

・演習・実習科目

曜日	時限	期別	科 目 名	担当教員	登録定員	選考方法	申込期間・発表期間	備　考
金	1～3	前期	実務実習事後学習	江川　孝	24	GPAによる選考	●申込期間 3月22日（土） 9：00～ 3月23日（日） 13：00 ●選考結果発表 3月25日（火） 13：00 （FUポータルお知らせ）	登録の撤回および削除はできません
金	1～3	前期	薬学特別研究	右田　啓介	24			

6 試験について

成績考査規程を参照してください。

⑴ 定期試験について

試験を受けなかった授業科目は無効とします。（試験放棄科目）

（注） 試験放棄者は次年度の特待生の選考から除外されます。

⑵ 追試験について

追試験とは、病気その他やむを得ない事情で定期試験を受験できなかった学生が所定の手続きを取り審議を経て許可される試験です。場合によっては、受験料の納入や、試験を欠席した理由によって評点の点数が制限されることがありますので、注意してください。

⑶ 再試験について

再試験とは、定期試験で不合格点を得た者に対して実施される試験です。本人が願い出てあらかじめ所定の手続きを行い、受験料を納入する必要があります。定期試験を放棄した場合、受験資格はありません。なお、定期試験を実施しない授業科目については再試験を実施しません。

また、再試験は、年次・科目・不足単位数などによって受験資格が制限され、誰でも受験できるわけではありませんので注意してください。

なお、関門該当者で上位年次科目の特例登録をしている場合は、その上位年次科目は再試験を受験できません。この他にも、再試験を受験するには受験料が必要となったり、合格した場合の評点が60点となるなど不利なことが多いので、定期試験で合格するよう努力してください。

《2025年度の薬学部再試験の取扱い》

	年次	受　験　資　格	受　験　条　件
25〜15台	1年次 2年次	試験の結果不合格点を得た者で、再試験の結果、進級の見込のある者。（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く）	進級に必要な最小限度の単位数 （8単位以内かつ4科目以内）
	3年次 4年次		専門教育科目についてのみ進級に必要な最小限度の単位数 （8単位以内かつ4科目以内）
	6年次 （卒見）	・卒業見込みの者 ・試験の結果不合格点を得た者 ・再試験の結果次第で卒業の見込がある者	卒業に必要な最小限度の単位数 （8単位以内）

専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とします。

なお、5年次では履修科目が「実務実習」および「薬学研究Ⅰ」のみのため定期試験（含再試験）は行いません。

⑷ 卒業試験について

卒業試験の実施時期・形式・合否判定基準等についてはFUポータルに掲載します。

7 薬学研究Ⅰ・薬学研究Ⅱについて

学生の希望を考慮し、教授会で認めた指導教員のもとで履修するものとし、研究室での実習に取り組む姿勢および研究室単位で行われる英語論文の抄読会や Power Point での発表会での態度と２月下旬～３月上旬に行う公開形式でのポスター発表で、評価をします。各学生はポスターによる発表会（公開形式）とは別に卒業論文を提出しなければいけません。

⑴ 卒業研究および卒業論文の作成について

⑷ 論文は担当教員を通じて、指定された期日までに研究室ごとに PDF ファイルで FUBOX に提出してください。論文記載の用紙はＡ４サイズを使用します。

⑹ 論文の作成にあたっては次の点に留意してください。

① 表紙：論文作成年度、論文題名、分野名、指導教員名、学籍番号、氏名を下記の「記載例」のとおりに書くこと。

② 目次：目次は用紙を改める。

③ 記載：四周に２～３センチメートルの余白を作り、横書きとする。

④ 図表：図表の向きは随意でよい。

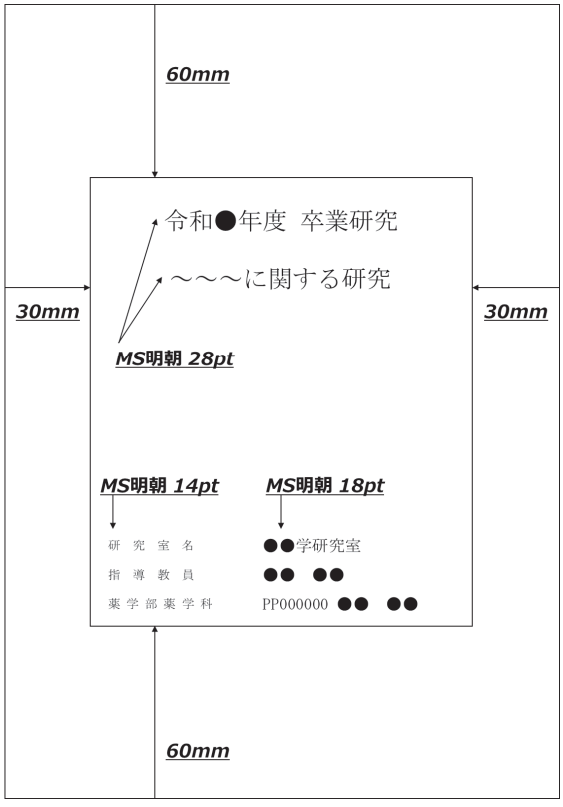
⑤ 頁づけ：目次から始め、図表も通しの頁をつけること。図表が原稿用紙２頁にわたるときは２頁分の頁づけとする。

⑥ 製本：完成した論文はＡ４版とする。

⑦ 字色：文字は原則として黒色とすること。

⑧ ポスター発表会において、副査の先生から受けた質問内容とその質問に対するレスポンスの項を付けること。

卒業論文表紙記載例



⑵ 薬学研究Ⅰにおける卒業研究のポスター・発表要旨の作成について

(a) ポスター発表は２月下旬の２日間で行います。後日発表の日時を必ず確認してください。

(b) ポスターボードの大きさは図①に示すとおりです。演題番号、実験 or 非実験系、A欄（発表題目、学籍番号、氏名、所属研究室）、B欄（発表内容）を掲示してください。

(c) 発表者は、押しピンを用いてポスターを掲示してください。押しピンは各自持参してください。

(d) ポスターは掲示時間が終了後、速やかに撤去してください。撤去時間が過ぎて取り外されていないポスターは処分します。

(e) 発表要旨の作成

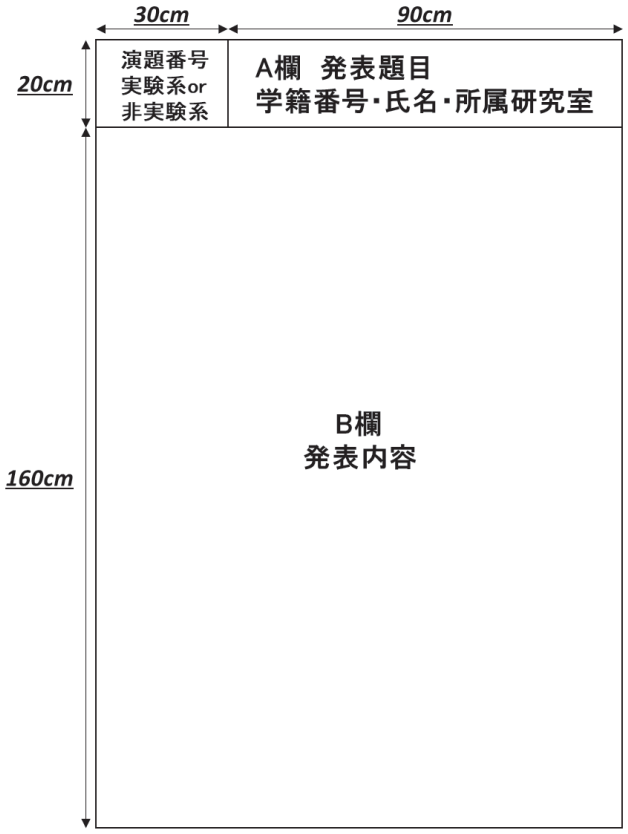
① サイズ等：Ａ４判、１ページ以内。文字のフォント・サイズは図②見本に準じること。

② 内容：目的、実験方法、結果、考察、引用文献の順で簡潔に記載すること。

③ 図表：Table や Figure 等の題は、英文表記とすること。また、原則として、図の題は図の下に、表の題は表の上に置くこと。

④ 提出物：要旨を指定された期日までに所属研究室を通じて教務三課に提出すること。

【図①：ポスターボード】



【図②：発表要旨】

8 抗体検査の実施について【1年生（25台）】

薬学部では1年次生全員に次の要領で抗体検査を実施します。

⑴ 実施日時と対象者

	時　間	場　所	対　象　者
4月2日（水）	13時～16時 （時間厳守）	A棟地下1階 試験事務室	〔学科基本クラス〕 ＰＰ1クラス～ＰＰ2クラス
4月3日（木）	14時～16時 （時間厳守）		〔学科基本クラス〕 ＰＰ3クラス～ＰＰ4クラス
4月4日（金）	10時～13時 （時間厳守）		〔学科基本クラス〕 ＰＰ5クラス～ＰＰ6クラス

注意事項

① 過去にこれらの感染症にかかったことがある、あるいは予防接種を受けたことがある学生も、必ず検査を受けるようにしてください。

② 指定の期日に検査を受けられない場合は、事前に教務三課へ申し出てください。

③ 検査を受けなかった場合は、各自で医療機関に行き、費用自己負担で検査を受けることになります。

⑵ 検査の際に必要なもの

学生証

⑶ 検査項目

「麻疹（はしか）」「風疹」「ムンプス（おたふくかぜ）」「水痘（みずぼうそう）」の4種類

⑷ 結果の通知について

各自に抗体検査結果の「報告書」を配付します。この「報告書」は再発行できませんので、各自卒業時まで大切に保存してください。**5年次の実務実習の際には提出が必要となります。**

⑸ 予防接種について

検査の結果、予防接種が必要となった場合は7月末までに各自で予防接種を受けてください。なお、費用は自己負担とします。

予防接種を受けた際には、必ず医療機関から予防接種を受けたことを証明する書類（「予防接種証明書」あるいは「領収書」等でも可。ただし、「麻疹」「風疹」「ムンプス」「水痘」のうちどの項目の接種を受けたのか記載されたもの）を入手してください。

入手した書類のコピー（A4判）に学籍番号と氏名を記入して、後期開講日までに教務三課（薬学部事務室）に提出してください。

⑹ 書類の保存について【重要】

「抗体検査結果の報告書」ならびに「予防接種を受けたことを証明する書類」は、5年次の実務実習の際に提出が必要となりますので、紛失・破損等しないように**各自卒業するまで大切に保存してください。**

9 合併講義について

留年や休学により2025年度に２年生となる23台以前の学生カリキュラムについては、以下のように合併講義で対応します。

旧カリキュラム（PP23台以前）		新カリキュラム（PP24台以降）	
科目名	単位	科目名	単位
生物系実習Ⅰ	1	微生物学実習	1
生物系実習Ⅱ	1	生化学実習	1
物理系実習Ⅰ	1	薬品分析学実習	1
早期臨床体験Ⅱ	1	医療体験実習	1
薬学物理化学Ⅰ	2	薬学物理化学基礎	2
薬学物理化学Ⅱ	2	薬学物理化学応用	2
分析化学Ⅱ	2	日本薬局方	2
分析化学Ⅰ	2	分析化学Ⅰ	2
生薬学Ⅰ	2	生薬・漢方薬学Ⅰ	2
生薬学Ⅱ	2	生薬・漢方薬学Ⅱ	2
有機薬化学Ⅲ	2	有機薬化学Ⅱ	2
有機薬化学Ⅳ	2	有機薬化学Ⅲ	2
人体生化学Ⅰ	2	生化学	2
免疫学	2	免疫学	2
微生物学	2	微生物学	2
食品衛生学	2	疾患食品衛生学	2
疾患薬理学Ⅰ	2	薬理・薬物治療学Ⅰ	2
同位体医療薬学	2	放射性医薬品学	2

10 その他

⑴ 教科書の購入は、FU ポータルの Web シラバスを参照してください。

⑵ Web 履修登録をする前に、授業科目履修表（履修登録用紙（下書き用）「履修登録の手引」p. 3 参照）にあらかじめ記入しておいてください。履修登録の際に参照しながら入力してください。

クリニカルファーマシスト養成プログラム

クリニカルファーマシスト養成プログラムは、薬学部薬学科の教育研究の理念に基づき、医療に関わる特定の専門領域において、高度な専門知識と臨床応用能力を有する人材を養成することを目的とする。

1 クリニカルファーマシスト養成プログラムについて

・クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生（以下、「プログラム学生」という。）となれる者は、薬学部の学生に限ります。
・プログラム学生となるためには、１年次の後期試験終了後の所定の期間内にプログラム履修願を提出する必要があります。プログラム履修願の提出期間等の詳細については FU ポータルにて別途お知らせします。提出期間終了後、１年次の成績に基づき、コース別の選抜が行われ、プログラム学生が決定します。
・プログラムには「がん薬物治療学コース」（25・24台）および「感染症薬物治療学コース」（25台）が設置され、原則として各コースの定員は、各学年30人を上限とします。
・プログラム学生は、クリニカルファーマシスト養成プログラム独自の科目を履修することができます。
・いったんプログラム学生となっても、資格審査によりその資格を喪失することがあります。
・プログラム学生となるにあたり、特別な受講料を納入する必要はありません。

2 薬学部薬学科のクリニカルファーマシスト養成プログラムに関する内規と履修科目について

プログラム学生は､以下の内規および別表に則って科目を履修しなければなりません｡プログラム学生・履修希望者は十分に注意し、学科履修規程及び年次別授業科目表を参照のうえ履修登録を行ってください。

【留意事項】
・６年次までストレートで進級する必要があります。進級制限（関門）に該当した場合、プログラム学生の資格を喪失します。（休学による留年は除く）
・別表に定める全ての科目の単位を修得する必要があります。１年次科目についてはプログラム学生選抜前の履修科目なので注意してください。
・当該科目の単位は通常の成績評価（定期試験、追試験、開講期間内評価）で修得する必要があります。再試験での単位修得分は認められません。
・複数のコースを同時に選択することはできません。また、途中でコースを変更することはできませんので注意してください。

（趣旨）
第１条　福岡大学学科履修規程第６条の８第２項に規定する薬学部薬学科のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下「プログラム」という。）については、この内規の定めるところによる。
（目的）
第２条　プログラムは、薬学部薬学科の教育研究の理念に基づき、医療に関わる特定の専門領域において、高度な専門知識と臨床応用能力を有する人材を養成することを目的とする。
（コース）
第３条　前条の目的を達成するため、プログラムにコースを置くことができる。
２　各コースの定員は、原則として各学年につき30人を上限とする。
３　学生は、複数のコースを選択することはできない。
４　学生は、決定したコースを変更することはできない。第６条の規定によりプログラムの履修を撤回し

た場合も同様とする。

（願出）

第４条　プログラムの履修を希望する学生は、１年次の後期試験終了後の所定の期間内にプログラム履修願を薬学部長に提出しなければならない。

（選抜）

第５条　プログラムの履修を希望する学生は、１年次の成績に基づき、コース別の選抜を経て、プログラム学生となる。

２　前項の選抜は、薬学部教授会がこれを行う。

（履修の撤回）

第６条　プログラム学生（１年次生を除く。）は、後期試験終了後の所定の期間内に届け出ることにより、プログラムの履修を撤回することができる。

（授業科目、単位等）

第７条　プログラムにおける各コースの授業科目、単位等については、別表に定める。

（資格審査）

第８条　プログラム学生の質を保ち、勉学意欲を維持するため、当該学生の資格審査を実施する。

２　資格審査は、学年末に薬学部教授会がこれを行う。

３　資格審査において、次の各号のいずれかに該当する者は、プログラム学生の資格を喪失する。

⑴　福岡大学学科履修規程第６条の８に規定する進級要件を満たさないことが確定した者

⑵　別表に定める各年次の所定の単位を修得できなかった者

⑶　その他プログラム学生としてふさわしくないと認められる者

４　プログラム学生として修得した全ての単位は、その資格を喪失した後も卒業要件単位として認める。

（修了）

第９条　薬学部長は、福岡大学学則第34条第10項に定める必要な単位を修得し、かつ、卒業要件を満たすとともに、別表に定めるコースの修了要件を満たしたプログラム学生に対し、薬学部教授会の議を経て、当該コースのプログラムの修了証を授与する。

附　則

この内規は、令和７年４月１日から施行する。

【令和７年度入学生（25台）】

別表　クリニカルファーマシスト養成プログラムの授業科目、単位等

■がん薬物治療学コース

配当年次	授業科目	単位	備考
1	腫瘍感染症薬学入門	2	
	解剖学演習	1	
2	生化学	2	
	免疫学	2	
	患者アセスメント薬学演習	1	
3	感染症薬学	2	
	公衆衛生学	2	
	薬毒物代謝学	2	
	薬理・薬物治療学Ⅲ	2	
	薬理・薬物治療学Ⅳ	2	
	臨床検査学	2	
	ファーマシスト実践演習Ⅰ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
4	薬学臨床推論基礎	2	
	薬理・薬物治療学Ⅴ	2	
	腫瘍薬学	2	
	薬理・薬物治療学Ⅵ	2	
	感染制御学演習	1	
	疫学研究演習	1	
	個別化医療薬学演習	1	
5	ファーマシスト実践演習Ⅱ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
	ファーマシスト実践演習Ⅲ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
	ファーマシスト実践演習Ⅳ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
6	先端治療学	2	
	薬物療法評価学	2	

1　プログラム学生は、学則第34条第10項に定める必要な単位を修得するとともに、別表に定めるこのコースの全ての科目の単位を修得しなければならない。

2　プログラム学生は、配当年次に当該科目の単位を修得しなければならない。

3　再試験により修得した別表の授業科目の単位は、プログラム学生としての資格審査を行う場合は、審査の対象外とする。

■感染症薬物治療学コース

配当年次	授業科目	単位	備考
1	腫瘍感染症薬学入門	2	
	解剖学演習	1	
2	免疫学	2	
	微生物学	2	
	患者アセスメント薬学演習	1	
3	感染症薬学	2	
	公衆衛生学	2	
	薬物動態解析学	2	
	臨床検査学	2	
	ファーマシスト実践演習Ⅰ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
4	感染制御学演習	1	
	疫学研究演習	1	
	バイオ医薬品学	2	
	薬理・薬物治療学Ⅴ	2	
	薬学臨床推論基礎	2	
	個別化医療薬学演習	1	
5	ファーマシスト実践演習Ⅱ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
	ファーマシスト実践演習Ⅲ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
	ファーマシスト実践演習Ⅳ	1	このコース専用クラスの授業を履修すること
6	先端治療学	2	
	薬物療法評価学	2	

1　プログラム学生は、学則第34条第10項に定める必要な単位を修得するとともに、別表に定めるこのコースの全ての科目の単位を修得しなければならない。

2　プログラム学生は、配当年次に当該科目の単位を修得しなければならない。

3　再試験により修得した別表の授業科目の単位は、プログラム学生としての資格審査を行う場合は、審査の対象外とする。

【令和６年度入学生（24台）】

別表　クリニカルファーマシスト養成プログラムの授業科目、単位等

■がん薬物治療学コース

配当年次	授業科目	単位	備考
1	腫瘍感染症薬学入門	2	
	解剖学演習	1	
2	生化学	2	
	免疫学	2	
	患者アセスメント薬学演習	1	
3	感染症薬学	2	
	公衆衛生学	2	
	薬毒物代謝学	2	
	薬理・薬物治療学Ⅲ	2	
	薬理・薬物治療学Ⅳ	2	
	臨床検査学	2	
	がん疫学演習	1	コース学生のみ履修可能
4	薬学臨床推論基礎	2	
	薬理・薬物治療学Ⅴ	2	
	腫瘍薬学	2	
	薬理・薬物治療学Ⅵ	2	
	感染制御学演習	1	
	疫学研究演習	1	
	個別化医療薬学演習	1	
5	がん緩和ケア演習	1	コース学生のみ履修可能
	がん治療管理学演習	1	コース学生のみ履修可能
	がん患者アセスメント演習	1	コース学生のみ履修可能
6	先端治療学	2	
	薬物療法評価学	2	

1　プログラム学生は、学則第34条第10項に定める必要な単位を修得するとともに、別表に定める全ての科目の単位を修得しなければならない。

2　プログラム学生は、配当年次に当該科目の単位を修得しなければならない。

3　再試験により修得した別表の授業科目の単位は、プログラム学生としての資格審査を行う場合は、審査の対象外とする。

2025年度 薬学部実習時間割

・A～Hのグループ分けについては、FU ポータルに掲載します。
　また、実習場所やその他の注意事項についてを注意して確認するようにしてください。

■前期

火・水・木		4/15－4/17	4/22－4/24	5/13－5/15	5/20－5/22	5/27－5/29	6/3－6/5	6/10－6/12	6/17－6/19
2年次	A	**医療体験実習** （早期臨床体験Ⅱ） 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学		**衛生化学実習** 衛生化学 実習室5		**微生物学実習** （生物系実習Ⅰ） 微生物薬品化学 実習室3			
	B			**医療体験実習** （早期臨床体験Ⅱ） 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学		**衛生化学実習** 衛生化学 実習室5		**微生物学実習** （生物系実習Ⅰ） 微生物薬品化学 実習室3	
	C	**微生物学実習** （生物系実習Ⅰ） 微生物薬品化学 実習室3				**医療体験実習** （早期臨床体験Ⅱ） 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学		**衛生化学実習** 衛生化学 実習室5	
	D	**衛生化学実習** 衛生化学 実習室5		**微生物学実習** （生物系実習Ⅰ） 微生物薬品化学 実習室3				**医療体験実習** （早期臨床体験Ⅱ） 免疫・分子治療学 臨床薬物治療学	
火・水・木		4/15－4/17	4/22－4/24	5/13－5/15	5/20－5/22	5/27－5/29	6/3－6/5	6/10－6/12	6/17－6/19
3年次	E	**化学系実習Ⅰ** 薬化学 実習室1			**生物系実習Ⅲ** 衛生化学 実習室5	**物理系実習Ⅱ** 薬品物理化学 実習室4		**化学系実習Ⅱ** 生薬学 実習室2	
	F	**化学系実習Ⅱ** 生薬学 実習室2		**化学系実習Ⅰ** 薬化学 実習室1			**生物系実習Ⅲ** 衛生化学 実習室5	**物理系実習Ⅱ** 薬品物理化学 実習室4	
	G	**物理系実習Ⅱ** 薬品物理化学 実習室4		**化学系実習Ⅱ** 生薬学 実習室2		**化学系実習Ⅰ** 薬化学 実習室1			**生物系実習Ⅲ** 衛生化学 実習室5
	H		**生物系実習Ⅲ** 衛生化学 実習室5	**物理系実習Ⅱ** 薬品物理化学 実習室4		**化学系実習Ⅱ** 生薬学 実習室2		**化学系実習Ⅰ** 薬化学 実習室1	

■後期

火・水・木		9/30－10/9	10/14－10/23	11/11－11/20	11/25－12/4
2年次	A		**薬品分析学実習** （物理系実習Ⅰ） 薬品分析学 実習室2		**生化学実習** （生物系実習Ⅱ） 生化学 実習室5
	B	**薬品分析学実習** （物理系実習Ⅰ） 薬品分析学 実習室2		**生化学実習** （生物系実習Ⅱ） 生化学 実習室5	
	C		**生化学実習** （生物系実習Ⅱ） 生化学 実習室5		**薬品分析学実習** （物理系実習Ⅰ） 薬品分析学 実習室2
	D	**生化学実習** （生物系実習Ⅱ） 生化学 実習室5		**薬品分析学実習** （物理系実習Ⅰ） 薬品分析学 実習室2	
火・水・木		9/30－10/9	10/14－10/23	11/11－11/20	11/25－12/4
3年次	E		**生物系実習Ⅳ** 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	**物理系実習Ⅲ** 臨床分析科学 機器分析学演習室2	**化学系実習Ⅲ** 医薬品化学 実習室1
	F	**化学系実習Ⅲ** 医薬品化学 実習室1		**生物系実習Ⅳ** 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	**物理系実習Ⅲ** 臨床分析科学 機器分析学演習室2
	G	**物理系実習Ⅲ** 臨床分析科学 機器分析学演習室2	**化学系実習Ⅲ** 医薬品化学 実習室1		**生物系実習Ⅳ** 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3
	H	**生物系実習Ⅳ** 臨床疾患薬理学 生体機能制御学 実習室3	**物理系実習Ⅲ** 臨床分析科学 機器分析学演習室2	**化学系実習Ⅲ** 医薬品化学 実習室1	

薬学部教員研究室一覧

学系	研究室名	教授	准教授	講師	助教、教育技術職員
化学系	薬化学	丸岡 16号館 4階 404	益本 16号館 4階 429	中原 16号館 4階 402	藤田 16号館 4階 402
	医薬品化学		古舘 16号館 4階 405		大田 田中(俊) 16号館 4階 406
	生薬学	大川 16号館 4階 415		土橋 16号館 4階 409	中野(大) 16号館 4階 433
物理学系	薬品分析学	能田 16号館 5階 525 吉田 16号館 5階 522			古賀(鈴) 加藤 16号館 5階 521
	薬品物理化学	池田 16号館 6階 631	堤 16号館 6階 607		大波多 16号館 6階 618 中島(梨) 16号館 6階 630
	臨床分析科学	巴山 16号館 1階 105	高田 16号館 1階 104		西條 横谷 16号館 1階 103
生物学・衛生学系	生化学	本田(伸) 16号館 5階 531	小迫 16号館 5階 501		佐藤(陽) 16号館 5階 503 谷口 16号館 5階 532
	衛生化学	松末 16号館 5階 528	藍原 16号館 5階 527		松尾(康) 坂口 16号館 5階 516
	微生物薬品化学	鹿志毛 16号館 4階 439 佐藤(朝) 16号館 4階 438			坂本 パリンヤ・ウィライ 16号館 4階 440
薬理学系	臨床疾患薬理学	岩崎 16号館 6階 636 桂林 16号館 6階 634		藤川 16号館 6階 637	渡辺 16号館 6階 611
	生体機能制御学		佐野 16号館 7階 736		入江 16号館 7階 735
	免疫・分子治療学	石橋 16号館 6階 632	細川 16号館 6階 633		西中川 16号館 6階 623 盛田 16号館 6階 606
	臨床薬物治療学	大江 17号館 7階 717	村田 17号館 7階 716		森 原田(洸) 17号館 7階 716
薬剤学系	応用薬剤学	道具 17号館 6階 614	髙田(芙) 17号館 6階 615		岩尾 田中(泰) 17号館 6階 616
	薬学疾患管理学	山内 17号館 6階 618	中川 17号館 6階 619		松本(純) 稲田 17号館 6階 617
	創剤学	松永 17号館 5階 518		瀬戸口 17号館 5階 519	後藤 17号館 5階 505 原田(誠) 17号館 5階 505
	薬物送達学		古賀(允) 17号館 5階 516 櫨川 17号館 5階 517		渡瀬 山田 17号館 5階 507
	医薬品情報学	右田 17号館 5階 514		今任 17号館 5階 509	大藪 17号館 5階 509
医療・教育学系	救急･災害医療薬学	江川 17号館 7階 714	林 17号館 7階 715		牛尾 17号館 7階 708 白石 17号館 7階 713
	腫瘍・感染症薬学	松尾(宏) 17号館 3階 312	内山 17号館 3階 309 中野 17号館 3階 310		山科 17号館 7階 711
	地域医療薬学		冨永 17号館 3階 308	小野 17号館 3階 307	
	病院薬学・福岡大学病院薬剤部	神村 17号館 4階 415 緒方 17号館 4階 416 兼重 福岡大学病院薬剤部		安髙 福岡大学病院薬剤部	大津 長郷 福岡大学病院薬剤部
	病院薬学・福岡大学筑紫病院薬剤部	今給黎 17号館 4階 417			中島(章) 宮﨑 福岡大学筑紫病院薬剤部
	薬学教育学	三島 16号館 6階 638			刀根 鮎川 16号館 3階 301
実務実習支援室		江川 17号館 7階 714		小野 17号館 3階 307	
薬学教育センター		三島 16号館 6階 638			刀根 鮎川 16号館 3階 301
中央機器室		巴山 16号館 1階 105			花園 16号館 1階 111 堤(え) 16号館 1階 108

履修登録ガイダンス

薬学部では毎年、在学生は12月および３月中旬頃、新入生は４月に履修登録に関するガイダンスを行っています。今年度のガイダンスの日程は以下のとおりです。

ガイダンスでは出席の確認を行いますので、学生証を忘れず持参してください。

なお、４年次のガイダンスではCBTやOSCE等の共用試験や、後期の定期試験について、また、５年次のガイダンスでは実務実習、薬学研究Ⅰについて、６年次のガイダンスでは、国家試験対策、後期の定期試験についての詳しい説明がありますので必ず出席してください。

ガイダンス実施日程

在学年次	実施日	開始時間	場　　所
新入生	４月２日（水）	10：00	1711教室
2025年度に２年次に在籍する学生	３月17日（月）	9 ：00	1711教室
2025年度に３年次に在籍する学生	３月17日（月）	11：00	1711教室
2025年度に４年次に在籍する学生	３月17日（月）	13：00	1711教室
2025年度に５年次に在籍する学生	2024年12月17日（火）	13：00	1711教室 ※済
2025年度に６年次に在籍する学生	３月14日（金）	13：00	1711教室

2025年度 Web 履修登録スケジュール【新入生】

薬学部新入生の Web 履修登録は学内または学外で登録することができますので、次のスケジュールで行ってください。

1 制限科目の登録受付

期　日	備　考
4 月 3 日(木)・4 月 4 日(金)	対象となる科目・受付日時・方法等は、「履修の手引」(p. 46〜60) あるいは各学部からの配付物等で確認してください。

学内の PC 教室の利用については、情報基盤センターウェブサイトの PC 教室空席状況等を確認してください。学外からは25：00までアクセス可能です。

2 2025年度 Web 履修登録

薬学部登録指定日と登録方法等

期　日	時　間
4 月 5 日（土）	9 ：00〜10：30

●Web 履修登録には、4 月 2 日（水）のガイダンスで配付された**福大 ID** と**学生証**が必要です。
●上記で指定された期日・時間で Web 履修登録を行ってください。
※「全学部利用可能」な時間帯（学修ガイド巻末「履修登録の手引」履修登録スケジュール表を参照）については、学部・学科に関係なく、学内・学外いずれからも入力することが可能ですが、ログインできるアカウント数に制限があり、スムーズに履修登録できない場合もありますので、できるだけ指定された期日・時間帯で入力してください。
●登録作業時間は30分〜60分程度が見込まれます。
●履修登録方法やカリキュラム等に関する質問や相談は、教務三課にてお尋ねください。
●Web 履修登録の操作方法等は、「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。
●「履修登録の手引」の中にある「履修登録用紙（下書き用)」にあらかじめ登録しようとする授業科目を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。
●Web 履修登録の際に、学生プロフィールの入力も行います。「履修登録の手引」の中にある「Web プロフィール（下書き用)」にあらかじめ必要事項を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。

2025年度 薬学部履修登録流れ図【新入生】

履修登録ガイダンス
４月２日（水）10：00～　1711教室

※４月１日(火)に履修登録書類を配布しますので、持参の上必ず出席すること(時間厳守)

教養ゼミ・
総合系列科目・学修基盤科目を
登録しますか？

Yes → 学修ガイド
p. 46～60参照

No

下書き用紙への記入
学修ガイド巻末「履修登録の手引」中の
「履修登録用紙」及び「Web プロフィール」
を事前に記入しておく

※下書きした用紙を履修登録の際に参照し入力すること（「履修登録の手引」p. ３参照）

Web 履修登録・アンケート回答
４月５日（土）９：00～10：30　PP25台全員

※学部・学科によりスケジュールが決まっているので確認のうえ登録すること（p. 44～45参照）
※「授業科目確認表」を出力して登録内容を確認すること（「履修登録の手引」p. 23参照）

学部指導懇談会
４月９日（水）９：00～　1711教室

時間割表（教室割）出力
４月10日（木）
（「履修登録の手引」p. 26参照）

抗体検査
４月２日（水）13：00～16：00
４月３日（木）14：00～16：00
４月４日（金）10：00～13：00
Ａ棟地下１階　試験事務室
※学科基本クラスで日程・時間帯が異なる（p. 85参照）

前期授業開講　４月11日（金）

履修登録の撤回受付
前期登録科目受付期間：４月11日(金)～５月１日(木)
受付場所：教務三課
(後期は９月15日（月）～10月７日（火))

※開講から３週間以内に申し出れば、２科目以内かつ８単位以内で登録科目の撤回が可能
その際、進級要件を満たすように注意すること

前期成績発表
発表期間：９月１日（月）～
発表方法：FU ポータルにて各自参照

後期開講科目の登録変更
受付期間：９月３日(水)12時～９月５日(金)16時まで
申請方法：FU ポータル「Web 履修登録」にて申請

※前期の成績結果を見て登録上限単位内で登録変更が可能

2025年度 Web 履修登録スケジュール【在学生】

薬学部在学生の Web 履修登録は学内または学外で登録することができますので、次のスケジュールで行ってください。

1 制限科目の登録受付

期　間	備　考
3 月21日（金）～ 3 月23日（日）	対象となる科目・受付日時・方法等は、「履修の手引」（p. 46～60）あるいは各学部からの配付物等で確認してください。

※学内の PC 教室の利用については、情報基盤センターウェブサイトの PC 教室空席状況等を確認してください。学外からは25：00までアクセス可能です。

2 2025年度 Web 履修登録

⑴ 薬学部登録指定日と登録方法等

●学修ガイド巻末「履修登録の手引」の履修登録スケジュール表で指定された期日・時間でWeb履修登録を行ってください。学内・学外いずれからも入力することが可能です。（登録作業時間は30分～60分程度が見込まれます）。

●福大 ID が認証できない場合は、ただちに情報基盤センターまたは教務三課まで来てください。

●履修登録方法やカリキュラム等に関する質問や相談は、教務三課にてお尋ねください。

●Web 履修登録の操作方法等は、「履修登録の手引」に詳しく記載されていますので、あらかじめよく読んで操作方法を理解しておいてください。

●「履修登録の手引」の中にある「履修登録用紙（下書き用）」にあらかじめ登録しようとする授業科目を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。

●Web 履修登録の際に、学生プロフィールの更新（入力）も行います。「履修登録の手引」の中にある「Web プロフィール（下書き用）」にあらかじめ必要事項を記入のうえ、履修登録の際にそれを参照しながら入力を行ってください。
住所や電話番号等に変更がある人は必ず修正しておいてください。

●５年次生は事前登録をしますので、各自必ず「授業科目確認表」を出力して登録内容を確認してください。

⑵ 全学部利用可能な期日・時間

●学修ガイド巻末「履修登録の手引」の履修登録スケジュール表を確認してください。

※学部・学科に関係なく、学内・学外いずれからも入力することが可能ですが、ログインできるアカウント数に制限があり、スムーズに履修登録できない場合もありますので、できるだけ指定された期日・時間帯で入力してください。

2025年度 薬学部履修登録流れ図【在学生】

成績発表・履修登録書類配布

↓

履修登録ガイダンス

2025年度に
- 2年次に在籍する学生　3月17日（月）　9：00～　1711教室
- 3年次に在籍する学生　3月17日（月）　11：00～　1711教室
- 4年次に在籍する学生　3月17日（月）　13：00～　1711教室
- 6年次に在籍する学生　3月14日（金）　13：00～　1711教室

↓

英語の再履修がありますか？ → Yes → FUポータルにログインし、Web履修登録システム上で履修可能な英語再履修クラスを確認する

No

↓

教養ゼミ・総合系列科目を登録しますか？ → Yes → 学修ガイド p. 46～60参照

No

↓

下書き用紙への記入

学修ガイド巻末「履修登録の手引」中の「履修登録用紙」及び「Webプロフィール」を事前に記入しておく

※下書きした用紙を履修登録の際に参照し入力する

↓

Web履修登録

3月24日（月）～28日（金）　薬学部全員
（制限科目については p. 46～60参照）

※学部・学科によりスケジュールが決まっているので確認のうえ登録すること（p. 44～45参照）
※「授業科目確認表」を出力して登録内容を確認すること **【5年次生は必ず「授業科目確認表」を出力すること】**（「履修登録の手引」p. 23参照）

時間割表（教室割）出力

4月10日（木）（「履修登録の手引」p. 26参照）

↓

前期授業開講　4月11日（金）

↓

履修登録の撤回受付

前期登録科目受付期間：4月11日(金)～5月1日(木)
受付場所：教務三課
（後期は9月15日（月）～10月7日（火））

※開講から3週間以内に申し出れば、2科目以内かつ8単位以内で登録科目の撤回が可能
その際、進級要件を満たすように注意すること

↓

前期成績発表

発表期間：9月1日（月）～
発表方法：FUポータルにて各自参照

↓

後期開講科目の登録変更

受付期間：9月3日(水)12時～9月5日(金)16時まで
申請方法：FUポータル「Web履修登録」にて申請

※前期の成績結果を見て登録上限単位内で登録変更が可能

外国語科目クラス別担当者一覧

※英語のレギュラークラス（目的別クラス）担当者については、Web 履修登録画面または授業科目確認表を参照してください。
※英語の再履修クラス担当者については、「Ⅳ履修の手引き」（p. 68）を参照してください。

ドイツ語

ドイツ語ＩＡおよびドイツ語ＩＢ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH	全	ＩＡ	通年	火	3	菅谷　優
		ＩＢ	通年	金	5	片岡宜行
LJ LP LE LF LA	全	ＩＡ	通年	火	3	平松智久
		ＩＢ	通年	金	5	マンケ
LG	1(a)	ＩＡ	前期	月	2	永田善久
				木	4	
		ＩＢ	後期	月	2	
				木	4	
	1(b)	ＩＡ	前期	月	4	堺　雅志
				木	2	
		ＩＢ	後期	月	4	
				木	2	
JJ	1－5	ＩＡ	通年	火	2	堀口順子
		ＩＢ	通年	金	2	篠﨑　元
	6－10	ＩＡ	通年	火	5	篠﨑　元
		ＩＢ	通年	木	3	堀口順子
JB	全	ＩＡ	通年	月	1	堺　雅志
		ＩＢ	通年	木	2	片岡宜行
E	全	ＩＡ	通年	月	2	冨重純子
		ＩＢ	通年	木	1	堀口順子
CC	全	ＩＡ	通年	火	4	篠﨑　元
		ＩＢ	通年	金	1	篠﨑　元
CB	全	ＩＡ	通年	月	3	金山正道
		ＩＢ	通年	水	2	森澤万里子
CF	全	ＩＡ	通年	月	5	菅谷　優
		ＩＢ	通年	木	4	冨重純子
S	全	ＩＡ	通年	火	4	篠﨑　元
		ＩＢ	通年	金	1	篠﨑　元
TM TE	全	ＩＡ	通年	火	5	篠﨑　元
		ＩＢ	通年	木	3	堀口順子
TL TK	全	ＩＡ	通年	月	5	菅谷　優
		ＩＢ	通年	木	4	冨重純子
TC	全	ＩＡ	通年	月	1	堺　雅志
		ＩＢ	通年	木	2	片岡宜行
TA	全	ＩＡ	通年	月	3	金山正道
		ＩＢ	通年	水	2	森澤万里子
MM	全	ＩＡ	通年	火	2	堀口順子
		ＩＢ	通年	金	2	篠﨑　元
P	全	ＩＡ	通年	月	2	冨重純子
		ＩＢ	通年	木	1	堀口順子
G	全	ＩＡ	通年	火	3	菅谷　優
		ＩＢ	通年	金	5	片岡宜行

ドイツ語ＩＩＡおよびドイツ語ＩＩＢ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH	全	ＩＩＡ	通年	火	1	堀口順子
		ＩＩＢ	通年	金	4	マンケ
LJ LP LE LF LA	全	ＩＩＡ	通年	金	4	金山正道
		ＩＩＢ	通年	火	1	ライヒャルト
LG	1(a)	ＩＩＡ	通年	水	2	有馬良之
		ＩＩＢ	通年	金	2	ゴツィック
	1(b)	ＩＩＡ	通年	金	2	森澤万里子
		ＩＩＢ	通年	水	2	デルカスティヨ

※Ｊ・Ｅ・Ｃ・Ｂ・Ｓ・Ｔ・Ｐ・Ｇの学生で、ドイツ語ＩＩＡ・ＩＩＢの履修を希望する場合は、ドイツ語ＩＩＡ・ＩＩＢのＬＧクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、ＩＩＡ・ＩＩＢを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。（Ｓ、Ｔの学生以外）

※Ｓ、Ｔの学生はＩＩＡかＩＩＢのいずれか片方を「ドイツ語Ⅱ」として履修します。

フランス語

フランス語Ⅰ A およびフランス語Ⅰ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ LG	全	ⅠA	通年	火	3	甲斐春香
		ⅠB	通年	金	5	山本崇代
LP LE LA	全	ⅠA	通年	火	3	山下広一
		ⅠB	通年	金	5	渡邉佳奈
LF	1(a)	ⅠA	前期	月	2	井関麻帆
				木	4	
		ⅠB	後期	月	2	井関麻帆
				木	4	
	1(b)	ⅠA	前期	月	4	川島浩一郎
				木	2	
		ⅠB	後期	月	4	川島浩一郎
				木	2	
JJ	1－5	ⅠA	通年	火	2	甲斐春香
		ⅠB	通年	金	2	村石麻子
	6－10	ⅠA	通年	火	5	山下広一
		ⅠB	通年	木	3	河野敦子
JB	全	ⅠA	通年	月	1	鈴木隆美
		ⅠB	通年	木	2	小池美穂
E	全	ⅠA	通年	月	2	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	木	1	比内晃介
CC	全	ⅠA	通年	火	4	山下広一
		ⅠB	通年	金	1	原田裕里
CB	全	ⅠA	通年	月	3	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	水	2	山本崇代
CF	全	ⅠA	通年	月	5	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	木	4	河野敦子
SM SP SC	全	ⅠA	通年	火	4	木下樹親
		ⅠB	通年	金	1	中田麻理
SE	全	ⅠA	通年	火	4	山下広一
		ⅠB	通年	金	1	原田裕里
TM TE	全	ⅠA	通年	火	5	山下広一
		ⅠB	通年	木	3	河野敦子
TL TK	全	ⅠA	通年	月	5	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	木	4	河野敦子
TC	全	ⅠA	通年	月	1	鈴木隆美
		ⅠB	通年	木	2	小池美穂
TA	全	ⅠA	通年	月	3	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	水	2	山本崇代
MM	全	ⅠA	通年	火	2	甲斐春香
		ⅠB	通年	金	2	村石麻子
P	全	ⅠA	通年	月	2	渡邉佳奈
		ⅠB	通年	木	1	比内晃介
G	全	ⅠA	通年	火	3	甲斐春香
		ⅠB	通年	金	5	山本崇代

フランス語Ⅱ A およびフランス語Ⅱ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LJ	全	ⅡA	通年	火	1	河野敦子
		ⅡB	通年	金	4	山本崇代
LE LP LG LA	全	ⅡA	通年	火	1	原田裕里
		ⅡB	通年	金	4	原田裕里
LF	1(a)	ⅡA	通年	水	2	辻部大介
		ⅡB	通年	金	2	小池美穂
	1(b)	ⅡA	通年	金	2	山本大地
		ⅡB	通年	水	2	ドゥラボード

※Ｊ・Ｅ・Ｃ・Ｂ・Ｓ・Ｔ・Ｐ・Ｇの学生で、フランス語ⅡＡ・ⅡＢの履修を希望する場合は、フランス語ⅡＡ・ⅡＢのＬＦクラス以外で履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、ⅡＡ・ⅡＢを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。（Ｓ、Ｔの学生以外）

※Ｓ、Ｔの学生はⅡＡかⅡＢのいずれか片方を「フランス語Ⅱ」として履修します。

中 国 語

中国語ＩＡおよび中国語ＩＢ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	全	ＩＡ	通年	火	3	アイネル
		ＩＢ	通年	金	5	王　美蘭
LH	全	ＩＡ	通年	火	3	間　ふさ子
		ＩＢ	通年	金	5	王　秀珍
LJ	全	ＩＡ	通年	火	3	武　継平
		ＩＢ	通年	金	5	王　貞月
LP	全	ＩＡ	通年	火	3	葛　欣燕
		ＩＢ	通年	金	5	岡村　真寿美
LE LG LF	全	ＩＡ	通年	火	3	王　雲燕
		ＩＢ	通年	金	5	荀　暁崢
LA	1	ＩＡ	前期	火	3	王　美蘭
				金	2	
		ＩＢ	後期	火	3	王　一萍
				金	2	
	2	ＩＡ	前期	火	3	王　一萍
				金	2	
		ＩＢ	後期	火	3	王　美蘭
				金	2	
JJ	1－3	ＩＡ	通年	火	2	王　一萍
		ＩＢ	通年	金	2	宮下尚子
	4－5	ＩＡ	通年	火	2	中里見　敬
		ＩＢ	通年	金	2	葛　欣燕
	6－8	ＩＡ	通年	火	5	王　美蘭
		ＩＢ	通年	木	3	葛目　至
	9－10	ＩＡ	通年	火	5	荀　暁崢
		ＩＢ	通年	木	3	王　雲燕
JB	全	ＩＡ	通年	月	1	王　一萍
		ＩＢ	通年	木	2	王　美蘭
EE	1－6	ＩＡ	通年	月	2	朱　冰
		ＩＢ	通年	木	1	陳　青鳳
	7－12	ＩＡ	通年	月	2	王　一萍
		ＩＢ	通年	木	1	王　貞月
EI	全	ＩＡ	通年	月	2	王　一萍
		ＩＢ	通年	木	1	王　貞月
CC	全	ＩＡ	通年	火	4	武　継平
		ＩＢ	通年	金	1	荀　暁崢
CB	全	ＩＡ	通年	月	3	葛　欣燕
		ＩＢ	通年	水	2	河本美紀
CF	1－2	ＩＡ	通年	月	5	葛　欣燕
		ＩＢ	通年	木	4	大澤武司
	3－4	ＩＡ	通年	月	5	中村昌彦
		ＩＢ	通年	木	4	羽田ジェシカ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
SM	1	ＩＡ	通年	火	4	武　継平
		ＩＢ	通年	金	1	荀　暁崢
	2	ＩＡ	通年	火	4	間　ふさ子
		ＩＢ	通年	金	1	アイネル
SP	1	ＩＡ	通年	火	4	武　継平
		ＩＢ	通年	金	1	荀　暁崢
	2	ＩＡ	通年	火	4	陳　青鳳
		ＩＢ	通年	金	1	羅　明坤
SC	全	ＩＡ	通年	火	4	間　ふさ子
		ＩＢ	通年	金	1	アイネル
SE	1	ＩＡ	通年	火	4	陳　青鳳
		ＩＢ	通年	金	1	羅　明坤
	2	ＩＡ	通年	火	4	ホウ　ラメイ
		ＩＢ	通年	金	1	宮下尚子
S再	全	ＩＡ	通年	火	4	ホウ　ラメイ
		ＩＢ	通年	金	1	宮下尚子
TM	1	ＩＡ	通年	火	5	王　雲燕
		ＩＢ	通年	木	3	堤　和幸
	2	ＩＡ	通年	火	5	王　秀珍
		ＩＢ	通年	木	3	有働彰子
TE	1	ＩＡ	通年	火	5	ホウ　ラメイ
		ＩＢ	通年	木	3	羽田ジェシカ
	2	ＩＡ	通年	火	5	羽田ジェシカ
		ＩＢ	通年	木	3	伊伏啓子
TL	1－2	ＩＡ	通年	月	5	黄　冬柏
		ＩＢ	通年	木	4	有働彰子
	3－4	ＩＡ	通年	月	5	チョウ　ロ
		ＩＢ	通年	木	4	葛目　至
TK	1	ＩＡ	通年	月	5	何　憶鴿
		ＩＢ	通年	木	4	堤　和幸
	2	ＩＡ	通年	月	5	王　一萍
		ＩＢ	通年	木	4	岡村　真寿美
TC	1	ＩＡ	通年	月	1	ホウ　ラメイ
		ＩＢ	通年	木	2	陳　青鳳
	2	ＩＡ	通年	月	1	朱　冰
		ＩＢ	通年	木	2	王　貞月
TA	1	ＩＡ	通年	月	3	中村昌彦
		ＩＢ	通年	水	2	葛目　至
	2	ＩＡ	通年	月	3	黄　冬柏
		ＩＢ	通年	水	2	岡村　真寿美
MM	全	ＩＡ	通年	火	2	中里見　敬
		ＩＢ	通年	金	2	葛　欣燕
PP	1－3	ＩＡ	通年	月	2	朱　冰
		ＩＢ	通年	木	1	陳　青鳳
	4－6	ＩＡ	通年	月	2	王　一萍
		ＩＢ	通年	木	1	王　貞月
G	全	ＩＡ	通年	火	3	間　ふさ子
		ＩＢ	通年	金	5	王　秀珍

中国語Ⅱ A および中国語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	全	ⅡA	通年	火	1	王　美蘭
		ⅡB	通年	金	4	王　秀珍
LH	全	ⅡA	通年	火	1	葛　欣燕
		ⅡB	通年	金	4	ホウ　ラメイ
LJ	全	ⅡA	通年	火	1	アイネル
		ⅡB	通年	金	4	王　一萍
LP	全	ⅡA	通年	火	1	有働彰子
		ⅡB	通年	金	4	王　美蘭
LE LG LF	全	ⅡA	通年	火	1	中里見　敬
		ⅡB	通年	金	4	宮下尚子
LA	1	ⅡA	前期	火	4	葛　欣燕
				金	3	
		ⅡB	後期	火	4	謝　平
				金	3	
	2	ⅡA	前期	火	4	謝　平
				金	3	
		ⅡB	後期	火	4	葛　欣燕
				金	3	
JECBSTPG	全	ⅡA	通年	火	5	王　一萍
		ⅡB	通年	木	4	王　美蘭

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「中国語Ⅱ」として履修します。

スペイン語

スペイン語ＩＡおよびスペイン語ＩＢ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC LH LE LF LA	全	ＩＡ	通年	火	3	鈴木美香
		ＩＢ	通年	金	5	辻　博子
LJ LP LG	全	ＩＡ	通年	火	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	金	5	上間　洋
JJ	1－5	ＩＡ	通年	火	2	青木文夫
		ＩＢ	通年	金	2	上間　洋
	6－8	ＩＡ	通年	火	5	関　智彦
		ＩＢ	通年	木	3	ディアス
	9－10	ＩＡ	通年	木	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
JB	全	ＩＡ	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		ＩＢ	通年	月	1	ディアス
E	全	ＩＡ	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		ＩＢ	通年	月	2	ディアス
CC	1－3	ＩＡ	通年	火	4	関　智彦
		ＩＢ	通年	金	1	上間　洋
	4－6	ＩＡ	通年	金	1	関　智彦
		ＩＢ	通年	火	4	ディアス
CB	1－3	ＩＡ	通年	月	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	水	2	鈴木美香
	4－6	ＩＡ	通年	月	3	鈴木美香
		ＩＢ	通年	水	2	辻　博子
CF	1－2	ＩＡ	通年	月	5	関　智彦
		ＩＢ	通年	木	4	ディアス
	3－4	ＩＡ	通年	木	4	青木文夫
		ＩＢ	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
SC SE	全	ＩＡ	通年	火	4	関　智彦
		ＩＢ	通年	金	1	上間　洋
SM SP	全	ＩＡ	通年	金	1	関　智彦
		ＩＢ	通年	火	4	ディアス
TM	1	ＩＡ	通年	火	5	関　智彦
		ＩＢ	通年	木	3	ディアス
	2	ＩＡ	通年	木	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
TE	1	ＩＡ	通年	火	5	関　智彦
		ＩＢ	通年	木	3	ディアス
	2	ＩＡ	通年	木	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	火	5	フジヨシ ミヨコ
TL	1－2	ＩＡ	通年	月	5	鈴木美香
		ＩＢ	通年	木	4	関　智彦
	3－4	ＩＡ	通年	木	4	青木文夫
		ＩＢ	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TK	1	ＩＡ	通年	月	5	関　智彦
		ＩＢ	通年	木	4	ディアス
	2	ＩＡ	通年	木	4	青木文夫
		ＩＢ	通年	月	5	フジヨシ ミヨコ
TC	全	ＩＡ	通年	木	2	フジヨシ ミヨコ
		ＩＢ	通年	月	1	ディアス

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
TA	1	ＩＡ	通年	月	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	水	2	鈴木美香
	2	ＩＡ	通年	月	3	鈴木美香
		ＩＢ	通年	水	2	辻　博子
MM	全	ＩＡ	通年	火	2	青木文夫
		ＩＢ	通年	金	2	上間　洋
P	全	ＩＡ	通年	木	1	フジヨシ ミヨコ
		ＩＢ	通年	月	2	ディアス
G	全	ＩＡ	通年	火	3	関　智彦
		ＩＢ	通年	金	5	上間　洋

スペイン語Ⅱ A およびスペイン語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担 当 者
LC LH LE LF LA	全	ⅡA	通年	火	1	鈴 木 美 香
		ⅡB	通年	金	4	辻 博 子
LJ LP LG	全	ⅡA	通年	火	1	青 木 文 夫
		ⅡB	通年	金	4	上 間 洋

※J・E・C・B・S・T・P・Gの学生で、スペイン語ⅡA・ⅡBの履修を希望する場合は、スペイン語ⅡA・ⅡBのLクラスで履修してください。どちらのクラスでも構いませんが、ⅡA・ⅡBを同時に履修する場合は、同一クラスで履修してください。（S、Tの学生以外）

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「スペイン語Ⅱ」として履修します。

朝 鮮 語

朝鮮語ＩＡおよび朝鮮語ＩＢ

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	1	ＩＡ	通年	火	3	押川信久
		ＩＢ	通年	金	5	鄭ハナ
	2	ＩＡ	通年	火	3	李廷恩
		ＩＢ	通年	金	5	鄭在恩
LH	1	ＩＡ	通年	火	3	押川信久
		ＩＢ	通年	金	5	鄭ハナ
	2	ＩＡ	通年	火	3	李廷恩
		ＩＢ	通年	金	5	鄭在恩
LJ LF	全	ＩＡ	通年	火	3	申鎬
		ＩＢ	通年	金	5	権賢貞
LG	全	ＩＡ	通年	火	3	緒方義広
		ＩＢ	通年	金	5	高仁淑
LE	1	ＩＡ	通年	火	3	緒方義広
		ＩＢ	通年	金	5	高仁淑
	2	ＩＡ	通年	火	3	鄭美京
		ＩＢ	通年	金	5	大川大輔
LP	全	ＩＡ	通年	火	3	白岩美穂
		ＩＢ	通年	金	5	安在珉
LA	1	ＩＡ	前期	月	4	鄭在恩
				水	4	
		ＩＢ	後期	月	4	権賢貞
				水	4	
	2	ＩＡ	前期	月	4	権賢貞
				水	4	
		ＩＢ	後期	月	4	鄭在恩
				水	4	
JJ	1－3	ＩＡ	通年	火	2	押川信久
		ＩＢ	通年	金	2	李泰勲
	4－5	ＩＡ	通年	火	2	申鎬
		ＩＢ	通年	金	2	黄聖媛
	6－7	ＩＡ	通年	火	5	呉獨立
		ＩＢ	通年	木	3	パクユギョン
	8－10	ＩＡ	通年	火	5	権賢貞
		ＩＢ	通年	木	3	金慶湖
JB	全	ＩＡ	通年	月	1	パクユギョン
		ＩＢ	通年	木	2	崔秀蓮
EE	1－6	ＩＡ	通年	月	2	木下奈津紀
		ＩＢ	通年	木	1	金兌妍
	7－12	ＩＡ	通年	月	2	尹秀美
		ＩＢ	通年	木	1	パクユギョン
EI	1－2	ＩＡ	通年	月	2	木下奈津紀
		ＩＢ	通年	木	1	金兌妍
	3－4	ＩＡ	通年	月	2	尹秀美
		ＩＢ	通年	木	1	パクユギョン
CC	1	ＩＡ	通年	火	4	鄭美京
		ＩＢ	通年	金	1	李泰勲
	2	ＩＡ	通年	火	4	羅義圭
		ＩＢ	通年	金	1	黄聖媛
	3－4	ＩＡ	通年	火	4	白岩美穂
		ＩＢ	通年	金	1	鄭在恩
	5－6	ＩＡ	通年	火	4	李廷恩
		ＩＢ	通年	金	1	羅義圭

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
CB	全	ＩＡ	通年	月	3	パクユギョン
		ＩＢ	通年	水	2	鄭在恩
CF	1－2	ＩＡ	通年	月	5	羅義圭
		ＩＢ	通年	木	4	朴順伊
	3－4	ＩＡ	通年	月	5	権賢貞
		ＩＢ	通年	木	4	パクユギョン
SM	1	ＩＡ	通年	火	4	白岩美穂
		ＩＢ	通年	金	1	鄭在恩
	2	ＩＡ	通年	火	4	呉獨立
		ＩＢ	通年	金	1	権賢貞
SC	1	ＩＡ	通年	火	4	李廷恩
		ＩＢ	通年	金	1	羅義圭
	2	ＩＡ	通年	火	4	呉獨立
		ＩＢ	通年	金	1	権賢貞
SP	1	ＩＡ	通年	火	4	鄭美京
		ＩＢ	通年	金	1	李泰勲
	2	ＩＡ	通年	火	4	羅義圭
		ＩＢ	通年	金	1	黄聖媛
SE	1	ＩＡ	通年	火	4	鄭美京
		ＩＢ	通年	金	1	李泰勲
	2	ＩＡ	通年	火	4	羅義圭
		ＩＢ	通年	金	1	黄聖媛
TM	全	ＩＡ	通年	火	5	羅義圭
		ＩＢ	通年	木	3	朴順伊
TE	全	ＩＡ	通年	火	5	大川大輔
		ＩＢ	通年	木	3	呉獨立
TL	1－2	ＩＡ	通年	月	5	鄭在恩
		ＩＢ	通年	木	4	金慶湖
	3－4	ＩＡ	通年	月	5	パクユギョン
		ＩＢ	通年	木	4	申鎬
TK	全	ＩＡ	通年	月	5	金京姫
		ＩＢ	通年	木	4	呉獨立
TC	1	ＩＡ	通年	月	1	権賢貞
		ＩＢ	通年	木	2	朴順伊
	2	ＩＡ	通年	月	1	鄭在恩
		ＩＢ	通年	木	2	尹秀美
TA	1	ＩＡ	通年	月	3	木下奈津紀
		ＩＢ	通年	水	2	金慶湖
	2	ＩＡ	通年	月	3	崔秀蓮
		ＩＢ	通年	水	2	ジュヒョンジュ
MM	全	ＩＡ	通年	火	2	申鎬
		ＩＢ	通年	金	2	黄聖媛
PP	1－3	ＩＡ	通年	月	2	木下奈津紀
		ＩＢ	通年	木	1	金兌妍
	4－6	ＩＡ	通年	月	2	尹秀美
		ＩＢ	通年	木	1	パクユギョン
G	全	ＩＡ	通年	火	3	鄭美京
		ＩＢ	通年	金	5	大川大輔

朝鮮語Ⅱ A および朝鮮語Ⅱ B

学部 学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LC	全	ⅡA	通年	火	1	申　鎬
		ⅡB	通年	金	4	鄭　ハナ
LH	1	ⅡA	通年	火	1	押川信久
		ⅡB	通年	金	4	羅　義圭
	2	ⅡA	通年	火	1	羅　義圭
		ⅡB	通年	金	4	高　仁淑
LJ LF	全	ⅡA	通年	火	1	権　賢貞
		ⅡB	通年	金	4	大川大輔
LE	1	ⅡA	通年	火	1	押川信久
		ⅡB	通年	金	4	羅　義圭
	2	ⅡA	通年	火	1	羅　義圭
		ⅡB	通年	金	4	高　仁淑
LG LP	全	ⅡA	通年	火	1	鄭　在恩
		ⅡB	通年	金	4	安　在珉
LA	1	ⅡA	前期	水	2	羅　義圭
				金	5	
		ⅡB	後期	水	2	パク　ユギョン
				金	5	
	2	ⅡA	前期	水	2	パク　ユギョン
				金	5	
		ⅡB	後期	水	2	羅　義圭
				金	5	
JECBSTPG	全	ⅡA	通年	火	5	鄭　在恩
		ⅡB	通年	木	4	新里喜宣

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「朝鮮語Ⅱ」として履修します。

ロシア語

ロシア語Ⅰ A およびロシア語Ⅰ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
全学部	全学部	ⅠA	通年	火	3	ヴェラ
		ⅠB	通年	金	5	ヴェラ

ロシア語Ⅱ A およびロシア語Ⅱ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
LJECBSTPG	全	ⅡA	通年	火	1	ヴェラ
		ⅡB	通年	金	4	ヴェラ

※S、Tの学生はⅡAかⅡBのいずれか片方を「ロシア語Ⅱ」として履修します。

日本語

日本語Ⅰ A および日本語Ⅰ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
留学生	①	ⅠA	通年	火	2	清水 りえ子
		ⅠB	通年	金	1	池澤 明子
	②	ⅠA	通年	火	3	清水 りえ子
		ⅠB	通年	水	5	池澤 明子

日本語Ⅱ A および日本語Ⅱ B

学部学科	組	科目	期別	曜日	時限	担当者
留学生	全	ⅡA	通年	火	1	清水 りえ子
		ⅡB	通年	金	4	清水 りえ子

V

その他

- 大学院受験（飛び級制度）
- 特待生制度
- 国際交流・海外留学支援

大学院受験（飛び級制度）

大学に３年以上在学している者で、「本学の大学院の定める単位を優秀な成績で修得したと認めるもの」は大学院を受験することができる。（大学院学則第30条第１項第９号）

1 研究科及び専攻

研　究　科	専　攻
理　学　研　究　科	応　用　数　学　専　攻（博士課程前期）
	応　用　物　理　学　専　攻（博士課程前期）
	化　学　専　攻（博士課程前期）
	地　球　圏　科　学　専　攻（博士課程前期）
工　学　研　究　科	機　械　工　学　専　攻（博士課程前期）
	電　気　工　学　専　攻（博士課程前期）
	電　子　情　報　工　学　専　攻（博士課程前期）
	化学システム工学専攻（博士課程前期）
スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻（博士課程前期）

2 出願資格

志願者は、所属する学科において、成績及び単位修得状況等に関する所定の要件を満たしていること。

3 出願手続等

出願手続・願書受付時期・入学試験等の詳細については、大学院事務課に問い合わせてください。

特待生制度

本学には、学業成績並びに品行の特に優秀な学生を「特待生」として表彰する制度があります。（学則第40条）。この制度は、優秀な成績を修めた学生の栄誉を称えるとともに、今後の学生生活や社会生活における自信に繋げ、更なる活躍を期待して設けられたものです。

前年度の学業成績や品行をもとに、学部ごとの選考基準により、学部学科、学年別に選考します。各学部の２年次以上の学生を対象に、全学で約200人が選ばれ、特待生には、規定された奨学金が授与されます。

国際交流・海外留学支援

世界的規模で、社会、経済、文化のグローバル化が進展する中、海外との交流機会は増大しており、多くの外国人が旅行やビジネスで日本を訪問するのが日常となっています。また、卒業後、皆さんが働く企業においては、海外進出・外国人の雇用・外国企業との協業も当たり前となっています。将来、社会へ出て行く学生には、柔軟で多方面から考察し、理解できる力を持ち、国際的視野に立ってものごとの適切な判断ができる人物像が求められています。

本学では、皆さんがこのような時代に相応しい「グローバル人材」として活躍できるよう、海外留学支援や国際交流の機会を提供しています。海外で生きた言語を学ぶ、異なる社会や文化に触れあう、きっかけづくりをしてみませんか。

1 交換留学

交換留学とは、本学が外国の大学等との間で交わした交換留学協定に基づき実施する留学プログラムです。詳細は国際センター事務室に問い合わせてください。

交換留学の特徴

期　　間	１年間または半年間		
学　　籍	休学ではなく、学籍上「在学」の扱いでの留学となる		
学　　費	留学中は本学に授業料等納入金を納入し、派遣先大学での授業料等納入は免除		
単位認定	派遣先大学で履修した授業科目は、本学の授業科目として単位認定可能 ※ただし、所属学部の教授会の審議による。		
出願年次	学部：１～３年次	対象学部	医・薬を除く学部
選　　考	書類選考・面接選考 ※語学能力・学業成績・人物評価・留学計画について総合的に評価し派遣者を決定		
奨 学 金	・派遣学生全員に留学援助金を支給 ・福岡大学未来サポート募金による交換留学支援金（選考有）		

出願時期、派遣期間、交換留学実施大学は以下を参照してください。
※この他に人文学部が独自に行っている交換留学があります。詳細は教務二課に問い合わせてください。

派遣区分	募集時期	派遣期間	
春期派遣	2025年５月	１年間	2026年２月～2027年１月（実質11カ月程度）
		半年間	2026年２月～７月（実質５カ月程度）
秋期派遣	2025年10月	１年間	2026年９月～2027年６月（実質10カ月程度）
		半年間	2026年９月～2027年１月（実質５カ月程度）

交換留学実施大学一覧

国・地域	大学名
韓　　国	蔚山大学校、釜山大学校、東義大学校、啓明大学校、仁川大学校、東亜大学校、 東西大学校、慶熙大学校、釜慶大学校、東国大学校（WISE キャンパス）、国民大学校、 培材大学校、慶南大学校、慶北大学校、釜山外国語大学校、成均館大学校
中　　国	華東師範大学、揚州大学、煙台大学、広州大学、中央財経大学、黒龍江大学、 ハルピン理工大学、西安交通大学、上海財経大学
台　　湾	輔仁大学、国立高雄大学、国立高雄大学
インドネシア	パジャジャラン大学
ベトナム	ハノイ大学、ダナン大学
イギリス	ニューカッスル大学、リーズ大学、セントラル・ランカシャー大学
フィンランド	タンペレ大学
スペイン	セビージャ大学
ブラジル	連邦立サンタ・カタリナ大学
フランス	パリ・シテ大学、リヨン政治学院、セルジー・パリ大学
ベルギー	リエージュ大学

※実際の募集内容は予告なしに変更となる場合があります。最新情報は国際センターウェブサイトに掲載しますので、出願前に必ず確認してください。

2 短期留学

国際センターでは、長期休業期間を利用して参加できる短期間（約２週間～１カ月）の留学プログラムを提供しています。外国の協定校や語学学校における、語学研修、文化研修、ホームステイ等を通じて語学力や国際感覚を養います。派遣先によって、単位認定の有無、選考試験の有無や内容、費用が異なります。

⑴ 海外英語研修

【選考方法】筆記試験および面接によって選抜
【経　　費】往復渡航旅費以外は全額自己負担
【単位認定】「海外英語研修」２単位（参加した翌年度に認定）
（ただし、卒業要件単位としての取り扱いは学則および学科履修規程による。）

海外英語研修実施校一覧

国・地域	大　学　名	対象学部	対象年次	定員	募集時期	研修期間
アメリカ	ウオッシュバン大学	全学部	１～３年次※	21人	９月中旬	２月中旬 ～３月中旬
オーストラリア	グリフィス大学			21人		

※医学部医学科・薬学部は１～４年次まで出願可能

⑵ **語学留学**

【申込方法】先着順で受付
【定　　員】プログラムによって異なり、①と②の場合があります。
①定員あり　②募集定員がなく、１人から参加可能
【経　　費】一部補助あり
【単位認定】無し

語学留学実施校一覧

国・地域	大　学　名	対象学部・研究科	対象年次	定員	募集時期	留学期間
韓　国	蔚　山　大　学　校	全学部	全年次※	②	４月中旬	８月上旬～８月下旬
イギリス	ニューカッスル大学			①	５月上旬	
イギリス	セントラル・ランカシャー大学			②		
アメリカ	シ　ア　ト　ル　大　学			①		８月下旬～９月上旬
ベトナム	ハ　ノ　イ　大　学			①		
中　国	揚　州　大　学			①	10月上旬	２月下旬～３月上旬
韓　国	慶　熙　大　学　校	全学部・全研究科		②	11月上旬	３月上旬～３月下旬

※医学部医学科・薬学部は１～４年次まで出願可能

Campus France 実施語学留学

国・地域	大　学　名	対象学部・研究科	対象年次	定員	募集時期	留学期間
フランス	グルノーブル大学附属語学学校	全学部・全研究科	全年次※	②	10月下旬	３月上旬～３月下旬
	リヨン第二大学附属語学学校			②		
	サンテティエンヌ大学附属語学学校			②		

※医学部医学科・薬学部は１～４年次まで出願可能

3 認定留学

認定留学とは、外国の協定校や本学が認定した外国の大学において、事前に本学の許可を得て特定の科目を履修することを目的とするものです。留学を希望する大学の資料等、必要書類を本学へ提出し許可を得れば認定留学生となります。留学先大学で履修した科目は本学の授業科目として単位認定されますが、留学先大学へも授業料を支払わなければなりません。**なお、認定留学の詳細については所属する学部の事務部署にお問い合わせください。**

4 学内プログラム

１．グローバル支援講座

交換留学や海外研修の派遣に向けて語学力の向上を図りたい、学内で国際交流してみたい、外国の大学への留学や将来海外で働くためにスキルアップしたい等々…。多様な語学レベル・目的別の授業を開講します。

対　　象	全学部生・大学院生
受 講 料	無　　料
単位認定	な　　し
申込み時期	（前期）３月中旬～４月上旬
	（後期）７月上旬～９月上旬
担当部署	国際センター事務室

（前期）

区分	科目名	受講レベル	言語	対象者		講師	曜日時限	成績評価
				学部生・大学院生（留学生含む）	交換留学生			
国際共修セミナー	Pop Culture in Japan	TOEIC 450点程度	英語	●	●	新田　よしみ	水曜 4限	実施
	《オンライン（COIL）授業》 Introduction to Intercultural Collaborative Learning	TOEIC 530点程度	英語	●	−	新田　よしみ	水曜 5限	実施
	Japanese History and Culture	TOEIC 530点程度	英語	●	●	クロス, ティモシー	月曜 4限	実施
語学強化・留学準備セミナー	Overseas Training Program	TOEIC 450点程度	英語	●	−	S. A. ウェストン	月曜 4限	実施
	実践フランス語	仏検 3級程度	フランス語	●	−	清水　りえ子	金曜 5限	−
	歩歩高（ブーブーガウ）中級中国語	HSK 4級程度	中国語	●	−	王　雲燕	木曜 4限	−
	DELF（フランス語）対策	DELF B 1 取得を目指す	フランス語	●	−	九州日仏学館教師	水曜 5・6限	−
	TOPIK Ⅱ（朝鮮語）対策	TOPIK 5 級取得を目指す	朝鮮語	●	−	ECC 講師	月曜 5限	−
	《留学生対象》 ビジネス日本語	JLPT N 2 相当以上	日本語	●*	●	鄭　磊	木曜 3限	実施

（後期）

区分	科目名	受講レベル	言語	対象者		講師	開講日	成績評価
				学部生・大学院生（留学生含む）	交換留学生			
国際共修セミナー	Japanese Manga and Anime	TOEIC 450点程度	英語	●	●	新田　よしみ	火曜 5限	実施
	《オンライン（COIL）授業》 To be a Competent Speaker	TOEIC 530点程度	英語	●	−	新田　よしみ	水曜 5限	実施
語学強化・留学準備セミナー	Global Issues Practicum	TOEIC 530点程度	英語	●	−	S. A. ウェストン	水曜 4限	実施
	実践フランス語	仏検 準2級程度	フランス語	●	−	清水　りえ子	金曜 5限	−
	歩歩高（ブーブーガウ）中級中国語	HSK 4級程度	中国語	●	−	王　雲燕	木曜 4限	−
	IELTS（英語）　対策	IELTS6. 0取得を目指す	英語	●	−	新田　よしみ	未定	−
	DELF（フランス語）対策	DELF A 2 取得を目指す	フランス語	●	−	九州日仏学館教師	水曜 5・6限	−
	TOPIK Ⅱ（朝鮮語）対策	TOPIK 6 級取得を目指す	朝鮮語	●	−	ECC 講師	月曜 5限	−
	《留学生対象》 ビジネス日本語	JLPT N 2 相当以上	日本語	●*	●	鄭　磊	木曜 3限	実施

＊学部留学生・大学院留学生対象

〈注意事項〉

・単位の認定はなし。

・希望する科目と受講希望者が所属する学部・学科・研究科の正規科目の時限が重なった場合、正規科目の履修を最優先する。

２．留学フェア

留学フェアを４月と９月（年２回）に実施します。最新の募集案内や様々な留学に関する情報を公開します。また、プログラム参加者からのリアルな留学体験談発表があり、個別相談ブースでは直接相談することもできます。

３．留学相談

留学全般に関する知識や留学を通した悩みなど、留学に関する相談を受け付けています。また、福岡大学に在学中の留学生の相談にも応じていますので、気軽に申し込んでください**（事前予約制）**。

４．Language Exchange Program

日本人学生と留学生が、お互いに言語を教え合うプログラムです。外国語（日本語、英語、中国語、朝鮮語等）を学びたい学生同士のマッチングを国際センターが行います。募集は前期（４月）、後期（９月）の２回行う予定です。詳細は、FUポータルでお知らせします。

５．FIT（福岡大学国際交流学生ボランティアチーム）

国際センターでは、学部留学生、大学院留学生や外国の協定校から受け入れる交換留学生等、外国人留学生に対する勉学・生活面での支援活動に参画してくれる学生ボランティアを随時募集しています。

5 外国人留学生の受入れ

本学では、外国人留学生の受け入れを積極的に進めており、キャンパスでの国際交流環境も充実させています。

●学部留学生・大学院留学生

本学の学部や大学院の正規課程に入学し、学士、修士及び博士の学位を取得することを目的とする留学生の受け入れを積極的に行っています。中国、韓国、ベトナム、台湾等からの留学生が皆さんと共に勉学に励んでいます。

●研究生

学部や大学院において特定の研究に従事する研究生として多数の留学生が学んでいます。研究生の後に大学院進学を目指す留学生もいます。

●交換留学生

外国の協定校から、交換留学生を１年間または半期の期間で受け入れています。一般の授業科目または日本語・日本文化講座を受講しています。また、課外活動にも積極的に参加し本学学生との交流を深めています。

●研修生

外国の協定校から来学し、約２週間本学で実施される日本語・日本文化を中心とした研修を受けると同時に本学学生との交流を深めています。

各種プログラムの詳細情報は国際センターのウェブサイトに掲載しています。
不明な点などは国際センター事務室（中央図書館６階）、または各担当部署に
問い合わせてください。

国際センターウェブサイトはこちら ⇒

VI

諸　規　程

- 福岡大学学則
- 授業科目の履修等について
- 年次別授業科目表（学科履修規程　第４条　別表）
- 福岡大学学科履修規程
- 福岡大学成績考査規程
- その他諸規程
  - 福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程（令和６年度以前入学生）
  - 福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程（令和６年度以前入学生）
  - 福岡大学転部・転科に関する規程
  - 福岡大学授業料その他諸納入金規程
  - 学費等納入金一覧表

福岡大学学則〔新入生（令和７年度入学生）適用〕

第１章　総　　則

第１節　目　　的

（目的）

第１条　福岡大学（以下「本学」という。）は、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条の規定に基づき、人文、法律、経済、商学、理学、工学、医学、薬学及びスポーツ科学に関する専門的研究及び教授を行い、学識深く教養高き人材を養成することを目的とする。

２　第２条第１項に定める各学部及び学科の人材の養成に関する目的及びその他教育研究上の目的は、次のとおりとする。

⑴　**人文学部**は、広範な一般教養を身に付けると同時に、すべての学問の基礎となる人文学諸分野の専門知識を修得し、他者との関係への配慮や自由と責任に基づく倫理観を備えた人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、社会人として人間の精神と社会のあり方を多様な価値観の中で総合的に捉え、高度技術社会において人間の原点に立って行動できる人材を養成すること、及び外国語学習を通して異文化を理解し、日本と世界を結ぶコミュニケーション能力を持った国際人を養成することを目的とする。

文化学科は、「文化の多角的、総合的理解」という学習・教育理念のもと、文化に広い関心を持つ人材を受け入れる。１年次の必修科目を通じて基本的な知識と研究方法とを修得させ、２年次以降は一つの専門領域に偏ることのない学際的なカリキュラムを通じて文化の多角的、総合的理解を身に付けた人材を育成する。文化学科は、多様な価値観が共存し、複雑化してゆく時代にあって、固定観念にとらわれない、広い視野と柔軟な発想力とを持つ有為な人材を社会に送り出すことを目的とする。

歴史学科は、古代以来国際交流の窓口であったという、本学が位置する地域の特性を生かして、九州から日本史、世界史を見直す地域に根ざす視点と、九州を東アジア史、世界史の中に位置づける国際的な視点を併せ持つ教育と研究の推進を理念とする。少人数教育を徹底して行い、導入教育において大学生としての基本的能力を涵養するとともに、専門教育では、日本史、東洋史、西洋史、考古学の各分野において高い専門性を身に付けた人材の育成を目指す。また、専門分野の枠を超えた横断的な科目履修を通じて歴史を総合的に理解する能力を涵養し、もって、専門的な知識・教養と複眼的な思考力を兼ね備えた人材の養成を目的とする。

日本語日本文学科は、日本の文化や社会の根幹をなす日本語と、その結実たる日本文学を広く深く学び、それらを国際的視点に立って捉え直すことにより、豊かな教養と深い洞察力を備え、日本語の高度なコミュニケーション能力を身に付けた広い視野を持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、日本語日本文学への深い理解を基盤として国際化社会で活躍し得る人材、及び専門的知識によって地域社会に貢献し得る人材の養成を目的とする。

教育・臨床心理学科は、教育と臨床心理の二つの分野の統合による人への支援や援助、人間形成とそのケアに貢献し得る総合的、実践的な力量を備えた人間を育むことを理念とする。この理念に基づき、具体的には、メンタルヘルスやストレスマネジメント、自己啓発や生涯学習、キャリア発達等の諸課題に対して、教育学と臨床心理学の知識や技法を用いてアプローチし得る能力を実社会の多様な場面で発揮できる人材を養成することを目的とする。

英語学科は、国際化や異文化との共生がますます進む状況下にあって、異文化を理解し、これに順応するとともに、国際社会、地域社会における諸問題を解決するために他者と協力しながら貢献できる人材を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、国際社会への積極的な参画に必要な英語の運用能力を備えるとともに、言語や文化に関する広い知識と専門分野に関する深い学識を有し、かつ、的確な情報の収集・分析・考察とその結果の発信を通じて、社会に貢献することができる人材を養成することを目的とする。

ドイツ語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、ドイツ語によるコミュニケーション能力を培う

とともに、ドイツをはじめとするドイツ語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側面から理解するための充実した教育を実施することを目指す。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び深い学識を有し、異文化間の相互理解に貢献できる国際人を育成することを目的とする。

フランス語学科は、多角的なカリキュラムにおいて、フランス語によるコミュニケーション能力を培うとともに、フランスをはじめとするフランス語圏の国々の文化と社会、その思考方法と価値観を様々な側面から理解することを教育研究の目的とする。すなわち、複眼的思考力を身に付けることにより、国際社会において文化の枠組みを越えて他者との関係を構築し、多様な価値観を顧慮しながら人間の原点に立って行動できる人材、及び異文化間の相互理解に貢献できる広い教養と深い学識をそなえた国際人を養成することを目的とする。

東アジア地域言語学科は、確実な言語運用能力の習得を基礎とし、東アジアの社会や伝統、文化、地域事情を深く洞察することで、日本を含めた東アジアを足場とした広い視野と洞察力を併せ持つ人間を育むことを教育理念とする。この理念に基づき、東アジアで有用な各種の語学力とそれを用いた地域事情の知識を通して問題の発見と解決ができる人材、地域のバランス感覚に富んだ人材、他者を尊重し様々な問題にも柔軟に対応できる人材、そして卒業後その更新が可能な人材の養成を目的とする。

⑵ **法学部**は、法学（政治学を含む。）の学修及び研究を通じて、現代社会の諸問題に積極的に取り組み、地域社会、企業活動、公共分野及び国際社会に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、広範な一般教養を身に付け、法学の専門的知識及び法的思考力を有する人材を養成することを目的とする。

法律学科は、憲法・民法・政治学などの科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、法律総合コース、公共法務コース又は総合政策コースのいずれか一つを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力及び政策的思考力を身に付け、法曹その他の法律専門職並びに公共分野、企業及び地域社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

経営法学科は、民法などの私法系科目の基礎的知識の習得を前提とした上で、将来の目標に向けて必要な専門科目を効果的に履修することを可能にするため、企業法コース又は国際コースのいずれかを選択できるようにし、これらのコースの授業、演習等による教育研究を通じて、法的思考力並びに企業法制に関する専門的知識及び国際的視野を身に付け、企業、地域社会及び国際社会において指導的役割を担う人材を養成することを目的とする。

⑶ **経済学部**は、経済学的知の伝承と創造により、社会の調和ある発展と人類の福祉の向上に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、経済学における論理的思考力と実証的分析能力及び歴史的理解力を向上させ、経済学的知性と豊かな人間性、国際的な視野、旺盛な行動力によって社会の進歩と繁栄に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経済学科は、伝統的な経済学の知識と経済学的思考方法の教育により、経済全般に対する理解力を有するゼネラリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、今日の経済情勢と経済学の理論と応用、経済の歴史的発展に関する学習を通して、現代社会とその背後にあるメカニズムとダイナミクスに対する理解力と洞察力を養い、近世代を担う総合力ある経済人を養成することを目的とする。

産業経済学科は、学際的実学教育により、現実社会における問題の発見と原因究明を行い、その解決策を立案し実行できるスペシャリストを育成することを教育理念とする。この理念に基づき、経済学とその関連諸学の学習を通して論理的思考力と実証的分析力を高め、さらにフィールドスタディによって地域社会や企業経営に対する洞察力を養い、実践的な問題解決力を有する人材を養成することを目的とする。

⑷ **商学部**は、大きく変化する社会的・経済的環境のもとで、商学研究を深化させ、その研究成果をもって持続可能な社会の実現に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の理論、

知識及び技能並びに幅広い教養を身に付け、これらを活用して積極的に、一貫性をもって企業や組織だけではなく地域や世界の問題発見及び問題解決に当たる社会的責任感と能力を有し、他者と協働して企業、地域等の発展を担う人材を養成することを目的とする。

商学科は、商学のうち、特に流通・マーケティング、情報・サービス、交通、金融・保険、商業史の広範な分野の理論、知識及び技能を学ぶことを通して、社会的責任感を有し、地域や社会の持続的な発展に積極的に貢献できる人材を養成することを目的とする。

経営学科は、企業をはじめとする各種組織のマネジメントリーダー又は職業会計人として強い社会的責任感を有し、経営学及び会計学の専門的知識に基づいた問題発見及び問題解決の能力を持ち、協働して企業、地域等の持続的な発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

貿易学科は、商学のうち、特に貿易を中心とする国際ビジネスの実務と世界経済に関する広範な分野の理論、知識及び技能を学ぶとともに、実践的なビジネス英語を身に付けることにより、社会的責任感を有し、国際社会の持続的な発展に積極的に貢献できる人材を養成することを目的とする。

(5) **商学部第二部商学科**は、商学部の教育研究の理念に加えて、勤労学生、社会人学生、シニア層等の多様な学生も教育対象とし、リカレント教育や生涯教育の場の提供を通して、社会課題の発見及び解決に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、商学の理論、知識及び技能並びに幅広い教養を身に付け、他者と協働して企業や組織だけではなく地域や世界を持続的に発展させていくためのリーダーシップを備えた人材を養成することを目的とする。

(6) **理学部**は、自然科学と数理科学に関する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、既知の事実と理論を学びながら、自然現象や数理を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

応用数学科応用数学コース及び応用数学科社会数理・情報インスティテュートコースは、数学や情報数理の理論と応用を学ぶことを通して、論理的な分析力、思考力を養うことを教育の理念とする。この理念に基づき、探求心、向上心を持ち、柔軟な発想力、豊かな創造力のもと、数学を通して社会における諸問題を解決する力を備え、社会の健全な発展に寄与する人材を養成することを目的とする。

物理科学科は、物理学とそれに関連する分野の探究を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、力学・電磁気学・波動・熱力学・量子力学などに代表される物理学と、それに関連する幅広い応用分野の既知の事実と理論を学びながら、物理現象を幅広い視野から理解し、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を修得し、総合的な視野から知識の活用ができ、豊かな人間性、社会性及び国際性を兼ね備えた活力ある人材を養成することを目的とする。

化学科は、化学の探求を通して社会の健全な発展に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、新たな機能性物質の開発を目指す物質化学の分野及び分子レベルでの生命現象の解明を目指す生命化学の分野において、化学的現象の摂理や物質の機能性発現の原理を種々の観点から理解し、化学の知識と技術を実社会で活用し、21世紀に国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

地球圏科学科は、幅広い視野と知識から地球とそこに生息する生物に関する多様な現象・問題に対処できる能力を養い、健全な未来社会の発展に貢献することを教育研究の理念とする。その実現のために、自然科学の基礎となる数学、物理、化学、生物学及び地学を幅広く学び、さらに地球・環境、生物・生命のいずれかを深く学ぶことにより、論理力、分析力、創造力及び未知の現象を解明する力を発揮し、国内外で活躍できる人材を養成することを目的とする。

(7) **工学部**は、良心に基づいた社会的責任感を有し、時代に即応した判断力と科学技術をもって社会の持続的発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、工学・技術に求められる豊かな創造性と実務に即した応用力を育成するために、十分な基礎学力に加えて深い専門の科学技術と、幅広い教養を修得させて調和のとれた人格の発達を促すことを目的とする。

機械工学科は、幅広い教養と高度な専門知識を備え、ものづくり（機械の創造）を通して、指導的立場から、実践的な応用力と豊かな創造性を発揮して、人類の幸福と社会の福祉に貢献できる技術者

を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、確実な観察力を備え、幅広い知識により問題を的確に分析し、解決に向かって果敢に行動できる技術者を育てることを人材育成の目的とする。

電気工学科は、日々進歩する技術レベルに対応できる創造性及び課題の探求能力に優れ、かつ、コミュニケーション能力を有する人材の育成を教育研究の理念とする。この理念を達成するため、科学及び工学全般にわたる問題の理解力、判断力、解決力を養うことにより、情報・制御・環境などの分野を含めた広範囲にわたる基礎知識を修得し、社会的責務を果たすことのできる技術者を育てることを教育の目的とする。

電子情報工学科は、時代の要求に応じた新しい電子情報システムを構築することのできる技術者を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、社会の変化を正しく理解するための教養と判断力、理性を備えた技術者を養成することを目的とする。専門分野においては、電子工学と情報工学の基礎を理解し、それらを応用して電子・情報工学の技術開発に寄与できる技術者を養成することを目的とする。

化学システム工学科は、化学技術者としての幅広い教養と健全な倫理観を身に付けるとともに、化学工学分野の知識を修得し、持続可能な社会の発展に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、基礎及び専門知識を修得し、それを問題解決に応用する能力、技術者として社会に対する責任を自覚する能力及び社会の進展に伴って自己変革する能力を有し、国内外での化学技術・環境技術に関連する広い分野で活躍できる柔軟な思考力と総合力を兼ね備えたエンジニアを養成することを目的とする。

社会デザイン工学科は、自然環境と調和した生活環境の創造に貢献する人材を養成することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、地球及び地域の環境問題を直視して自然と調和しながら地震や洪水などの災害に強い社会資本整備を行う建設技術者を養成する。さらに、強い責任感と倫理感を持って次世代に豊かな生活や文化を継承し続けられる社会デザインに取り組める人材を養成することを目的とする。

建築学科は、美しく、快適で、安全で、豊かな建築空間・都市空間を創造できる人材の育成を教育研究の理念とする。この理念に基づき、建築分野に要求される社会的・技術的ニーズに適切に応えられる建築技術者としての十分な基礎学力を身に付け、高度で実践的な専門性を獲得すると同時に、調和のとれた教養を有する人格を有し、社会において指導力を発揮して、幅広く活躍・貢献できる人材を養成することを目的とする。

⑻ **医学部**は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、社会のニーズや医療・福祉・地域に貢献できる人間性豊かな医療専門職者（医師・看護師・保健師・養護教諭・医学及び医療研究者）を養成することを目的とする。

医学科は、生命の尊厳に基づいた全人教育を基盤として、人間性豊かな臨床医の育成、地域社会への医療奉仕、重点的総合研究体系の確立を教育研究の理念とする。この理念に沿って、豊かな人間性と指導力・協調性を備え、総合的臨床能力を発揮して広く社会の医療と福祉に貢献できる医師及び高度な知識と国際的・学際的視野を持ち医学の発展に貢献できる医学研究者を養成することを目的とする。

看護学科は、生命の尊厳に基づいた心豊かで総合的な人間教育を基盤として、創造的で国際的・学際的視野に立った論理的・倫理的な看護実践能力を育成し、看護学の発展及び地域・国際社会に貢献できる高い能力を有する看護専門職者を養成することを目的とする。

⑼ **薬学部薬学科**は、医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献することを教育研究の理念とする。この理念に基づき、医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成することを目的とする。

⑽ **スポーツ科学部**は、スポーツ・運動に関する人文科学、社会科学、自然科学及び各分野を融合した

総合科学的研究を深め、それによって得られた知識を実践に生かすことを教育研究の理念とする。この理念に基づき、スポーツ界、教育界、産業界、官界、地域社会、医療分野等において、貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

スポーツ科学科は、スポーツ競技力や運動能力の向上を目指したスポーツ医科学分野の知識を有し、スポーツ界、教育界、産業界、官界等において、スポーツ医科学の知識に基づいた適切なスポーツの実践と論理的指導ができる人材を中心に、科学的トレーニング法のみならず、施設や用具等の開発、スポーツイベント等の企画・運営を含めたスポーツマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

健康運動科学科は、健康運動やレクリエーション活動による心身の健康の回復、保持、増進を目指した医科学分野の知識を有し、地域社会、教育界、産業界、医療分野等において、創造的・実践的な指導を行うことができる人材を中心に、企業や地域及び医療とも連携した健康づくりマネジメント等ができる人材も養成することを目的とする。

3　本学は、学校教育法施行規則（昭和22年文科省令第11号）第165条の２の規定に基づき、前項の教育研究上の目的を踏まえて、次に掲げる方針を一貫性をもって定め、公表するものとする。

⑴　卒業認定及び学位の授与の方針

⑵　教育課程の編成及び実施に関する方針

⑶　入学者の受入れに関する方針

（自己点検及び評価）

第１条の２　本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2　本学は、前項の点検及び評価の結果並びに所定の認証評価の結果を踏まえ、教育研究活動等について不断の見直しを行うことにより、その水準の向上を図ることに努めるものとする。

3　自己点検及び評価に関する規程は、別に定める。

第２節　　基本組織等

（学部等）

第２条　本学に人文学部、法学部、経済学部、商学部、商学部第二部、理学部、工学部、医学部、薬学部及びスポーツ科学部を置く。

2　人文学部に文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科、法学部に法律学科及び経営法学科、経済学部に経済学科及び産業経済学科、商学部に商学科、経営学科及び貿易学科、商学部第二部に商学科、理学部に応用数学科、物理科学科、化学科及び地球圏科学科、工学部に機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科及び建築学科、医学部に医学科及び看護学科、薬学部に薬学科、スポーツ科学部にスポーツ科学科及び健康運動科学科を置く。

（大学院）

第３条　本学に大学院を置く。

2　大学院学則は、別にこれを定める。

（附属学校）

第４条　本学に次の附属学校を置く。

⑴　福岡大学附属大濠高等学校

⑵　福岡大学附属若葉高等学校

⑶　福岡大学附属大濠中学校

2　附属学校に関する規程は、別にこれを定める。

（図書館）

第５条　本学に図書館を置く。

2　図書館に関する規程は、別にこれを定める。

（研究施設）
第６条　本学に研究所その他の研究施設を附置する。
２　研究施設に関する規程は、別にこれを定める。
（附属病院）
第７条　本学の医学部に附属病院を置く。
２　附属病院に関する規程は、別にこれを定める。
（留学生別科）
第８条　本学に留学生別科を置く。
２　留学生別科に関する規程は、別にこれを定める。

第３節　　教育研究実施組織等

（教育研究実施組織等）
第９条　本学は、その教育研究上の目的を達成するため、教育職員及び事務職員等からなる教育研究を実施するための組織等を編成する。
２　本学は、前項の組織等を編成するにあたっては、教育研究活動等の運営が組織的かつ効果的に行われるよう、教育職員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在を明確にする。
３　第１項の組織等に関し必要な事項は、別に定める。
（授業科目の担当）
第９条の２　本学は、各教育課程上主要と認める授業科目（以下「主要授業科目」という。）については原則として基幹教員（教育編成その他の学部の運営について責任を担う教育職員（助手を除く。）であって、当該学部の教育課程に係る主要授業科目を担当するもの（専ら本学の教育研究に従事するものに限る。）又は１年につき８単位以上の当該学部の教育課程に係る授業科目を担当するものをいう。以下同じ。）に、主要授業科目以外の授業科目についてはなるべく基幹教員に担当させるものとする。
２　本学は、各授業科目について、当該授業科目を担当する教育職員以外の教育職員、学生その他の大学が定める者（以下「指導補助者」という。）に補助させることができ、また、十分な教育効果を上げることができると認められる場合は、当該授業科目を担当する教育職員の指導計画に基づき、指導補助者に授業の一部を分担させることができる。
３　教育研究上必要があるときは、授業を担当しない教育職員を置くことがある。
４　基幹教員に関し必要な事項は、別に定める。
（職員）
第９条の３　本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員その他必要な職員を置く。
２　職員の職務は、学校教育法その他法令に定めるもののほか、別に定めるところによる。
（組織的な研修等）
第９条の４　本学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教育職員及び事務職員等に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（次項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。
２　本学は、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行うものとする。
３　本学は、指導補助者（教育職員を除く。）に対し、必要な研修を行うものとする。
（教学協議会）
第10条　本学に本学の教学に関する重要事項を審議するため、教学協議会を置く。
２　教学協議会の構成員、審議事項その他教学協議会に関し必要な事項は、別に定める。
（教授会）
第11条　本学の各学部に教授会を置く。
２　教授会の構成員、審議事項その他教授会に関し必要な事項は、別に定める。

（学長による決定）
第11条の２　学長は、本学の教育研究に関する重要な事項について、教授会等の審議を経て、最終的な決定を行う。

第２章　履　　修

第１節　　修業年限、学年、学期及び休業日

（修業年限）
第12条　修業年限は、４年とする。ただし、医学部医学科及び薬学部については、６年とする。
２　第49条に基づく科目等履修生が本学における授業科目の単位を修得し、その後に本学に入学した場合、教授会は、第33条の３の規定により本学における授業科目の単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認めるときに、その単位数等に応じて、相当期間を修業年限の２分の１を超えない範囲で修業年限に通算することができる。
３　前項の規定は、第49条に基づく科目等履修生が本学において第33条第２項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目を修了した場合に、これを準用する。
４　前２項の規定は、再入学の場合に、これを準用する。
（在学年限）
第12条の２　学生は、８年を超えて在学することができない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、12年を超えて在学することができない。
２　前項の規定のほか、医学部医学科及び薬学部については、同一学年に在学できる年数は２年を限度とする。ただし、医学部医学科にあっては、同一学年に２年在学した後に退学し又は除籍された者が、退学し又は除籍された学年への再入学を許可された場合には、再入学を許可された学年に限り、さらに１年を限度として在学することができる。
（学年）
第13条　学年は４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。
（学期）
第14条　学年を２期に分け、学年の始めから９月13日までを前期とし、９月14日から学年の終わりまでを後期とする。
（１年間の授業期間）
第14条の２　１年間の授業を行う期間は、35週にわたることを原則とする。
（各授業科目の授業期間）
第14条の３　各授業科目の授業は、15週又は30週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上必要があり、かつ、十分な教育効果をあげることができると認められる場合は、この限りでない。
（休業日）
第15条　休業日は、次のとおりとする。
⑴　日曜日
⑵　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
⑶　春季休業　４月１日から４月７日まで
⑷　夏季休業　８月４日から９月13日まで
⑸　冬季休業　12月27日から翌年１月４日まで
２　学長は、教授会の議を経て前項に定める休業日を変更することができる。
３　第１項に定めるほか、学長は特に必要があると認めるときは、臨時の休業日を定めることができる。
４　第１項に定める休業日であっても、教授会が教育上必要と認める場合には、学長は、教務委員会の議を経て、授業を行うことを決定することができる。

第２節　定員、入学、転入学、編入学、転部・転科、留学、休学、退学、除籍、復学及び再入学

（入学の時期）

第16条　入学を許可する時期は、学年の始めとする。

（入学定員及び収容定員）

第17条　本学の学部及び学科の入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学　部	学　科	入学定員（人）	収容定員（人）
人文学部	文化学科	100	400
	歴史学科	70	280
	日本語日本文学科	70	280
	教育・臨床心理学科	110	440
	英語学科	90	360
	ドイツ語学科	50	200
	フランス語学科	50	200
	東アジア地域言語学科	65	260
	計	605	2,420
法学部	法律学科	430	1,720
	経営法学科	200	800
	計	630	2,520
経済学部	経済学科	460	1,840
	産業経済学科	200	800
	計	660	2,640
商学部	商学科	245	980
	経営学科	240	960
	貿易学科	180	720
	計	665	2,660
商学部第二部	商学科	165	660
理学部	応用数学科	65	260
	物理科学科	60	240
	化学科	65	260
	地球圏科学科	60	240
	計	250	1,000
工学部	機械工学科	110	440
	電気工学科	110	440
	電子情報工学科	150	600
	化学システム工学科	110	440
	社会デザイン工学科	110	440
	建築学科	110	440
	計	700	2,800
医学部	医学科	110	660
	看護学科	110	440
	計	220	1,100
薬学部	薬学科	230	1,380
スポーツ科学部	スポーツ科学科	225	900
	健康運動科学科	70	280
	計	295	1,180
合　計		4,420	18,360

（入学資格）
第18条　本学に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　高等学校又は中等教育学校を卒業した者
⑵　通常の課程による12年の学校教育を修了した者
⑶　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
2　入学願書提出の年の３月末日までに前項の資格を得る見込みの者は、当該学校長の提出する調査書又はその資格を証明する書類を添えて出願することができる。
（入学の志願）
第19条　入学を志願する者は、本学所定の入学願書及び入学試験に必要な提出書類に別表第11の⑴に定める入学検定料を添えて所定の期日までに学長に提出しなければならない。
2　既に納入した入学検定料は、これを返還しない。
（入学者選抜）
第20条　入学者の選抜は、第１条第３項第３号の規定により本学が定める方針に基づき、公正かつ妥当な方法により、適切な体制を整えて行うものとする。
（入学手続）
第21条　合格の通知を受けた者は、本学の承認する保証人連署の入学誓書及び所定の書類に授業料等納入金（新入生にあっては入学金及び第１期分の納入金）を添えて、所定の期日までに学長に提出しなければならない。ただし、本学の留学生別科を修了し入学する者の入学金については、留学生別科入学時の入学金相当額を免除する。
2　学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。
3　正当な理由なくして第１項の手続を怠る者は、入学を許可しない。
4　入学手続完了後において、やむを得ず入学を辞退する場合、別に定める期日までに入学辞退届を学長に提出し受理された者に限り、入学金以外の授業料等納入金を返還することができる。
（転入学）
第22条　本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転入学を許可することがある。
2　本学に転入学することができる者は、他の大学に２年以上在学し、本学の定める単位数を修得している者とする。
3　転入学の時期は、学年始又は学期始とし、本人の既修の授業科目及び単位・時間数並びに在学年数については、その一部又は全部を本学において認定し、今後履修すべき授業科目及び単位・時間数並びに在学年数を決定する。
（編入学）
第23条　本学に編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、編入学を許可することがある。
2　本学に編入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
⑴　学士の学位を有する者
⑵　短期大学又は高等専門学校を卒業した者
⑶　専修学校の専門課程（文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者
3　編入学の時期並びに履修すべき授業科目、単位・時間数及び在学年限については、前条の規定に準ずる。
（転部・転科）
第23条の２　学生が他の学部に転部を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転部を許可することがある。
2　学生が当該学部の他学科に転科を志願するときは、欠員のある場合に限り、選考の上、学長は、転科を許可することがある。
3　転部・転科に関する規程は、別に定める。

（転学）
第24条　学生が他の大学に転学するときは、学長に届け出るものとする。
（留学）
第24条の２　学生が外国の大学又は外国の短期大学に留学しようとするときは、学長は教授会の議を経てこれを許可することができる。
２　前項の許可を得て留学した期間は、本学の修業年限に算入することができる。
３　留学に関し必要な事項については、別に定める。
（休学）
第25条　学生が病気その他のやむを得ない理由で長期にわたり欠席しようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、休学することができる。ただし、入学年度の前期については、原則として休学することができない。
２　休学の１期間は、当該年度内の前期、後期又は１年間とする。ただし、医学部医学科及び薬学部は、原則として当該年度１年間とする。
３　休学の開始の時期は、前期又は後期の始めとする。
４　休学は、通算して４年を超えることができない。
５　休学期間は、在学期間に算入しない。
６　学生が疾病その他のやむを得ない事由により療養の必要ありと認められるときは、学長は、教授会の議を経て、これに休学を命ずることがある。
７　休学している者は、休学期間満了までに復学、休学又は退学のいずれかの所定の手続をしなければならない。
（復学）
第26条　休学している者が復学をしようとするときは、保証人連署をもって、所定の期日までに学長に届け出て、復学することができる。
２　復学の時期は、学期の始めとする。
（退学）
第27条　学生が退学しようとするときは、その理由を具し、保証人連署をもって、学長に届け出るものとする。
（除籍）
第28条　学長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して除籍を行う。
⑴　第42条の定めるところにより、授業料等納入金を納入しない者
⑵　成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
⑶　正当の理由がなく、出席が常でない者
⑷　死亡した者
⑸　休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続も行わない者
（再入学）
第29条　本学を退学した者が再入学を願い出たときは、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。
２　再入学を願い出た者には、必要に応じて学力検査、面接を行う。
３　前２項の規定は、除籍された者が再入学を願い出た場合に、これを準用する。
４　前３項に基づく再入学の取扱いについては、別にこれを定める。

第３節　教 育 課 程 等

第１款　教育課程

（教育課程の編成方針）
第30条　教育課程の編成は、第１条第３項第１号及び第２号の規定により定める卒業認定及び学位の授与の方針並びに教育課程の編成及び実施に関する方針に基づき、必要な授業科目を開設し、体系的に行うものとする。

2　教育課程の編成にあたっては、学部等の専攻分野に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

（教育課程）

第31条　学部・学科の授業科目及び単位・時間数は、別表第１から別表第10までに定めるとおりとする。

2　前項の規定により掲げる授業科目のほかに学部留学生の授業科目として日本語（８単位）を置く

3　第１項のほかに自由履修単位として換算できる授業科目は、次のうちから学部が指定するものとする。

⑴　共通教育科目又は専門教育科目のうち、卒業に必要な単位数を超えて修得した科目

⑵　関連教育科目

⑶　その他、教授会が適当と認める科目

4　第１項及び第２項に定める授業科目のほかに随意科目を設けることができる。随意科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

5　第１項、第２項及び前項に定める授業科目のほかに、人文学部、工学部及びスポーツ科学部にあっては大学院授業科目を、法学部にあっては法科大学院授業科目を設けることができる。大学院及び法科大学院授業科目については別に定め、卒業に必要な単位数に算入しない。

（単位）

第32条　各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、次条第１項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね15時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位として単位数を計算するものとする。

2　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（授業の方法）

第32条の２　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより、又はこれらの併用により行うものとする。

2　各学部が教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

（授業の計画等の明示等）

第32条の３　本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに１年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2　学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっては、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

（履修の方法）

第32条の４　学生は、第１条第３項第２号の規定により定める方針に基づき、所定の授業科目を履修しなければならない。

（授業科目の登録方法）

第32条の５　学生は、履修する授業科目について、毎学期所定の期間に登録しなければならない。

2　授業科目の登録については、別に定める。

（履修科目の登録できる単位数の上限）

第32条の６　学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１年間又１学期に履修科目として登録できる単位数の上限を定めるものとする。

2　前項の登録できる単位数の上限は、別に定める。

（他の大学等における授業科目の履修等）

第33条　学生が他の大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　前項の規定は、第24条の２の規定により留学する場合その他学生が外国の大学又は外国の短期大学において授業科目を履修する場合について、これを準用する。

（大学以外の教育施設等における学修）

第33条の２　学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他別に定める学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

（入学前の既修得単位等の認定）

第33条の３　学生が本学に入学する前に大学、専門職大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第31条又は短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）第17条の規定により修得した単位を含む。）を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2　学生が本学に入学する前に行った前条に規定する学修を、教育上有益と認めるときは、学長は、教授会の議を経て、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、本学において修得した単位以外のものについては、編入学及び転入学の場合を除き、第33条第１項及び前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4　前各項の規定は、外国の大学又は外国の短期大学を卒業し、又は退学した場合に、これを準用する。

（共通教育科目の認定等）

第33条の４　共通教育科目の授業科目について、第33条から前条までの規定を適用するときは、教授会に先立って、教務委員会の議を経るものとする。

（単位互換等の取扱い）

第33条の５　第33条から前条までに規定する単位数の取扱いのほか、同規定の適用を受ける学生の履修計画その他必要な事項については、別に定める。

（教職課程）

第33条の５の２　教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第５条、別表第１及び別表第２に基づいて教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得を目的として、本学に教職課程を置く。

2　教育職員の免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な授業科目（以下「教職課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、次の表に掲げる免許状の種類及び免許教科に応じ、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

教育職員免許法別表第１（第５条関係）

学部・学科の名称（正規の課程）		免許状の種類及び免許教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
人文学部	文化学科	社会	地理歴史 公民
	歴史学科		
	日本語日本文学科	国語	国語
	教育・臨床心理学科	社会	公民
	英語学科	外国語（英語）	外国語（英語）
	ドイツ語学科	外国語（ドイツ語）	外国語（ドイツ語）
	フランス語学科	外国語（フランス語）	外国語（フランス語）
	東アジア地域言語学科	外国語（中国語） 外国語（朝鮮語）	外国語（中国語） 外国語（朝鮮語）
法学部	法律学科	社会	地理歴史 公民
	経営法学科		
経済学部	経済学科	社会	地理歴史 公民 情報
	産業経済学科		

学部・学科の名称（正規の課程）		免許状の種類及び免許教科	
		中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
商学部	商学科		商業 情報
	経営学科		
	貿易学科	社会	地理歴史 公民
商学部第二部	商学科	社会	地理歴史 公民 商業 情報
理学部	応用数学科	数学	数学 情報
	物理科学科	理科	理科 情報
	化学科		理科
	地球圏科学科		
工学部	機械工学科		工業
	電気工学科		
	電子情報工学科		工業 情報
	化学システム工学科		工業
	社会デザイン工学科		
	建築学科		
医学部	看護学科		看護
スポーツ科学部	スポーツ科学科	保健体育	保健体育
	健康運動科学科		

教育職員免許法別表第２（第５条関係）

学部・学科の名称（正規の課程）		免許状の種類
医学部	看護学科	養護教諭１種免許状

（博物館学芸員課程）

第33条の５の３　博物館法（昭和26年法律第285号）第５条第１項第１号に基づいて学芸員となる資格の取得を目的として、本学に博物館学芸員課程を置く。

２　学芸員となる資格の取得に必要な授業科目（以下「博物館学芸員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、博物館法及び博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

（社会教育主事課程）

第33条の５の４　社会教育法（昭和24年法律第207号）第９条の４第１項第３号に基づいて社会教育主事となる資格の取得を目的として、本学に社会教育主事課程を置く。

２　社会教育主事となる資格の取得に必要な授業科目（以下「社会教育主事課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、社会教育法及び社会教育主事講習等規程（昭和26年文部省令第12号）の定めるところに従い、別にこれを定める。

（日本語教員課程）

第33条の５の５　日本語教育施設の運営に関する基準（昭和63年文部省制定）第11項第２号に基づいて日本語教育施設における教員の資格の取得を目的として、本学に日本語教員課程を置く。

２　日本語教育施設における教員の資格の取得に必要な授業科目（以下「日本語教員課程科目」という。）及び修得すべき単位等については、日本語教育施設の運営に関する基準の定めるところに従い、別にこれを定める。

第２款　卒業の要件

（卒業の要件）

第33条の５の６　卒業の要件は、第12条に規定する修業年限以上在学し、かつ、福岡大学学科履修規程（以下「学科履修規程」という。）第４条の定めるところにより授業科目を履修した上で、必要な単位数を修得することとする。

２　前項の規定にかかわらず、人文学部又は法学部の学生の在学年数については、卒業の要件として当該学部の定める単位を優秀な成績で修得したと認められ、かつ、本学大学院へ進学する場合には、３年以上とする。

３　第１項の卒業に必要な単位数は、124単位以上（医学部医学科にあっては188単位以上、薬学部にあっては186単位以上）の範囲において、学部・学科別に第34条に定めるとおりとする。ただし、医学科の授業科目を履修する場合その他教育上必要と認められる場合は、修得すべき単位の一部について、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。

４　前項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、第32条の２第２項の授業の方法により修得する単位数は、60単位を超えないものとする。

（授業時間制をとる場合の特例）

第33条の５の７　前条第３項ただし書により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目に係る第32条第１項又は第35条の規定の適用については、第32条第１項中「単位数」とあるのは「授業時間数」と、第35条中「一の授業科目」とあるのは「授業科目」と、「単位を与えるものとする」とあるのは「修了を認定するものとする」とする。

２　授業時間数を定めた授業科目については、当該授業科目の授業時間数をこれに相当する単位数とみなして第33条第１項（同条第２項において準用する場合を含む。）、第33条の２第１項又は第33条の３第１項（同条第４項において準用する場合を含む。）若しくは第２項の規定を適用することができる。

（各学部の卒業要件単位数）

第34条　**人文学部各学科**の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。

⑴　**文化学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計44単位以上、専門教育科目合計72単位以上、自由履修単位12単位以上）

⑵　**歴史学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計76単位以上、自由履修単位12単位以上）

⑶　**日本語日本文学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計76単位以上、自由履修単位12単位以上）

⑷　**教育・臨床心理学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計66単位以上、自由履修単位22単位以上）

⑸　**英語学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計76単位以上、自由履修単位12単位以上）

⑹　**ドイツ語学科**　ドイツ語圏コースの学生は総計124単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計64単位以上、自由履修単位20単位以上）、ヨーロッパ特別コースの学生は総計124単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計68単位以上、自由履修単位16単位以上）

⑺　**フランス語学科**　フランス語圏コースの学生は総計124単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計64単位以上、自由履修単位20単位以上）、ヨーロッパ特別コースの学生は総計124単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計68単位以上、自由履修単位16単位以上）

⑻　**東アジア地域言語学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計40単位以上、専門教育科目合計70単位以上、自由履修単位18単位以上）

２　**法学部**の学生は、総計124単位以上（共通教育科目合計26単位以上、専門教育科目合計72単位以上、自由履修単位26単位以上）を修得しなければならない。

３　**経済学部**各学科の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。

⑴　**経済学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計32単位以上、専門教育科目合計76単位以上、自由履修単位20単位以上）

⑵ **産業経済学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計32単位以上、専門教育科目合計66単位以上、自由履修単位30単位以上）

4　**商学部**の学生は、総計128単位以上（共通教育科目合計34単位以上、専門教育科目合計72単位以上、自由履修単位22単位以上）を修得しなければならない。

5　**商学部第二部**の学生は、総計124単位以上（共通教育科目合計33単位以上、専門教育科目合計60単位以上、自由履修単位31単位以上）を修得しなければならない。

6　**理学部**各学科の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。

⑴ **応用数学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門教育科目合計82単位以上、自由履修単位18単位以上）

⑵ **物理科学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門教育科目合計86単位以上、自由履修単位14単位以上）

⑶ **化学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門教育科目合計84単位以上、自由履修単位16単位以上）

⑷ **地球圏科学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門教育科目合計84単位以上、自由履修単位16単位以上）

7　**工学部**各学科の学生が修得しなければならない単位数は、次のとおりとする。ただし、共通教育科目の単位互換科目については、その修得単位を卒業及び学科履修規程第６条の６に規定する必要な修得単位数に算入しない。

⑴ **機械工学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計24単位以上、専門教育科目合計80単位以上）

⑵ **電気工学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計20単位以上、専門教育科目合計84単位以上）

⑶ **電子情報工学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計18単位以上、専門教育科目合計86単位以上）

⑷ **化学システム工学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計32単位以上、専門教育科目合計72単位以上）

⑸ **社会デザイン工学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計18単位以上、専門教育科目合計86単位以上）

⑹ **建築学科**　総計128単位以上（共通教育科目合計24単位以上、工学共通科目合計18単位以上、専門教育科目合計86単位以上）

8　**医学部医学科**の学生は、次に掲げる要件を満たしていなければ進級し、卒業することができない。

⑴ 各学年においては、当該学年の専門教育科目の全授業科目の単位又は時間数を修得していること。

⑵ 第４学年及び第６学年においては、前号の要件に加え、全国共用試験において一定以上の成績を修めていること。

9　**医学部**各学科の学生が修得しなければならない単位数、時間数は次のとおりとする。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業及び進級に必要な修得単位数に算入しない。

⑴ **医学科**　総計50単位以上（共通教育科目合計32単位以上、専門教育科目18単位以上）及び4,047時間

⑵ **看護学科**　総計125単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門基礎科目合計27単位以上、専門教育科目合計70単位以上）

10　**薬学部**の学生は、総計186単位以上（共通教育科目合計28単位以上、専門教育科目合計158単位以上）を修得しなければならない。

11　**スポーツ科学部**の学生は、総計124単位以上（共通教育科目合計32単位以上、専門教育科目合計82単位以上、自由履修単位10単位以上）を修得しなければならない。ただし、単位互換科目については、その修得単位を卒業に必要な修得単位数に算入しない。

（学部留学生の卒業要件単位数）

第34条の２　学部留学生が第31条第２項の規定により設置する授業科目の単位を修得したときは、別に定

めるところにより、これを卒業に必要な単位数に算入することができる。

第４節　　学修の成果に係る評価及び卒業の認定

（評価及び単位の授与）

第35条　本学は、一の授業科目を履修した学生に対しては、試験又は別に定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与える。

２　前項の評価は、60点以上を合格、59点以下を不合格とし、合格となった授業科目について所定の単位を与えるものとする。

（試験）

第36条　試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

２　定期試験は、各学期末にこれを行う。ただし、医学部医学科の時間制の授業科目について所定の期日に行う場合も同様に取り扱う。

３　追試験は、病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けることのできなかった者に対しては、福岡大学成績考査規程（以下「成績考査規程」という。）の定めるところによりこれを行う。

４　再試験は、第２年次生（理学部の学生に限る。）及び第４年次以上の卒業見込者並びに医学部及び薬学部の学生に対しては、成績考査規程の定めるところにより、不合格科目につきこれを行う。

５　前各項に定める試験の実施及び成績の評価に関し必要な事項は、別に定める。

（卒業の認定）

第37条　卒業の認定は、第33条の５の６の要件を満たした者に対し、教授会の議を経て、学長が行う。

（学位の授与）

第38条　学長は、前条の規定により卒業の認定をした者に対し、学士の学位を授与する。

２　学位記の様式は別に定め、卒業証書を兼ねるものとする。

第39条　削除

第５節　　賞　　罰

（表彰）

第40条　学業成績並びに品行の特に優秀な者、その他業績顕著な者は、これを表彰することがある。

（懲戒）

第41条　本学の規則に違反し、学内の秩序を乱し、又は学生の本分に反する者は、学長が定める手続に基づき、これを懲戒する。

２　前項の規定による懲戒は、訓告、停学及び退学とする。ただし、退学は、次の各号のいずれかに該当する者に対してこれを行うことができる。

⑴　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

⑵　大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第６節　　授業料その他諸納入金

（授業料等納入金）

第42条　学生は、別に定める期日までに、別表第11の⑵に定める授業料等納入金を納入しなければならない。

２　前項の規定にかかわらず、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）の定めるところに従い、特に優れた者であって経済的理由により極めて修学に困難があると認められるものとして認定を受けた学生（以下「修学支援学生」という。）が所定の授業料等納入金を納入したときは、前項の納入を行ったものとみなす。

３　授業料等納入金に関する細部については、別に定める。

（受講料）

第43条　次の各号に掲げる授業科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目を履修する者は、別表第12に定めるところに従い、受講料を納入しなければならない。

⑴　教職課程科目
⑵　博物館学芸員課程科目
⑶　社会教育主事課程科目
⑷　日本語教員課程科目
2　前項の規定にかかわらず、博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科に関して学則第31条の規定により定められている場合において、その受講料を免除する。
3　前２項の規定にかかわらず、科目等履修生として第１項各号に掲げる授業科目を履修する者は、別表第13に定めるところに従い、受講料を納入するものとする。
4　受講料に関する細部については、別に定める。
（実習費・研修費等）
第44条　実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目を履修する者は、別に定めるところに従い、実習・研修費等としてこれら諸費用を納入しなければならない。
第45条から第47条まで　削除
（授業料等納入金の減免）
第48条　特殊の事情ある学生に対しては、その事情により授業料等納入金の減免を行うことがある。
2　前項に規定する学生及び修学支援学生に対する授業料等納入金の減免に関し必要な事項は、別に定める。

第７節　　科目等履修生、研究生、特別聴講学生及び外国人留学生

（科目等履修生）
第49条　本学において、特定の授業科目を受講することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、科目等履修生として受入れを許可することができる。
2　科目等履修生の受講料等については、別表第13に定める。
3　科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。
（研究生）
第50条　本学において、特定の専門事項について研究することを志願する者があるときは、学長は、選考の上、研究生として受入れを許可することができる。
2　研究生の受講料等については、別表第13に定める。
3　研究生に関し必要な事項は、別に定める。
（特別聴講学生）
第51条　他の大学又は短期大学の学生で、本学において授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学生として受け入れることができる。
2　特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。
（外国人留学生）
第52条　外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は、選考の上、外国人留学生として受入れを許可することができる。
2　外国人留学生に関し必要な事項は、別に定める。
第53条　削除

第８節　　公　開　講　座

（公開講座）
第54条　本学における教育研究を広く社会に開放し、文化の向上に資するため、本学に公開講座を開設することができる。
2　公開講座に関し必要な事項については、別に定める。

第９節　厚　生　施　設

（厚生施設）

第55条　本学に厚生施設として学生寮その他の施設を置く。

２　前項の厚生施設に関する規程は、別にこれを定める。

附　則

この学則は、令和７年４月１日から施行する。

別表第１～10　略

別表第11　入学検定料及び授業料等納入金

⑴　入学検定料（第19条第１項）

（略）

⑵　授業料等納入金（第21条第１項・第42条）

（平成31年度入学以降）

（単位　円）

区分（年額） / 学部		入学金	特別教育充実費	計	毎年納付金		計
					授業料	教育充実費	
人文学部 法学部 経済学部 商学部		190,000		190,000	730,000	180,000	910,000
商学部第二部		60,000		60,000	310,000	80,000	390,000
理学部 工学部		240,000		240,000	1,000,000	380,000	1,380,000
医学部	医学科	1,000,000	3,000,000	4,000,000	3,912,000	688,000	4,600,000
	看護学科	270,000		270,000	1,040,000	470,000	1,510,000
薬学部		400,000		400,000	1,350,000	290,000	1,640,000
スポーツ科学部		300,000		300,000	800,000	350,000	1,150,000

備考

1　この表にかかわらず、平成31年３月31日以前に入学し引続き在学する者にかかる授業料等納入金については、なお従前の例による。

2　入学金については、入学時に限り納入すべき額とする。ただし、第21条第１項ただし書の規定に該当し、その適用を受ける者については、この限りではない。

3　特別教育充実費については、入学初年度（１年次）から３年次までの各年次において納入すべき額とする。

4　薬学部の教育充実費については、入学初年度（１年次）に納入すべき額とし、２年次から６年次までの各学年において720,000円を納入しなければならない。

5　第42条第２項に定める修学支援学生の所定の授業料等納入金は、当該各学生につき、別に定める額とする。

別表第12　その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料（第43条第１項）

⑴　教職課程科目

受講料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない教職課程科目	全科目につき　36,000円

※　当該授業科目を博物館学芸員課程科目又は社会教育主事課程科目としてのみ履修する場合については、⑵を適用する。

⑵　博物館学芸員課程科目及び社会教育主事課程科目

受講料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない博物館学芸員課程科目	全科目につき　12,000円
	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない社会教育主事課程科目	全科目につき　16,000円

※　博物館学芸員課程科目を履修する者については、当該授業科目がその所属する学部のいずれかの学科において、第31条の規定により定められているときは、その授業科目の受講料を免除する。

⑶　日本語教員課程科目

受講料	その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない日本語教員課程科目	１単位につき　1,000円

別表第13　科目等履修生及び研究生の受講料等（第43条第３項・第49条第２項・第50条第２項）

⑴　単位又は授業時間の認定を必要とする科目等履修生

選　考　料			15,000円
受　講　料	第31条の規定により、理学部、工学部、医学部看護学科又は薬学部の専門教育科目（工学部については、工学共通科目を、医学部看護学科については、専門基礎科目を含む。）としてのみ定められている授業科目		１単位につき　18,000円
	第31条の規定により、医学部医学科の専門教育科目としてのみ定められている授業科目		１単位につき又は15時間につき　40,000円
	第31条の規定により定められている上記以外の授業科目		１単位につき　12,000円
	第31条の規定により、商学部第二部の専門教育科目のうち別に定められている授業科目		20単位まで　110,000円
	第31条の規定により定められていない授業科目	本学の卒業者	１単位につき　7,000円
		その他	１単位につき　12,000円

⑵　単位の認定を必要としない科目等履修生

選　考　料		15,000円
受　講　料	第31条の規定により定められている授業科目（医学部医学科を除く。）	１単位につき　9,000円

⑶　研究生

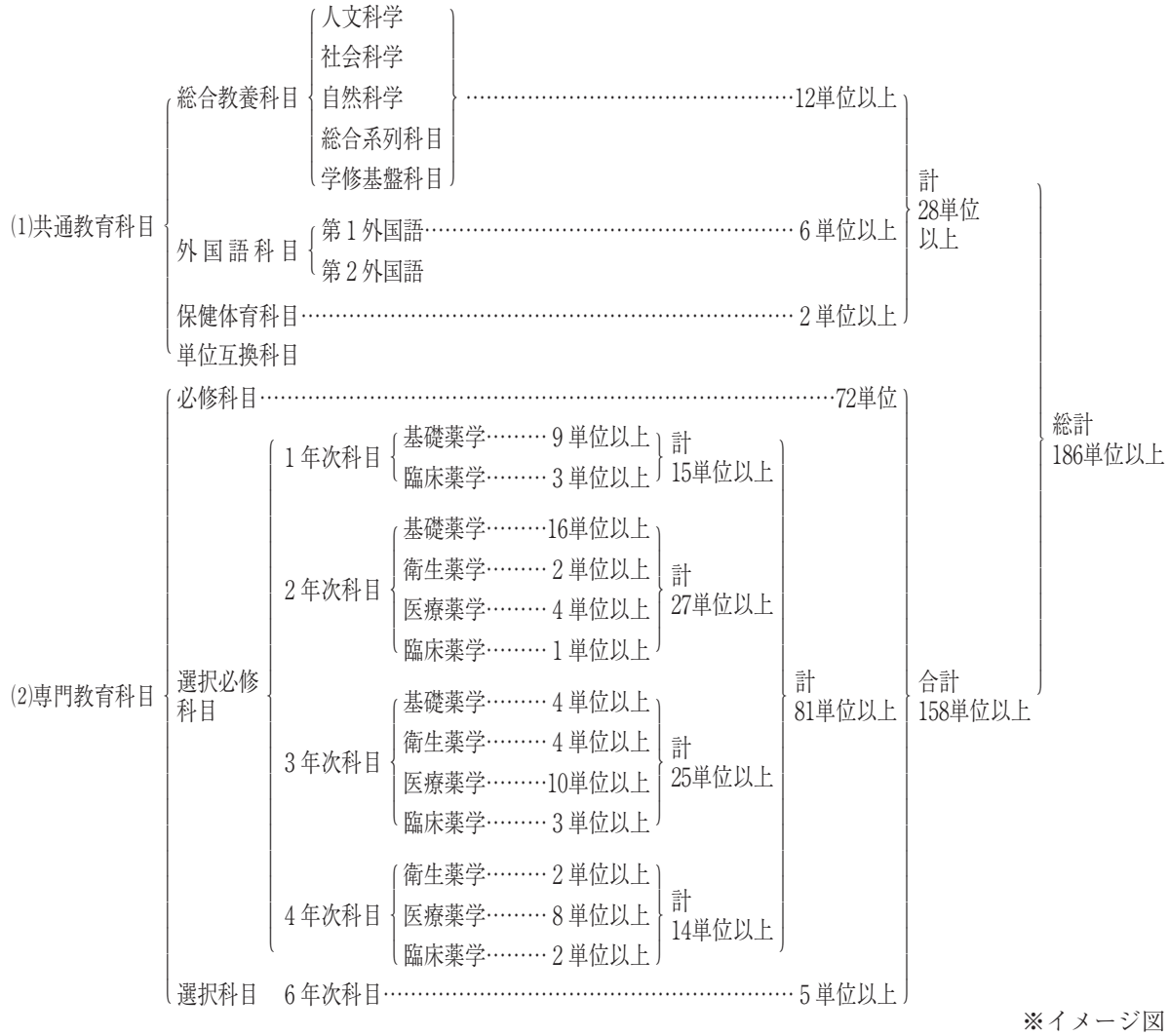
選　考　料	医学部医学科	20,000円
	その他の学部・学科	15,000円
研究指導料	全学部・学科	月額　15,000円

授業科目の履修等について

福岡大学学科履修規程　第２条（抜粋）

令和７年度入学生（25台）

９　**薬学部（薬学科）**の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

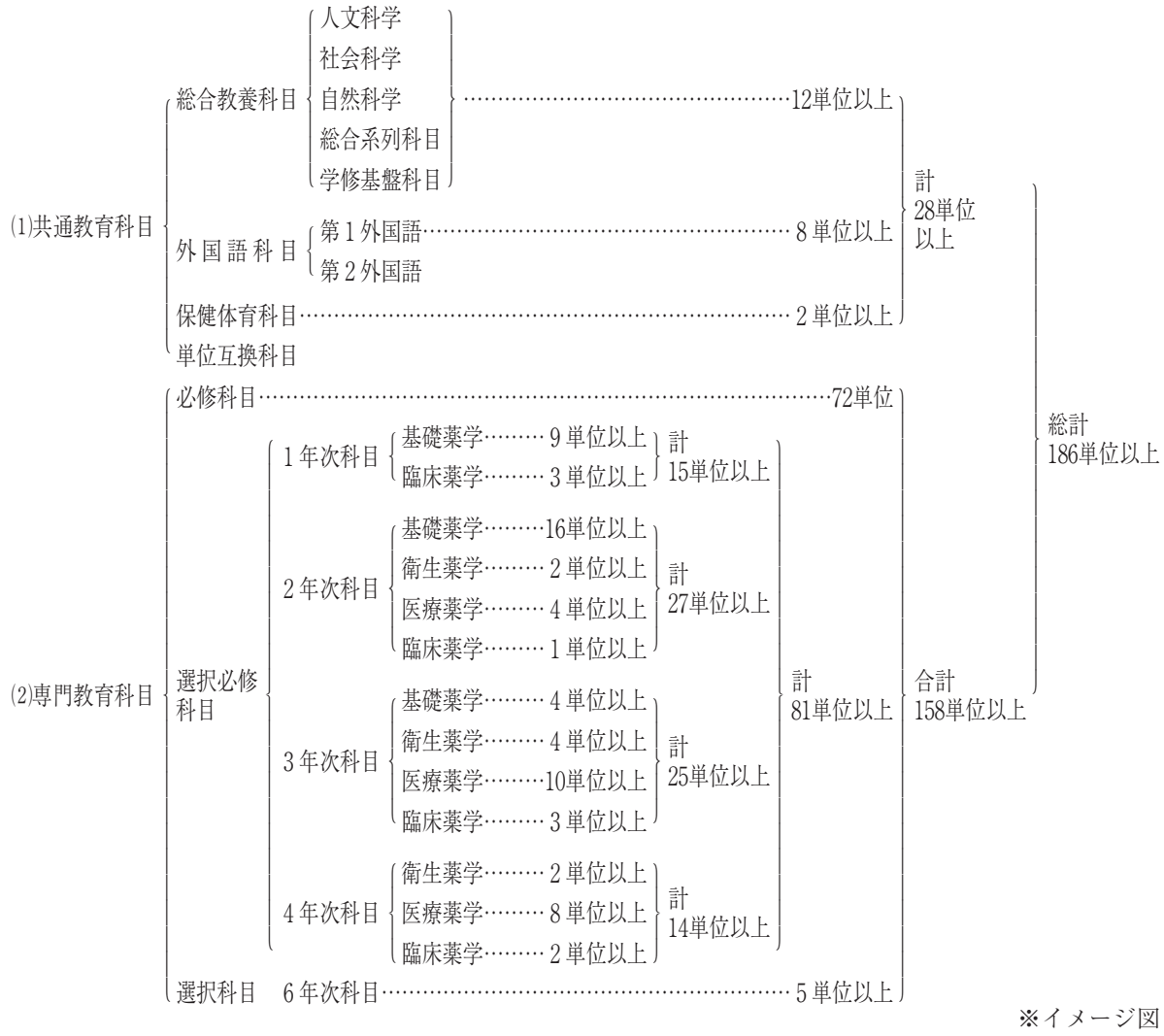


※イメージ図

（注）　１．薬学部の学生は、学科において指定された科目を履修するものとする。（年次別授業科目表参照）
２．薬学部の学生は、所定の授業科目を履修し、卒業試験に合格しなければならない。また、この卒業試験の取り扱いについては、別にこれを定める。

令和 6 年度入学生（24台）

9　**薬学部（薬学科）**の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

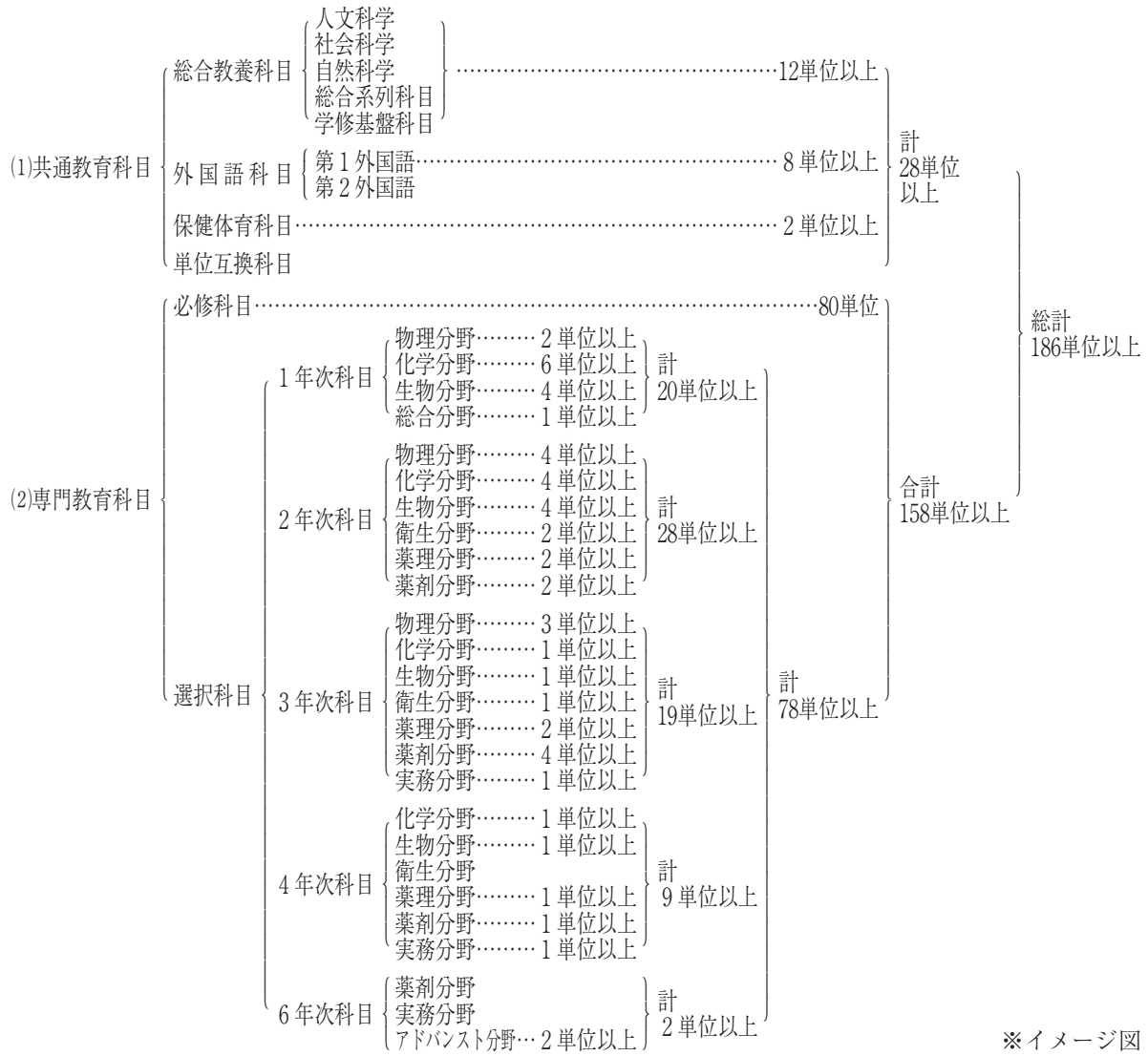


※イメージ図

（注）　1．薬学部の学生は、学科において指定された科目を履修するものとする。（年次別授業科目表参照）
2．薬学部の学生は、所定の授業科目を履修し、卒業試験に合格しなければならない。また、この卒業試験の取り扱いについては、別にこれを定める。

平成27～31年度・令和２～５年度入学生（15～23台）

9　**薬学部（薬学科）**の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）



※イメージ図

（注）　１．薬学部の学生は、学科において指定された科目を履修するものとする。（年次別授業科目表参照）
　　２．薬学部の学生は、所定の授業科目を履修し、卒業試験に合格しなければならない。また、この卒業試験の取り扱いについては、別にこれを定める。

年次別授業科目表（学科履修規程 第４条 別表）

令和７年度入学生（25台）

薬学部 **薬学科**

※印は必修

			第１・２・３年次						第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A 2 論理学B 2 宗教学A 2 日本史B 2 西洋史A 2 日本文学B 2 西洋文学A 2 芸術B 2		哲学B 2 倫理学A 2 宗教学B 2 東洋史A 2 西洋史B 2 アジアの文学A 2 西洋文学B 2		論理学A 2 倫理学B 2 日本史A 2 東洋史B 2 日本文学A 2 アジアの文学B 2 芸術A 2							
		社会科学	法学A 2 政治学A 2 経済学B 2 社会学A 2 地理学B 2 文化人類学A 2		法学B 2 政治学B 2 商学A 2 社会学B 2 心理学A 2 文化人類学B 2		日本国憲法 2 経済学A 2 商学B 2 地理学A 2 心理学B 2							
		自然科学	統計入門 2 生物学実験 1		物理の世界 2		化学実験 1							
		総合系列科目	福岡大学で考える現代社会 2											
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか 2 アカデミックスキルズゼミⅡ 2		データサイエンス・AI入門 2		アカデミックスキルズゼミⅠ 2							

			第１年次		第２年次		第３年次		第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	外国語科目	第１	※Practical EnglishⅠ 1 ※Practical EnglishⅡ 1 ※Core EnglishⅠ 1 ※Core EnglishⅡ 1		※Practical EnglishⅢ 1 ※Core EnglishⅢ 1 Advanced EnglishⅠ 1 Advanced EnglishⅡ 1 海外英語研修 2									
		第２	ドイツ語ⅠA 2 ドイツ語ⅠB 2 フランス語ⅠA 2 フランス語ⅠB 2 中国語ⅠA 2 中国語ⅠB 2 ロシア語ⅠA 2 ロシア語ⅠB 2 スペイン語ⅠA 2 スペイン語ⅠB 2 朝鮮語ⅠA 2 朝鮮語ⅠB 2		ドイツ語ⅡA 2 ドイツ語ⅡB 2 フランス語ⅡA 2 フランス語ⅡB 2 中国語ⅡA 2 中国語ⅡB 2 ロシア語ⅡA 2 ロシア語ⅡB 2 スペイン語ⅡA 2 スペイン語ⅡB 2 朝鮮語ⅡA 2 朝鮮語ⅡB 2							
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ 1		※生涯スポーツ演習Ⅱ 1 生涯スポーツ演習Ⅲ 1 生涯スポーツ演習Ⅳ 1 生涯スポーツ論 2									
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	必修科目	薬学情報処理リテラシー演習 1											
		選択必修科目 基礎薬学	薬学物理化学入門 2 薬学化学入門 2 無機薬化学 2 有機薬化学Ⅰ 2 薬学生物学入門 2 機能形態学 2 解剖学演習 1											
		選択必修科目 臨床薬学	薬物治療学入門 2 腫瘍感染症薬学入門 2 薬剤師入門 2 早期臨床体験Ⅰ 1											
	2年次科目	必修科目			微生物学実習 1 生化学実習 1 薬品分析学実習 1 衛生化学実習 1 医療体験実習 1									
		選択必修科目 基礎薬学			薬学物理化学基礎 2 薬学物理化学応用 2 日本薬局方 2 分析化学Ⅰ 2 生薬・漢方薬学Ⅰ 2 生薬・漢方薬学Ⅱ 2 有機薬化学Ⅱ 2 有機薬化学Ⅲ 2 医薬品化学Ⅰ 2 生化学 2 免疫学 2									
		選択必修科目 衛生薬学			微生物学 2 疾患食品衛生学 2									
		選択必修科目 医療薬学			薬理・薬物治療学Ⅰ 2 放射性医薬品学 2 薬物動態学 2 医薬品情報学 2									
		選択必修科目 臨床薬学			患者アセスメント薬学演習 1 薬学英語演習 1 早期臨床体験Ⅱ 1									

（注） ○印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						機器分析学実習	1						
								薬化学実習	1						
								生薬・漢方薬学実習	1						
								医薬品化学実習	1						
								薬理学実習	1						
								薬学研究入門	2						
		選択必修科目	基礎薬学					分析化学Ⅱ	2						
								分析化学Ⅲ	2						
								天然物化学	2						
								医薬品化学Ⅱ	2						
								内分泌薬学	2						
			衛生薬学					公衆衛生学	2						
								薬毒物代謝学	2						
								感染症薬学	2						
			医療薬学					薬理・薬物治療学Ⅱ	2						
								薬理・薬物治療学Ⅲ	2						
								薬理・薬物治療学Ⅳ	2						
								物理薬剤学	2						
								製剤学	2						
								薬物動態解析学	2						
								医薬品安全性学	2						
			臨床薬学					臨床検査学	2						
								医薬品開発・経済学	2						
								コミュニケーション学演習Ⅰ	1						
		選択科目						○ファーマシスト実践演習Ⅰ	1						
	4年次科目	必修科目								薬事医事関係法規総合論Ⅰ	2				
										総合薬学特別講義Ⅰ	6				
										薬学研究Ⅰ	1				
										薬剤学実習	1				
										実務実習事前学習	3				
		選択必修科目	衛生薬学							環境衛生学	2				
										感染制御学演習	1				
										疫学研究演習	1				
			医療薬学							バイオ医薬品学	2				
										薬理・薬物治療学Ⅴ	2				
										薬理・薬物治療学Ⅵ	2				
										薬物送達学	2				
										臨床薬物動態学	2				
										薬学疾患管理学	2				
			臨床薬学							薬学臨床推論基礎	2				
										医薬品調剤・販売論	2				
										腫瘍薬学	2				
										個別化医療薬学演習	1				
	5年次科目	必修科目										実務実習	20		
												薬学研究Ⅱ	12		
		選択科目										○ファーマシスト実践演習Ⅱ	1		
												○ファーマシスト実践演習Ⅲ	1		
												○ファーマシスト実践演習Ⅳ	1		
	6年次科目	必修科目												薬事医事関係法規総合論Ⅱ	2
														総合薬学特別講義Ⅱ	10
														総合薬学演習	1
														薬学研究Ⅲ	1
		選択科目												先端治療学	2
														薬事行政論	2
														地域医療薬学	2
														薬学臨床推論応用	2
														薬物療法評価学	2
														臨床漢方薬学演習	1
														実務実習事後演習	1
														コミュニケーション学演習Ⅱ	1

（注） ○印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

令和６年度入学生（24台）

薬学部　**薬学科**

※印は必修

			第１・２・３年次						第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			論理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2						
			日本文学B	2	アジアの文学A	2	アジアの文学B	2						
			西洋文学A	2	西洋文学B	2	芸術A	2						
			芸術B	2										
		社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2						
			政治学A	2	政治学B	2	経済学A	2						
			経済学B	2	商学A	2	商学B	2						
			社会学A	2	社会学B	2	地理学A	2						
			地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2						
			文化人類学A	2	文化人類学B	2								
		自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
			生物学実験	1										
		総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2										
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	データサイエンス・AI入門	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2						
			アカデミックスキルズゼミⅡ	2										
			第１年次		第２年次		第３年次		第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
	外国語科目	第１	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1								
					海外英語研修	2								
		第２	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2								
			ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
			ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
			スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
			スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
			朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
			朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅲ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅳ	1								
					生涯スポーツ論	2								
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	必修科目	薬学情報処理リテラシー演習	1										
		選択必修科目 基礎薬学	薬学物理化学入門	2										
			薬学化学入門	2										
			無機薬化学	2										
			有機薬化学Ⅰ	2										
			薬学生物学入門	2										
			機能形態学	2										
			解剖学演習	1										
		選択必修科目 臨床薬学	薬物治療学入門	2										
			腫瘍感染症薬学入門	2										
			薬剤師入門	2										
			早期臨床体験Ⅰ	1										
	2年次科目	必修科目			微生物学実習	1								
					生化学実習	1								
					薬品分析学実習	1								
					衛生化学実習	1								
					医療体験実習	1								
		選択必修科目 基礎薬学			薬学物理化学基礎	2								
					薬学物理化学応用	2								
					日本薬局方	2								
					分析化学Ⅰ	2								
					生薬・漢方薬学Ⅰ	2								
					生薬・漢方薬学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅲ	2								
					医薬品化学Ⅰ	2								
					生化学	2								
					免疫学	2								
		選択必修科目 衛生薬学			微生物学	2								
					疾患食品衛生学	2								
		選択必修科目 医療薬学			薬理・薬物治療学Ⅰ	2								
					放射性医薬品学	2								
					薬物動態学	2								
					医薬品情報学	2								
		選択必修科目 臨床薬学			患者アセスメント薬学演習	1								
					薬学英語演習	1								
					早期臨床体験Ⅱ	1								

（注）　○印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						機器分析学実習	1						
								薬化学実習	1						
								生薬・漢方薬学実習	1						
								医薬品化学実習	1						
								薬理学実習	1						
								薬学研究入門	2						
		選択必修科目	基礎薬学					分析化学Ⅱ	2						
								分析化学Ⅲ	2						
								天然物化学	2						
								医薬品化学Ⅱ	2						
								内分泌薬学	2						
			衛生薬学					公衆衛生学	2						
								薬毒物代謝学	2						
								感染症薬学	2						
			医療薬学					薬理・薬物治療学Ⅱ	2						
								薬理・薬物治療学Ⅲ	2						
								薬理・薬物治療学Ⅳ	2						
								物理薬剤学	2						
								製剤学	2						
								薬物動態解析学	2						
								医薬品安全性学	2						
			臨床薬学					臨床検査学	2						
								医薬品開発・経済学	2						
								コミュニケーション学演習Ⅰ	1						
		選択科目						○がん疫学演習	1						
	4年次科目	必修科目								薬事医事関係法規総合論Ⅰ	2				
										総合薬学特別講義Ⅰ	6				
										薬学研究Ⅰ	1				
										薬剤学実習	1				
										実務実習事前学習	3				
		選択必修科目	衛生薬学							環境衛生学	2				
										感染制御学演習	1				
										疫学研究演習	1				
			医療薬学							バイオ医薬品学	2				
										薬理・薬物治療学Ⅴ	2				
										薬理・薬物治療学Ⅵ	2				
										薬物送達学	2				
										臨床薬物動態学	2				
										薬学疾患管理学	2				
			臨床薬学							薬学臨床推論基礎	2				
										医薬品調剤・販売論	2				
										腫瘍薬学	2				
										個別化医療薬学演習	1				
	5年次科目	必修科目										実務実習	20		
												薬学研究Ⅱ	12		
		選択科目										○がん緩和ケア演習	1		
												○がん治療管理学演習	1		
												○がん患者アセスメント演習	1		
	6年次科目	必修科目												薬事医事関係法規総合論Ⅱ	2
														総合薬学特別講義Ⅱ	10
														総合薬学演習	1
														薬学研究Ⅲ	1
		選択科目												先端治療学	2
														薬事行政論	2
														地域医療薬学	2
														薬学臨床推論応用	2
														薬物療法評価学	2
														臨床漢方薬学演習	1
														実務実習事後演習	1
														コミュニケーション学演習Ⅱ	1

（注） ○印の科目は、クリニカルファーマシスト養成プログラムの学生のみが履修することができる。

令和５年度入学生（23台）

薬学部　**薬学科**

※印は必修

			第１・２・３年次						第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			論理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2						
			日本文学B	2	アジアの文学A	2	アジアの文学B	2						
			西洋文学A	2	西洋文学B	2	芸術A	2						
			芸術B	2										
		社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2						
			政治学A	2	政治学B	2	経済学A	2						
			経済学B	2	商学A	2	商学B	2						
			社会学A	2	社会学B	2	地理学A	2						
			地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2						
			文化人類学A	2	文化人類学B	2								
		自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
			生物学実験	1										
		総合系列科目	福岡大学で考える現代社会	2										
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	データサイエンス・ＡＩ入門	2	アカデミックスキルズゼミⅠ	2						
			アカデミックスキルズゼミⅡ	2										

			第１年次		第２年次		第３年次		第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	外国語科目	第１	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1								
					海外英語研修	2								
		第２	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2								
			ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
			ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
			スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
			スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
			朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
			朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅲ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅳ	1								
					生涯スポーツ論	2								
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	１年次科目	選択科目 物理分野	薬学物理学入門	2										
			薬学計算法	2										
		化学分野	薬学化学入門	2										
			化学	2										
			有機薬化学Ⅰ	2										
			有機薬化学Ⅱ	2										
			天然医薬資源学	2										
		生物分野	薬学生物学入門	2										
			機能形態学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅱ	2										
		総合分野	薬学概論	1										
			早期臨床体験Ⅰ	2										
	２年次科目	必修科目			※物理系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅱ	1								
					※早期臨床体験Ⅱ	1								
		選択科目 物理分野			薬学物理化学Ⅰ	2								
					薬学物理化学Ⅱ	2								
					分析化学Ⅰ	2								
					分析化学Ⅱ	2								
		化学分野			生薬学Ⅰ	2								
					生薬学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅲ	2								
					有機薬化学Ⅳ	2								
		生物分野			人体生化学Ⅰ	2								
					人体生化学Ⅱ	2								
					微生物学	2								
					免疫学	2								
		衛生分野			食品栄養学	2								
					食品衛生学	2								
		薬理分野			機能形態学Ⅱ	2								
					疾患薬理学Ⅰ	2								
		薬剤分野			同位体化学	2								
					同位体医療薬学	2								

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						※物理系実習Ⅱ	1						
								※物理系実習Ⅲ	1						
								※化学系実習Ⅰ	1						
								※化学系実習Ⅱ	1						
								※化学系実習Ⅲ	1						
								※生物系実習Ⅲ	1						
								※生物系実習Ⅳ	1						
		選択科目	物理分野					薬学物理化学Ⅲ	1						
								薬学物理化学Ⅳ	1						
								日本薬局方Ⅰ	1						
								日本薬局方Ⅱ	1						
								分析化学Ⅲ	1						
								分析化学Ⅳ	1						
			化学分野					天然物化学	1						
								創薬化学Ⅰ	1						
								創薬化学Ⅱ	1						
			生物分野					感染症治療薬概論	1						
								人体機能調節学	1						
			衛生分野					環境衛生学Ⅰ	1						
								公衆衛生学	1						
			薬理分野					疾患薬理学Ⅱ	1						
								疾患薬理学Ⅲ	1						
								病態・薬物治療学Ⅰ	1						
								病態・薬物治療学Ⅱ	1						
			薬剤分野					物理薬剤学	1						
								製剤学	1						
								薬物動態理論	1						
								臨床薬物動態解析学	1						
								医薬品安全性学	1						
								医療情報学	1						
			実務分野					コミュニケーション学	1						
								医薬品開発・経済学	1						
	4年次科目	必修科目								※物理系薬学特別講義	1				
										※化学系薬学特別講義	1				
										※生物系薬学特別講義	1				
										※衛生薬学特別講義	1				
										※医療薬学特別講義Ⅰ	1				
										※医療薬学特別講義Ⅱ	1				
										※薬学演習(含薬学研究基礎)	2				
										※実務実習事前学習	4				
		選択科目	化学分野							漢方薬学概論	1				
										創薬化学Ⅲ	1				
			生物分野							遺伝子工学概論	1				
										臨床検査学	1				
			衛生分野							環境衛生学Ⅱ	1				
			薬理分野							病態・薬物治療学Ⅲ	1				
										病態・薬物治療学Ⅳ	1				
										疾患薬理学Ⅳ	1				
			薬剤分野							薬物送達学	1				
										臨床薬物動態学	1				
										薬学健康管理学	1				
										薬学疾患管理学	1				
			実務分野							薬事関係法規論	1				
										調剤学総論	1				
	5年次科目	必修科目										※実務実習	20		
												※薬学研究Ⅰ	12		
	6年次科目	必修科目												※薬学研究Ⅱ	1
														※物理系薬学総合講義	2
														※化学系薬学総合講義	2
														※生物系薬学総合講義	2
														※衛生薬学総合講義	2
														※臨床薬学総合講義Ⅰ	2
														※臨床薬学総合講義Ⅱ	2
														※医療薬学総合講義Ⅰ	2
														※医療薬学総合講義Ⅱ	2
														※医療薬学総合講義Ⅲ	2
														※医療薬学総合講義Ⅳ	2
														※薬事･医事関係法規総合講義	2
														※総合薬学演習(含卒業試験)	2
		選択科目	薬剤分野											薬科処方解析学	1
			実務分野											実務実習事後学習	1
			アドバンスト分野											臨床診療科概論	1
														薬剤師職能論	1
														今日の薬学研究	1
														薬学特別研究	1
														薬事行政論	1
														医薬品開発論	1

令和４年度入学生（22台）

薬学部　**薬学科**

※印は必修

			第１・２・３年次						第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			論理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2						
			日本文学B	2	アジアの文学A	2	アジアの文学B	2						
			西洋文学A	2	西洋文学B	2	芸術A	2						
			芸術B	2										
		社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2						
			政治学A	2	政治学B	2	経済学A	2						
			経済学B	2	商学A	2	商学B	2						
			社会学A	2	社会学B	2	地理学A	2						
			地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2						
			文化人類学A	2	文化人類学B	2								
		自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
			生物学実験	1										
		総合系列科目	地球環境	2	生命・健康と医療	2	国際化と日本	2						
			〔科学・技術・情報と社会	2〕	文化と教育	2	現代を生きる	2						
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2	データサイエンス・ＡＩ入門	2								

			第１年次		第２年次		第３年次		第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	外国語科目	第１	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1								
					海外英語研修	2								
		第２	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2								
			ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
			ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
			スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
			スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
			朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
			朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅲ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅳ	1								
					生涯スポーツ論	2								
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	１年次科目	選択科目 物理分野	薬学物理学入門	2										
			薬学計算法	2										
		化学分野	薬学化学入門	2										
			化学	2										
			有機薬化学Ⅰ	2										
			有機薬化学Ⅱ	2										
			天然医薬資源学	2										
		生物分野	薬学生物学入門	2										
			機能形態学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅱ	2										
		総合分野	薬学概論	1										
			早期臨床体験Ⅰ	2										
	２年次科目	必修科目			※物理系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅱ	1								
					※早期臨床体験Ⅱ	1								
		選択科目 物理分野			薬学物理化学Ⅰ	2								
					薬学物理化学Ⅱ	2								
					分析化学Ⅰ	2								
					分析化学Ⅱ	2								
		化学分野			生薬学Ⅰ	2								
					生薬学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅲ	2								
					有機薬化学Ⅳ	2								
		生物分野			人体生化学Ⅰ	2								
					人体生化学Ⅱ	2								
					微生物学	2								
					免疫学	2								
		衛生分野			食品栄養学	2								
					食品衛生学	2								
		薬理分野			機能形態学Ⅱ	2								
					疾患薬理学Ⅰ	2								
		薬剤分野			同位体化学	2								
					同位体医療薬学	2								

（注）〔　〕内は今年度休講。

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						※物理系実習Ⅱ ※物理系実習Ⅲ ※化学系実習Ⅰ ※化学系実習Ⅱ ※化学系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅳ	1 1 1 1 1 1 1						
		選択科目	物理分野					薬学物理化学Ⅲ 薬学物理化学Ⅳ 日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ	1 1 1 1 1 1						
			化学分野					天然物化学 創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	1 1 1						
			生物分野					感染症治療薬概論 人体機能調節学	1 1						
			衛生分野					環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学	1 1						
			薬理分野					疾患薬理学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	1 1 1 1						
			薬剤分野					物理薬剤学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学 医薬品安全性学 医療情報学	1 1 1 1 1 1						
			実務分野					コミュニケーション学 医薬品開発・経済学	1 1						
	4年次科目	必修科目								※物理系薬学特別講義 ※化学系薬学特別講義 ※生物系薬学特別講義 ※衛生薬学特別講義 ※医療薬学特別講義Ⅰ ※医療薬学特別講義Ⅱ ※薬学演習(含薬学研究基礎) ※実務実習事前学習	1 1 1 1 1 1 2 4				
		選択科目	化学分野							漢方薬学概論 創薬化学Ⅲ	1 1				
			生物分野							遺伝子工学概論 臨床検査学	1 1				
			衛生分野							環境衛生学Ⅱ	1				
			薬理分野							病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 疾患薬理学Ⅳ	1 1 1				
			薬剤分野							薬物送達学 臨床薬物動態学 薬学健康管理学 薬学疾患管理学	1 1 1 1				
			実務分野							薬事関係法規論 調剤学総論	1 1				
	5年次科目	必修科目										※実務実習 ※薬学研究Ⅰ	20 12		
	6年次科目	必修科目												※薬学研究Ⅱ ※物理系薬学総合講義 ※化学系薬学総合講義 ※生物系薬学総合講義 ※衛生薬学総合講義 ※臨床薬学総合講義Ⅰ ※臨床薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅰ ※医療薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅲ ※医療薬学総合講義Ⅳ ※薬事・医事関係法規総合講義 ※総合薬学演習(含卒業試験)	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		選択科目	薬剤分野											薬科処方解析学	1
			実務分野											実務実習事後学習	1
			アドバンスト分野											臨床診療科概論 薬剤師職能論 今日の薬学研究 薬学特別研究 薬事行政論 医薬品開発論	1 1 1 1 1 1

平成31年度・令和２～３年度入学生（19～21台）

薬学部　**薬学科**

※印は必修

			第１・２・３年次						第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			論理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2						
			日本文学B	2	アジアの文学A	2	アジアの文学B	2						
			西洋文学A	2	西洋文学B	2	芸術A	2						
			芸術B	2										
		社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2						
			政治学A	2	政治学B	2	経済学A	2						
			経済学B	2	商学A	2	商学B	2						
			社会学A	2	社会学B	2	地理学A	2						
			地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2						
			文化人類学A	2	文化人類学B	2								
		自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
			生物学実験	1										
		総合系列科目	地球環境	2	生命・健康と医療	2	国際化と日本	2						
			〔科学・技術・情報と社会	2〕	文化と教育	2	現代を生きる	2						
		学修基盤科目	福岡大学を学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2										

			第１年次		第２年次		第３年次		第４年次		第５年次		第６年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	外国語科目	第１	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1								
					海外英語研修	2								
		第２	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2								
			ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
			ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
			スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
			スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
			朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
			朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅲ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅳ	1								
					生涯スポーツ論	2								
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	選択科目 物理分野	薬学物理学入門	2										
			薬学計算法	2										
		化学分野	薬学化学入門	2										
			化学	2										
			有機薬化学Ⅰ	2										
			有機薬化学Ⅱ	2										
			天然医薬資源学	2										
		生物分野	薬学生物学入門	2										
			機能形態学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅱ	2										
		総合分野	薬学概論	1										
			早期臨床体験Ⅰ	2										
	2年次科目	必修科目			※物理系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅱ	1								
					※早期臨床体験Ⅱ	1								
		選択科目 物理分野			薬学物理化学Ⅰ	2								
					薬学物理化学Ⅱ	2								
					分析化学Ⅰ	2								
					分析化学Ⅱ	2								
		化学分野			生薬学Ⅰ	2								
					生薬学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅲ	2								
					有機薬化学Ⅳ	2								
		生物分野			人体生化学Ⅰ	2								
					人体生化学Ⅱ	2								
					微生物学	2								
					免疫学	2								
		衛生分野			食品栄養学	2								
					食品衛生学	2								
		薬理分野			機能形態学Ⅱ	2								
					疾患薬理学Ⅰ	2								
		薬剤分野			同位体化学	2								
					同位体医療薬学	2								

（注）〔　〕内は今年度休講。

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						※物理系実習Ⅱ ※物理系実習Ⅲ ※化学系実習Ⅰ ※化学系実習Ⅱ ※化学系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅳ	1 1 1 1 1 1 1						
		選択科目	物理分野					薬学物理化学Ⅲ 薬学物理化学Ⅳ 日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ	1 1 1 1 1 1						
			化学分野					天然物化学 創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	1 1 1						
			生物分野					感染症治療薬概論 人体機能調節学	1 1						
			衛生分野					環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学	1 1						
			薬理分野					疾患薬理学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	1 1 1 1						
			薬剤分野					物理薬剤学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学 医薬品安全性学 医療情報学	1 1 1 1 1 1						
			実務分野					コミュニケーション学 医薬品開発・経済学	1 1						
	4年次科目	必修科目								※物理系薬学特別講義 ※化学系薬学特別講義 ※生物系薬学特別講義 ※衛生薬学特別講義 ※医療薬学特別講義Ⅰ ※医療薬学特別講義Ⅱ ※薬学演習(含薬学研究基礎) ※実務実習事前学習	1 1 1 1 1 1 2 4				
		選択科目	化学分野							漢方薬学概論 創薬化学Ⅲ	1 1				
			生物分野							遺伝子工学概論 臨床検査学	1 1				
			衛生分野							環境衛生学Ⅱ	1				
			薬理分野							病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 疾患薬理学Ⅳ	1 1 1				
			薬剤分野							薬物送達学 臨床薬物動態学 薬学健康管理学 薬学疾患管理学	1 1 1 1				
			実務分野							薬事関係法規論 調剤学総論	1 1				
	5年次科目	必修科目										※実務実習 ※薬学研究Ⅰ	20 12		
	6年次科目	必修科目												※薬学研究Ⅱ ※物理系薬学総合講義 ※化学系薬学総合講義 ※生物系薬学総合講義 ※衛生薬学総合講義 ※臨床薬学総合講義Ⅰ ※臨床薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅰ ※医療薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅲ ※医療薬学総合講義Ⅳ ※薬事・医事関係法規総合講義 ※総合薬学演習(含卒業試験)	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		選択科目	薬剤分野											薬科処方解析学	1
			実務分野											実務実習事後学習	1
			アドバンスト分野											臨床診療科概論 薬剤師職能論 今日の薬学研究 薬学特別研究 薬事行政論 医薬品開発論	1 1 1 1 1 1

平成27～30年度入学生（15～18台）

薬学部　**薬学科**

※印は必修

			第1・2・3年次						第4年次		第5年次		第6年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	総合教養科目	人文科学	哲学A	2	哲学B	2	論理学A	2						
			論理学B	2	倫理学A	2	倫理学B	2						
			宗教学A	2	宗教学B	2	日本史A	2						
			日本史B	2	東洋史A	2	東洋史B	2						
			西洋史A	2	西洋史B	2	日本文学A	2						
			日本文学B	2	中国文学A	2	中国文学B	2						
			西洋文学A	2	西洋文学B	2	芸術A	2						
			芸術B	2										
		社会科学	法学A	2	法学B	2	日本国憲法	2						
			政治学A	2	政治学B	2	経済学A	2						
			経済学B	2	商学A	2	商学B	2						
			社会学A	2	社会学B	2	地理学A	2						
			地理学B	2	心理学A	2	心理学B	2						
			文化人類学A	2	文化人類学B	2								
		自然科学	統計入門	2	物理の世界	2	化学実験	1						
			生物学実験	1										
		総合系列科目	地球環境	2	生命・健康と医療	2	国際化と日本	2						
			〔科学・技術・情報と社会	2〕	文化と教育	2	現代を生きる	2						
		学修基盤科目	〔福岡大学学ぶ・福岡大学でいかに学ぶか	2〕										

			第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
			授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
共通教育科目	外国語科目	第1	※フレッシュマン・イングリッシュⅠ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅠ	1	アドバンスト・イングリッシュⅠ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅡ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅡ	1	アドバンスト・イングリッシュⅡ	1						
			※フレッシュマン・イングリッシュⅢ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅢ	1								
			※フレッシュマン・イングリッシュⅣ	1	※インターミディエイト・イングリッシュⅣ	1								
					海外英語研修	2								
		第2	ドイツ語ⅠA	2	ドイツ語ⅡA	2								
			ドイツ語ⅠB	2	ドイツ語ⅡB	2								
			フランス語ⅠA	2	フランス語ⅡA	2								
			フランス語ⅠB	2	フランス語ⅡB	2								
			中国語ⅠA	2	中国語ⅡA	2								
			中国語ⅠB	2	中国語ⅡB	2								
			ロシア語ⅠA	2	ロシア語ⅡA	2								
			ロシア語ⅠB	2	ロシア語ⅡB	2								
			スペイン語ⅠA	2	スペイン語ⅡA	2								
			スペイン語ⅠB	2	スペイン語ⅡB	2								
			朝鮮語ⅠA	2	朝鮮語ⅡA	2								
			朝鮮語ⅠB	2	朝鮮語ⅡB	2								
	保健体育科目		※生涯スポーツ演習Ⅰ	1	※生涯スポーツ演習Ⅱ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅲ	1								
					生涯スポーツ演習Ⅳ	1								
					生涯スポーツ論	2								
	単位互換科目		他大学（短期大学を含む。）の授業科目のうち薬学部教授会が適当と認める科目											
専門教育科目	1年次科目	選択科目 物理分野	薬学物理学入門	2										
			薬学計算法	2										
		化学分野	薬学化学入門	2										
			化学	2										
			有機薬化学Ⅰ	2										
			有機薬化学Ⅱ	2										
			天然医薬資源学	2										
		生物分野	薬学生物学入門	2										
			機能形態学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅰ	2										
			生体機能分子学Ⅱ	2										
		総合分野	薬学概論	1										
			早期臨床体験Ⅰ	2										
	2年次科目	必修科目			※物理系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅰ	1								
					※生物系実習Ⅱ	1								
					※早期臨床体験Ⅱ	1								
		選択科目 物理分野			薬学物理化学Ⅰ	2								
					薬学物理化学Ⅱ	2								
					分析化学Ⅰ	2								
					分析化学Ⅱ	2								
		化学分野			生薬学Ⅰ	2								
					生薬学Ⅱ	2								
					有機薬化学Ⅲ	2								
					有機薬化学Ⅳ	2								
		生物分野			人体生化学Ⅰ	2								
					人体生化学Ⅱ	2								
					微生物学	2								
					免疫学	2								
		衛生分野			食品栄養学	2								
					食品衛生学	2								
		薬理分野			機能形態学Ⅱ	2								
					疾患薬理学Ⅰ	2								
		薬剤分野			同位体化学	2								
					同位体医療薬学	2								

（注）〔　〕内は今年度休講。

※印は必修

				第1年次		第2年次		第3年次		第4年次		第5年次		第6年次	
				授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
専門教育科目	3年次科目	必修科目						※物理系実習Ⅱ ※物理系実習Ⅲ ※化学系実習Ⅰ ※化学系実習Ⅱ ※化学系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅲ ※生物系実習Ⅳ	1 1 1 1 1 1 1						
		選択科目	物理分野					薬学物理化学Ⅲ 薬学物理化学Ⅳ 日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ 分析化学Ⅲ 分析化学Ⅳ	1 1 1 1 1 1						
			化学分野					天然物化学 創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	1 1 1						
			生物分野					感染症治療薬概論 人体機能調節学	1 1						
			衛生分野					環境衛生学Ⅰ 公衆衛生学	1 1						
			薬理分野					疾患薬理学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	1 1 1 1						
			薬剤分野					物理薬剤学 製剤学 薬物動態理論 臨床薬物動態解析学 医薬品安全性学 医療情報学	1 1 1 1 1 1						
			実務分野					コミュニケーション学 医薬品開発・経済学	1 1						
	4年次科目	必修科目								※物理系薬学特別講義 ※化学系薬学特別講義 ※生物系薬学特別講義 ※衛生薬学特別講義 ※医療薬学特別講義Ⅰ ※医療薬学特別講義Ⅱ ※薬学演習(含薬学研究基礎) ※実務実習事前学習	1 1 1 1 1 1 2 4				
		選択科目	化学分野							漢方薬学概論 創薬化学Ⅲ	1 1				
			生物分野							遺伝子工学概論 臨床検査学	1 1				
			衛生分野							環境衛生学Ⅱ	1				
			薬理分野							病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 疾患薬理学Ⅳ	1 1 1				
			薬剤分野							薬物送達学 臨床薬物動態学 薬学健康管理学 薬学疾患管理学	1 1 1 1				
			実務分野							薬事関係法規論 調剤学総論	1 1				
	5年次科目	必修科目										※実務実習 ※薬学研究Ⅰ	20 12		
	6年次科目	必修科目												※薬学研究Ⅱ ※物理系薬学総合講義 ※化学系薬学総合講義 ※生物系薬学総合講義 ※衛生薬学総合講義 ※臨床薬学総合講義Ⅰ ※臨床薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅰ ※医療薬学総合講義Ⅱ ※医療薬学総合講義Ⅲ ※医療薬学総合講義Ⅳ ※薬事・医事関係法規総合講義 ※総合薬学演習(含卒業試験)	1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
		選択科目	薬剤分野											薬科処方解析学	1
			実務分野											実務実習事後学習	1
			アドバンスト分野											臨床診療科概論 薬剤師職能論 今日の薬学研究 薬学特別研究 薬事行政論 医薬品開発論	1 1 1 1 1 1

福岡大学学科履修規程

令和７年度入学生（25台）

第１章

（趣旨）

第１条　福岡大学（以下「本学」という。）の各学科において、卒業認定を得るための授業科目の履修は、福岡大学学則第31条から第34条までの規定及びこの規程の定めるところによる。

（授業科目の種類）

第１条の２　授業科目の種類は、次の各号に掲げる履修の区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。

⑴　必修科目　卒業の認定及び学位の授与にあたり、単位の修得が必須である授業科目

⑵　選択必修科目　各学科が指定する授業科目群から選択し、所定の単位数を修得する必要のある授業科目

⑶　選択科目　各学科の定めるところにより、前２号に定める授業科目以外の授業科目で、進級要件又は卒業要件の単位数に算入することができる授業科目

（開講科目の種類と期間）

第１条の３　授業科目は、次の各号に掲げる開講期間区分に応じ、当該各号に定めるとおりとする。

⑴　通年開講科目　１年間継続の授業科目

⑵　前期開講科目　前期開講前期完結の授業科目

⑶　後期開講科目　後期開講後期完結の授業科目

⑷　臨時開講科目　集中的に講義を行う授業科目等

（開講の基準）

第１条の４　授業科目は、各学科が定める年次に開講する。ただし、教育上特段の事情があると認められる場合は、開講しないことがある。

第２章　授業科目の履修等

（授業科目の履修）

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位・時間を、医学部看護学科の学生は、

所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）
9　薬学部（薬学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）
10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、所定の授業科目を履修の上、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）
（学部留学生の外国語科目の履修）
第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である授業科目を履修することはできない。
（授業科目の単位数）
第３条　各授業科目の単位数は、授業科目に応じ、次の基準による。（学則第32条参照）
⑴　講義・演習・外国語については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑵　実験・実習・実技については、30時間から45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑶　講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
⑷　卒業論文・卒業演習・卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。
（履修の順序）
第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。
（年間履修単位数の上限）
第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。
２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。
３　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。
４　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。
⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。
５　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。
⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。
⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、

原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科応用数学コースの学生は、原則として第１年次44単位、第２年次、第３年次、第４年次各40単位を超えてはならない。

⑵　応用数学科社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑶　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑷　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次49単位、第４年次38単位、第５年次37単位、第６年次29単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

（医学科の原級措置）

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に設置している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。

（薬学部の原級措置）

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。

（人文学部の履修要件）

第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。

⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。

⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。

⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目

のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
2　人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
3　多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第1項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。

（法学部の履修要件）

第6条の2　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
2　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第2条第2項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
3　第1項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。

（経済学部の履修要件）

第6条の3　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
2　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
3　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第2条第3項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第1項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

（商学部及び商学部第二部の履修要件）

第6条の4　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
2　商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
3　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第4項又は第5項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
4　商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第2条第5項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

（理学部の履修要件）

第6条の5　理学部の学生は、2年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第3年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第1年次開講の必修科目13単位以上及び第2年次開講科目8単位以上を含む24単位以上を修得していること。
⑵　物理科学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上
⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上⑷地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第2年次までの必修科目8単位を含む。
⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科

目の実験科目については、必修科目２単位及び選択科目４単位以上を修得していること。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目26単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科の学生は、専門教育科目の必修実験科目６単位及び物理科学研究の２単位並びに共通教育科目の外国語科目６単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科の学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目のコース別の必修科目10単位及び共通教育科目の外国語科目６単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

（工学部の履修要件）

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は32単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

（医学部の履修要件）

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から６単位以上、計12単位以上、必修の外国語科目６単位、保健体育科目２単位、合計32単位以上、専門教育科目については18単位、総計50単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、48単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の８単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位、これ以外の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合

計88単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、第３年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の１単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の１単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位、これ以外の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の１単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

（薬学部の履修要件）

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計20単位以上、専門教育科目について、１年次の必修科目１単位、１年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から９単位以上、臨床薬学から３単位以上を含め計15単位以上、合計36単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次の必修科目５単位、２年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から16単位以上、衛生薬学から２単位以上、医療薬学から４単位以上、臨床薬学から１単位以上を含め計27単位以上、合計48単位以上、総計74単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目６単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から４単位以上、衛生薬学から４単位以上、医療薬学から10単位以上、臨床薬学から３単位以上を含め計25単位以上、合計80単位以上、総計108単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目６単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目32単位以上、４年次の必修科目13単位、４年次の選択必修科目のうち、衛生薬学から２単位以上、医療薬学から８単位以上、臨床薬学から２単位以上を含め計14単位以上、合計107単位以上、総計135単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目６単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目32単位以上、４年次科目27単位以上、５年次の必修科目32単位、計139単位以上、合計167単位以上を修得していなければならない。

２　薬学部のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第９項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第３章　授業科目の登録

（登録）

第７条　学生は、学年が始まるときは、履修する授業科目の登録を行わなければならない。

２　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

（登録時の制限）
第７条の２　同一名称の授業科目は、同一学期に複数の授業科目を登録することができない。
２　授業科目は、同一の授業時間に複数の授業科目を登録することができない。
３　既に単位を修得した授業科目は、在学中に再度登録することができない。
４　在籍する年次より上位年次に設置している授業科目は、登録することができない。
（登録の撤回等）
第８条　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。
⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続をした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合
⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続をした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合
（登録制限）
第９条　授業科目の履修にあたり、教育効果に鑑み、先着、抽選、登録要件等により、登録の人数を制限する場合がある。
２　前項の授業科目は、学部・学科、共通教育センター又は教職課程教育センターが各別に定めるものとする。

第４章　雑　　則

（補則）
第10条　この規程の細則その他履修に関し必要な事項は、別に定めることができる。

附　則

この規程は、令和７年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

令和６年度入学生（24台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次49単位、第４年次38単位、第５年次37単位、第６年次29単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
３　多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
４　商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登

録をすることができない。

⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科の学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科の学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から６単位以上、計12単位以上、必修の外国語科目８単位、保健体育科目２単位、合計34単位以上、専門教育科目については18単位、総計52単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、50単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目につい

て必修科目の８単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、第３年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の１単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の１単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の１単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計20単位以上、専門教育科目について、１年次の必修科目１単位、１年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から９単位以上、臨床薬学から３単位以上を含め計15単位以上、合計36単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次の必修科目５単位、２年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から16単位以上、衛生薬学から２単位以上、医療薬学から４単位以上、臨床薬学から１単位以上を含め計27単位以上、合計48単位以上、総計74単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択必修科目のうち、基礎薬学から４単位以上、衛生薬学から４単位以上、医療薬学から10単位以上、臨床薬学から３単位以上を含め計25単位以上、合計80単位以上、総計108単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目32単位以上、４年次の必修科目13単位、４年次の選択必修科目のうち、衛生薬学から２単位以上、医療薬学から８単位以上、臨床薬学から２単位以上を含め計14単位以上、合計107単位以上、総計135単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目16単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目32単位以上、４年次科目27単位以上、５年次の必修科目32単位、計139単位以上、合計167単位以上を修得していなければならない。

２　薬学部のクリニカルファーマシスト養成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第９項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

2　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

令和５年度入学生（23台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科の学生は、多言語強化プログラムを履修することができる。
３　多言語強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。多言語強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
４　商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登

録をすることができない。

⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理科学研究の２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から７単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目８単位、保健体育科目２単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

2　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の８単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、第３年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の１単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の１単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の１単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、令和５年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

令和４年度入学生（22台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
３　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
４　商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登

録をすることができない。

⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目16単位及び選択必修実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験・実習科目から18単位以上及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目20単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目から６単位以上、自然科学から７単位以上、計13単位以上、必修の外国語科目８単位、保健体育科目２単位、合計35単位以上、専門教育科目については18単位、総計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

2　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の８単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、第３年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の１単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の１単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の１単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、令和４年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

令和３年度入学生（21台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、原級の年次において修得した専門教育科目は無効とし、再度、原級の年次に配当している専門教育科目の全てを履修し、合格点の成績評価を得なければならない。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
３　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部及び商学部第二部のクリエイティブ・マネジメント・プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
４　商学部第二部の地域ビジネスデザインプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登

録をすることができない。

⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、

51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より10単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計18単位以上、専門基礎科目について必修科目の17単位、専門教育科目について必修科目の８単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の26単位、専門教育科目について必修科目の34単位、合計88単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、第３年次前期に開講する専門基礎科目について必修科目の１単位、専門教育科目について必修科目の13単位及び選択必修科目の１単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目８単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計28単位以上、専門基礎科目について必修科目の27単位、専門教育科目について必修科目の60単位及び選択必修科目の１単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、

３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

令和２年度入学生（20台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効と

する。
第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
３　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　商学部商学科及び経営学科並びに商学部第二部の高校商業・情報科教員育成プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数及び教育職員免許状の授与を受けるための資格の取得に必要な教職課程科目（教科に関する科目を含む。）の単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、

専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなけ

ればならない。

2　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

平成31年度入学生（19台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効と

する。
第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
３　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。
⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の

保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴ 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵ 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴ 通年講義（１年間の継続講義）

⑵ 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶ 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷ 集中講義（休暇中の講義）

⑸ 臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、平成31年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

平成30年度入学生（18台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　医学科の学生は原則として、第１学年において61単位を超えてはならない。ただし、原級に留まった場合において共通教育科目の修得単位があるときは、61単位からこれを減じた単位を上限とする。

⑵　看護学科の学生は原則として、第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効と

する。
第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
２　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
２　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
３　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
２　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
３　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
２　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
３　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
２　商学部のクリエイティブ・マネジメントプログラム（以下この項において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目13単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。
⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

２　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目29単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の

保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第２項第１号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。
第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。
第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。
２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。
⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合
⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。
第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。
⑴　通年講義（１年間の継続講義）
⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
⑷　集中講義（休暇中の講義）
⑸　臨時講義
第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。
第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。
第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、平成30年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

平成29年度入学生（17台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部看護学科の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定にかかわらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要

な科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
2　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、次の各号に定める条件を満たしていなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、２年以上在学し、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑶　ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、原則として、１年以上在学し、前年度の専門教育科目のGPA評価が3.0以上でなければ、他コースの授業科目の登録をすることができない。
2　人文学部の英語学科、ドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、語学力強化プログラムを履修することができる。
3　語学力強化プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第１項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。語学力強化プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の２　法学部の法律学科の学生は法律特修プログラム、経営法学科の学生は企業法務特修プログラムを各々履修することができる。
2　前項に定める法律特修プログラム及び企業法務特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。
3　第１項に定める法律特修プログラム又は企業法務特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
2　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
3　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目11単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。
⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。
2　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第２項第１号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴ 前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合
⑵ 後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。
第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。
⑴ 通年講義（１年間の継続講義）
⑵ 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
⑶ 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
⑷ 集中講義（休暇中の講義）
⑸ 臨時講義
第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。
第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。
第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、平成29年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

平成28年度入学生（16台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。
ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第１号又は第６条の５第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第２号・３号又は第６条の５第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の５第１項第４号又は第６条の５第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部看護学科の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な

科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。
2　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て４単位までの登録を認めることがある。
第６条　人文学部のドイツ語学科及びフランス語学科の学生は、２年以上在学し、次の各号に定める授業科目の単位を修得していなければ、当該各号に定める授業科目の登録をすることができない。
⑴　ドイツ語学科の学生は、ドイツ語ＩＡ及びドイツ語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
⑵　フランス語学科の学生は、フランス語ＩＡ及びフランス語ＩＢの計４単位を修得していなければ、第３・４年次授業科目のうち、専門教育科目の各演習及び各講読の登録をすることができない。
第６条の２　法学部法律学科の学生は、法律特修プログラムを履修することができる。
2　法律特修プログラムの修了の認定を希望する学生は、第２条第２項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。法律特修プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の３　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。
2　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。
3　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の４　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。
第６条の５　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目11単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。
⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。
⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。
⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。
2　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。
⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。
⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。
⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単

位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の６　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ､第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位･第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の７　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については18単位、合計53単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、51単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の８　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単

位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第２項第１号の規定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ、教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合。

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く）について、登録の変更、追加、削除をする場合。

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴ 通年講義（１年間の継続講義）
⑵ 前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）
⑶ 後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）
⑷ 集中講義（休暇中の講義）
⑸ 臨時講義

第12条　選択科目は、年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取止めることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、平成28年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の５、工学部は第５条と第６条の６、薬学部は第５条と第６条の８）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

平成27年度入学生（15台）

第１章　総　　則

第１章　卒業資格を得るための履修は、学則第31条から第34条までの規定及びこの履修規程の定めるところによる。

第２章　科 目 の 履 修

第２条　人文学部（文化学科、歴史学科、日本語日本文学科、教育・臨床心理学科、英語学科、ドイツ語学科、フランス語学科及び東アジア地域言語学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

２　法学部（法律学科、経営法学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

３　経済学部（経済学科、産業経済学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

４　商学部（商学科、経営学科、貿易学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

５　商学部第二部（商学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

６　理学部（応用数学科、物理科学科、化学科、地球圏科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

７　工学部（機械工学科、電気工学科、電子情報工学科、化学システム工学科、社会デザイン工学科、建築学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

８　医学部医学科の学生は、次の単位・時間、医学部看護学科の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

９　薬学部（薬学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

10　スポーツ科学部（スポーツ科学科・健康運動科学科）の学生は、次の単位を修得しなければならない。（学則第34条参照）

第２条の２　学部留学生は、外国語科目のうち当該学生の母語である科目を履修することはできない。

第３条　各授業科目の単位数は、次の基準による。（学則第32条参照）

⑴　講義・演習・外国語……15時間から30時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑵　実験・実習・実技……30時間から45時間までの範囲で各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑶　授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により行う場合の単位数は、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して各学部が定める時間の授業をもって１単位とする。

⑷　卒業論文･卒業演習･卒業計画等については、これらの必要な学修の成果を考慮して単位数を定める。

第４条　各学部各学科において、各年次の学生が履修する授業科目及び単位・時間数は、別表各年次別授業科目表のとおりとする。履修する授業科目の選択にあたっては、授業科目表に指示する履修の順序に従わなければならない。

第５条　人文学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として45単位を超えてはならない。ただし、前期で履修できる単位数は25単位以内、後期で履修できる単位数は25単位以内とする。

２　法学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各40単位、第４年次48単位を超えてはならない。ただし、第２年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が40単位に不足する場合、その不足単位数について４単位を限度として40単位を超えることができ、第３年次に履修する単位数は、前年度までの修得単位数が80単位に不足する場合、その不足単位数について８単位を限度として40単位を超えることができる。休学等により当該年度始めにおいて在学期間が２年

以下の場合、前年度までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が120単位を超えてはならない。

3　経済学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

4　商学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各42単位、第４年次46単位を超えてはならない。

⑵　商学部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次46単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が84単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が126単位を超えてはならない。

5　商学部第二部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　商学部第二部の学生（会計専門職プログラムの学生を除く。）は、原則として41単位を超えてはならない。ただし、前年度における修得単位数が41単位に不足するときは、これに加えてその不足単位数に相当する単位を８単位を限度に履修することができる。

⑵　商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この号において「プログラム」という。）の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次、第４年次各48単位を超えてはならない。また、第３年次については、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。ただし、第１年次にプログラムの学生でなくなった者が第２年次に履修する単位数は、第１年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が82単位を超えてはならず、第２年次にプログラムの学生でなくなった者が第３年次に履修する単位数は、第２年次までの修得単位数と当該年度における登録単位数の総計が123単位を超えてはならない。

6　理学部の学生が１年間に履修する単位数は、次のとおりとする。

⑴　応用数学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各46単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の４第１項第１号又は第６条の４第２項第１号に該当する者は、46単位まで履修することができる。

⑵　物理科学科及び化学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各48単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の４第１項第２号・３号又は第６条の４第２項第２号・３号に該当する者は、48単位まで履修することができる。

⑶　地球圏科学科の学生は、原則として第１年次、第２年次、第３年次各49単位、第４年次40単位を超えてはならない。ただし、学科履修規程第６条の４第１項第４号又は第６条の４第２項第４号に該当する者は、49単位まで履修することができる。

7　工学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として49単位を超えてはならない。

8　医学部看護学科の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次、第２年次各48単位、第３年次37単位、第４年次30単位を超えてはならない。

9　薬学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として第１年次49単位、第２年次49単位、第３年次40単位、第４年次36単位、第５年次34単位、第６年次37単位を超えてはならない。

10　スポーツ科学部の学生が１年間に履修する単位数は、原則として46単位を超えてはならない。

11　外国語科目の再履修は、下位年次から順次登録しなければならない。

第５条の２　医学部医学科の学生が原級に留まった場合は、再度その学年の専門教育科目の全科目を受講し、受験しなければならない。その学年における専門教育科目の既得の全科目は、すべてこれを無効とする。

第５条の３　薬学部の学生が進級できなかった場合は、当該年次から進級の条件に必要な科目を履修しなければならない。この場合、第５条第９項の規定に関わらず、教授会の承認を経て進級の条件に必要な

科目の単位の他に、上位年次実習科目を除き10単位まで登録を認めることがある。

2　薬学部の学生は、原則として下位年次の専門教育科目の登録は認めない。ただし、上位年次への進級又は卒業に関わるときは、教授会の承認を経て４単位までの登録を認めることがある。

第６条　人文学部ドイツ語学科の学生は、２年以上在学し、次に掲げる科目の単位を修得していなければ、以下の特定科目の登録を行うことはできない。

⑴　ドイツ語学科の学科履修における条件

「演習Ⅰ」、「演習Ⅱ」及び各講読（３・４年次科目）を履修する者は、１年次の「ドイツ語ＩＡ」（２単位）及び「ドイツ語ＩＢ」（２単位）を修得していなければならない。

第６条の２　経済学部産業経済学科の学生は、起業家育成プログラム及び地域イノベーションプログラムを履修することができる。

2　起業家育成プログラムの修了の認定を希望する学生は、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。起業家育成プログラムについて必要な事項は、別に定める。

3　地域イノベーションプログラムの履修を希望する学生は、第２条第３項に規定する単位数を修得するとともに、学則第31条第１項に定める授業科目のうちから所定の科目を履修しなければならない。地域イノベーションプログラムについて必要な事項は、別に定める。

第６条の３　商学部及び商学部第二部の会計専門職プログラム（以下この条において「プログラム」という。）を履修する学生は、第２条第４項又は第５項に規定する単位数を修得するとともに、所定の科目を履修しなければならない。プログラムについて必要な事項は、別に定める。

第６条の４　理学部の学生は、２年以上在学し、次の単位を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科の学生は、共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について60単位以上。ただし、専門教育科目については、第１年次開講の必修科目11単位以上及び第２年次開講科目８単位以上を含む24単位以上を修得していること。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は共通教育科目、専門教育科目及び関連教育科目について64単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。

⑶　化学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、化学コースの学生は専門教育科目については、第２年次までの選択必修実験科目10単位以上を含む。

⑷　地球圏科学科の学生は、共通教育科目及び専門教育科目について64単位以上。ただし、専門教育科目については、第２年次までの必修科目８単位を含む。

2　理学部の学生は、３年以上在学し、次の各号の単位を修得していなければ、当該各号に定める第４年次開講科目の登録をすることができない。

⑴　応用数学科において、応用数学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目25単位を含む92単位以上、社会数理・情報インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の第３年次までの必修科目27単位を含む92単位以上を修得していなければ、第４年次開講の全科目の登録をすることができない。

⑵　物理科学科において、物理科学コースの学生は、専門教育科目の必修実験科目10単位及び物理学基礎ゼミナール、物理科学研究Ⅰ、物理科学研究Ⅱの各２単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑶　化学科において、化学コースの学生は、専門教育科目の第３年次までの選択必修実験科目から12単位以上及び系別の必修科目のうち実験科目４単位並びに共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上、ナノサイエンス・インスティテュートコースの学生は、専門教育科目の必修実験科目22単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

⑷　地球圏科学科の学生は、専門教育科目の選択必修科目（Ａ・Ｂ・Ｃ群のうちのいずれかの科目群の

全科目）８単位及び共通教育科目の外国語科目８単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講の卒業論文の登録をすることができない。

第６条の５　工学部の学生は、２年以上在学し、60単位以上を修得していなければ、第３年次開講科目の登録をすることはできない。

２　工学部の学生は、３年以上在学し、第１・２年次必修の第１外国語科目６単位、選択必修の第２外国語科目４単位、学科別に指定された専門教育科目の単位を含む100単位以上を修得していなければ、第４年次開講科目の登録をすることはできない。

３　第１項の60単位・第２項の100単位に算入する総合教養科目、第１外国語科目、第２外国語科目、工学共通科目の単位数は、次のとおりとする。

⑴　総合教養科目は、12単位までとする。

⑵　第１項の60単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目６単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。また、第２項の100単位に算入するのは、第１外国語科目の必修科目８単位、第２外国語科目の選択必修科目４単位までとする。

⑶　工学共通科目は、機械工学科は24単位まで、電気工学科は20単位まで、電子情報工学科は18単位まで、化学システム工学科は20単位まで、社会デザイン工学科、建築学科は18単位までとする。

第６条の６　医学部医学科の学生は、第１学年において共通教育科目については、総合教養科目として人文科学、社会科学及び総合系列科目より６単位以上、自然科学より15単位以上、計21単位以上、外国語科目の第１外国語８単位、第２外国語４単位以上、計12単位以上、保健体育科目の２単位、専門教育科目については14単位、合計49単位以上を修得しなければ、第２学年に進級することができない。ただし、47単位以上修得している学生については、医学部教授会の議を経て第２学年に進級させることがある。この場合、進級後未修得科目の再履修が可能なものに限るものとし、不足単位は第２学年で修得しなければならない。

２　医学部看護学科の学生は、次に掲げる条件を満たしていなければ、上位年次に進級又は３年次後期の実習科目を履修することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より８単位以上、自然科学より２単位以上、必修の外国語科目４単位、必修の保健体育科目２単位、計16単位以上、必修の専門基礎科目18単位、専門教育科目９単位、合計43単位以上を修得していなければ第２年次に進級することができない。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、必修の保健体育科目２単位、計24単位以上、必修の専門基礎科目28単位、必修の専門教育科目37単位、合計89単位以上を修得していなければ第３年次に進級することができない。

⑶　第３年次前期終了時において、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、並びに第３年次前期に開講する必修の専門基礎科目１単位、必修の専門教育科目10単位を修得していなければ、第３年次後期に開講する看護学実習科目を履修することができない。この場合、第３年次の学年始めに登録した看護学実習科目の登録を取り消す。

⑷　第３年次後期終了時において、共通教育科目について、総合教養科目として人文科学、社会科学、総合系列科目及び学修基盤科目より12単位以上、自然科学より４単位以上、必修の外国語科目６単位、選択必修の外国語科目より２単位以上、必修の保健体育科目２単位、計26単位以上、必修の専門基礎科目29単位、必修の専門教育科目61単位、合計116単位以上を修得していなければ第４年次に進級することができない。

第６条の７　薬学部の学生は、第１年次から第５年次までのそれぞれにおいて、必修科目を含んで次の単位を修得していなければ、上位年次に進級することができない。

⑴　第１年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から10単位以上、必修の外国語科目から２単位以上を含め計18単位以上、専門教育科目について、１年次の選択科目のうち、物理分野から２単位以上、化学分野から６単位以上、生物分野から４単位以上、総合分野から１単位以上を含め計20単位以上、合計38単位以上を修得していなければならない。ただし、学則第23条第２項第１号の規

定に該当し編入学する者（以下「学士入学者」という。）は、共通教育科目については、計18単位以上の修得をもって足りる。

⑵　第２年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目から６単位以上を含め計26単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次の必修科目４単位、２年次の選択科目のうち、物理分野から４単位以上、化学分野から４単位以上、生物分野から４単位以上、衛生分野から２単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から２単位以上を含め計28単位以上、合計52単位以上、総計78単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計26単位以上の修得をもって足りる。

⑶　第３年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次の必修科目７単位、３年次の選択科目のうち、物理分野から３単位以上、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、衛生分野から１単位以上、薬理分野から２単位以上、薬剤分野から４単位以上、実務分野から１単位以上を含め計19単位以上、合計78単位以上、総計106単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑷　第４年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次の必修科目12単位、４年次の選択科目のうち、化学分野から１単位以上、生物分野から１単位以上、薬理分野から１単位以上、薬剤分野から１単位以上、実務分野から１単位以上を含め計９単位以上、合計99単位以上、総計127単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

⑸　第５年次においては、共通教育科目について、総合教養科目から12単位以上、必修の外国語科目８単位を含め計28単位以上、専門教育科目について、１年次科目20単位以上、２年次科目32単位以上、３年次科目26単位以上、４年次科目21単位以上、５年次の必修科目32単位、計131単位以上、合計159単位以上を修得していなければならない。ただし、学士入学者は、共通教育科目については、計28単位以上の修得をもって足りる。

第７条　同一時間に二つ以上の科目を重複して登録することはできない。

第８条　学生は、学年始めの登録日にその学年において履修しようとする授業科目について、所定の方法で登録手続きをしなければならない。

第９条　登録日以後の登録は、一切認めない。

２　登録の撤回、変更、追加及び削除は、次の各号に掲げる場合（あらかじめ教授会等が定めた授業科目を除く。）に限って認める。

⑴　前期及び後期開講日から所定の期間内に、その学期において履修するために登録手続きをした授業科目（後期については開講期間が通年の講義科目は除く。）について、２科目かつ８単位以内で登録の撤回をする場合

⑵　後期開講前の登録日に、学年始めの登録日にその学年の後期において履修するために登録手続きをした授業科目（開講期間が通年の講義科目は除く。）について、登録の変更、追加、削除をする場合

第３章　受　　講

第10条　学生は、登録した授業科目でなければ受講することはできない。

第11条　講義は、その開講期間によって、次の５種類とする。

⑴　通年講義（１年間の継続講義）

⑵　前期完結講義（前期開講、前期完結の講義）

⑶　後期完結講義（後期開講、後期完結の講義）

⑷　集中講義（休暇中の講義）

⑸　臨時講義

第12条　選択科目は年度により開講しないことがある。開講した講義でも、受講人員が10人に満たない場合は、開講を取りやめることがある。

第13条　各講義は、その内容、教室の都合により、受講人員を制限することがある。

第14条　演習に出席常でない者及び研究報告をおこたる者は、演習及び論文の登録を取り消す。受講人員は20人を原則とする。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

卒業見込者の定義について（医学部医学科を除く）

薬学部を除く学部の４年次生（５年次以上も含む）及び薬学部の６年次生（７年次以上も含む）になって卒業見込者とみなされる者を次のとおり定義する。よって学科履修規程等を十分理解しておくこと。

〝既得単位数と学科履修規程第５条（理学部は第５条と第６条の４、工学部は第５条と第６条の５、薬学部は第５条と第６条の７）〟により登録した単位数との和が学科履修規程第２条を満足している者を卒業見込者という。

福岡大学成績考査規程

第１条　この規程は、福岡大学学則（以下「学則」という。）に定める成績考査及び試験（定期試験、追試験、再試験をいう。以下同じ。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

第２条　各授業科目の成績の評価は、試験のほか、その他の適切な方法により行う。ただし、成績の評価には、平素の学習状況を考慮することができる。

２　前項本文に規定するその他の適切な方法により成績評価を行う授業科目とは、次の各号のいずれかに該当するものとし、試験による成績評価を行わないものとする。

⑴　教授会等において、演習、演習及び論文、実習、実験、実技その他これに準ずるものと認められたもの

⑵　教授会等において、開講期間内に適切な成績評価を行うことが可能と認められたもの

⑶　その他教務委員会が認めた方法により行うもの

３　開講期間が通年の授業科目の成績評価を行うときは、各学期の成績を考慮する。

４　授業科目を履修し、合格の成績評価を得た学生には、その授業科目所定の単位を与える。ただし、各学期の授業料等納入金又は各授業科目の受講料を納入していないときは、当該各学期又は当該各授業科目についての成績評価を行わない。

５　第２項各号の授業科目の細部は、別に定める。

第３条　成績評価は評点をもって行い、成績通知は評点又は秀(A)、優(B)、良(C)、可(D)、不可(F)、放棄(H)の成績評語をもって行う。ただし、教務委員会が認める授業科目（評点による成績評価を行わない授業科目に限る。）については、評点及び成績評語によらず、合否のみにより成績評価及び成績通知を行うことができる。

２　次の各号に掲げる成績評語は、当該各号に定める評点等を基準に区分する。

⑴　秀(A)　100点から90点まで

⑵　優(B)　89点から80点まで

⑶　良(C)　79点から70点まで

⑷　可(D)　69点から60点まで

⑸　不可(F)　59点以下

⑹　放棄(H)　試験の放棄又は成績評価不能

３　第１項本文の規定により成績評価を行う授業科目は、前項の成績評語が秀(A)、優(B)、良(C)及び可(D)であるものを合格とし、不可(F)であるものを不合格とする。

４　履修した授業科目のうち、第１項本文の規定により成績評価を行うものについては、評点等に応じ、次に掲げる GP 評点を与える。

⑴　100点から90点まで　＝　4.0

⑵　89点から80点まで　＝　3.0

⑶　79点から70点まで　＝　2.0

⑷　69点から60点まで　＝　1.0

⑸　59点以下及び試験の放棄又は成績評価不能　＝　0.0

５　履修した評点により成績評価を行う各授業科目の GP 評点に当該各授業科目の単位数を乗じて算出した値の総和を履修登録した授業科目の総単位数で除した値を、GPA 評価とする。ただし、福岡大学（以下「本学」という。）における授業科目の履修により修得したものとみなして単位を認定した授業科目及び合否のみにより成績評価を行う授業科目については、GPA 評価の対象としない。

第４条　成績評価にあたり、学生は、次の各号のいずれかに該当する場合には、試験を受けることができない。

⑴　試験を受けようとする授業科目をその学年において登録していないとき。

⑵　受験中に学生証を所持していないとき。

⑶　試験開始後20分以上遅刻したとき。

2　試験開始後30分以上経過し、試験監督が認めたときは、試験場から退室することができる。

第４条の２　学生は、試験を受験するにあたり、次の事項に従わなければならない。

⑴　試験監督の指示に従うこと。

⑵　受験中は、常時学生証を机上に提示すること。

⑶　受験中は、携帯電話、スマートフォン等の電子通信機器を机上に置かないほか、身の回りに置かないこと。

⑷　不正行為又は不正行為とみなされるおそれのある行為をしないこと。

⑸　答案用紙は、解答の有無に関わらず試験場外に持ち出さないこと。

第５条　受験中に不正行為を行った者に対しては、当該期間（前期又は後期）に完結する全授業科目及び通年で実施する全授業科目を放棄とみなす。

2　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第５条の２　受験中に答案を持ち出した者に対しては、その受験科目を放棄とみなす。

2　前項で放棄とみなした科目については、追試験の対象としない。

第５条の３　医学部医学科の時間制の授業科目については、出席時間数が授業を行った時間数の３分の２に満たない場合、原則として試験を受けることができない。

2　医学部看護学科の専門基礎科目及び専門教育科目の講義・演習科目については、出席回数が実施授業回数の３分の２に満たない場合、原則として試験を受けることができない。その場合、当該授業科目の成績評語は放棄とし、追試験の対象としない。また、専門教育科目の実習科目については、出席回数が実施授業回数の４分の３に満たない場合、原則として成績評価を受けることができない。その場合も当該科目の成績評語は放棄とする。

第６条　病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受験することができなかった者に対しては、本人の願出により追試験を行うことがある。

2　追試験の願出は、所定の書式により、病気の場合には医師の診断書を、病気以外のやむを得ない理由の場合には証明書を添え、定期試験終了後５日以内に学生課に提出しなければならない。

第７条　追試験は、定期試験終了後本学が定める日に１回だけ行う。

第８条　追試験を受験した者の評価は、80点を限度とする。ただし、情状によりこの制限を免除し、又は緩和することがある。

第９条　合格点の成績評価を得た授業科目は、再履修することができない。

第10条　授業科目の再履修により合格点を得た場合は、その合格点をもって以前の不合格点に代える。

第11条　追試験の受験料は１科目につき2,000円とする。ただし、情状によりこれを減額又は免除することがある。

2　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

第12条　次の者に対しては、本人の願出により当該年度に受験した定期試験の授業科目について、学年末に再試験を行うことがある。

⑴　第４年次以上（薬学部は第６年次以上）の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が卒業に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち８単位以内の不合格点を得た者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）

⑵　教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程及び日本語教員課程資格取得を目的とする場合、第４年次以上の卒業見込者にして、既得単位数と新たに登録した単位数との和が各課程の資格取得に必要な単位数に達し、かつ、その必要単位数のうち各課程につき４単位以内の不合格点を得た者（当該学科の卒業に必要な単位数に算入しない科目に限る。）。ただし、後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。

⑶　理学部の第２年次生にして、不合格の成績評価を得た者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）

⑷　医学部医学科の学生にして、次のいずれかに該当する者

ア　単位制の授業科目（共通教育科目の後期追試験の結果不合格点を得た授業科目及び専門教育科目の追試験の結果不合格点を得た授業科目を除く。）について、15単位以内の不合格を得た者

イ　第２学年、第５学年及び第６学年の専門教育科目（追試験の結果不合格点を得た授業科目を除く。）について、不合格点を得た者

ウ　第３学年及び第４学年の専門教育科目（追試験の結果不合格を得た授業科目を除く。）について、不合格点を得た授業科目数が当該各学年に設置している授業科目数の60パーセント以内である者

⑸　医学部看護学科の第１年次生から第３年次生については、次のとおりとする。

ア　第１年次生及び第２年次生にして、不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見込みのある者。ただし、各年次８単位以内とする（各年次の後期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。）。

イ　第３年次生にして、前期に開講する専門基礎科目及び専門教育科目について不合格の成績評価を得た者で、再試験により、第３年次後期に開講する看護学実習科目の履修見込みのある者。ただし、８単位以内（前期の追試験の結果、不合格点を得た授業科目を除く。）とし、本項柱書きの規定にかかわらず再試験は前期末に実施する。

⑹　薬学部の第１年次生から第５年次生にして不合格の成績評価を得た者で、再試験により、進級の見込みのある者（後期の追試験の結果、不合格点を得た者を除く。）

第13条　再試験の願出は、前条第１号については、卒業に必要な最小限度の単位数（８単位以内）、同条第２号については、各課程の資格取得に必要な最小限度の単位数（４単位以内）とし、成績発表後所定の期日までに、願書を各学部等の教務担当事務課（室）に提出しなければならない。

２　理学部学生の再試験の願出は、前条第３号については、８単位以内とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。

３　医学部医学科学生の再試験の願出は、成績発表後所定の期日までに、願書を医学部事務課に提出しなければならない。

４　医学部看護学科学生の再試験の願出は、前条第５号アについては、成績発表後所定の期日までに、同号イについては、別途定める日までに願書を医学部事務課に提出しなければならない。

５　薬学部学生の再試験の願出は、前条第１号については、卒業に必要な最小限度の単位数（８単位以内）、同条第６号については、進級に必要な最小限度の単位数（８単位以内かつ４科目以内）とし、成績発表後所定の期日までに願書を教務三課に提出しなければならない。ただし、同号の第３年次生については、共通教育科目の再試験は行わない。また、専門教育科目については、再試験の結果、上位年次に進級できない者は、その再試験を無効とする。

第14条　再試験の得点は、60点を限度とする。

第15条　再試験の受験料は１単位につき1,000円とする。ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目は、１科目につき4,000円とする。

２　いったん納めた受験料は、これを返還しない。

附　則

この規程は、令和７年４月１日から施行する。

福岡大学における既修得単位等の取扱いに関する規程

第１条　福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の３第１項又は第34条の４第１項（学則第34条の３第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により修得したものとみなすことのできる単位及び学則第34条の３の２第１項又は第34条の４第２項（学則第34条の３の２第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により認定することのできる単位の取扱いについては、学則第34条の３から第34条の４の２までに定めるほか、この規程による。

２　この規程は、学則第33条第２項の規定により授業時間の履修をもって単位の修得に代える授業科目について、これを準用する。

第２条　学則第34条の３の２の規定により、本学において単位を認定することのできる学修は、次の各号に掲げるとおりとする。

⑴　大学の専攻科における学修

⑵　高等専門学校の課程における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑶　専修学校の専門課程のうち修業年限が２年以上のものにおける学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑷　教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第６条別表第三備考第４号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学、短期大学等が行う講習又は公開講座における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑸　社会教育法（昭和24年法律第207号）第９条の５の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学、短期大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑹　図書館法（昭和25年法律第118号）第６条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑺　学校図書館法（昭和28年法律第185号）第５条第３項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑻　青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則（平成12年文部省令第25号）又は技能審査の認定に関する規則（昭和42年文部省告示第237号）による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

⑼　アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーショナル・テスティング・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル及びトーイック又は次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であってこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修で、教務委員会において大学教育に相当する水準を有すると認めたもの

ア　審査を行うものが国又は民法（明治29年法律第89号）第34条の規定による法人その他の団体であること。

イ　審査の内容が、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に規定する大学の目的に照らし適切なものであること。

ウ　審査が全国的な規模において、毎年１回以上行われるものであること。

エ　審査の実施方法が、適切かつ公正であること。

２　前項に基づいて当該学修をもって単位を認定する授業科目が共通教育科目である場合については、教授会に先立って、教務委員会の議を経るものとする。

第３条　学則第34条の３第１項又は第34条の３の２第１項（学則第34条の３第４項又は第34条の３の２第４項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、各年度にお

いて１月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあっては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。ただし、本学との協定等により学生が他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を本学における授業科目の履修により修得したものとみなす場合及び本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修を本学における授業科目の履修とみなし、単位を認定する場合については、この限りではない。

２　学則第34条の４第１項又は第２項（学則第34条の４第６項により準用される場合を含む。）の規定に基づく単位の取扱いを受けようとする者は、入学した年度の４月20日までに単位修得申請書（所定書式）に学業成績証明書（高等専門学校、専修学校専門課程等にあっては授業科目等の内容を明記したものを添付すること。）等を添えて、教務部長に提出すべきものとする。

第４条　教務部長は、学則第34条の３第３項、第34条の３の２第３項及び第34条の４第５項に定める場合（学則第34条の３第４項、第34条の３の２第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）には教務委員会の議を経たうえで、前条に基づく申請書を申請者である学生が所属する学部の教授会に回付するものとする。

第５条　学則第34条の３第１項又は第34条の４第１項（学則第34条の３第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなす場合及び学則第34条の３の２第１項又は第34条の４第２項（学則第34条の３の２第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位を認定する場合に、教授会は、本学におけるいずれの授業科目について単位を取得したものとみなし、又は認定するのかを特定しなければならない。ただし、他の大学又は短期大学（以下この条において「他大学等」という。）との協定に基づき、学生が他大学等で開講された授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。）の修得単位の取扱いについては、この限りでない。

２　前項に基づいて本学におけるいずれの授業科目について単位を修得したものとみなし、又は認定するのかを特定するにあたっては、学生が他の大学若しくは短期大学において修得した授業科目の授業時間数又は学生が行った短期大学若しくは高等専門学校の専攻科における学修又はその他別に定める学修（学則第34条の３の２第４項により準用される場合にあっては、本学との協定等により学生が外国の大学又は短期大学において行った学修）の時間数を考慮すべきものとする。

第６条　学科履修規程第５条によって定められた当該年度において履修できる単位数を超えて、学則第34条の３第１項及び第34条の３の２第１項（学則第34条の３第４項又は第34条の３の２第４項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は単位を認定することはできないものとする。

第７条　学則第34条の４第２項（学則第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位の認定を受けようとする者は、その対象となる学修が学則第34条の４第１項（学則第34条の４第６項により準用される場合を含む。）に規定する本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位として認定されていないことの証明書等を提出しなければならない。

第８条　編入学及び転入学の場合に、学則第34条の４第１項及び第２項（学則第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなし、又は認定することのできる単位数については、教務委員会の申合せによって定めるものとする。

第９条　学則第34条の３第１項又は第34条の４第１項（学則第34条の３第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位を修得したものとみなされた本学における授業科目及び学則第34条の３の２第１項又は第34条の４第２項（学則第34条の３の２第４項又は第34条の４第６項により準用される場合を含む。）により単位を認定された本学における授業科目は、特待生の選考にあたって考慮しない。

附　則

この規程は、令和３年４月１日から施行する。

福岡大学における単位互換等の取扱いに関する規程

（趣　　旨）

第１条　福岡大学学則（以下「学則」という。）第34条の３に基づき、本学が他の大学又は短期大学（以下「他大学等」という。）との協定により、本学及び他大学等で開講し、履修ができると認められた授業科目（本学及び他大学等において共同で開講する授業科目を含む。以下「単位互換科目等」という。）を履修し、修得した単位を学生が所属する本学の学部及び他大学等において認定する単位互換の取扱い、並びに学則第53条に定める特別聴講学生の取扱いその他必要な事項について、別に定めある場合を除き、この規程による。

（定　　義）

第２条　この規程における用語の定義は、次の各号に定める。

⑴　単位互換科目履修生とは、本学に在籍する２年次以上の学部学生で、単位互換科目等の履修を志願し、他大学等においてその履修が許可された者をいう。

⑵　特別聴講学生とは、他大学等に在籍する学生で、本学における単位互換科目等の履修を志願し、本学がその履修を許可した者をいう。

（他大学等における単位互換科目等の決定）

第３条　単位互換科目履修生が受講できる単位互換科目等は、教務委員会が適当と認める授業科目とする。

２　前項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目以外の科目である場合は、当該学部教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。

３　第１項の授業科目が単位互換科目履修生が所属する学部において共通教育科目である場合は、当該学部教授会のほか、教務委員会においても審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定するものとする。

（履修登録単位数）

第４条　単位互換科目履修生の履修登録単位数については、各年度８単位以内、合計20単位（共通教育科目８単位、共通教育科目以外の科目12単位）以内を限度とし、別に定める。

２　前項の履修登録単位数は、１年間に履修する単位数に含めるものとする。

（手　　続）

第５条　単位互換科目履修生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに科目履修願を教務部長に提出しなければならない。

（許　　可）

第６条　教務部長は、前条の学生を他大学等に通知し、履修の許可を得なければならない。

２　学長は、他大学等から履修を許可された学生を単位互換科目履修生として許可する。

（履修の時期及び期間）

第７条　単位互換科目履修生として履修する時期及び期間は、協定で定めた時期及び期間とする。

（授 業 料）

第８条　単位互換科目履修生は協定に基づき、他大学等における授業料を免除する。

（単位の認定）

第９条　単位互換科目履修生が履修した単位互換科目等の単位については、教務委員会の議を経て、当該学部教授会で認定する。

２　前項の認定は、前期集中講義科目及び前期完結科目については後期に、後期集中講義科目、後期完結科目及び通年科目については翌年度の前期に行う。ただし、卒業する学期において履修した科目の単位は認定しない。

３　単位互換科目履修生が履修できる単位互換科目等の認定を実施する学部、学科その他必要な事項については、別に定める。

（単位互換科目履修生の責務）

第10条　単位互換科目履修生は、この規程のほか、履修が許可された他大学等の諸規則を遵守しなければ

ならない。

（履修許可の取消）

第11条　学長は、単位互換科目履修生が次の各号のいずれかに該当するときは、他大学等と協議した上で、教授会の議を経てその許可を取り消すことができる。

⑴　成績不振等で成業の見込みがないと認められるとき。

⑵　単位互換科目履修生としてふさわしくない行為があると認められるとき。

（受入の時期）

第12条　特別聴講学生として受入れる時期及び期間は、協定で定めた学期又は学年の始めとする。

（本学における単位互換科目等の決定）

第13条　特別聴講学生が受講できる単位互換科目等は、これを開講する学部の教授会で審議し、所定の時期までに単位互換科目等として決定した科目とする。ただし、本学における共通教育科目を単位互換科目等とする場合は、教務委員会において審議し、決定する。

2　前項の単位互換科目等は、原則として講義科目に限るものとする。ただし、特別な事情がある場合は、この限りでない。

（受入の手続）

第14条　特別聴講学生として単位互換科目等の履修を志願する学生は、所定の期日までに在籍する他大学等を通じて所定の事項を記載した書類を教務部長に提出しなければならない。

（受講の許可）

第15条　前条の学生については、受講を希望する単位互換科目等の担当者及び開講する学部の教授会が了承し、本学の教育に支障のない範囲において、学長が特別聴講学生として許可し、学生が在籍する他大学等へ通知する。

（成績評価）

第16条　特別聴講学生の成績評価は、福岡大学の成績考査規程の定めるところにより行う。

（選考料等）

第17条　特別聴講学生は協定に基づき、本学における選考料及び授業料を免除する。ただし、本学の定めるところにより、教材費その他必要な費用は徴収することができる。

（特別聴講学生証）

第18条　特別聴講学生には、特別聴講学生証を交付する。

2　特別聴講学生が登校するときは、特別聴講学生証を常に携帯しなければならない。

（取　　消）

第19条　特別聴講学生が次の各号のいずれかに該当する場合は、履修の許可を取り消す。

⑴　他大学等に在籍しなくなったとき。

⑵　本学の学則等に違反したとき。

（規程の準用）

第20条　この規程に定めるもののほか、特別聴講学生の取扱いについて必要な場合は、学則その他学内規程を準用する。

（そ の 他）

第21条　この規程に定めのない事項については、本学と他大学等との協定に基づき協議する。

附　則

この規程は、令和３年12月１日から施行する。

福岡大学転部・転科に関する規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、福岡大学学則第23条の２第３項の規定に基づき、転部・転科に関して必要な事項を定める。

（転部・転科年次及び在学期間）

第２条　転部・転科は、原則として当該学部の第２年次又は第３年次として許可し、その時期は学年の始めとする。

２　転部・転科をした学生の在学期間は、本学入学後、原則として通算８年を超えることはできない。ただし、医学部医学科及び薬学部については、原則として通算12年を超えることはできない。

（選　　考）

第３条　転部・転科は、選考の上、決定する。

２　選考の方法は、別に定める。

（志願手続）

第４条　転部・転科を志願する者は、所定の期日までに必要な書類を学長に提出しなければならない。

（合否判定及び単位認定）

第５条　選考試験の合否の判定及び既に修得した授業科目の単位の認定は、教授会の議を経て、学長がこれを行う。

（許　　可）

第６条　選考試験に合格した者は、別に定める納付金を予定の期日までに納付しなければならない。

２　学長は、前項の手続きを完了した者に転部・転科を許可する。

３　転部・転科を許可された者の授業料等納入金は、別に定める。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から施行する。

福岡大学授業料その他諸納入金規程

第１条　福岡大学（以下「本学」という。）の学生から徴収する授業料等納入金及び受講料並びに本学の科目等履修生及び研究生から徴収する受講料等については、特に定めがある場合を除き、この規程による。

第２条　授業料等納入金の額は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによる。

２　前項の授業料等納入金の納入は、分割して行うものとし、納入期日は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める日とする。ただし、第１期分納入時に全納することを妨げない。

⑴　第１期分　毎年５月31日まで（新入生は、別に定める。）

⑵　第２期分　毎年10月31日まで

第３条　教職課程科目、博物館学芸員課程科目、社会教育主事課程科目、日本語教員課程科目であって、その修得単位を卒業要件単位に算入することのできない授業科目の受講料は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

２　科目等履修生及び研究生の受講料等は、福岡大学学則又は福岡大学大学院学則の定めるところによりこれを徴収する。

３　実習又は研修など特別の費用を必要とする授業科目などの実習・研修費等は、別表第１の定めるところによりこれを徴収する。

第４条　学生が退学届を受理され、又は退学を命じられたときは、その納期分の授業料等納入金について、これを徴収する。

２　停学を命ぜられたときは、停学中の授業料等納入金について、これを徴収する。

第５条　休学する場合は、別表第２に定めるところにより在籍料を徴収する。ただし、学長が特に必要と認めたときは、減額することがある。

２　前項ただし書に規定する在籍料の減額は、別に定めるところにより、所定の手続を経て、学長がこれを決定する。

３　休学する場合の授業料及び教育充実費については、次のとおり取り扱うものとする。

⑴　通年休学の場合は、授業料及び教育充実費の全額を徴収しない。

⑵　前期又は後期のみ休学の場合は、授業料及び教育充実費の年額の２分の１を徴収することとし、過納の場合は、その額を返還する。

第６条　前条に定めるもののほか、休学が学資の負担者の罹患、罹災その他やむを得ない事情による学資の調達困難を理由とするときは、在籍料、授業料及び教育充実費の額を減免することができる。

２　前項の減免を受けようとする者は、必要な証明書等を添えて、所定の減免願を学生課に提出しなければならない。

３　第１項の減免の許否は、学生部委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第７条　再入学の場合は、再入学年度の入学金を納入しなければならない。

第８条　除籍を受けた者が再入学を願い出るときは、除籍を受けた納期分の授業料等納入金等で未払いの分はこれを納入しなければならない。

第９条　学生が他の学部への転部、他の学科への転科又は他の研究科への転研究科により異動する場合の授業料等納入金については、次のとおり取り扱うものとする。

⑴　入学金は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額から入学時の学部、学科又は研究科の当該金額を減じた額を徴収する。ただし、過納の場合は、これを返還しない。

⑵　授業料及び教育充実費は、入学年度における異動先の学部、学科又は研究科の当該金額を徴収する。

第10条　諸証明書の発行を受ける者は、領収書を各所管課（室）に提出しなければならない。

第11条　諸証明書の発行手数料等は、別表第３の定めるところによりこれを徴収する。

２　追試験、再試験及び補助試験の手数料は、別表第４の定めるところによりこれを徴収する。

第12条　授業料等納入金、受講料、在籍料、手数料等の金額及び納入期日は、経済情勢その他の変動により改めることがある。

附　則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

別表第１　実習・研修費等（第３条第３項）

種別	金額（単位　円）	納期
海外研修費	実費	指定期間内
学外実習費	実費	
病院実習費	40,000	
教育実習費・養護実習費	実費	
博物館実習費	6,000	
社会教育実習費	6,000	
介護等体験費	10,000	
考古学実習費	30,000	
臨床心理学実習費	30,000	

別表第２　在籍料（第５条第１項）　（単位　円）

学部＼区分		通年休学	前期又は後期休学
人文学部		240,000	120,000
法学部			
経済学部			
商学部			
商学部第二部		60,000	30,000
理学部		360,000	180,000
工学部			
医学部	医学科	1,200,000	600,000
	看護学科	360,000	180,000
薬学部		480,000	240,000
スポーツ科学部		300,000	150,000

別表第３　諸証明書発行手数料等（第11条第１項）

種別	発行手数料（円）	発行課（室）
単位修得証明書 （一般･教職･学芸員･社教主事） 成績証明書 卒業見込証明書 成績･卒業見込証明書（就職用） 卒業証明書 在学証明書 教員免許取得見込証明書 学芸員資格取得証明書 在籍証明書 科目等履修生証明書 研究生証明書 健康診断証明書 その他本学所定様式の証明書	１枚につき　200	教務一課 各学部等の教務担当事務課(室) 保健センター事務室
学生証再発行	１枚につき　2,000	学生課

（注）１　英文の証明書は、１枚につき300円とする。
　　２　本学所定様式以外の証明書の発行手数料は、種別にかかわらず１枚につき500円とする。

別表第４　追試験料・再試験料及び補助試験料（第11条第２項）（一部抜粋）

種別	金額（単位　円）	納期
追試験料	１科目につき　2,000	
再試験料	１単位につき　1,000 （ただし、医学部医学科の時間制の専門教育科目については１科目につき4,000円）	指定期間内

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

人文・法・経済・商学部

（単位　円）

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**1,126,710**	**190,000**	**730,000**	**180,000**	**1,100,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	671,710	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**935,610**		**730,000**	**180,000**	**910,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	480,610		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**935,610**		**730,000**	**180,000**	**910,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	480,610		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**936,110**		**730,000**	**180,000**	**910,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	481,110		365,000	90,000	455,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								
７年度編・転学士入学（３年）	**年額**	**1,135,210**	**190,000**	**730,000**	**180,000**	**1,100,000**	**8,500**	**15,000**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**2,000**	**35,210**
	第１期	680,210	190,000	365,000	90,000	645,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								
６年度編・転学士入学（４年）	**年額**	**944,610**		**730,000**	**180,000**	**910,000**	**8,500**	**15,000**		**5,610**		**3,000**	**2,500**	**34,610**
	第１期	489,610		365,000	90,000	455,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第２期	455,000		365,000	90,000	455,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．５年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。
３．転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

商学部第二部

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**472,370**	**60,000**	**310,000**	**80,000**	**450,000**	**7,500**	**7,500**	**300**	**2,970**	**100**	**3,000**	**1,000**	**22,370**
	第１期	277,370	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	7,500	300	2,970	100	3,000	1,000	22,370
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**411,970**		**310,000**	**80,000**	**390,000**	**7,500**	**7,500**		**2,970**		**3,000**	**1,000**	**21,970**
	第１期	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**411,970**		**310,000**	**80,000**	**390,000**	**7,500**	**7,500**		**2,970**		**3,000**	**1,000**	**21,970**
	第１期	216,970		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,000	21,970
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**412,470**		**310,000**	**80,000**	**390,000**	**7,500**	**7,500**		**2,970**		**3,000**	**1,500**	**22,470**
	第１期	217,470		155,000	40,000	195,000	7,500	7,500		2,970		3,000	1,500	22,470
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								
７年度編・転学士入学（３年）	**年額**	**480,870**	**60,000**	**310,000**	**80,000**	**450,000**	**7,500**	**15,000**	**300**	**2,970**	**100**	**3,000**	**2,000**	**30,870**
	第１期	285,870	60,000	155,000	40,000	255,000	7,500	15,000	300	2,970	100	3,000	2,000	30,870
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								
６年度編・転学士入学（４年）	**年額**	**420,970**		**310,000**	**80,000**	**390,000**	**7,500**	**15,000**		**2,970**		**3,000**	**2,500**	**30,970**
	第１期	225,970		155,000	40,000	195,000	7,500	15,000		2,970		3,000	2,500	30,970
	第２期	195,000		155,000	40,000	195,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．５年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。
３．転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

理・工学部

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**1,646,710**	**240,000**	**1,000,000**	**380,000**	**1,620,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	956,710	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**1,405,610**		**1,000,000**	**380,000**	**1,380,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	715,610		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**1,405,610**		**1,000,000**	**380,000**	**1,380,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	715,610		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**1,406,110**		**1,000,000**	**380,000**	**1,380,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	716,110		500,000	190,000	690,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								
７年度編・転学士入学（３年）	**年額**	**1,655,210**	**240,000**	**1,000,000**	**380,000**	**1,620,000**	**8,500**	**15,000**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**2,000**	**35,210**
	第１期	965,210	240,000	500,000	190,000	930,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								
６年度編・転学士入学（４年）	**年額**	**1,414,610**		**1,000,000**	**380,000**	**1,380,000**	**8,500**	**15,000**		**5,610**		**3,000**	**2,500**	**34,610**
	第１期	724,610		500,000	190,000	690,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第２期	690,000		500,000	190,000	690,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．５年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。
３．転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
　　２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

医学部医学科

区分		合計	学生納付金					委託徴収金							
			入学金	特別教育充実費	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**8,626,710**	**1,000,000**	**3,000,000**	**3,912,000**	**688,000**	**8,600,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	6,326,710	1,000,000	3,000,000	1,956,000	344,000	6,300,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**7,625,610**		**3,000,000**	**3,912,000**	**688,000**	**7,600,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	5,325,610		3,000,000	1,956,000	344,000	5,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**7,625,610**		**3,000,000**	**3,912,000**	**688,000**	**7,600,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	5,325,610		3,000,000	1,956,000	344,000	5,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**4,626,110**			**3,912,000**	**688,000**	**4,600,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	2,326,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								
３年度入学（５年）	**年額**	**4,617,110**			**3,912,000**	**688,000**	**4,600,000**	**8,500**			**5,610**		**3,000**		**17,110**
	第１期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								
２年度入学（６年）	**年額**	**4,617,110**			**3,912,000**	**688,000**	**4,600,000**	**8,500**			**5,610**		**3,000**		**17,110**
	第１期	2,317,110			1,956,000	344,000	2,300,000	8,500			5,610		3,000		17,110
	第２期	2,300,000			1,956,000	344,000	2,300,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．７年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

医学部看護学科

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**1,806,710**	**270,000**	**1,040,000**	**470,000**	**1,780,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	1,051,710	270,000	520,000	235,000	1,025,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	755,000		520,000	235,000	755,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**1,535,610**		**1,040,000**	**470,000**	**1,510,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	780,610		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	755,000		520,000	235,000	755,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**1,535,610**		**1,040,000**	**470,000**	**1,510,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	780,610		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	755,000		520,000	235,000	755,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**1,536,110**		**1,040,000**	**470,000**	**1,510,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	781,110		520,000	235,000	755,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	755,000		520,000	235,000	755,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．５年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
　　２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

薬学部

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**2,066,710**	**400,000**	**1,350,000**	**290,000**	**2,040,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	1,246,710	400,000	675,000	145,000	1,220,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	820,000		675,000	145,000	820,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**2,095,610**		**1,350,000**	**720,000**	**2,070,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	1,060,610		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	1,035,000		675,000	360,000	1,035,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**2,095,610**		**1,350,000**	**720,000**	**2,070,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	1,060,610		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	1,035,000		675,000	360,000	1,035,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**2,096,110**		**1,350,000**	**720,000**	**2,070,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	1,061,110		675,000	360,000	1,035,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	1,035,000		675,000	360,000	1,035,000								
３年度入学（５年）	**年額**	**2,087,110**		**1,350,000**	**720,000**	**2,070,000**	**8,500**			**5,610**		**3,000**		**17,110**
	第１期	1,052,110		675,000	360,000	1,035,000	8,500			5,610		3,000		17,110
	第２期	1,035,000		675,000	360,000	1,035,000								
２年度入学（６年）	**年額**	**2,087,110**		**1,350,000**	**720,000**	**2,070,000**	**8,500**			**5,610**		**3,000**		**17,110**
	第１期	1,052,110		675,000	360,000	1,035,000	8,500			5,610		3,000		17,110
	第２期	1,035,000		675,000	360,000	1,035,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．７年次以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。
３．転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

令和７年度　学費等納入金表

納　入	第１期	5 月 27 日
期　限	第２期	10 月 27 日

（注）１．金融機関が休業日の場合は、翌営業日となります。
２．新入生の第１期分は、入学時に納入していただいております。

（単位　円）

スポーツ科学部

区分		合計	学生納付金				委託徴収金							
			入学金	授業料	教育充実費	小計	父母後援会費	有信会費	学友会入会金	学友会費	学生健康保険互助組合入会金	学生健康保険互助組合費	卒業記念アルバム代	小計
７年度入学（１年）	**年額**	**1,476,710**	**300,000**	**800,000**	**350,000**	**1,450,000**	**8,500**	**7,500**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**1,000**	**26,710**
	第１期	901,710	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	7,500	1,000	5,610	100	3,000	1,000	26,710
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								
６年度入学（２年）	**年額**	**1,175,610**		**800,000**	**350,000**	**1,150,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	600,610		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								
５年度入学（３年）	**年額**	**1,175,610**		**800,000**	**350,000**	**1,150,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,000**	**25,610**
	第１期	600,610		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,000	25,610
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								
４年度入学（４年）	**年額**	**1,176,110**		**800,000**	**350,000**	**1,150,000**	**8,500**	**7,500**		**5,610**		**3,000**	**1,500**	**26,110**
	第１期	601,110		400,000	175,000	575,000	8,500	7,500		5,610		3,000	1,500	26,110
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								
７年度編・転学士入学（３年）	**年額**	**1,485,210**	**300,000**	**800,000**	**350,000**	**1,450,000**	**8,500**	**15,000**	**1,000**	**5,610**	**100**	**3,000**	**2,000**	**35,210**
	第１期	910,210	300,000	400,000	175,000	875,000	8,500	15,000	1,000	5,610	100	3,000	2,000	35,210
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								
６年度編・転学士入学（４年）	**年額**	**1,184,610**		**800,000**	**350,000**	**1,150,000**	**8,500**	**15,000**		**5,610**		**3,000**	**2,500**	**34,610**
	第１期	609,610		400,000	175,000	575,000	8,500	15,000		5,610		3,000	2,500	34,610
	第２期	575,000		400,000	175,000	575,000								

１．学友会費には、学生手帳代210円が含まれています。
２．５年次生以上の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。
３．転部および学士入学（本学卒）の学費は、本表に掲げていないので会計課窓口に照会して下さい。

Ⅶ

薬学部参考資料

- 六年制で学ぶこと
  （カリキュラム・マップ／カリキュラム・ツリー）
- 薬剤師国家試験出題基準
- モデル・コア・カリキュラム対応表

DP・CP・履修系統図の定義

ディプロマ・ポリシー（DP）

各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、学生の学修成果の目標ともなるものをディプロマ・ポリシー（学位授与方針）という。

カリキュラム・ポリシー（CP）

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針をカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）という。

履修系統図

カリキュラム・マップ

カリキュラム・マップとは、授業科目と教育目標の関係を示した表であり、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、各科目が卒業するまでに身につける能力のどの項目と関連するのかを示す。

カリキュラム・ツリー

卒業までに身につけるべき知識・能力を得るための授業科目が、どのように配置されているか、各授業科目の対応関係や履修・学修における道筋を示したものをカリキュラム・ツリーという。

※共通教育科目のDP、CP、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーについては、FUポータルに掲載しています。

【掲載場所】FUポータル▶授業関連▶履修系統図（カリキュラム・ツリーおよびカリキュラム・マップ）▶履修系統図（令和7年度入学生）▶共通教育

福岡大学薬学部薬学科の理念及び目的

福岡大学の建学の精神及び教育研究の理念である三つの共存に則り、薬学部薬学科は「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって、国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念とする。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究の目的とする。

薬学部ディプロマポリシー（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

A）幅広い教養と基礎的科学力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
B）薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
C）教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

薬学科ディプロマポリシー（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学科の学位（教育）プログラムでは、豊かな人間性、高い倫理観をもち、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学、薬学研究などの学問を修め、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに最先端の科学技術の開拓を担える教育・研究者を育成する。所定の単位を修得した者で、下記に示された資質・能力を有すると認められる者に、学士（薬学）の学位を授与する。

【知識・理解】

A-1）薬学に必要な物理・化学・生物に関する科学的知識を修得している。
A-2）薬物治療の実践に必要な知識を修得し、医療においてどのように実践されるか理解している。
A-3）公衆衛生的な考えに基づいた疾病予防や健康増進の知識を修得し、どのように応用されるか理解している。

【技能】

B-1）多様な病態を理論的に理解して、患者個々に対して最適な薬物療法を提案できる。
B-2）他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、他者と議論できる。
B-3）薬物や医療に関わる有益な情報を集め、それらを患者や多職種のために分析、活用できる。
B-4）医療人としての活動に必要な英語力を有し、英文資料や論文の理解に活用することで最適な医療を選択できる。

【態度・志向性】

C-1）医療人として必要な倫理観、使命感、責任感を理解し、患者や医療スタッフへ貢献できる態度を備えている。
C-2）チーム医療を構成する多職種の役割を理解し、協働する態度を備えている。
C-3）地域社会における生活者の身体的、心理的、社会的背景を理解し、質の高い公衆衛生・医療・福祉を担う姿勢を備えている。
C-4）薬学研究に対して自ら到達すべき目標を定め、自己並びに他者と共に研鑽できる態度を備えている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学位（教育）プログラム DP を構成する。

薬学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

①教育内容

薬学部のカリキュラムは、高度な薬学専門知識を涵養するための基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学、薬物療法における臨床実践能力を養うための実務実習や問題解決能力やプレゼンテーション能力などを養うための薬学研究などから構成されている。

②教育方法

授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分け、それらを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。専門教育科目では、演習・実習科目において少人数制で実践的な技術や技能を習得させ、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うためにスモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを行う。講義や演習で学んだ基礎的な力を活用し、薬剤師としての実践力を身に着けることを目的に、病院や薬局において臨地実習を行う。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学部 CP を構成する。

薬学の学位（教育）プログラム

①教育内容

薬学の学位（教育）プログラムにおけるカリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げた薬の専門家として必要とされる【知識・理解】、【技能】、【態度・志向性】を段階的、発展的に身に付けることができるように編成されている。

1）基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に関する知識、技能を体系的に学べるような科目を配置する。
2）薬剤師として必要とされる薬物療法や地域の保健・医療における実践的な知識、技能、態度を修得するために、実務実習を開講する。
3）医療人である薬剤師としての意識を高め、倫理観、ヒューマニズム、コミュニケーション能力を養う科目を開講する。
4）社会のグローバル化に対応するために、薬学に関する科学英語を学ぶための科目を開講する。
5）医療に関わる有益な情報収集、分析、活用する能力を養う科目を開講する。
6）研究課題を通して、問題解決能力・研究能力を養うことと人格形成のために、薬学研究を開講する。

②教育方法

1）「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学部独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。
2）実習科目では、講義科目に対応した内容を少人数制で行うことにより、専門知識を高め、実践的な技術や技能を習得させる。
3）薬剤師として必要とされる総合的かつ実践的な知識・技能・態度を修得するために、実務実習として病院と薬局において臨地実習を行う。
4）医療倫理、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うための科目を、低・中・高学年次に継続的に開講し、スモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなど多様なアクティブラーニングを実践する。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学位（教育）プログラム CP を構成する。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力（薬学教育ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ）

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

1．プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。

2．総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。

3．生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。

4．科学的探究

薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。

5．専門知識に基づいた問題解決能力

医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。

6．情報・科学技術を活かす能力

社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。

7．薬物治療の実践的能力

薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。

8．コミュニケーション能力

患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。

9．多職種連携能力

多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。

10．社会における医療の役割の理解

地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

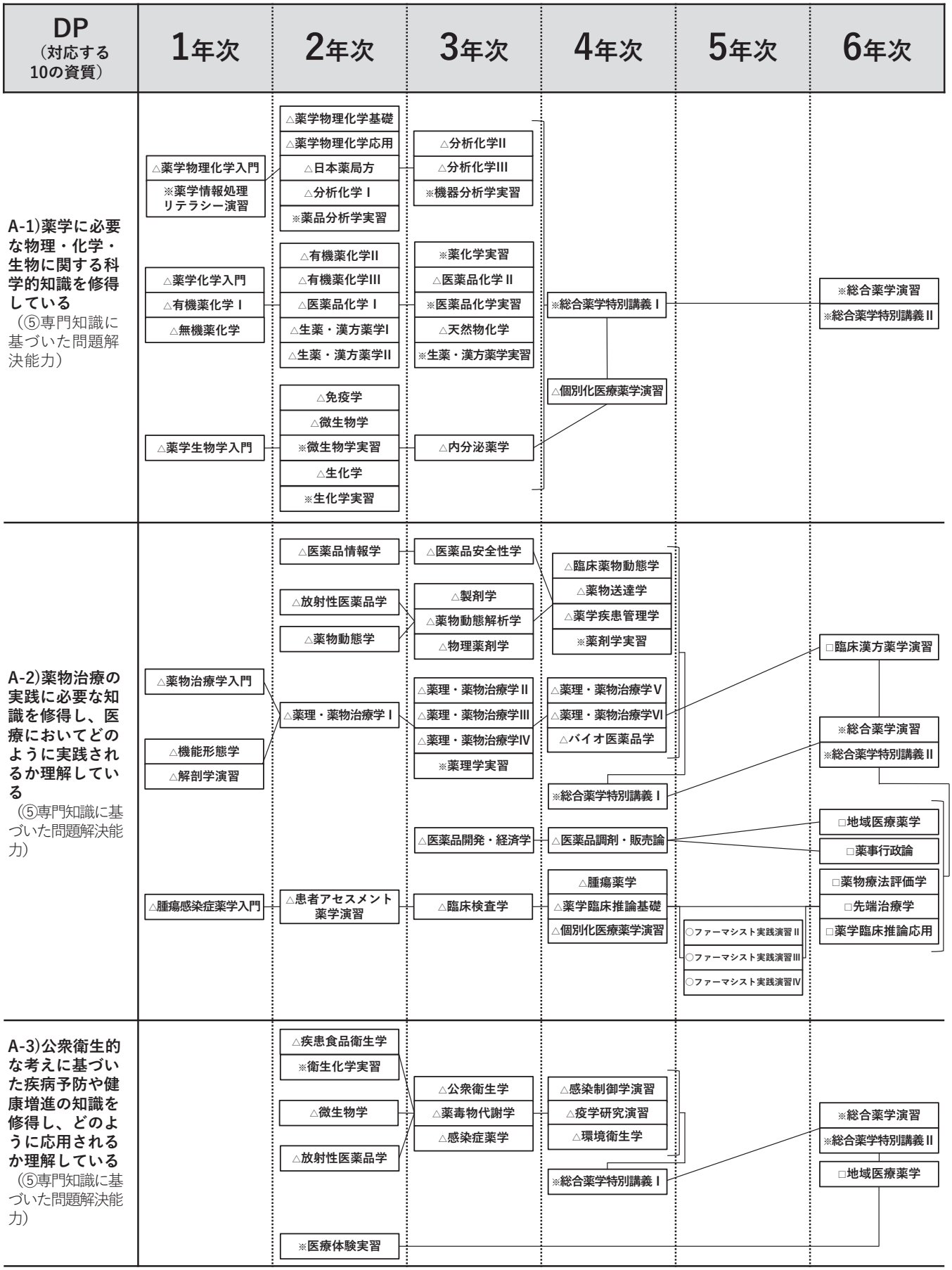
薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・マップ

科目名	科目区分	必選区分	配当年次	A）知識・理解			B）技能				C）態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
■■■専門教育科目（158単位以上）■■■														
【1年次科目（16単位以上）】														
《必修科目（1単位）》														
薬学情報処理リテラシー演習	専門	必修	1	○				○	○					○
《選択必修科目（15単位以上）》														
〔基礎薬学（9単位以上）〕														
薬学物理化学入門	専門	選択必修	1	○										
薬学化学入門	専門	選択必修	1	○										
無機薬化学	専門	選択必修	1	○										
有機薬化学Ⅰ	専門	選択必修	1	○										
薬学生物学入門	専門	選択必修	1	○										
機能形態学	専門	選択必修	1		○									
解剖学演習	専門	選択必修	1		○									
〔臨床薬学（3単位以上）〕														
薬物治療学入門	専門	選択必修	1		○		○							
腫瘍感染症薬学入門	専門	選択必修	1		○		○				○			
薬剤師入門	専門	選択必修	1								○	○	○	
早期臨床体験Ⅰ	専門	選択必修	1					○			○	○	○	
【2年次科目（32単位以上）】														
《必修科目（5単位）》														
微生物学実習	専門	必修	2	○				○						○
生化学実習	専門	必修	2	○				○						○
薬品分析学実習	専門	必修	2	○				○						○
衛生化学実習	専門	必修	2			○		○						○
医療体験実習	専門	必修	2			○		○						○
《選択必修科目（27単位以上）》														
〔基礎薬学（16単位以上）〕														
薬学物理化学基礎	専門	選択必修	2	○										
薬学物理化学応用	専門	選択必修	2	○										
日本薬局方	専門	選択必修	2	○										
分析化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅲ	専門	選択必修	2	○										
医薬品化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生化学	専門	選択必修	2	○										
免疫学	専門	選択必修	2	○										
〔衛生薬学（2単位以上）〕														
微生物学	専門	選択必修	2	○		○								
疾患食品衛生学	専門	選択必修	2			○							○	
〔医療薬学（4単位以上）〕														
薬理・薬物治療学Ⅰ	専門	選択必修	2		○		○							
放射性医薬品学	専門	選択必修	2		○	○								
薬物動態学	専門	選択必修	2		○									
医薬品情報学	専門	選択必修	2		○				○					
〔臨床薬学（1単位以上）〕														
患者アセスメント薬学演習	専門	選択必修	2		○		○		○					
薬学英語演習	専門	選択必修	2					○		○				
早期臨床体験Ⅱ	専門	選択必修	2					○			○	○	○	
【3年次科目（31単位以上）】														
《必修科目（7単位）》														
機器分析学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬化学実習	専門	必修	3	○				○						○
生薬・漢方薬学実習	専門	必修	3	○				○						○
医薬品化学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬理学実習	専門	必修	3		○			○						○
薬学研究入門	専門	必修	3						○					○
《選択必修科目（25単位以上）》														
〔基礎薬学（4単位以上）〕														
分析化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
分析化学Ⅲ	専門	選択必修	3	○										
天然物化学	専門	選択必修	3	○										
医薬品化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
内分泌薬学	専門	選択必修	3	○			○							

科目名	科目区分	必選区分	配当年次	A）知識・理解			B）技能				C）態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
〔衛生薬学（4単位以上)〕														
公衆衛生学	専門	選択必修	3			○							○	
薬毒物代謝学	専門	選択必修	3			○							○	
感染症薬学	専門	選択必修	3			○	○		○					
〔医療薬学（10単位以上)〕														
薬理・薬物治療学Ⅱ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅲ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅳ	専門	選択必修	3		○		○							
物理薬剤学	専門	選択必修	3		○				○					
製剤学	専門	選択必修	3		○		○							
薬物動態解析学	専門	選択必修	3		○				○					
医薬品安全性学	専門	選択必修	3		○		○							
〔臨床薬学（3単位以上)〕														
臨床検査学	専門	選択必修	3		○									
医薬品開発・経済学	専門	選択必修	3		○				○					
コミュニケーション学演習Ⅰ	専門	選択必修	3					○			○	○	○	
《選択科目》														
ファーマシスト実践演習Ⅰ	専門	選択	3						○					○
【4年次科目（27単位以上)】														
《必修科目（13単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅰ	専門	必修	4								○		○	
総合薬学特別講義Ⅰ	専門	必修	4	○	○	○								
薬学研究Ⅰ	専門	必修	4					○	○	○	○	○		○
薬剤学実習	専門	必修	4		○			○			○			○
実務実習事前学習	専門	必修	4				○	○	○		○	○		
《選択必修科目（14単位以上)》														
〔衛生薬学（2単位以上)〕														
環境衛生学	専門	選択必修	4			○							○	
感染制御学演習	専門	選択必修	4			○							○	
疫学研究演習	専門	選択必修	4			○			○					○
〔医療薬学（8単位以上)〕														
バイオ医薬品学	専門	選択必修	4		○									
薬理・薬物治療学Ⅴ	専門	選択必修	4		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅵ	専門	選択必修	4		○		○							
薬物送達学	専門	選択必修	4		○		○							
臨床薬物動態学	専門	選択必修	4		○		○		○					
薬学疾患管理学	専門	選択必修	4		○				○					
〔臨床薬学（2単位以上)〕														
薬学臨床推論基礎	専門	選択必修	4		○		○		○			○		
医薬品調剤・販売論	専門	選択必修	4		○				○				○	
腫瘍薬学	専門	選択必修	4		○		○		○			○		
個別化医療薬学演習	専門	選択必修	4	○	○		○		○					
【5年次科目（32単位以上)】														
《必修科目（32単位)》														
実務実習	専門	必修	5				○	○	○		○	○		
薬学研究Ⅱ	専門	必修	5					○	○	○	○	○		○
《選択科目》														
ファーマシスト実践演習Ⅱ	専門	選択	5		○		○		○		○	○		
ファーマシスト実践演習Ⅲ	専門	選択	5		○		○		○			○		
ファーマシスト実践演習Ⅳ	専門	選択	5		○		○		○					
【6年次科目（19単位以上)】														
《必修科目（14単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅱ	専門	必修	6								○		○	
総合薬学特別講義Ⅱ	専門	必修	6	○	○	○								
総合薬学演習	専門	必修	6	○	○	○								
薬学研究Ⅲ	専門	必修	6					○	○	○	○	○		○
《選択科目（5単位)》														
先端治療学	専門	選択	6		○		○		○					
薬事行政論	専門	選択	6		○								○	
地域医療薬学	専門	選択	6		○	○	○						○	
薬学臨床推論応用	専門	選択	6		○		○							
薬物療法評価学	専門	選択	6		○		○		○					
臨床漢方薬学演習	専門	選択	6		○		○							
実務実習事後演習	専門	選択	6				○	○			○	○		
コミュニケーション学演習Ⅱ	専門	選択	6					○			○	○	○	

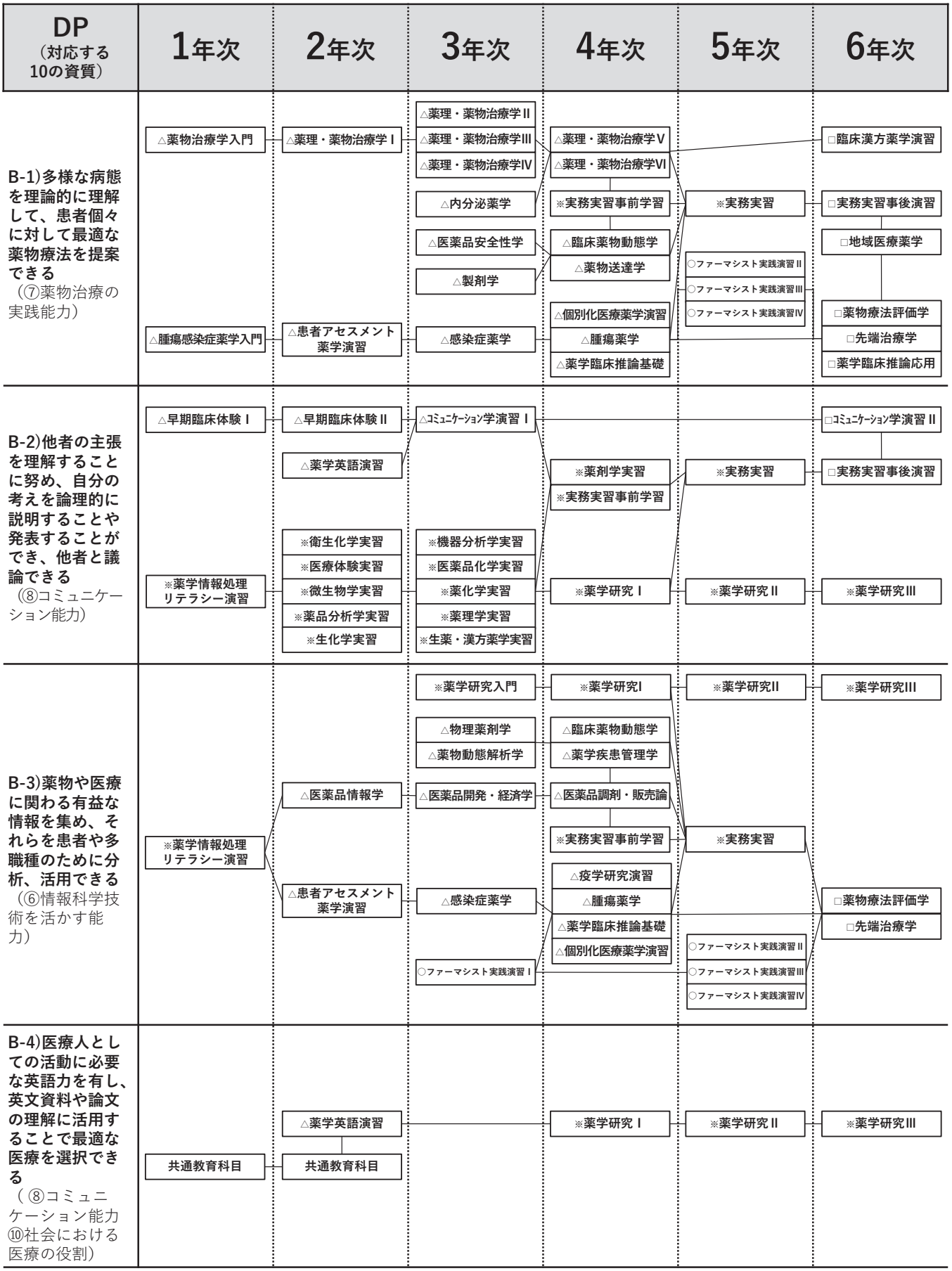
※共通教育科目に関しては、共通教育科目に関するカリキュラム・マップで別に定める

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラムツリー(DP: A)



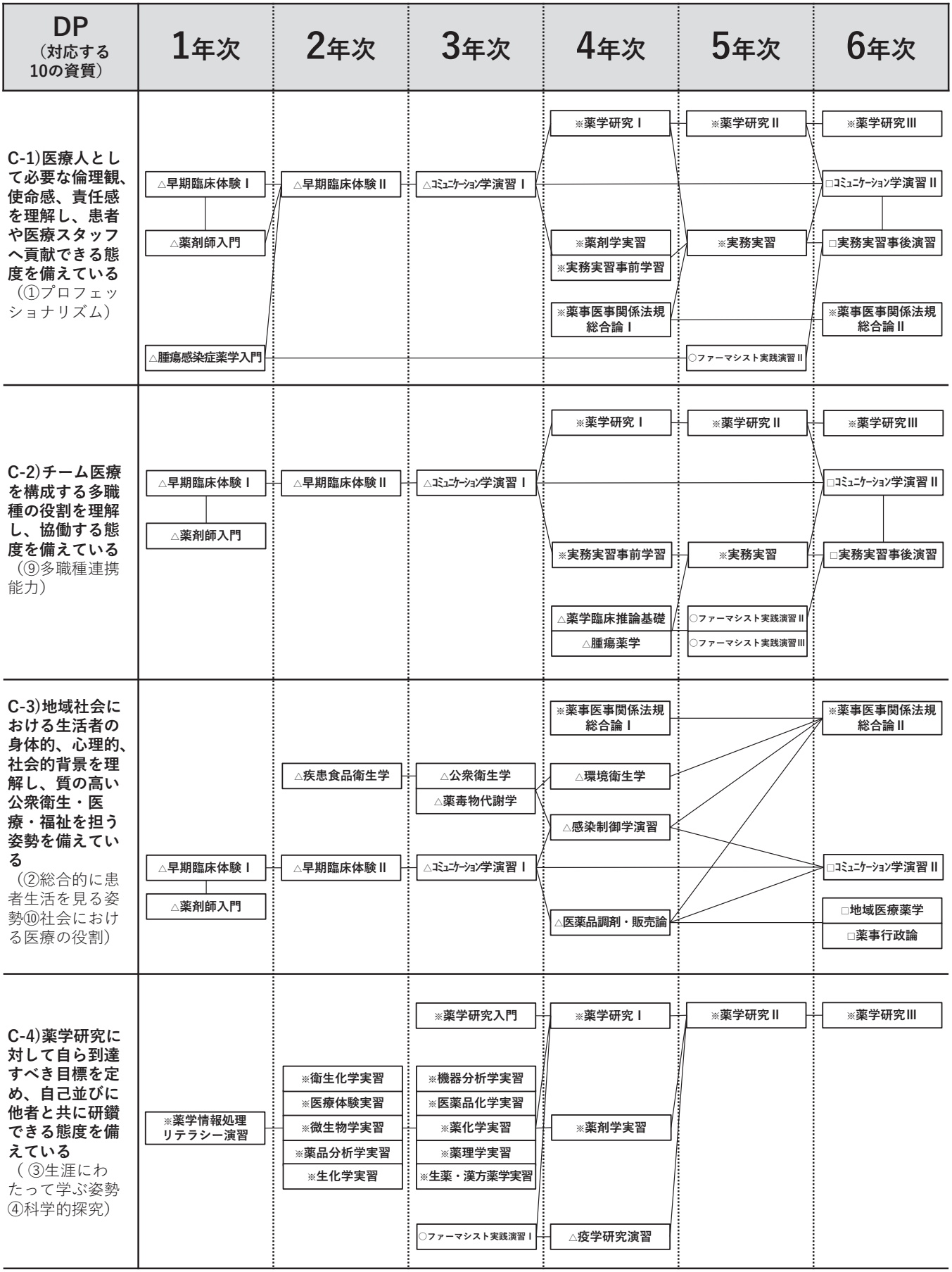
※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラムツリー(DP: B)



※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラムツリー(DP: C)



※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

福岡大学薬学部薬学科の理念及び目的

福岡大学の建学の精神及び教育研究の理念である三つの共存に則り、薬学部薬学科は「医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって、国民の健康と福祉に貢献すること」を教育研究の理念とする。この理念に基づき、「医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用及び医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成すること」を教育研究の目的とする。

薬学部ディプロマポリシー（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

A）幅広い教養と基礎的科学力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
B）薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
C）教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

薬学科ディプロマポリシー（卒業生が身に付けるべき資質・能力）

薬学科の学位（教育）プログラムでは、豊かな人間性、高い倫理観をもち、基礎薬学、医療薬学、衛生薬学、臨床薬学、薬学研究などの学問を修め、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに最先端の科学技術の開拓を担える教育・研究者を育成する。所定の単位を修得した者で、下記に示された資質・能力を有すると認められる者に、学士（薬学）の学位を授与する。

【知識・理解】

A-1）薬学に必要な物理・化学・生物に関する科学的知識を修得している。
A-2）薬物治療の実践に必要な知識を修得し、医療においてどのように実践されるか理解している。
A-3）公衆衛生的な考えに基づいた疾病予防や健康増進の知識を修得し、どのように応用されるか理解している。

【技能】

B-1）多様な病態を理論的に理解して、患者個々に対して最適な薬物療法を提案できる。
B-2）他者の主張を理解することに努め、自分の考えを論理的に説明することや発表することができ、他者と議論できる。
B-3）薬物や医療に関わる有益な情報を集め、それらを患者や多職種のために分析、活用できる。
B-4）医療人としての活動に必要な英語力を有し、英文資料や論文の理解に活用することで最適な医療を選択できる。

【態度・志向性】

C-1）医療人として必要な倫理観、使命感、責任感を理解し、患者や医療スタッフへ貢献できる態度を備えている。
C-2）チーム医療を構成する多職種の役割を理解し、協働する態度を備えている。
C-3）地域社会における生活者の身体的、心理的、社会的背景を理解し、質の高い公衆衛生・医療・福祉を担う姿勢を備えている。
C-4）薬学研究に対して自ら到達すべき目標を定め、自己並びに他者と共に研鑽できる態度を備えている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学位（教育）プログラム DP を構成する。

薬学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

①教育内容

薬学部のカリキュラムは、高度な薬学専門知識を涵養するための基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学、薬物療法における臨床実践能力を養うための実務実習や問題解決能力やプレゼンテーション能力などを養うための薬学研究などから構成されている。

②教育方法

授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分け、それらを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。専門教育科目では、演習・実習科目において少人数制で実践的な技術や技能を習得させ、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うためにスモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを行う。講義や演習で学んだ基礎的な力を活用し、薬剤師としての実践力を身に着けることを目的に、病院や薬局において臨地実習を行う。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学部 CP を構成する。

薬学の学位（教育）プログラム

①教育内容

薬学の学位（教育）プログラムにおけるカリキュラムは、ディプロマポリシーに掲げた薬の専門家として必要とされる【知識・理解】、【技能】、【態度・志向性】を段階的、発展的に身に付けることができるように編成されている。

1）基礎薬学、衛生薬学、医療薬学、臨床薬学に関する知識、技能を体系的に学べるような科目を配置する。

2）薬剤師として必要とされる薬物療法や地域の保健・医療における実践的な知識、技能、態度を修得するために、実務実習を開講する。

3）医療人である薬剤師としての意識を高め、倫理観、ヒューマニズム、コミュニケーション能力を養う科目を開講する。

4）社会のグローバル化に対応するために、薬学に関する科学英語を学ぶための科目を開講する。

5）医療に関わる有益な情報収集、分析、活用する能力を養う科目を開講する。

6）研究課題を通して、問題解決能力・研究能力を養うことと人格形成のために、薬学研究を開講する。

②教育方法

1）「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学部独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

2）実習科目では、講義科目に対応した内容を少人数制で行うことにより、専門知識を高め、実践的な技術や技能を習得させる。

3）薬剤師として必要とされる総合的かつ実践的な知識・技能・態度を修得するために、実務実習として病院と薬局において臨地実習を行う。

4）医療倫理、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力などを養うための科目を、低・中・高学年次に継続的に開講し、スモールグループディスカッション(SGD)、ロールプレイ、プレゼンテーションなど多様なアクティブラーニングを実践する。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学位（教育）プログラム CP を構成する。

薬剤師として求められる基本的な資質・能力（薬学教育ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱ・ｶﾘｷｭﾗﾑ）

薬剤師は、豊かな人間性と医療人としての高い倫理観を備え、薬の専門家として医療安全を認識し、責任をもって患者、生活者の命と健康な生活を守り、医療と薬学の発展に寄与して社会に貢献できるよう、以下の資質・能力について、生涯にわたって研鑽していくことが求められる。

1．プロフェッショナリズム

豊かな人間性と生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての人の健康の維持・増進に貢献する使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重して利益を守る倫理観を持ち、医薬品等による健康被害（薬害、医療事故、重篤な副作用等）を発生させることがないよう最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。

2．総合的に患者・生活者をみる姿勢

患者・生活者の身体的、心理的、社会的背景などを把握し、全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。

3．生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療・福祉・公衆衛生を担う薬剤師として、自己及び他者と共に研鑽し教えあいながら、自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。

4．科学的探究

薬学的視点から、医療・福祉・公衆衛生における課題を的確に見出し、その解決に向けた科学的思考を身に付けながら、学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。

5．専門知識に基づいた問題解決能力

医薬品や他の化学物質の生命や環境への関わりを専門的な観点で把握し、適切な科学的判断ができるよう、薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。

6．情報・科学技術を活かす能力

社会における高度先端技術に関心を持ち、薬剤師としての専門性を活かし、情報・科学技術に関する倫理・法律・制度・規範を遵守して疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的に利活用する。

7．薬物治療の実践的能力

薬物治療を主体的に計画・実施・評価し、的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践する。

8．コミュニケーション能力

患者・生活者、医療者と共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。

9．多職種連携能力

多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、お互いに対等な関係性を築きながら、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。

10．社会における医療の役割の理解

地域社会から国際社会にわたる広い視野に立ち、未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。

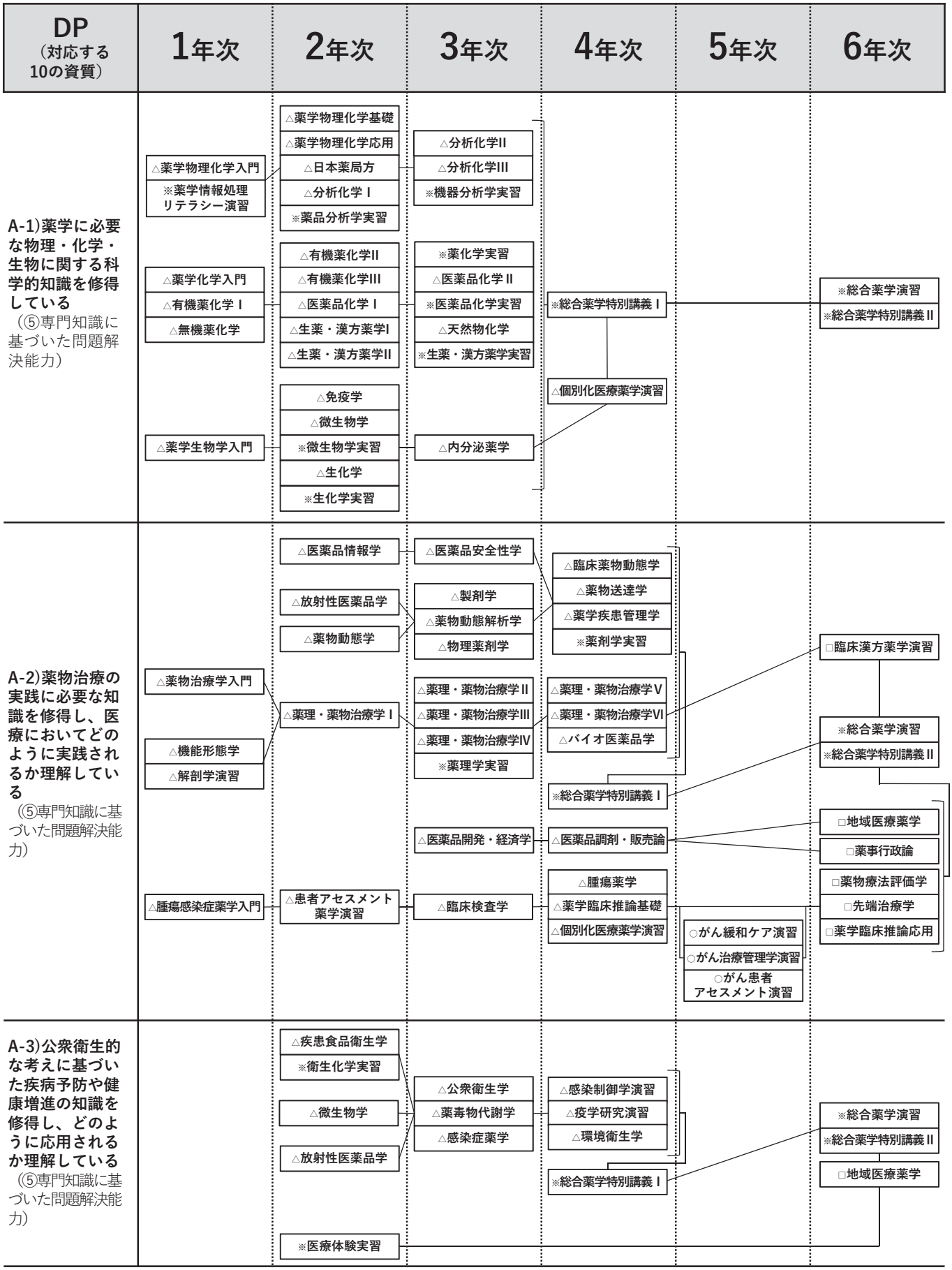
薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・マップ

科目名	科目区分	必選区分	配当年次	A）知識・理解			B）技能				C）態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
■■■専門教育科目（158単位以上）■■■														
【1年次科目（16単位以上）】														
《必修科目（1単位）》														
薬学情報処理リテラシー演習	専門	必修	1	○				○	○					○
《選択必修科目（15単位以上）》														
〔基礎薬学（9単位以上）〕														
薬学物理化学入門	専門	選択必修	1	○										
薬学化学入門	専門	選択必修	1	○										
無機薬化学	専門	選択必修	1	○										
有機薬化学Ⅰ	専門	選択必修	1	○										
薬学生物学入門	専門	選択必修	1	○										
機能形態学	専門	選択必修	1		○									
解剖学演習	専門	選択必修	1		○									
〔臨床薬学（3単位以上）〕														
薬物治療学入門	専門	選択必修	1		○		○							
腫瘍感染症薬学入門	専門	選択必修	1		○		○				○			
薬剤師入門	専門	選択必修	1								○	○	○	
早期臨床体験Ⅰ	専門	選択必修	1					○			○	○	○	
【2年次科目（32単位以上）】														
《必修科目（5単位）》														
微生物学実習	専門	必修	2	○				○						○
生化学実習	専門	必修	2	○				○						○
薬品分析学実習	専門	必修	2	○				○						○
衛生化学実習	専門	必修	2			○		○						○
医療体験実習	専門	必修	2			○		○						○
《選択必修科目（27単位以上）》														
〔基礎薬学（16単位以上）〕														
薬学物理化学基礎	専門	選択必修	2	○										
薬学物理化学応用	専門	選択必修	2	○										
日本薬局方	専門	選択必修	2	○										
分析化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生薬・漢方薬学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅱ	専門	選択必修	2	○										
有機薬化学Ⅲ	専門	選択必修	2	○										
医薬品化学Ⅰ	専門	選択必修	2	○										
生化学	専門	選択必修	2	○										
免疫学	専門	選択必修	2	○										
〔衛生薬学（2単位以上）〕														
微生物学	専門	選択必修	2	○		○								
疾患食品衛生学	専門	選択必修	2			○							○	
〔医療薬学（4単位以上）〕														
薬理・薬物治療学Ⅰ	専門	選択必修	2		○		○							
放射性医薬品学	専門	選択必修	2		○	○								
薬物動態学	専門	選択必修	2		○									
医薬品情報学	専門	選択必修	2		○				○					
〔臨床薬学（1単位以上）〕														
患者アセスメント薬学演習	専門	選択必修	2		○		○		○					
薬学英語演習	専門	選択必修	2					○		○				
早期臨床体験Ⅱ	専門	選択必修	2					○			○	○	○	
【3年次科目（31単位以上）】														
《必修科目（7単位）》														
機器分析学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬化学実習	専門	必修	3	○				○						○
生薬・漢方薬学実習	専門	必修	3	○				○						○
医薬品化学実習	専門	必修	3	○				○						○
薬理学実習	専門	必修	3		○			○						○
薬学研究入門	専門	必修	3						○					○
《選択必修科目（25単位以上）》														
〔基礎薬学（4単位以上）〕														
分析化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
分析化学Ⅲ	専門	選択必修	3	○										
天然物化学	専門	選択必修	3	○										
医薬品化学Ⅱ	専門	選択必修	3	○										
内分泌薬学	専門	選択必修	3	○			○							

科目名	科目区分	必選区分	配当年次	A）知識・理解			B）技能				C）態度・志向性			
				A-1	A-2	A-3	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
〔衛生薬学（4単位以上)〕														
公衆衛生学	専門	選択必修	3			○							○	
薬毒物代謝学	専門	選択必修	3			○							○	
感染症薬学	専門	選択必修	3			○	○		○					
〔医療薬学（10単位以上)〕														
薬理・薬物治療学Ⅱ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅲ	専門	選択必修	3		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅳ	専門	選択必修	3		○		○							
物理薬剤学	専門	選択必修	3		○				○					
製剤学	専門	選択必修	3		○		○							
薬物動態解析学	専門	選択必修	3		○				○					
医薬品安全性学	専門	選択必修	3		○		○							
〔臨床薬学（3単位以上)〕														
臨床検査学	専門	選択必修	3		○									
医薬品開発・経済学	専門	選択必修	3		○				○					
コミュニケーション学演習Ⅰ	専門	選択必修	3					○			○	○	○	
《選択科目》														
がん疫学演習	専門	選択	3						○					○
【4年次科目（27単位以上)】														
《必修科目（13単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅰ	専門	必修	4								○		○	
総合薬学特別講義Ⅰ	専門	必修	4	○	○	○								
薬学研究Ⅰ	専門	必修	4					○	○	○	○	○		○
薬剤学実習	専門	必修	4		○			○			○			○
実務実習事前学習	専門	必修	4				○	○	○		○	○		
《選択必修科目（14単位以上)》														
〔衛生薬学（2単位以上)〕														
環境衛生学	専門	選択必修	4			○							○	
感染制御学演習	専門	選択必修	4			○							○	
疫学研究演習	専門	選択必修	4			○			○					○
〔医療薬学（8単位以上)〕														
バイオ医薬品学	専門	選択必修	4		○									
薬理・薬物治療学Ⅴ	専門	選択必修	4		○		○							
薬理・薬物治療学Ⅵ	専門	選択必修	4		○		○							
薬物送達学	専門	選択必修	4		○		○							
臨床薬物動態学	専門	選択必修	4		○		○		○					
薬学疾患管理学	専門	選択必修	4		○				○					
〔臨床薬学（2単位以上)〕														
薬学臨床推論基礎	専門	選択必修	4		○		○		○			○		
医薬品調剤・販売論	専門	選択必修	4		○				○				○	
腫瘍薬学	専門	選択必修	4		○		○		○			○		
個別化医療薬学演習	専門	選択必修	4	○	○		○		○					
【5年次科目（32単位以上)】														
《必修科目（32単位)》														
実務実習	専門	必修	5				○	○	○		○	○		
薬学研究Ⅱ	専門	必修	5					○	○	○	○	○		○
《選択科目》														
がん緩和ケア演習	専門	選択	5		○		○		○		○	○		
がん治療管理学演習	専門	選択	5		○		○		○			○		
がん患者アセスメント演習	専門	選択	5		○		○		○					
【6年次科目（19単位以上)】														
《必修科目（14単位)》														
薬事医事関係法規総合論Ⅱ	専門	必修	6								○		○	
総合薬学特別講義Ⅱ	専門	必修	6	○	○	○								
総合薬学演習	専門	必修	6	○	○	○								
薬学研究Ⅲ	専門	必修	6					○	○	○	○	○		○
《選択科目（5単位)》														
先端治療学	専門	選択	6		○		○		○					
薬事行政論	専門	選択	6		○								○	
地域医療薬学	専門	選択	6		○	○	○						○	
薬学臨床推論応用	専門	選択	6		○		○							
薬物療法評価学	専門	選択	6		○		○		○					
臨床漢方薬学演習	専門	選択	6		○		○							
実務実習事後演習	専門	選択	6				○	○			○	○		
コミュニケーション学演習Ⅱ	専門	選択	6					○			○	○	○	

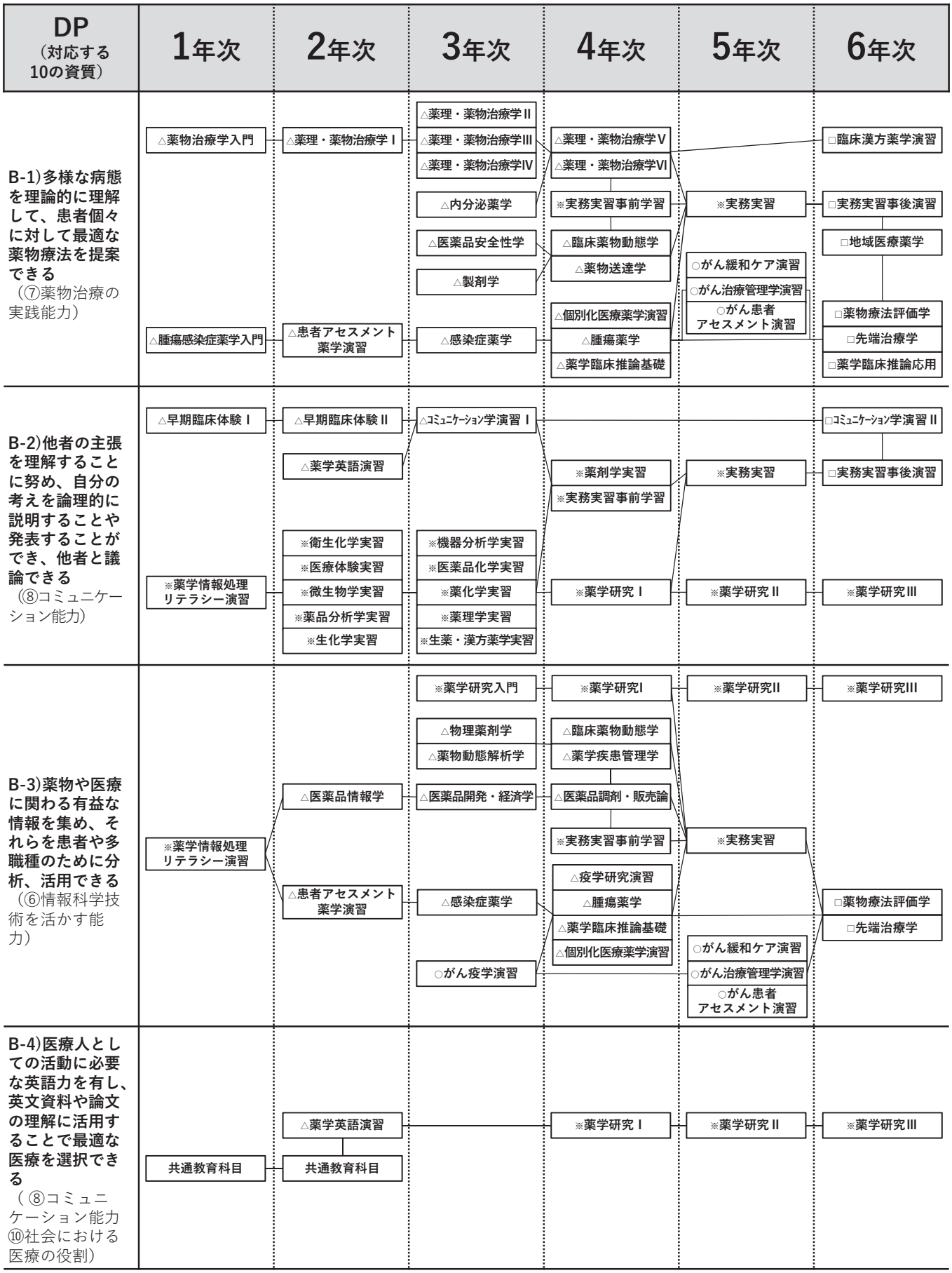
※共通教育科目に関しては、共通教育科目に関するカリキュラム・マップで別に定める

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: A)



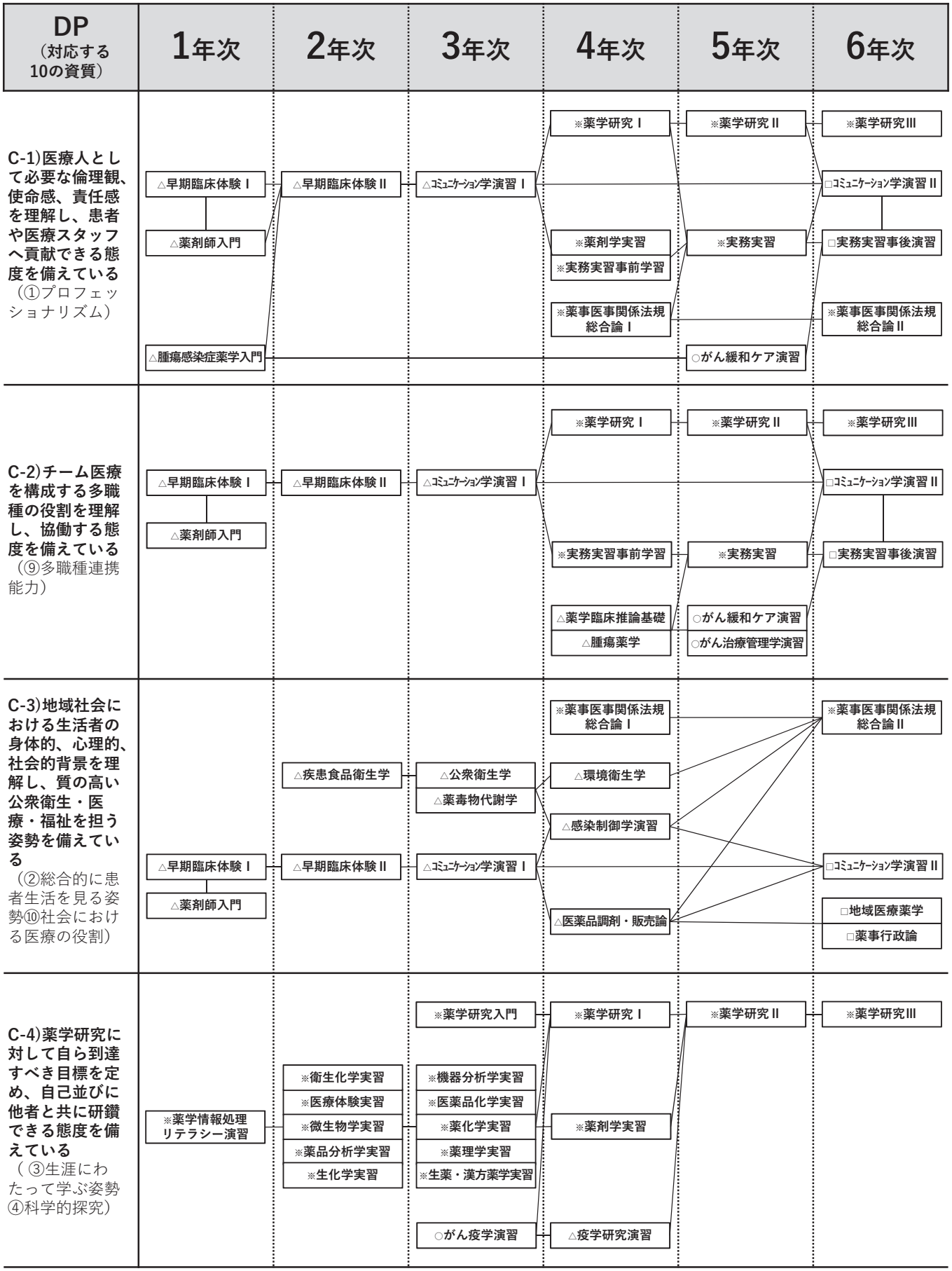
※：必修、△：選択必修、 □：選択、 ○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: B)



※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・ツリー(DP: C)



※：必修、△：選択必修、□：選択、○：クリニカルファーマシスト養成プログラム学生のみ履修可能
括弧内の①～⑩は、DPに対応する令和4年度改訂版薬学教育モデルコアカリキュラムの「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」を示す。
共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

福岡大学薬学部薬学科の理念及び目的

薬学部薬学科は、医薬品の開発や安全使用に関する基礎的、臨床的先端研究の推進をもって国民の健康と福祉に貢献することを教育研究の理念としている。この理念に基づき、医療技術の高度化、医薬分業の進展に伴う医薬品の安全使用および医療の担い手としての質の高い薬剤師の育成という社会的要請に応えるため、基礎科学の総合を基盤としながら、医療人としての使命感と倫理観を十分に理解し、高度な薬学の知識を身に付け、臨床に係る高い実践的な能力を備えた薬剤師、並びに教育・研究者を養成することを目的とする。

薬学部ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学部の教育課程においては、以下に掲げる能力を備え、厳格な成績評価のもとで所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

A）幅広い教養と基礎的科学力を身に付け、高度な薬学の知識を理解している。
B）薬の専門家として必要とされる臨床に係る高い実践的な能力を備えている。
C）教育・研究能力を有し、医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学部 DP を構成する。

薬学科ディプロマポリシー（学位授与の方針）

薬学科は人材養成および教育研究の目的を達成するためのカリキュラムを策定している。開講科目に対して厳格な成績評価を行い、薬学部が設定した共通教育科目および専門教育科目に関して所定の単位を修得した者に対して学位を授与する。

卒業までに身につけるべき資質は以下の通りである。

【知識・理解】

A-1）物理・化学・生物に関する科学的知識を理解している。
A-2）薬剤師として必要とされる高度な薬学的知識を理解している。
A-3）人文科学・社会科学・自然科学についての基本的知識を理解している。
A-4）社会のグローバル化に対応するための外国語に加え、科学英語を理解している。

【技能】

B-1）他者との信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を備えている。
B-2）チーム医療における薬剤師としての基礎的な職能を備えている。
B-3）最適な薬物療法を提案する能力を備えている。
B-4）地域における人々の健康増進や公衆衛生を管理できる能力を備えている。

【態度・志向性】

C-1）医療人としての倫理観、使命感、責任感を持っている。
C-2）教育・研究能力を有し、生涯にわたり自己研鑽する意欲を持っている。
C-3）次世代を担う人材を育成する意欲と態度を持っている。
C-4）スポーツや運動を通じて、心身の健康維持・増進を目指す姿勢を持っている。

【共通教育】

共通教育の DP に関しては別に定める。共通教育に関する DP をもって学位（教育）プログラム DP を構成する。

薬学部カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

①教育内容

薬学部のカリキュラムは、広い視野と豊かな人間性・倫理観を養うための総合教養科目や保健体育科目、社会のグローバル化に対応するための外国語科目、基礎薬学、衛生薬学、医療・臨床薬学などの専門教育科目と実習、薬物療法における実践的能力を養うための実務実習、問題解決能力を養うための卒業研究、高度な薬学専門知識を涵養するための薬学アドバンスト科目から構成されている。

②教育方法

授業科目を共通教育科目と専門教育科目に分け、それらを体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。すべての科目に一般目標（GIO）、複数の到達目標（SBO）、授業計画を設定し、予習・復習による学修効果を高める。実習科目では、少人数制で実践的な技術や技能を習得させ、自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力・研究能力を養うためにスモールグループディスカッション（SGD）、ロールプレイ、プレゼンテーションなどを行う。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学部 CP を構成する。

薬学の学位（教育）プログラム

①教育内容

薬学の学位（教育）プログラムにおけるカリキュラムは、ディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げた薬の専門家として必要とされる【知識・理解】、【技能】、【態度・志向性】を段階的、発展的に身に付けることができるように編成されている。

1）医療人である薬剤師としての意識を高め、コミュニケーション能力を養う科目を開講する。
2）広い視野と豊かな人間性・倫理観を養うために幅広い共通教育科目を開講する。
3）社会のグローバル化に対応するために、共通教育科目の外国語科目に加え、科学英語を学ぶための薬学演習や薬学研究を高学年次に開講する。
4）基礎・創薬科学から衛生薬学および医療・臨床薬学に関する知識、技能を体系的に学べるような科目と実習を配置する。
5）薬剤師として必要とされる薬物療法や地域の保健・医療における実践的な知識、技能、態度を修得するために、実務実習を開講する。
6）研究課題を通して、問題解決能力・研究能力を養うことと人格形成のために、薬学研究を開講する。
7）高度な薬学専門知識を涵養するために、薬学アドバンスト科目を開講する。

②教育方法

1）「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に準拠した科目と本学部独自の科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。
2）講義、演習科目では、定期試験に加え、小テストやレポートなどの課題を課すことで予習・復習による学修効果を高め、知識の到達度を定期的に確認する。
3）実習科目では、講義科目に対応した内容を少人数制で行うことにより、専門知識を高め、実践的な技術や技能を習得させる。
4）自己表現力、コミュニケーション能力、問題解決能力・研究能力を養うためにスモールグループディスカッション（SGD）、ロールプレイ、プレゼンテーションなどアクティブラーニングを多様な形で実践する。

【共通教育】

共通教育の CP に関しては別に定める。共通教育に関する CP をもって学位（教育）プログラム CP を構成する。

薬剤師として求められる基本的な資質（薬学教育モデル・コア・カリキュラム）

①（**薬剤師としての心構え**）医療の担い手として、豊かな人間性と生命の尊厳について深い認識をもち、人の命と健康な生活を守る使命感、責任感および倫理感を有する。
②（**患者・生活者本位の視点**）患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。
③（**コミュニケーション能力**）患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を提供するためのコミュニケーション能力を有する。
④（**チーム医療への参画**）医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。
⑤（**基礎的な科学力**）生体および環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学に関する基本的知識・技能・態度を有する。
⑥（**薬物療法における実践的能力**）薬物療法を総合的に評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。
⑦（**地域の保健・医療における実践的能力**）地域の保健、医療、福祉、介護および行政等に参画・連携して、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。
⑧（**研究能力**）薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解決能力を有する。
⑨（**自己研鑽**）薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。
⑩（**教育能力**）次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。

薬学部カリキュラム一覧表

6年卒業時に必要とされる10の資質

薬学部DP(A-3, C-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
①薬剤師としての心構え						
医療の担い手として、豊かな人間性と、生命の尊厳についての深い認識をもち、 薬剤師の義務及び法令を遵守するとともに、人の命と健康な生活を守る使命感、 責任感及び倫理観を有する。	早期臨床体験Ⅰ	※早期臨床体験Ⅱ	医薬品安全性学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
	薬学概論					
	共通教育科目	共通教育科目				

薬学部DP(C-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
②患者・生活者本位の視点						
患者の人権を尊重し、患者及びその家族の秘密を守り、常に患者・生活者の立 場に立って、これらの人々の安全と利益を最優先する。	早期臨床体験Ⅰ	※早期臨床体験Ⅱ	医薬品安全性学	薬学健康管理学	※実務実習	実務実習事後学習
	薬学概論		医療情報学	薬学疾患管理学		
				※実務実習事前学習		

薬学部DP(A-4, B-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
③コミュニケーション能力						
患者・生活者、他職種から情報を適切に収集し、これらの人々に有益な情報を 提供するためのコミュニケーション能力を有する。	早期臨床体験Ⅰ	※早期臨床体験Ⅱ	コミュニケーション学	※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
	共通教育科目	共通教育科目				

薬学部DP(B-1)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
④チーム医療への参画						
医療機関や地域における医療チームに積極的に参画し、相互の尊重のもとに薬剤師に求められる行動を適切にとる。				※実務実習事前学習	※実務実習	実務実習事後学習
						臨床診療科概論
						薬剤師職能論

薬学部DP(A-1, A-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑤基礎的な科学力						
生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要な科学 に関する基本的知識・技能・態度を有する。	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ	薬学物理化学Ⅲ			
	薬学計算法	薬学物理化学Ⅱ	薬学物理化学Ⅳ			
		分析化学Ⅰ	分析化学Ⅲ			
		分析化学Ⅱ	分析化学Ⅳ			
			日本薬局方Ⅰ			
			日本薬局方Ⅱ			
	薬学化学入門					
	化学					
	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅲ	創薬化学Ⅰ	創薬化学Ⅲ		
	有機薬化学Ⅱ	有機薬化学Ⅳ	創薬化学Ⅱ			
	天然医薬資源学	生薬学Ⅰ	天然物化学	漢方薬学概論		
		生薬学Ⅱ				
	薬学生物学入門					
	機能形態学Ⅰ	機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	遺伝子工学概論		
	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ				
	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ				
		免疫学				
		微生物学				

薬学部DP(B-2)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑥薬物療法における実践的能力						
薬物療法を主体的に計画、実施、評価し、安全で有効な医薬品の使用を推進するために、医薬品を供給し、調剤、服薬指導、処方設計の提案等の薬学的管理を実践する能力を有する。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ	疾患薬理学Ⅳ	※実務実習	実務実習事後学習
			疾患薬理学Ⅲ			薬科処方解析学
			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅲ		※臨床薬学総合講義Ⅰ
			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ		※臨床薬学総合講義Ⅱ
			感染症治療薬概論	漢方薬学概論		
				臨床検査学		
		同位体化学	物理薬剤学	調剤学総論		
		同位体医療薬学	製剤学	薬物送達学		
			薬物動態理論	臨床薬物動態学		
			臨床薬物動態解析学	※実務実習事前学習		

薬学部DP(B-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑦地域の保健・医療における実践的能力						
地域の保健、医療、福祉、介護及び行政等に参画・連携して、地域における人々 の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を有する。	早期臨床体験Ⅰ	食品栄養学	環境衛生学Ⅰ	環境衛生学Ⅱ	※実務実習	薬事行政論
		食品衛生学	公衆衛生学	薬学健康管理学		
	共通教育科目	共通教育科目	医薬品開発・経済学	薬学疾患管理学		
				薬事関係法規論		※薬事・医事関係法規総合講義

薬学部DP(C-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑧研究能力						
薬学・医療の進歩と改善に資するために、研究を遂行する意欲と問題発見・解 決能力を有する。		※物理系実習Ⅰ	※物理系実習Ⅱ	※薬学演習（含薬学研究基礎）	※薬学研究Ⅰ	※薬学研究Ⅱ
			※物理系実習Ⅲ			今日の薬学研究
			※化学系実習Ⅰ			薬学特別研究
			※化学系実習Ⅱ			医薬品開発論
			※化学系実習Ⅲ			
		※生物系実習Ⅰ	※生物系実習Ⅲ			
		※生物系実習Ⅱ	※生物系実習Ⅳ			

薬学部DP(C-3)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑨自己研鑽						
薬学・医療の進歩に対応するために、医療と医薬品を巡る社会的動向を把握し、 生涯にわたり自己研鑽を続ける意欲と態度を有する。				※物理系薬学特別講義		※物理系薬学総合講義
				※化学系薬学特別講義		※化学系薬学総合講義
				※生物系薬学特別講義		※生物系薬学総合講義
				※衛生薬学特別講義		※衛生薬学総合講義
				※医療薬学特別講義Ⅰ		※医療薬学総合講義Ⅰ
				※医療薬学特別講義Ⅱ		※医療薬学総合講義Ⅱ
						※医療薬学総合講義Ⅲ
						※医療薬学総合講義Ⅳ
						※総合薬学演習（含卒業試験）

薬学部DP(C-4)	1年次専門科目	2年次専門科目	3年次専門科目	4年次専門科目	5年次専門科目	6年次専門科目
⑩教育能力						
次世代を担う人材を育成する意欲と態度を有する。				※薬学演習（含薬学研究基礎）	※薬学研究Ⅰ	※薬学研究Ⅱ

薬学の学位(教育)プログラムのカリキュラム・マップ

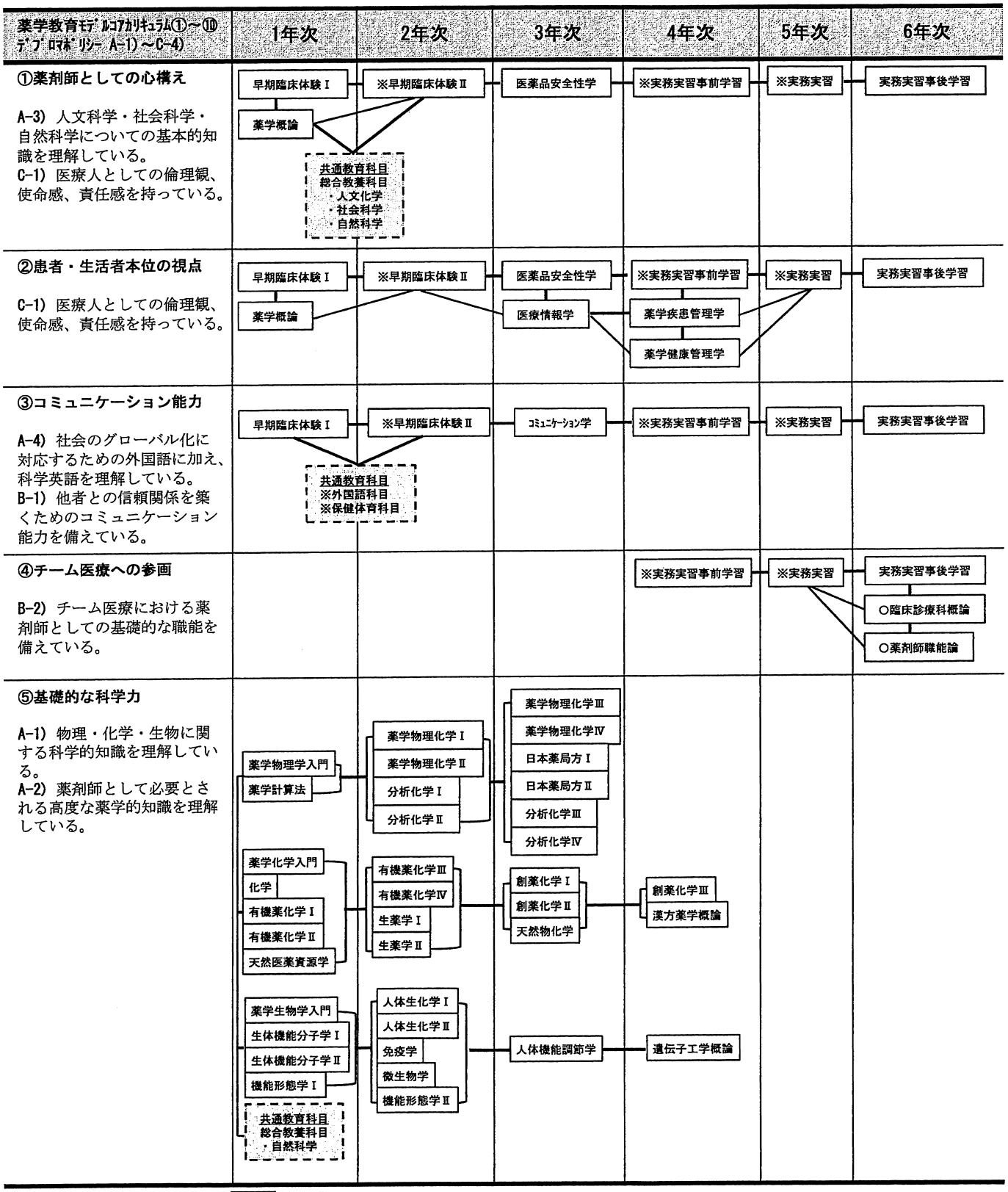
科目名	科目区分		配当年次	A）知識・理解				B）技能				C）態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
■■■専門教育科目（158単位以上）■■■															
【1年次科目（20単位以上）】															
〔物理分野（2単位以上）〕															
薬学物理学入門	専門	選択	1	○	○										
薬学計算法	専門	選択	1	○	○										
〔化学分野（6単位以上）〕															
薬学化学入門	専門	選択	1	○	○										
化学	専門	選択	1	○	○										
有機薬化学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
有機薬化学Ⅱ	専門	選択	1	○	○										
天然医薬資源学	専門	選択	1	○	○										
〔生物分野（4単位以上）〕															
薬学生物学入門	専門	選択	1	○	○										
機能形態学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
生体機能分子学Ⅰ	専門	選択	1	○	○										
生体機能分子学Ⅱ	専門	選択	1	○	○										
〔総合分野（1単位以上）〕															
薬学概論	専門	選択	1			○						○			
早期臨床体験Ⅰ	専門	選択	1			○	○	○			○	○			○
【2年次科目（32単位以上）】															
《必修科目（4単位）》															
※物理系実習Ⅰ	専門	必修	2										○		
※生物系実習Ⅰ	専門	必修	2										○		
※生物系実習Ⅱ	専門	必修	2										○		
※早期臨床体験Ⅱ	専門	必修	2			○	○	○				○			
《選択科目（28単位以上）》															
〔物理分野（4単位以上）〕															
薬学物理化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
薬学物理化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
分析化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
分析化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
〔化学分野（4単位以上）〕															
生薬学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
生薬学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
有機薬化学Ⅲ	専門	選択	2	○	○										
有機薬化学Ⅳ	専門	選択	2	○	○										
〔生物分野（4単位以上）〕															
人体生化学Ⅰ	専門	選択	2	○	○										
人体生化学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
微生物学	専門	選択	2	○	○										
免疫学	専門	選択	2	○	○										
〔衛生分野（2単位以上）〕															
食品栄養学	専門	選択	2								○				○
食品衛生学	専門	選択	2								○				○
〔薬理分野（2単位以上）〕															
機能形態学Ⅱ	専門	選択	2	○	○										
疾患薬理学Ⅰ	専門	選択	2							○					
〔薬剤分野（2単位以上）〕															
同位体化学	専門	選択	2							○					
同位体医療薬学	専門	選択	2							○					
【3年次科目（26単位以上）】															
《必修科目（7単位）》															
※物理系実習Ⅱ	専門	必修	3										○		
※物理系実習Ⅲ	専門	必修	3										○		
※化学系実習Ⅰ	専門	必修	3										○		
※化学系実習Ⅱ	専門	必修	3										○		
※化学系実習Ⅲ	専門	必修	3										○		
※生物系実習Ⅲ	専門	必修	3										○		
※生物系実習Ⅳ	専門	必修	3										○		
《選択科目（19単位以上）》															

科目名	科目区分		配当年次	A）知識・理解				B）技能				C）態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
〔物理分野（3単位以上)〕															
薬学物理化学Ⅲ	専門	選択	3	○	○										
薬学物理化学Ⅳ	専門	選択	3	○	○										
日本薬局方Ⅰ	専門	選択	3	○	○										
日本薬局方Ⅱ	専門	選択	3	○	○										
分析化学Ⅲ	専門	選択	3	○	○										
分析化学Ⅳ	専門	選択	3	○	○										
〔化学分野（1単位以上)〕															
天然物化学	専門	選択	3	○	○										
創薬化学Ⅰ	専門	選択	3	○	○										
創薬化学Ⅱ	専門	選択	3	○	○										
〔生物分野（1単位以上)〕															
感染症治療薬概論	専門	選択	3							○					
人体機能調節学	専門	選択	3	○	○										
〔衛生分野（1単位以上)〕															
環境衛生学Ⅰ	専門	選択	3								○				○
公衆衛生学	専門	選択	3								○				○
〔薬理分野（2単位以上)〕															
疾患薬理学Ⅱ	専門	選択	3							○					
疾患薬理学Ⅲ	専門	選択	3							○					
病態・薬物治療学Ⅰ	専門	選択	3							○					
病態・薬物治療学Ⅱ	専門	選択	3							○					
〔薬剤分野（4単位以上)〕															
物理薬剤学	専門	選択	3							○					
製剤学	専門	選択	3							○					
薬物動態理論	専門	選択	3							○					
臨床薬物動態解析学	専門	選択	3							○					
医薬品安全性学	専門	選択	3			○						○			
医療情報学	専門	選択	3									○			
〔実務分野（1単位以上)〕															
コミュニケーション学	専門	選択	3				○	○							
医薬品開発・経済学	専門	選択	3								○				○
【4年次科目（21単位以上)】															
《必修科目（12単位)》															
※物理系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※化学系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※生物系薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※衛生薬学特別講義	専門	必修	4										○		
※医療薬学特別講義Ⅰ	専門	必修	4										○		
※医療薬学特別講義Ⅱ	専門	必修	4										○		
※薬学演習（含薬学研究基礎）	専門	必修	4										○	○	
※実務実習事前学習	専門	必修	4			○	○	○	○	○		○			
《選択科目（9単位以上)》															
〔化学分野（1単位以上)〕															
漢方薬学概論	専門	選択	4	○	○					○					
創薬化学Ⅲ	専門	選択	4	○	○										
〔生物分野（1単位以上)〕															
遺伝子工学概論	専門	選択	4	○	○										
臨床検査学	専門	選択	4							○					
〔衛生分野〕															
環境衛生学Ⅱ	専門	選択	4								○				○
〔薬理分野（1単位以上)〕															
病態・薬物治療学Ⅲ	専門	選択	4							○					
病態・薬物治療学Ⅳ	専門	選択	4							○					
疾患薬理学Ⅳ	専門	選択	4							○					
〔薬剤分野（1単位以上)〕															
薬物送達学	専門	選択	4							○					
臨床薬物動態学	専門	選択	4							○					
薬学健康管理学	専門	選択	4								○	○			○
薬学疾患管理学	専門	選択	4								○	○			○
〔実務分野（1単位以上)〕															
薬事関係法規論	専門	選択	4								○				○
調剤学総論	専門	選択	4							○					

科目名	科目区分		配当年次	A）知識・理解				B）技能				C）態度・志向性			
	専門 共通 関連	必修 選択必修 選択		A-1	A-2	A-3	A-4	B-1	B-2	B-3	B-4	C-1	C-2	C-3	C-4
【5年次科目（32単位）】															
実務実習	専門	必修	5			○	○	○	○	○	○	○			○
薬学研究Ⅰ	専門	必修	5										○	○	
【6年次科目（27単位以上）】															
《必修科目（25単位）》															
※薬学研究Ⅱ	専門	必修	6										○	○	
※物理系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※化学系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※生物系薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※衛生薬学総合講義	専門	必修	6										○		
※臨床薬学総合講義Ⅰ	専門	必修	6							○					
※臨床薬学総合講義Ⅱ	専門	必修	6							○					
※医療薬学総合講義Ⅰ	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義Ⅱ	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義Ⅲ	専門	必修	6										○		
※医療薬学総合講義Ⅳ	専門	必修	6										○		
※薬事・医事関係法規総合講義	専門	必修	6								○				○
※総合薬学演習（含卒業試験）	専門	必修	6										○		
《選択科目（2単位以上）》															
〔薬剤分野〕															
薬科処方解析学	専門	選択	6							○					
〔実務分野〕															
実務実習事後学習	専門	選択	6			○	○	○	○	○		○			
〔アドバンスト分野（2単位以上）〕															
臨床診療科概論	専門	選択	6						○	○					
薬剤師職能論	専門	選択	6						○						
今日の薬学研究	専門	選択	6										○		
薬学特別研究	専門	選択	6										○		
薬事行政論	専門	選択	6								○				○
医薬品開発論	専門	選択	6										○		

※共通教育科目に関しては、共通教育科目に関するカリキュラム・マップで別に定める

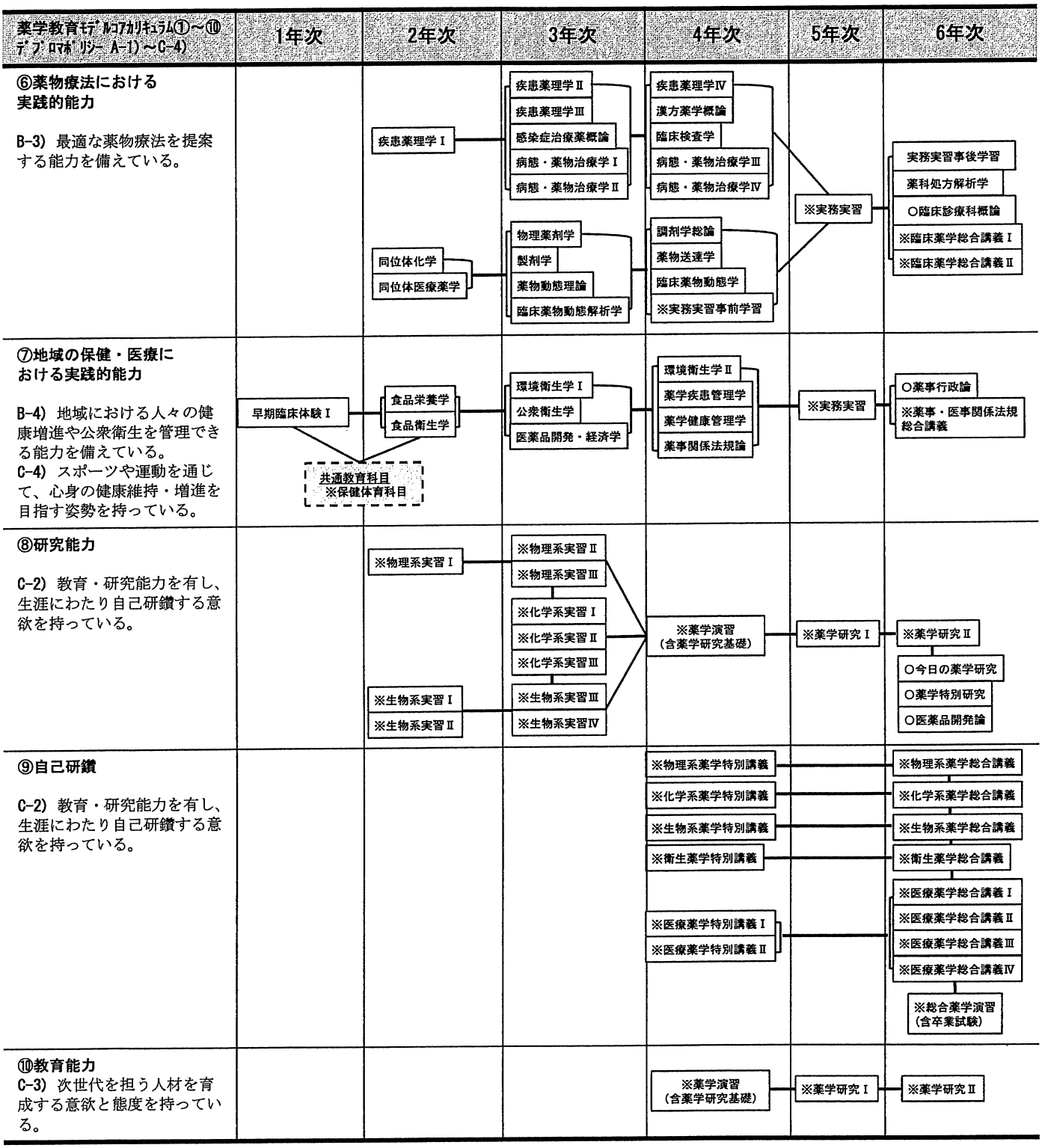
「薬学の学位(教育)ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」のｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾂﾘｰ



[　]；共通教育科目、[　]；専門科目　　※；必修、それ以外の科目は選択、○；ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ科目
番号①-⑩薬学教育ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱｶﾘｷｭﾗﾑの「薬剤師として求められる基本的な資質」

＊共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

「薬学の学位（教育）ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ」のｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾂﾘｰ



［　］；共通教育科目、［　］；専門科目　　※；必修、それ以外の科目は選択、○；ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ科目
番号①-⑩薬学教育ﾓﾃﾞﾙ・ｺｱｶﾘｷｭﾗﾑの「薬剤師として求められる基本的な資質」

＊共通教育科目については、共通教育科目部分のみを対象とした別のカリキュラム・ツリーで詳細を示す。

薬学部専門科目一覧表

1年次専門科目	科目番号	単位
薬学物理学入門	1P1	2
薬学計算法	1P2	2
薬学化学入門	1C1	2
化学	1C2	2
有機薬化学Ⅰ	1C3	2
有機薬化学Ⅱ	1C4	2
天然医薬資源学	1C5	2
薬学生物学入門	1B1	2
機能形態学Ⅰ	1B2	2
生体機能分子学Ⅰ	1B3	2
生体機能分子学Ⅱ	1B4	2
薬学概論	1S1	1
早期臨床体験Ⅰ	1S2	2

2年次専門科目	科目番号	単位
薬学物理化学Ⅰ	2P1	2
薬学物理化学Ⅱ	2P2	2
分析化学Ⅰ	2P3	2
分析化学Ⅱ	2P4	2
※物理系実習Ⅰ	2P5	1
生薬学Ⅰ	2C1	2
生薬学Ⅱ	2C2	2
有機薬化学Ⅲ	2C3	2
有機薬化学Ⅳ	2C4	2
人体生化学Ⅰ	2B1	2
人体生化学Ⅱ	2B2	2
微生物学	2B3	2
免疫学	2B4	2
※生物系実習Ⅰ	2B5	1
※生物系実習Ⅱ	2B6	1
食品栄養学	2H1	2
食品衛生学	2H2	2
機能形態学Ⅱ	2M1	2
疾患薬理学Ⅰ	2M2	2
同位体化学	2Y1	2
同位体医療薬学	2Y2	2
※早期臨床体験Ⅱ	2S1	1

3年次専門科目	科目番号	単位
薬学物理化学Ⅲ	3P1	1
薬学物理化学Ⅳ	3P2	1
日本薬局方Ⅰ	3P3	1
日本薬局方Ⅱ	3P4	1
分析化学Ⅲ	3P5	1
分析化学Ⅳ	3P6	1
※物理系実習Ⅱ	3P7	1
※物理系実習Ⅲ	3P8	1
天然物化学	3C1	1
創薬化学Ⅰ	3C2	1
創薬化学Ⅱ	3C3	1
※化学系実習Ⅰ	3C4	1
※化学系実習Ⅱ	3C5	1
※化学系実習Ⅲ	3C6	1
感染症治療薬概論	3B1	1
人体機能調節学	3B2	1
環境衛生学Ⅰ	3H1	1
公衆衛生学	3H2	1
※生物系実習Ⅲ	3H3	1
疾患薬理学Ⅱ	3M1	1
疾患薬理学Ⅲ	3M2	1
病態・薬物治療学Ⅰ	3M3	1
病態・薬物治療学Ⅱ	3M4	1
※生物系実習Ⅳ	3M5	1
物理薬剤学	3Y1	1
製剤学	3Y2	1
薬物動態理論	3Y3	1
臨床薬物動態解析学	3Y4	1
医薬品安全性学	3Y5	1
医療情報学	3Y6	1
コミュニケーション学	3R1	1
医薬品開発・経済学	3R2	1

4年次専門科目	科目番号	単位
※物理系薬学特別講義	4P1	1
漢方薬学概論	4C1	1
創薬化学Ⅲ	4C2	1
※化学系薬学特別講義	4C3	1
遺伝子工学概論	4B1	1
臨床検査学	4B2	1
※生物系薬学特別講義	4B3	1
環境衛生学Ⅱ	4H1	1
※衛生薬学特別講義	4H2	1
病態・薬物治療学Ⅲ	4M1	1
病態・薬物治療学Ⅳ	4M2	1
疾患薬理学Ⅳ	4M3	1
※医療薬学特別講義Ⅱ	4M4	1
薬物送達学	4Y1	1
臨床薬物動態学	4Y2	1
薬学健康管理学	4Y3	1
薬学疾患管理学	4Y4	1
※医療薬学特別講義Ⅰ	4Y5	1
※実務実習事前学習	4Y6	4
薬事関係法規論	4R1	1
調剤学総論	4R2	1
※薬学演習（含薬学研究基礎）	4S1	2

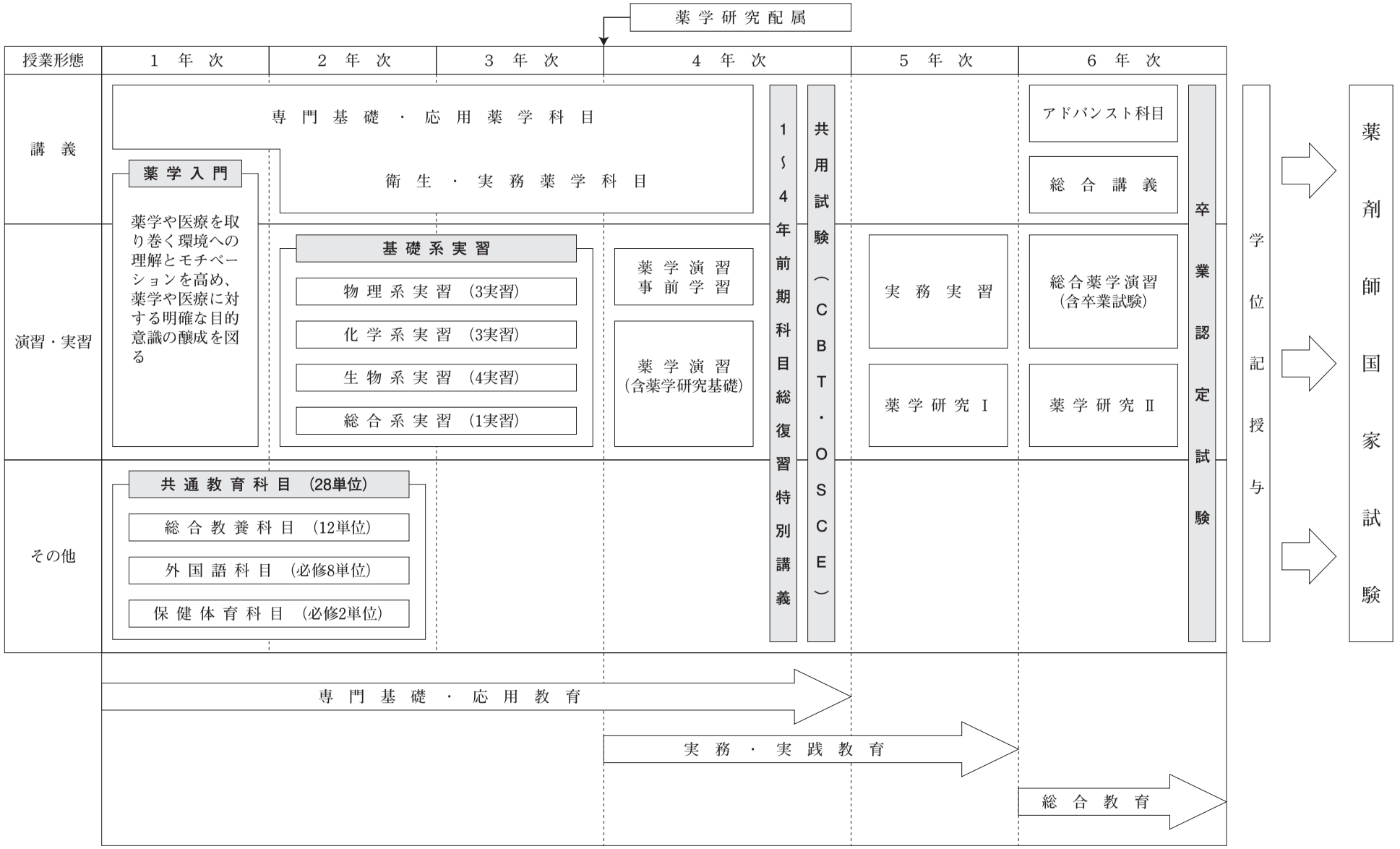
5年次専門科目	科目番号	単位
※実務実習	5R1	20
※薬学研究Ⅰ	5S1	12

6年次専門科目	科目番号	単位
※物理系薬学総合講義	6P1	2
※化学系薬学総合講義	6C1	2
※生物系薬学総合講義	6B1	2
※衛生薬学総合講義	6H1	2
※医療薬学総合講義Ⅰ	6M1	2
※医療薬学総合講義Ⅲ	6M2	2
※医療薬学総合講義Ⅳ	6M3	2
薬科処方解析学	6Y1	1
※臨床薬学総合講義Ⅰ	6Y2	2
※医療薬学総合講義Ⅱ	6Y3	2
実務実習事後学習	6R1	1
※臨床薬学総合講義Ⅱ	6R2	2
※薬事・医事関係法規総合講義	6R3	2
※薬学研究Ⅱ	6S1	1
※総合薬学演習（含卒業試験）	6S2	2
臨床診療科概論	6A1	1
薬剤師職能論	6A2	1
今日の薬学研究	6A3	1
薬学特別研究	6A4	1
薬事行政論	6A5	1
医薬品開発論	6A6	1

物理分野 P
化学分野 C
生物分野 B
衛生分野 H
薬理分野 M
薬剤分野 Y
実務分野 R
総合分野 S
アドバンスト A

※は必修科目

講義、実習、演習の相関


薬学研究配属
授業形態
1 年 次
2 年 次
3 年 次
4 年 次
5 年 次
6 年 次
講 義
演習・実習
その他
専門基礎・応用薬学科目
衛生・実務薬学科目
薬学入門
薬学や医療を取り巻く環境への理解とモチベーションを高め、薬学や医療に対する明確な目的意識の醸成を図る
基礎系実習
物理系実習 (3実習)
化学系実習 (3実習)
生物系実習 (4実習)
総合系実習 (1実習)
薬学演習 事前学習
薬学演習 (含薬学研究基礎)
1〜4年前期科目総復習特別講義
共用試験 (CBT・OSCE)
実務実習
薬学研究Ⅰ
アドバンスト科目
総合講義
総合薬学演習 (含卒業試験)
薬学研究Ⅱ
卒業認定試験
共通教育科目 (28単位)
総合教養科目 (12単位)
外国語科目 (必修8単位)
保健体育科目 (必修2単位)
学位記授与
薬剤師国家試験
専門基礎・応用教育
実務・実践教育
総合教育

薬剤師国家試験出題基準

薬剤師国家試験出題基準（以下、「出題基準」という。）は、薬剤師試験委員が試験問題を作成するうえで「妥当な出題範囲」と「ほぼ一定の問題水準」を保つために策定される基準であり、その内容については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね４年を目途に見直しを行い、薬剤師国家試験の改善を図っていくこととされている。

平成22年９月に策定された出題基準は、平成18年度に薬学教育の修業年限が６年間となり、平成23年度に、６年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することを前提としたものである。平成25年12月に薬学教育モデル・コアカリキュラムが６年制課程に特化した内容に改訂され（以下、「改訂モデル・コアカリキュラム」という。）、平成32年度には、改訂モデル・コアカリキュラムの下で６年制課程を修了する薬学生が国家試験を受験することから、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験出題基準改定部会において出題基準の改定に向けた検討を行った。

本出題基準は、医道審議会薬剤師分科会薬剤師国家試験制度改善検討部会において、平成28年２月にまとめられた「薬剤師国家試験のあり方に関する基本方針」に基づき、改訂モデル・コアカリキュラムの内容を基本とし、医学・薬学の進歩と現状を踏まえて策定したものである。

⑴　試験科目

試験科目は、薬剤師法施行規則の規定により、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」及び「実務」とする。

⑵　出題項目

今回の出題基準見直しの基本的な考え方は、改訂モデル・コアカリキュラムを基本とし、医療や制度の現状を考慮し策定したものである。なお、各科目の出題項目は、現行の出題基準の体系を参考に、必要に応じて項目間の入れ替え等を適切に行った上で、「大項目」、「中項目」、「小項目」及び「小項目の例示」として整理したものであり、必ずしも改訂モデル・コアカリキュラムの記載順等に対応するものではない。また、出題項目は、あくまでも出題に際し、準拠すべき基準であって、出題がすべてこの範囲に拘束されるものではない。

各科目の出題項目は、別表Ⅰ～Ⅶに示すとおりである。

⑶　出題の考え方

①　全般的な出題の考え方

・薬剤師として具備しなければならない基本的な知識、技能及び態度を評価する問題とする。
・高い倫理観、医療人としての教養及び医療現場で通用する実践力を確認することに配慮する。
・７科目の内容については、相互に関連していることから、具体的な問題の作成に当たっては、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要である。
・資格試験として過度に難解な問題は避ける。
・問題の文章構成や条件設定に留意し、解答すべき設問肢の数が１つではない場合には、正解数を明記することを基本とする。
・分野ごとに問題の難易度が偏らないことを基本とする。
・可能な限り、正しいもの（又は正しいものの組合せ）を問う問題とする。
・画像や写真等を利用した問題の出題も検討する。
・各種基準等の数値は、記憶することが必須又は極めて有用な数値である場合を除いて、数値そのものを問う出題はしないこととする。
・各試験法を問う出題については、保健衛生上の意義が大きく、かつ、当該科目において汎用されているもの、又は原理的に重要なもののみを出題し、その意義、測定原理等、試験又は測定実施のために必要とされる基礎知識を問うこととする。また、専門業務において習得すべき操作等の詳細は

出題しないこととする。
・末梢的な事項や、一部の例外的な事項を取り上げるような問題の出題はできるだけ避ける。

② 必須問題及び一般問題における出題の考え方

【必須問題】
・必須問題は、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的な資質を確認するものであることにかんがみ、各科目における基礎的な内容を問うものとする。
・五肢択一形式で問うことを基本とする。なお、正しい解答肢の組合せを問う形式や、解答肢の正誤の組合せを問う形式はとらない。

【一般問題】
・一般問題は、薬剤師が直面する一般的な課題を解釈・解決するための資質を確認するものであることにかんがみ、一般問題（薬学理論問題）は各科目における技能・態度を含む薬学の理論に基づいた問題となるよう留意する。
・一般問題（薬学実践問題）は、医療や公衆衛生等の実務において直面する一般的な課題を解決するための基礎力、実践力及び総合力を確認するため、症例、事例を挙げる等、実践に則した問題となるよう留意する。

③ 各科目における出題の考え方

【物理・化学・生物】
・「物理」は、医薬品を含む化学物質を理解する上で必要な物理化学的・分析化学的な基礎知識及び考え方が身についているかどうかを問うことに重点を置いた問題を中心に出題する。
・「化学」は、「医薬品・生体分子の性質を理解すること」を主題とし、有機化合物としての医薬品・生体分子の物性、反応性及び分子レベルでの作用機序等に関する基礎の理解と、基本的な知識を複数組み合わせた応用力を問う問題を中心に出題する。
・「生物」は、生体の構造、機能及び生体成分の代謝等に関する基礎知識を問う問題を中心に出題する。また、感染症の病原体、免疫の仕組み等に関する基礎知識を問う問題を出題する。
・物理、化学及び生物それぞれの問題数が偏らないように留意して出題する。
・「物理・化学・生物」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出題する。

【衛生】
・「衛生」は、薬剤師による健康増進・疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる基礎科学である衛生化学・公衆衛生学、栄養化学、環境科学、毒性学、環境微生物学、疫学及び生態学等の基礎知識について出題する。
・衛生関係法規として、食品衛生法、食品表示法、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、健康増進法、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律、有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律、特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律、環境基本法その他環境保全に係る法規、及び学校保健安全法については、「衛生」において出題する。
・医薬品の体内動態は原則として「薬剤」で出題されるが、薬毒物を含む代表的な有害化学物質の体内動態は「衛生」において出題する。また、栄養化学については、構造等の基本的な知識は原則として「物理・化学・生物」において、その栄養学的内容は「衛生」において出題する。
・「衛生」では、小項目ごとに記載された留意事項を考慮しながら、薬剤師の臨床現場との関連性が高い問題を出題する。

【薬理】
・「薬理」は、薬理作用や作用機序に関する基礎知識（総論）及び代表的な治療薬の薬理作用や作用機序（各論）を中心に出題する。
・臨床適用時の副作用・相互作用や剤形が問題となる場合を除いて、薬物名は塩等を付さない薬物本体のみを表記することを基本とする。

【薬剤】
・「薬剤」は、薬物の体内動態及び製剤に関する基礎知識を問う問題とする。また、これらの問題数が偏らないように留意して出題する。

【病態・薬物治療】
・「病態・薬物治療」は、患者の病態生理を理解し、適正かつ安全な薬物治療法の遂行等のために必要な知識を問うこととし、代表的な疾患の病態生理（基本的な臨床検査も含む）、適切な治療薬の選択と使用上の注意、薬物治療に役立つ情報（医薬品情報、患者情報、個別化医療）及び臨床研究デザインや生物統計について出題する。
・治療薬の薬理作用や作用機序に関しては「薬理」において出題することを基本とする。

【法規・制度・倫理】
・「法規・制度・倫理」は、薬剤師としての業務を遂行するために必要な法的知識及びこれらの関連する各種の制度並びに医療の担い手としての任務を遂行するために保持すべき倫理規範的知識や態度について問う問題を出題する。
・法律等に照らして薬剤師の行動等の適正性を問うような問題も出題する。
・法規制の原則又は例外に焦点を当てた問題を出題する場合には、場面設定を行う等、原則を問う問題か、例外を問う問題かが明確になるよう配慮する。
・法令、制度の新設や改正内容に関する設問は、当該法令等の改正内容が周知されるまでの間は、原則として出題しないものとする。
・法律のうち、衛生科目で出題される法規は原則として出題しないものとする。

【実務】
・「実務」は、医療や公衆衛生等に携わる薬剤師の業務に関する基礎的及び実践的な知識、技能及び態度を問う問題を出題する。
・「実務」は、薬剤師が、医薬品を一商品としてではなく、生命と関連性が高いものであることを常に意識し、患者を支援し、副作用の早期発見・発生防止に努めることを含め、医薬品の安全性と有効性の確保のために薬の専門家として業務に携わるべきことを理解しているかを問うこととする。
・患者の希望に沿った医療に貢献できるよう人間関係の必要性を理解し、薬物の適正使用のための情報提供ができるか等を問う問題を出題することとする。
・実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題も出題する。
・「実務」は、他科目すべてと関連することから、重複のないよう科目間の調整には十分な配慮が必要となる。

⑷ 適用時期と次回改定

本出題基準については、第106回薬剤師国家試験（平成32年度実施）から適用する。また、出題基準については、学術の進歩及び薬剤師業務の変化に伴い、おおむね４年を目途に改定する。

【別表Ⅰ　物理・化学・生物】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
物質の物理的性質	物質の構造	化学結合 ヒトの体及び薬物の基本的性質・特性を理解するために必要な基礎知識を問う	化学結合の様式について説明できる。
			分子軌道の基本概念及び軌道の混成について説明できる。
			共役や共鳴の概念を説明できる。
		分子間相互作用 生命現象や薬物の薬効発現を理解するために必要な基礎知識を問う	ファンデルワールス力の概要を説明できる。
			静電相互作用について例を挙げて説明できる。
			双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。
			分散力について例を挙げて説明できる。
			水素結合について例を挙げて説明できる。
			電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる。
			疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。
		原子・分子の挙動 臨床で用いられる分析法を理解するために必要な基礎知識を問う	電磁波の性質及び物質との相互作用を説明できる。
			分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。
			電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる。
			光の屈折、偏光及び旋光性について説明できる。
			光の散乱及び干渉について説明できる。
			結晶構造と回折現象の概要を説明できる。
		放射線と放射能 臨床で用いられる放射性物質の基本的性質を理解し、安全な取扱いに必要な基礎知識を問う	原子の構造と放射壊変について説明できる。
			電離放射線の種類を列挙し、それらの性質及び物質との相互作用について説明できる。
			代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。
			核反応及び放射平衡について説明できる。
			放射線測定の原理と利用について概要を説明できる。
	物質のエネルギーと平衡	気体の微視的状態と巨視的状態 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる気体の微視的状態と巨視的状態の基礎知識を問う	ファンデルワールスの状態方程式について概要を説明できる。
			気体の分子運動とエネルギーの関係について概要を説明できる。
			エネルギーの量子化とボルツマン分布について概要を説明できる。
		エネルギー 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う	熱力学における系、外界、境界について説明できる。
			熱力学第一法則を説明できる。
			状態関数と経路関数の違いを説明できる。
			定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる。
			定容熱容量及び定圧熱容量について説明できる。
			エンタルピーについて説明できる。
			化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる。
		自発的な変化 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う	エントロピーについて説明できる。
			熱力学第二法則について説明できる。
			熱力学第三法則について説明できる。
			ギブズエネルギーについて説明できる。
			熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる。
		化学平衡の原理 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる熱力学的な基礎知識を問う	ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる。
			ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる。
			平衡定数に及ぼす圧力及び温度の影響について説明できる。
			共役反応の原理について説明できる。
		相平衡 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる相平衡に関する基礎知識を問う	相変化に伴う熱の移動について説明できる。
			相平衡と相律について説明できる。
			状態図について説明できる。
		溶液の性質 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる溶液の性質に関する基礎知識を問う	希薄溶液の束一的性質について説明できる。
			活量と活量係数について説明できる。
			電解質溶液の電気伝導率及びモル伝導率の濃度による変化を説明できる。
			イオン強度について説明できる。
		電気化学 医薬品を含む化学物質の状態や生体との相互作用を理解するために必要となる酸化還元に関する基礎知識を問う	起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる。
			電極電位（酸化還元電位）について説明できる。
	物質の変化	反応速度 医薬品を含む化学物質の変換過程を理解するために必要な基礎知識を問う	反応次数と速度定数について説明できる。
			微分型速度式を積分型速度式に変換できる。
			代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。
			代表的な（擬）一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。
			代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応等）の特徴について説明できる。
			反応速度と温度との関係を説明できる。
			代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応等）について説明できる。
化学物質の分析	分析の基礎	分析の基本 医薬品を含む化学物質の分析を正しく実施・解析するために必要な基礎知識を問う	分析に用いる器具の正しい使用法を説明できる。
			測定値を適切に取り扱うことができる。
			分析法のバリデーションについて説明できる。
	溶液中の化学平衡	酸・塩基平衡 医薬品を含む化学物質の溶液中での酸・塩基平衡を理解するために必要な基礎知識を問う	酸・塩基平衡の概念について説明できる。
			pH及び解離定数について説明できる。
			溶液のpHの測定法を説明できる。
			緩衝作用や緩衝液について説明できる。
		各種の化学平衡 医薬品を含む化学物質の溶液中での酸・塩基平衡以外の化学平衡を理解するために必要な基礎知識を問う	錯体・キレート生成平衡について説明できる。
			沈殿平衡について説明できる。
			酸化還元平衡について説明できる。
			分配平衡について説明できる。
	化学物質の定性分析・定量分析	定性分析 医薬品を含む化学物質の定性分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う	代表的な無機イオンの定性反応の概要を説明できる。
			日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容の概要を説明できる。
		定量分析（容量分析・重量分析） 医薬品を含む化学物質の定量分析を正確に実施するために必要な基礎知識を問う	中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法及び応用例を説明できる。
			キレート滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。
			沈殿滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。

			酸化還元滴定の原理、操作法及び応用例を説明できる。
			日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析の内容を説明できる。
			日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。
			日本薬局方収載の重量分析法の原理及び操作法を説明できる。
	機器を用いる分析法	分光分析法 医薬品を含む化学物質の分光分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	紫外可視吸光度測定法の原理及び応用例を説明できる。
			蛍光光度法の原理及び応用例を説明できる。
			赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理及び応用例を説明できる。
			原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法及びICP質量分析法の原理及び応用例を説明できる。
			旋光度測定法（旋光分散）の原理及び応用例を説明できる。
			分光分析法を用いた日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析方法を説明できる。
		核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法 医薬品を含む化学物質の核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理及び応用例について概要を説明できる。
		質量分析法 医薬品を含む化学物質の質量分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	質量分析法の原理及び応用例を説明できる。
		X線分析法 医薬品を含む化学物質のX線分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	X線結晶解析の原理及び応用例について概要を説明できる。
			粉末X線回折測定法の原理と利用法について概要を説明できる。
		熱分析 医薬品を含む化学物質の熱分析を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	熱重量測定法の原理を説明できる。
			示差熱分析法及び示差走査熱量測定法の概要を説明できる。
	分離分析法	クロマトグラフィー 医薬品を含む化学物質のクロマトグラフィーによる分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。
			薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
			液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
			ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。
			クロマトグラフィーを用いた試料の定性・定量法を説明できる。
		電気泳動法 医薬品を含む化学物質の電気泳動による分離を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	電気泳動法の原理及び応用例を説明できる。
	臨床現場で用いる分析技術	分析の準備 基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術の正しい実施に必要となる適切な準備を選択するための基礎知識を問う	分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。
			臨床分析における精度管理及び標準物質の意義を説明できる。
		分析技術 基礎から応用への橋渡しを考慮して、臨床現場で用いられる代表的な分析技術を正しく実施し、得られた結果を正しく判断するために必要な基礎知識を問う	臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。
			免疫化学的測定法の原理を説明できる。
			酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。
			代表的なドライケミストリーについて概要を説明できる。
			代表的な画像診断技術（X線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査等）について概要を説明できる。
化学物質の性質と反応	化学物質の基本的性質	基本事項 医薬品等の基本的性質を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。
			薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。
			基本的な化合物のルイス構造式について説明できる。
			有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。
			ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。
			基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。
			炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。
			反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。
			基本的な有機反応機構を表記する電子の動きについて説明できる。
		有機化合物の立体構造 医薬品等の立体構造を理解するために必要な基礎知識を問う	構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。
			キラリティーと光学活性の関係を説明できる。
			エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。
			ラセミ体とメソ体について説明できる。
			絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を識別することができる。
			炭素－炭素二重結合の立体異性（cis, transならびにE, Z異性）について説明できる。
			フィッシャー投影式とニューマン投影式で表記された有機化合物の構造を理解できる。
			エタン、ブタン等の立体配座とその安定性について説明できる。
	有機化合物の基本骨格の構造と反応	アルカン 医薬品等の基本骨格であるアルカンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う	アルカンの基本的な性質について説明できる。
			アルカンの構造異性体を列挙できる。
			シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。
			置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。
		アルケン・アルキン 医薬品等の基本骨格であるアルケン、アルキンの反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。
			アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。
			アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。
		芳香族化合物 医薬品等の基本骨格である芳香族化合物の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。
			芳香族性の概念を説明できる。
			芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
			代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。
			代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。
	官能基の性質と反応	概説 医薬品等に含まれる代表的官能基の性質を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。
			官能基の性質を利用した分離精製法を説明できる。
		有機ハロゲン化合物 医薬品等に含まれるハロゲンの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
			求核置換反応の特徴について説明できる。
			脱離反応の特徴について説明できる。
		アルコール・フェノール・エーテル 医薬品等に含まれるアルコール・フェノール・エーテルの性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
			エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
		アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体 医薬品等に含まれるアルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	アルデヒド類及びケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。
			カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
			カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。
		アミン 医薬品等に含まれるアミンの性質を理解するために必要な基礎知識を問う	アミン類の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。

		電子効果 医薬品等に含まれる代表的官能基の性質・反応性を理解するために必要な基礎知識を問う	官能基が及ぼす電子効果について説明できる。
		酸性度・塩基性度 医薬品等の性質・反応性を理解するために必要な官能基の酸性度・塩基性度に関する基礎知識を問う	アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸等の酸性度を比較して説明できる。
			含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。
	化学物質の構造決定	核磁気共鳴（NMR） 医薬品等の構造を確認するために必要な核磁気共鳴に関する基礎知識を問う	^{1}H及び^{13}C NMRスペクトルより得られる情報を説明できる。
			有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。
			^{1}H NMRの積分値の意味を説明できる。
			^{1}H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。
			医薬品等の^{1}H NMRを解析できる。
		赤外吸収（IR） 医薬品等の官能基を確認するために必要な赤外吸収に関する基礎知識を問う	IRスペクトルより得られる情報を説明できる。
			IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。
		質量分析 医薬品等の構造を確認するために必要な質量分析に関する基礎知識を問う	マススペクトルより得られる情報を説明できる。
			測定化合物に適したイオン化法を選択できる。
			ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明できる。
			代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。
	無機化合物・錯体の構造と性質	無機化合物・錯体 医薬品や生体内物質に含まれる無機化合物・錯体の性質を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。
			代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。
			活性酸素と窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。
			代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。
			医薬品として用いられる代表的な無機化合物及び錯体を列挙できる。
生体分子・医薬品の化学による理解	医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質	医薬品の標的となる生体高分子の化学構造 医薬品が相互作用する生体高分子の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチド等）の構造に基づく化学的性質を説明できる。
			医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸等）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。
		生体内で機能する小分子 医薬品の機能と関連する生体内小分子の構造と性質を理解するために必要な基礎知識を問う	細胞膜受容体及び細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について説明できる。
			代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。
			活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。
			生体内に存在する代表的な金属イオン及び錯体の機能を化学的に説明できる。
	生体反応の化学による理解	生体内で機能するリン、硫黄化合物 生体内物質・医薬品の部分構造であるリン、硫黄化合物の性質と機能を理解するために必要な基礎知識を問う	リン化合物（リン酸誘導体等）及び硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステル等）の構造と化学的性質を説明できる。
			リン化合物（リン酸誘導体等）及び硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステル等）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。
		酵素阻害薬と作用様式 酵素阻害薬の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。
			基質アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。
			遷移状態アナログが競合阻害薬となっている代表的な医薬品を列挙できる。
		受容体のアゴニスト及びアンタゴニスト 受容体に作用する医薬品の構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。
			低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。
		生体内で起こる有機反応 生体内物質、医薬品等の代謝反応を理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロール等）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。
			異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化等）を有機化学の観点から説明できる。
	医薬品の化学構造と性質、作用	医薬品と生体分子の相互作用 医薬品と生体高分子の相互作用に影響を及ぼす因子を理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（電子効果、立体効果等）から説明できる。
		医薬品の化学構造に基づく性質 医薬品の物性、動態に影響を及ぼす化学構造を理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親水性等）を説明できる。
			プロドラッグ等の薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。
		医薬品のコンポーネント 医薬品の薬効に関わる部分構造を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	代表的な医薬品のファーマコフォアについて説明できる。
			バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて説明できる。
			医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。
		酵素に作用する医薬品の構造と性質 酵素を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的な理解に必要な基礎知識を問う	ヌクレオシド及び核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造等をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			β－ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			酵素に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
		受容体に作用する医薬品の構造と性質 受容体を標的とする医薬品の基本構造と作用等の化学的な理解に必要な基礎知識を問う	カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			ベンゾジアゼピン骨格及びバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
			受容体に作用するその他の代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質、作用等について説明できる。
		DNAに作用する医薬品の構造と性質 DNAを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。
			DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。
			DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴と作用等を説明できる。
		イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質 イオンチャネルを標的とする医薬品の基本構造と作用等を化学的に理解するために必要な基礎知識を問う	イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジン等）の特徴と作用等を説明できる。
自然が生み出す薬物	薬になる動植鉱物	薬用植物 薬用植物に関して薬剤師に必要な基礎知識を問う	代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効等を挙げることができる。
			代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。
			植物の主な内部形態について説明できる。
			法律によって取扱いが規制されている植物（ケシ、アサ）の特徴を説明できる。
		生薬の基原・用途 代表的な生薬に関して必要な基礎知識を問う	代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類由来）を列挙し、その基原、薬用部位を説明できる。
			代表的な生薬（植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来）の薬効、成分、用途等を説明できる。
		生薬の副作用 生薬によって引き起こされる副作用のうち重要なものを問う	副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。

		生薬の同定と品質評価 代表的な生薬の品質を担保するために薬剤師に必要な基礎知識を問う	生薬の同定と品質評価法について説明できる。
			日本薬局方の生薬総則及び生薬試験法について説明できる。
			代表的な生薬を鑑別できる。
			代表的な生薬の確認試験を説明できる。
			代表的な生薬の純度試験を説明できる。
	薬の宝庫としての天然物	生薬由来の生物活性物質の構造と作用 品質や薬理作用に関連する生薬の成分について基礎知識を問う	生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造と生合成経路に基づいて分類できる。
			脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
			芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
			テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
			アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
		微生物由来の生物活性物質の構造と作用 微生物由来の代表的医薬品の化学構造と薬理作用に関する基礎知識を問う	微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。
			微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。
		天然生物活性物質の利用 医薬品として使用されている天然物又はその誘導体を理解するために必要な基礎知識を問う	医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。
			天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。
			農薬等で使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。
生命現象の基礎	細胞の構造と機能	細胞の基本 生命体の最小単位である細胞の構造と機能を理解するための基礎知識を問う	細胞膜を構成する代表的な生体成分（膜脂質、膜タンパク質等）を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。
			エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。
			細胞小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソーム等）やリボソームの構造と機能を説明できる。
			細胞骨格（微小管、中間径フィラメント、マイクロフィラメント）の構造と機能を説明できる。
	生命現象を担う分子	生体の主要構成分子 生命現象を担う主要構成分子の種類、構造、性質、役割を理解するための基礎知識を問う	代表的な脂質の種類（リン脂質、糖脂質、コレステロール、脂肪酸、中性脂肪等）の種類、構造、性質、役割を説明できる。
			代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
			代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。
			アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。
			タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。
			ヌクレオチドと核酸（DNA、RNA）の種類、構造、性質を説明できる。
			脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、核酸の定性又は定量試験の原理と方法を説明できる。
		生体に必須な微量成分 生命現象を担う必須微量成分に関する基礎知識を問う	ビタミン（補酵素型を含む）の種類、構造、性質、役割を説明できる。
			代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。
	生命活動を担うタンパク質	タンパク質の基本 種々のタンパク質の機能、成熟・分解を理解するための基礎知識を問う	多彩な機能を持つタンパク質（酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質）のそれぞれの役割を説明できる。
			タンパク質の翻訳後の成熟過程（フォールディング、細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾）について説明できる。
			タンパク質の細胞内での分解（リソソーム、プロテアソーム、オートファジー）について説明できる。
			膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。
			血漿リポタンパク質（キロミクロン、VLDL、LDL、HDL）の構造、機能を説明できる。
		酵素 酵素の機能と調節を理解するための基礎知識を問う	酵素反応の特性と反応速度論、代表的な可逆的阻害を説明できる。
			酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。
			代表的な酵素活性調節機構（アロステリック調節、化学修飾、チモーゲン等）を説明できる。
	生命情報を担う遺伝子	遺伝情報を担う分子 遺伝情報を担う核酸の機能を理解するための基礎知識を問う	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。
			染色体の構造（ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメア等）を説明できる。
			遺伝子の構造（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロン等）を説明できる。
			RNAの種類（hnRNA、mRNA、rRNA、tRNA、miRNA等）と機能について説明できる。
		複製 DNA複製の過程と調節を理解するための基礎知識を問う	DNA複製の過程について説明できる。
			テロメラーゼの機能について説明できる。
			DNA変異に対する代表的な修復について説明できる。
		転写・翻訳 遺伝子発現の過程と調節を理解するための基礎知識を問う	DNAからRNAへの転写の過程について説明できる。
			エピジェネティックな転写制御について説明できる。
			転写因子による転写制御について説明できる。
			RNAのプロセシング（キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖等）について説明できる。
			RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。
		組換えDNA 遺伝子組換え技術の基本原理を理解するための基礎知識を問う	遺伝子工学技術（遺伝子クローニング、cDNAクローニング、PCR、組換えタンパク質発現法等）を説明できる。
			遺伝子改変生物（遺伝子導入・欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物）について説明できる。
	生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	ATPの産生と糖質代謝 糖からのエネルギー産生機構を理解するための基礎知識を問う	解糖系及び乳酸の生成について説明できる。
			クエン酸回路（TCAサイクル）について説明できる。
			電子伝達系（酸化的リン酸化）とATP合成について説明できる。
			グリコーゲンの代謝について説明できる。
			糖新生について説明できる。
		脂質代謝 脂質の代謝を理解するための基礎知識を問う	脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。
			コレステロールの生合成と代謝について説明できる。
		飢餓状態と飽食状態 エネルギー状態による代謝調節を理解するための基礎知識を問う	飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用等）について説明できる。
			余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。
		その他の代謝系 主要生体構成成分の代謝を理解するための基礎知識を問う	アミノ酸分子中の炭素及び窒素の代謝（尿素回路等）について説明できる。
			ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。
			ペントースリン酸回路について説明できる。
	細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	細胞内情報伝達 細胞内情報伝達の過程と調節を理解するための基礎知識を問う	細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式（内分泌、パラクリン、オートクリン、接触型）を説明できる。
			細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。
			細胞膜受容体からGタンパク質（Gs、Gi、Gq）を介する細胞内情報伝達について説明できる。
			細胞膜受容体タンパク質等のリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。
			細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャー（cAMP、cGMP、DG、IP_3、Ca^{2+}、PIP_3）について説明できる。
			細胞内（核内）受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。
		細胞間コミュニケーション 細胞間の接着に関する基本的理解を問う	細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。
			主な細胞外マトリックス分子の特徴を説明できる。

	細胞の分裂と死	細胞増殖の基本 細胞の増殖とその調節を理解するための基礎知識を問う	細胞周期とその制御機構について説明できる。
			体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。
			幹細胞、胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）について説明できる。
			細胞死（アポトーシスとネクローシス）について説明できる。
			正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。
			がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。
人体の成り立ちと生体機能の調節	人体の成り立ち	遺伝と発生 遺伝と発生を理解するための基礎知識を問う	遺伝のしくみについて説明できる。
			遺伝子多型（一塩基多型を含む）について説明できる。
			代表的な遺伝疾患を列挙できる。
			個体発生について説明できる。
			細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について説明できる。
		器官系概論 人体組織に関する基本的理解を問う	人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置及び機能を説明できる。
			組織、器官を構成する代表的な細胞の種類（上皮、内皮、間葉系等）と形態的及び機能的特徴を説明できる。
		各器官の構造と機能 各器官に関する基本的理解を問う	中枢神経系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			末梢（体性・自律）神経系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			骨、筋肉（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			代表的な骨格筋及び関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。
			筋収縮の調節機構について説明できる。
			皮膚（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			心臓（組織の構造と機能）について説明できる。
			血管系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			リンパ管系（組織の構造と機能）について説明できる。
			肺、気管支（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			胃、小腸、大腸等の消化管（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			肝臓、膵臓、胆嚢（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			泌尿器系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			生殖器系（組織の構造と機能）について説明できる。
			内分泌系（組織の構造、構築細胞の種類と機能）について説明できる。
			感覚器系（組織の構造と機能）について説明できる。
			血液・造血器系（血液細胞の種類と機能）について説明できる。
	生体機能の調節	神経による調節機構 神経細胞と神経伝達を理解するための基礎知識を問う	神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。
			代表的な神経伝達物質（アセチルコリン、カテコールアミン、GABA等）を挙げ、生理活性及び作用機構について説明できる。
			神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙できる。
			神経による筋収縮の調節機構について説明できる。
		生理活性物質による調節機構 生理活性物質とその生理作用を理解するための基礎知識を問う	代表的なホルモンの産生器官、生理活性及び作用機構について説明できる。
			代表的なオータコイドの生理活性及び作用機構について説明できる。
			代表的なサイトカイン、増殖因子の生理活性及び作用機構について説明できる。
		恒常性の調節機構 恒常性の調節機構を理解するための基礎知識を問う	血圧の調節機構について説明できる。
			血糖の調節機構について説明できる。
			体液の調節機構について説明できる。
			尿の生成機構、尿量の調節機構について説明できる。
			体温の調節機構について説明できる。
			血液凝固・線溶系の機構について説明できる。
			性周期の調節機構について説明できる。
生体防御と微生物	身体をまもる	生体防御反応 免疫機構を理解するための基礎知識を問う	異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー及び補体の役割について説明できる。
			免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。
			自然免疫と獲得免疫及び両者の関係を説明できる。
			体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。
		免疫を担当する組織・細胞 免疫機構を担う細胞の機能を理解するための基礎知識を問う	免疫に関与する組織（脾臓、胸腺、リンパ節、パイエル板）を列挙し、その役割を説明できる。
			免疫担当細胞（Th1、Th2、キラーT、B、NK、樹状細胞、マクロファージ等）の種類と役割を説明できる。
			免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。
		分子レベルで見た免疫のしくみ 免疫機構を担う分子の機能を理解するための基礎知識を問う	自然免疫及び獲得免疫における異物の認識を比較して説明できる。
			MHC抗原の構造と機能及び抗原提示での役割について説明できる。
			T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。
			抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。
			免疫系に関わる主なサイトカイン（TNF-α、IL-1、IL-2、IL-4、IL-5、IL-6、IL-10、IL-12、IFN-α、IFN-β、IFN-γ等）の作用を説明できる。
	免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用	免疫応答の制御と破綻 免疫機構に関わる疾患を理解するための基礎知識を問う 【注意】特に病態等に関して問題に含まれる疾患は、薬理、病態・薬物治療の出題基準を超えないこと	炎症の一般的症状、担当細胞及び反応機構について説明できる。
			アレルギーを4種類に分類し、担当細胞及び反応機構について説明できる。
			自己免疫疾患について説明できる。
			臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制薬等）について説明できる。
			感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。
			腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。
		免疫反応の利用 抗体の医療への応用を理解するための基礎知識を問う	ワクチンの原理と種類（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン等）について説明できる。
			モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の違いと作製方法について説明できる。
			血清療法と抗体医薬の基礎について説明できる。
			抗原抗体反応を利用した検査方法（ELISA、ウエスタンブロット法等）について説明できる。
	微生物の基本	細菌 微生物を理解するための基礎知識を問う	原核生物、真核生物、ウイルスの特徴を説明できる。
			細菌の分類や性質（系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌等）を説明できる。
			細菌の構造と増殖機構について説明できる。
			細菌の異化作用（呼吸と発酵）及び同化作用について説明できる。
			細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。
			薬剤耐性菌及び薬剤耐性化機構について説明できる。
			代表的な細菌毒素について説明できる。

			グラム染色について説明できる。
		ウイルス ウイルスを理解するための基礎知識を問う	ウイルスの構造、分類及び代表的なウイルスの増殖機構について説明できる。
		真菌・原虫・蠕虫 真菌・原虫・蠕虫に関する基礎知識を問う	真菌の特徴を説明できる。
			原虫及び蠕虫の特徴を説明できる。
		消毒と滅菌 消毒と滅菌に関する基本知識を問う	滅菌、消毒及び殺菌、静菌の概念を説明できる。
			主な滅菌法及び消毒法について説明できる。
	病原体としての微生物	感染の成立と共生 感染に関する基本知識を問う	感染の成立（感染源、感染経路、侵入門戸等）と共生（腸内細菌等）について説明できる。
			日和見感染と院内感染について説明できる。
		代表的な病原体 種々の病原性微生物とそれによる感染症を理解するための基礎知識を問う 【注意】特に病態等に関して問題に含まれる疾患は、薬理、病態・薬物治療の小項目「細菌感染症の病態、薬物治療」「ウイルス感染症の病態、薬物治療」「真菌感染症の病態、薬物治療」「原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療」の出題基準を超えないこと	DNAウイルス（ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルス等）の特徴を説明できる。
			RNAウイルス（ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV等）の特徴を説明できる。
			グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌等）及びグラム陽性桿菌（破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌等）の特徴を説明できる。
			グラム陰性球菌（淋菌、髄膜炎菌等）及びグラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌等）の特徴を説明できる。
			グラム陰性らせん菌（ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリ等）及びスピロヘータの特徴を説明できる。
			抗酸菌（結核菌、らい菌等）の特徴を説明できる。
			マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの特徴を説明できる。
			真菌（アスペルギルス、カンジダ、ムーコル、白癬菌等）の特徴を説明できる。
			原虫（マラリア原虫、膣トリコモナス、クリプトスポリジウム等）、蠕虫（アニサキス、エキノコックス等）の特徴を説明できる。

【別表Ⅱ　衛生】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
健康	社会・集団と健康	健康と疾病の概念 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる健康と疾病の概念について基礎知識を問う	健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。
		保健統計 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる保健統計の理解及び取扱いに関する基礎知識を問う	集団の健康と疾病の現状及びその影響要因を把握する上での人口統計の意義を説明できる。
			人口統計及び傷病統計に関する指標について説明できる。
			人口動態（死因別死亡率等）の変遷について説明できる。
		疫学 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる疫学の理解及び取扱いに関する基礎知識を問う	疾病の予防における疫学の役割を説明できる。
			疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。
			疫学の種類（記述疫学、分析疫学等）とその方法について説明できる。
			リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度及び信頼区間について説明できる。
	疾病の予防	疾病の予防とは 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要な基礎知識を問う	疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。
			健康増進政策（健康日本２１等）について説明できる。
		感染症とその予防 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる感染症に関する基礎知識を問う	現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症等）の特徴について説明できる。
			感染症法における感染症とその分類について説明できる。
			代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。
			予防接種の意義と方法について説明できる。
		生活習慣病とその予防 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる生活習慣病に関する基礎知識を問う	生活習慣病の種類とその動向について説明できる。
			生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。
			食生活や喫煙等の生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。
		母子保健 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる母子保健に関する基礎知識を問う	新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。
			母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。
		労働衛生 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる労働衛生に関する基礎知識を問う	代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。
			労働衛生管理について説明できる。
	栄養と健康	栄養 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる栄養に関する基礎知識を問う	五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。
			各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを説明できる。
			食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。
			五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質等）の機能について説明できる。
			エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。
			日本人の食事摂取基準について説明できる。
			栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。
			疾病治療における栄養の重要性を説明できる。
		食品機能と食品衛生 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる食品機能と食品衛生に関する基礎知識を問う	炭水化物、タンパク質が変質する機構について説明できる。
			油脂が変敗する機構及び油脂の変質試験について説明できる。
			食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。
			食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。
			代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。
			特別用途食品と保健機能食品について説明できる。
			食品衛生に関する法的規制について説明できる。
		食中毒と食品汚染 薬剤師による健康増進、疾病予防の管理を理解する上で必要となる食中毒と食品汚染に関する基礎知識を問う	代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品及び予防方法について説明できる。
			食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。
			化学物質（重金属、残留農薬等）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。
環境	化学物質・放射線の生体への影響	化学物質の毒性 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる環境化学物質や乱用薬物の毒性及び対処法を理解するための基礎知識を問う	代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。
			肝臓、腎臓、神経等に特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。
			重金属、PCB、ダイオキシン等の代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。
			重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。
			薬物の乱用による健康への影響について説明できる。
			代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。
			代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、説明できる。

		化学物質の安全性評価と適正使用 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学物質の安全性を理解するための基礎知識を問う	個々の化学物質の使用目的にかんがみ、適正使用とリスクコミュニケーションの重要性について説明できる。
			化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、説明できる。
			毒性試験の結果を評価するために必要な量一反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）等について説明できる。
			化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量等）について説明できる。
			有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法等）を説明できる。
		化学物質による発がん 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる化学発がんを理解するための基礎知識を問う	発がん性物質等の代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。
			遺伝毒性試験（Ames試験等）の原理を説明できる。
			発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーション等）について説明できる。
		放射線の生体への影響 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる放射線生体影響を理解するための基礎知識を問う	電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。
			代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。
			電離放射線を防御する方法について説明できる。
			非電離放射線（紫外線、赤外線等）を列挙し、生体への影響を説明できる。
	生活環境と健康	地球環境と生態系 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる地球環境・生態系及びそれらの保全を理解するための基礎知識を問う	地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。
			生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。
			化学物質の環境内動態（生物濃縮等）について例を挙げて説明できる。
			地球環境の保全に関する国際的な取組について説明できる。
			人が生態系の一員であることを踏まえて環境問題を説明できる。
		環境保全と法的規制 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる公害・環境汚染及びそれらを防止する法的規制を理解するための基礎知識を問う	典型七公害とその現状及び四大公害について説明できる。
			環境基本法の理念を説明できる。
			環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染等）を防止するための法規制について説明できる。
		水環境 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる水環境や水質汚濁及び水の浄化法を理解するための基礎知識を問う	原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。
			水の浄化法、塩素処理について説明できる。
			水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定法について説明できる。
			下水処理及び排水処理の主な方法について説明できる。
			水質汚濁の主な指標を列挙し、測定法について説明できる。
			富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。
		大気環境 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる大気環境や大気汚染を理解するための基礎知識を問う	主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。
			主な大気汚染物質の測定法について説明できる。
			大気汚染に影響する気象要因（逆転層等）を説明できる。
		室内環境 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる室内環境の保全及びその評価指標を理解するための基礎知識を問う	室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定法について説明できる。
			室内環境と健康との関係について説明できる。
		廃棄物 薬剤師による疾病予防、環境衛生の管理を理解する上で必要となる廃棄物及びその取扱い法を理解するための基礎知識を問う	廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。
			廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。
			マニフェスト制度について説明できる。

【別表Ⅲ　薬理】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬の作用と体の変化	薬の作用機序	用量と作用	薬の用量と作用の関係を説明できる。
		薬物の標的分子	薬物が作用する仕組みについて、代表的な受容体、酵素、イオンチャネル及びトランスポーターを例に挙げて説明できる。
		受容体	アゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）について説明できる。
			代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。
		受容体と情報伝達系	薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。
		薬効に影響を及ぼす要因	薬物の選択（禁忌を含む）、用法、用量の変更が必要となる要因（年齢、疾病、妊娠等）について具体例を挙げて説明できる。
		薬物相互作用	薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。
		薬理学実験	薬効や副作用に関する薬理実験の代表的な研究方法とデータの解析について説明できる。
	医薬品の安全性	薬物依存性・耐性	薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。
		副作用と毒性	薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。
		副作用と有害事象	薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。
薬の効き方	神経系に作用する薬	自律神経系に作用する薬	交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
			副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
			神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
		体性神経系に作用する薬・運動神経系及び骨格筋に作用する薬	知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬等）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
			運動神経系及び骨格筋に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。
		中枢神経系に作用する薬	全身麻酔薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			睡眠障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			統合失調症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			うつ病・双極性障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			神経症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			てんかん治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			パーキンソン病治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			認知症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			脳内出血・脳梗塞等に関連する治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			片頭痛治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			中枢興奮薬、その他の中枢神経系に作用する薬物の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節に作用する薬	抗炎症薬	抗炎症薬（ステロイド性及び非ステロイド性）及び解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		免疫・アレルギーに作用する薬	アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			関節リウマチ治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		骨・カルシウム代謝に作用する薬	骨粗しょう症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。

			カルシウム代謝異常に関連する治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系に作用する薬	循環器系に作用する薬	不整脈治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			心不全治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			虚血性心疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			高血圧症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			低血圧治療薬・末梢血管拡張薬等の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		血液・造血器系に作用する薬	止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			抗血栓薬、抗凝固薬及び血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			貧血治療薬・白血球減少症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		泌尿器系・生殖器系に作用する薬	利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			排尿障害治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			妊娠・分娩・避妊に関連する薬物の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	呼吸器系・消化器系に作用する薬	呼吸器系に作用する薬	気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		消化器系に作用する薬	胃・十二指腸潰瘍治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			その他の消化性疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			制吐薬・催吐薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			肝疾患・膵臓疾患・胆道疾患治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	代謝系・内分泌系に作用する薬	代謝系に作用する薬	糖尿病治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			脂質異常症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			高尿酸血症・痛風治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		内分泌系に作用する薬	副腎皮質ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			甲状腺ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			その他のホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	感覚器系・皮膚に作用する薬	感覚器系に作用する薬	緑内障治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			その他の眼疾患（白内障・加齢性黄斑変性等）の治療薬、散瞳薬・縮瞳薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
			めまい（動揺病、メニエール病等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		皮膚に作用する薬	褥瘡・皮膚潰瘍治療薬、その他の皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、尋常性痤瘡等）の治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	病原微生物（感染症）・悪性新生物（がん）に作用する薬	抗菌薬	抗菌薬の薬理（薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用）を説明できる。
		抗真菌薬	抗真菌薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		抗ウイルス薬	ウイルス感染症（ヘルペスウイルス感染症、サイトメガロウイルス感染症、インフルエンザ、ウイルス性肝炎、HIV）治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		原虫・寄生虫感染症治療薬	原虫感染症・寄生虫感染症治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
		抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）を説明できる。
	薬物の基本構造と薬効	化学構造と薬効の関連性	代表的な薬物の基本構造と薬効の関連を説明できる。

【別表Ⅳ　薬剤】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬の生体内運命	薬物の体内動態	生体膜透過	薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散及び能動輸送の特徴を説明できる。
			薬物の生体膜透過に関わるトランスポーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる。
		吸収	経口投与された薬物の吸収について説明できる。
			非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。
			薬物の吸収に影響する因子（薬物の物性、生理学的要因等）を列挙し、説明できる。
			薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げて説明できる。
			初回通過効果について説明できる。
		分布	薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。
			薬物の組織移行性（分布容積）と血漿タンパク結合並びに組織結合との関係を定量的に説明できる。
			薬物のタンパク結合及び結合阻害の測定・解析方法を説明できる。
			血液－組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。
			薬物のリンパ及び乳汁中への移行について説明できる。
			薬物の分布過程における相互作用について例を挙げて説明できる。
		代謝	代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織並びに細胞内小器官、反応様式について説明できる。
			薬物代謝の第Ⅰ相反応（酸化・還元・加水分解）、第Ⅱ相反応（抱合）について、例を挙げて説明できる。
			代表的な薬物代謝酵素（分子種）により代謝される薬物を列挙できる。
			プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。
			薬物代謝酵素の阻害及び誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げて説明できる。
		排泄	薬物の尿中排泄機構について説明できる。
			腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。
			代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。
			薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。
			薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げて説明できる。
	薬物動態の解析	薬物速度論	線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ（全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能等）を説明できる。
			線形1－コンパートメントモデルに基づいた解析ができる（急速静注・経口投与［単回及び反復投与］、定速静注）。
			体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。
			モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。
			組織クリアランス（肝、腎）及び固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。
			薬物動態学－薬力学解析（PK-PD解析）について説明できる。
		TDM（Therapeutic DrugMonitoring）と投与設計	治療薬物モニタリング（TDM）の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。
			TDMを行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。
			薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。
			ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について説明できる。

製剤化のサイエンス	製剤の性質	固形材料	粉体の性質について説明できる。
			結晶（安定形及び準安定形）や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。
			固形材料の溶解現象（溶解度、溶解平衡等）や溶解した物質の拡散と溶解速度について説明できる。
			固形材料の溶解に影響を及ぼす因子（pHや温度等）について説明できる。
			固形材料の溶解度や溶解速度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。
		半固形・液状材料	流動と変形（レオロジー）について説明できる。
			高分子の構造と高分子溶液の性質（粘度等）について説明できる。
		分散系材料	界面の性質（界面張力、分配平衡、吸着等）や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。
			代表的な分散系（分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤等）を列挙し、その性質について説明できる。
			分散した粒子の安定性と分離現象（沈降等）について説明できる。
			分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。
		薬物及び製剤材料の物性	製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。
			薬物の安定性（反応速度、複合反応等）や安定性に影響を及ぼす因子（pH、温度等）について説明できる。
			薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。
	製剤設計	代表的な製剤 （日本薬局方準拠）	製剤化の概要と意義について説明できる。
			経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
			粘膜に適用する製剤（点眼剤、吸入剤等）の種類とその特性について説明できる。
			注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。
			皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。
			その他の製剤（生薬関連製剤、透析に用いる製剤等）の種類と特性について説明できる。
		製剤化と製剤試験法	代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。
			製剤化の単位操作、汎用される製剤機械及び代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。
			汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。
			製剤に関連する試験法（日本薬局方準拠）を列挙し、説明できる。
		生物学的同等性	製剤の特性（適用部位、製剤からの薬物の放出性等）を理解した上で、生物学的同等性について説明できる。
	DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）	DDSの必要性	DDSの概念と有用性について説明できる。
			代表的なDDS技術を列挙し、説明できる。
		コントロールドリリース（放出制御）	コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。
			投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。
			コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。
		ターゲティング（標的指向化）	ターゲティングの概要と意義について説明できる。
			投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。
			ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。
		吸収改善	吸収改善の概要と意義について説明できる。
			投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。
			吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。

【別表Ⅴ　病態・薬物治療】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬の作用と体の変化	身体の病的変化を知る	症候	以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、呼吸困難、咳・痰、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満（腹水を含む）、タンパク尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常（しびれを含む）・神経痛、視力障害、聴力障害
		病態・臨床検査	尿検査及び糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			血液検査、血液凝固機能検査及び脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			代表的な生理機能検査（心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等）、病理組織検査及び画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
			代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。
	薬物治療の位置づけ	薬物治療の位置づけ	代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法等）の位置づけを説明できる。
	医薬品の安全性	医薬品の安全性	以下の障害を呈する代表的な副作用について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見及び対処方法の概要を説明できる。血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器障害、薬物アレルギー（ショックを含む）、代謝障害、筋障害
病態・薬物治療	神経系の疾患	体性神経系・筋の疾患の病態、薬物治療	以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 進行性筋ジストロフィー、ギラン・バレー症候群、重症筋無力症
		中枢神経系の疾患の病態、薬物治療	統合失調症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			神経症、不眠症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			てんかんについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			パーキンソン病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			認知症（アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			片頭痛について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下の疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、ナルコレプシー、薬物依存症、アルコール依存症
	免疫・炎症・アレルギー及び骨・関節の疾患	炎症	炎症の病態（病態生理、症状等）を説明できる。
			創傷治癒の過程について説明できる。
		免疫・炎症・アレルギー疾患の病態、薬物治療	アナフィラキシーショックについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			関節リウマチについて、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下の全身性自己免疫疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、ベーチェット病

		臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応及び移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
	骨・関節疾患の病態、薬物治療	骨粗しょう症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の骨・関節疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 変形性関節症、骨軟化症（くる病を含む）
循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患	循環器系疾患の病態、薬物治療	不整脈について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		急性及び慢性心不全について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		高血圧症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の循環器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、感染性心内膜炎
	血液・造血器系疾患の病態、薬物治療	以下の貧血について、病態と治療の概要を説明できる。 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血（悪性貧血等）、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血
		播種性血管内凝固症候群（DIC）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の血液系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、特発性血小板減少性紫斑病（ITP）、白血球減少症、血栓塞栓症
	泌尿器系・生殖器系疾患の病態、薬物治療	急性及び慢性腎不全、慢性腎臓病（CKD）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		ネフローゼ症候群について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		過活動膀胱及び低活動膀胱について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の泌尿器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 糸球体腎炎、糖尿病性腎症、薬剤性腎症、尿路感染症（腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎）、尿路結石
		前立腺肥大症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の生殖器系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 子宮内膜症、子宮筋腫
		以下の妊娠・分娩に関連する疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症、性機能不全
呼吸器系・消化器系の疾患	呼吸器系疾患の病態、薬物治療	気管支喘息について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		慢性閉塞性肺疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		間質性肺炎（肺線維症を含む）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の呼吸器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 上気道炎（かぜ症候群を含む）、気管支炎、肺炎、インフルエンザ、肺結核、胸膜炎
	消化器系疾患の病態、薬物治療	以下の上部消化器疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎
		炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		膵炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の消化器疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 慢性便秘、感染性腸炎、急性虫垂炎、腹膜炎
代謝系・内分泌系の疾患	代謝系疾患の病態、薬物治療	糖尿病とその合併症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		脂質異常症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		高尿酸血症、痛風について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		低血糖症について、病態と治療の概要を説明できる。
	内分泌系疾患の病態、薬物治療	バセドウ病、慢性甲状腺炎（橋本病）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		クッシング症候群について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の内分泌系疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、副甲状腺機能亢進症・低下症、粘液水腫、アジソン病、アルドステロン症、尿崩症、褐色細胞腫
感覚器・皮膚の疾患	眼疾患の病態、薬物治療	緑内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		白内障について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		加齢性黄斑変性について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の眼疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 角膜炎、結膜炎、網膜症、網膜色素変性症
	耳鼻咽喉疾患の病態、薬物治療	めまい（動揺病、メニエール病等）について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の耳鼻咽喉疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎、口内炎・咽頭炎・扁桃炎
	皮膚疾患の病態、薬物治療	アトピー性皮膚炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		白癬について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
		以下の皮膚疾患について、病態と治療の概要を説明できる。 蕁麻疹、接触性皮膚炎、薬疹（スティーブンス-ジョンソン症候群、中毒性表皮壊死症を含む）、尋常性乾癬、光線過敏症、褥瘡、尋常性痤瘡
感染症・悪性新生物（がん）	細菌感染症の病態、薬物治療	以下の呼吸器感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 扁桃炎、細菌性肺炎、肺結核、百日咳、マイコプラズマ肺炎
		以下の消化器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、偽膜性大腸炎、腹膜炎
		以下の感覚器感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎
		以下の尿路感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎

			以下の性感染症について、病態（病態生理、症状等）、予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症
			髄膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。
			以下の皮膚細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 伝染性膿痂疹、蜂窩織炎
			感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。
			以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 MRSA、緑膿菌等
			以下の全身性細菌感染症について、病態（病態生理、症状等）、感染経路と予防方法及び薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 破傷風、敗血症
		ウイルス感染症の病態、薬物治療	ヘルペスウイルス感染症（単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹、脳炎）について、予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。
			サイトメガロウイルス感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。
			インフルエンザについて、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			ウイルス性肝炎（HAV、HBV、HCV）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん）、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			後天性免疫不全症候群（AIDS）について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下のウイルス感染症について、感染経路と予防方法及び病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 伝染性単核球症、ウイルス性下痢症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、上気道炎（かぜ症候群を含む）、気管支炎
		真菌感染症の病態、薬物治療	以下の真菌感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 白癬、カンジダ症、ニューモシスチス肺炎、肺アスペルギルス症
		原虫・寄生虫感染症の病態、薬物治療	以下の原虫・寄生虫感染症について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 マラリア、トリコモナス症、アニサキス症
		悪性腫瘍	腫瘍の定義（良性腫瘍と悪性腫瘍の違い）を説明できる。
			悪性腫瘍について、以下の項目の概要を説明できる。 組織型分類及び病期分類、悪性腫瘍の検査（細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー（腫瘍関連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む））、悪性腫瘍の疫学（がん罹患の現状及びがん死亡の現状）、悪性腫瘍のリスク及び予防要因
			悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概要を説明できる。
		悪性腫瘍の病態、疾患	抗悪性腫瘍薬の主な副作用（下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害（手足症候群を含む）、血小板減少等）とその軽減のための対処法を説明できる。
			代表的ながん化学療法のレジメンについて、構成薬物及びその役割、副作用、対象疾患の概要を説明できる。
			以下の白血病について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 急性（慢性）骨髄性白血病、急性（慢性）リンパ性白血病
			悪性リンパ腫及び多発性骨髄腫について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			大腸癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、胆嚢・胆管癌、膵癌
			肺癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下の頭頸部の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 脳腫瘍、喉頭・咽頭の悪性腫瘍
			乳癌について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。
			以下の泌尿器・生殖器・皮膚の悪性腫瘍について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）の概要を説明できる。 腎癌、膀胱癌、前立腺癌、子宮癌、卵巣癌、悪性黒色腫
		がん終末期医療と緩和ケア	がん終末期の病態（病態生理、症状等）と治療を説明できる。
			がん性疼痛の病態（病態生理、症状等）と薬物治療（医薬品の選択、WHO三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。
	医療の中の漢方薬	漢方薬の基礎	配合生薬の組合せによる漢方薬の系統的な分類について概要を説明できる。
		漢方薬の応用	漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方（陰陽、虚実、証等）、治療法について概要を説明できる。
		漢方薬の注意点	漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。
	バイオ・細胞医薬品とゲノム情報	組換え体医薬品	組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。
			代表的な組換え体医薬品を列挙できる。
			組換え体医薬品の安全性について説明できる。
		遺伝子治療	遺伝子治療の原理、現状及び倫理的問題点を説明できる。
		細胞、組織を利用した移植医療	移植医療の現状及びゲノム情報の取扱いに関する倫理的問題点を説明できる。
			摘出及び培養組織を用いた移植医療について説明できる。
			臍帯血、末梢血及び骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。
			胚性幹細胞（ES細胞）、人工多能性幹細胞（iPS細胞）を用いた細胞移植医療について説明できる。
薬物治療に役立つ情報	医薬品情報	情報	薬物治療に必須の医薬品情報を列挙できる。
			医薬品（後発医薬品等を含む）の開発過程で行われる試験（非臨床試験、臨床試験、安定性試験）の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。
			医薬品の市販後に行われる調査・試験の種類、目的と得られる医薬品情報について概要を説明できる。
		情報源	医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類法の概要と代表的な二次資料、三次資料の特徴を説明できる。
			厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業等の発行する資料を列挙し、概要を説明できる。
			医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけ及び各項目の記載内容・記載方法について説明できる。
			医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。
		収集・評価・加工・提供・管理	目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒等）に適した主な情報源を列挙できる。
			MEDLINE等の医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、検索法を説明できる。
			各種の医薬品情報（臨床試験等の原著論文を含む）の信頼性、科学的妥当性等を評価する際に必要な基本的項目を説明できる。
			医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し、管理する際の方法と注意点（知的所有権、守秘義務等）について説明できる。

		EBM（Evidence-based Medicine）	EBMの基本概念と実践のプロセスについて説明できる。
			代表的な臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究等）の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概要を説明できる。
			臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性（研究結果の正確度や再現性）と外的妥当性（研究結果の一般化の可能性）について概要を説明できる。
			メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。
		生物統計	臨床研究における基本的な統計量（平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間等）の意味と違いを説明できる。
			帰無仮説の概念及び検定と推定の違いを説明できる。
			主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。
			主な回帰分析（直線回帰、ロジスティック回帰、Cox比例ハザード回帰等）と相関係数の検定について概要を説明できる。
			基本的な生存時間解析法（カプラン・マイヤー曲線等）について概要を説明できる。
		臨床研究デザインと解析	臨床研究（治験を含む）の代表的な手法（介入研究、観察研究）を列挙し、それらの特徴について概要を説明できる。
			臨床研究におけるバイアス・交絡とその回避法について概要を説明できる。
			観察研究での主な疫学研究デザイン（症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究等）について概要を説明できる。
			副作用の因果関係の評価法（副作用判定アルゴリズム等）について概要を説明できる。
			優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。
			介入研究の計画上の技法（症例数設定、ランダム化、盲検化等）について概要を説明できる。
			介入研究の効果指標（真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント）の違いを例を挙げて説明できる。
			臨床研究の結果（有効性、安全性）の主なパラメータ（相対リスク減少、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率等）を説明し、計算できる。
		医薬品の比較・評価	病院や薬局において医薬品を採用選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。
			医薬品情報に基づいて、代表的な医薬品間（同種同効薬、先発医薬品と後発医薬品等）の有効性や安全性について比較・評価するための項目を列挙できる。
	患者情報	情報と情報源	薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。
			患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。
		収集・評価・管理	問題志向型システム（POS）を説明できる。
			SOAP形式等の患者情報の記録方法について説明できる。
			医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概要を説明できる。
			患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。
	個別化医療	遺伝的素因	薬物の主作用及び副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。
			薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因（薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異等）について、例を挙げて説明できる。
			コンパニオン診断に基づく薬物治療について、例を挙げて説明できる。
		年齢的要因	低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。
			高齢者における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。
		臓器機能低下	腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
			肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
			心臓疾患を伴った患者における薬物動態と薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。
		その他の要因	薬物の効果に影響する生理的要因（性差、閉経、日内変動等）を列挙できる。
			妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。
			栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水等）における薬物動態と薬物治療で注意すべき点を説明できる。

【別表Ⅵ　法規・制度・倫理】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
プロフェッショナリズム	薬剤師の使命	薬剤師の活動分野	薬剤師の活動分野（医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等）と社会における役割について説明できる。
		患者安全と薬害の防止	医薬品の役割とリスクについて説明できる。
			WHOによる患者安全の基本的な考え方について説明できる。
			医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。
			医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。
			重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。
			代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等）について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。
			代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を説明できる。
		薬学の歴史と未来	薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。
			薬物療法の歴史と人類に与えてきた影響について説明できる。
			薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史（医薬分業を含む）について説明できる。
			将来の薬剤師と薬学が果たす役割について概要を説明できる。
	薬剤師に求められる倫理観	生命倫理	生命の尊厳について説明できる。
			生命倫理の諸原則（自律尊重、無危害、善行、正義等）について説明できる。
			生と死に関わる倫理的問題について概要を説明できる。
			科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概要を説明できる。
		医療倫理	医療倫理に関する規範（ジュネーブ宣言等）について説明できる。
			薬剤師が遵守すべき倫理規範（薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等）について説明できる。
			医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。
		患者の権利	患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を説明できる。
			患者の基本的権利の内容（リスボン宣言等）について説明できる。
			患者の自己決定権とインフォームド・コンセントの意義について説明できる。
			知り得た情報の適切な取扱い（守秘義務等）と患者等への情報提供の重要性について説明できる。
	薬学研究	薬学における研究の位置づけ	医薬品の創製における基礎から臨床に至る研究の目的と薬剤師の役割について説明できる。
			研究における自立性と独創性の重要性について説明できる。
		研究に必要な法規範と倫理	自らが実施する研究に係る法令、指針について説明できる。
			研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。
			臨床研究における倫理規範（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。
			人を対象とする研究において遵守すべき倫理指針の概要を説明できる。
		研究の実践	正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を守ることの重要性を説明できる。
			研究を実践するプロセスの概要を説明できる。

	信頼関係の構築	コミュニケーション	意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。
			言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。
			相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションのあり方が異なることを例を挙げて説明できる。
			対人関係に影響を及ぼす心理的要因について説明できる。
			相手の心理状態とその変化に配慮した対応の仕方について説明できる。
			自分の心理状態を意識して他者と接することの重要性を説明できる。
			相手の考えや感情を理解するための適切な聴き方、質問の仕方を説明できる。
			自分の考えや感情を相手に伝えるための適切な方法を説明できる。
			他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決に導くための方法を説明できる。
	自己研鑽と次世代を担う人材の育成	学習のあり方	講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。
			必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。
			得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともにわかりやすく表現できる。
			インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。
		薬学教育の概要	「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。
			薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。
		生涯学習	生涯にわたって継続的に自ら学習する重要性を認識し、その方法と意義について説明できる。
		次世代を担う人材の育成	後輩等への適切な指導方法について概要を説明できる。
薬学と社会	人と社会に関わる薬剤師	人と社会に関わる薬剤師	人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。
			人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について説明できる。
			人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について説明できる。
			薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について説明できる。
			倫理規範や法令に則した行動を説明できる。
	薬剤師と医薬品等に係る法規範	薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範	薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる。
			薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる。
			薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる。
			薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について説明できる。
			医療提供施設の種類、定義と要件について説明できる。
			医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
			医療の提供体制と安全の確保等に関する医療法の規定とその意義について説明できる。
			個人情報の取扱いについて説明できる。
			薬剤師の刑事責任、民事責任（製造物責任を含む）について説明できる。
		医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範	「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の目的及び医薬品等（医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品）の定義について説明できる。
			医薬品等の開発から承認までのプロセスと法規範について説明できる。
			治験の意義と仕組みについて説明できる。
			医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる。
			製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる。
			薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる。
			医薬品等の取扱いに関する「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」の規定について説明できる。
			日本薬局方の意義と構成について説明できる。
			生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる。
			健康被害救済制度について説明できる。
			レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる。
		特別な管理を要する薬物等に係る法規範	麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる。
			覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について説明できる。
			毒物劇物の取扱いに係る規定について説明できる。
	社会保障制度と医療経済	医療、福祉、介護の制度	日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる。
			医療保険制度（成り立ち、種類、仕組み、現状）について説明できる。
			療養担当規則について説明できる。
			公費負担医療制度（生活保護等）について説明できる。
			介護保険制度の基本的な仕組みについて説明できる。
			薬価基準制度の概要を説明できる。
			調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みの概要を説明できる。
		医薬品と医療の経済性	医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概要を説明できる。
			国民医療費の動向について概要を説明できる。
			後発医薬品とその役割について説明できる。
			薬物療法の経済評価手法について概要を説明できる。
	地域における薬局と薬剤師	地域における薬局の役割	地域における薬局（健康サポート薬局を含む）の機能と役割について説明できる。
			医薬分業の意義と動向を説明できる。
			かかりつけ薬剤師・薬局による薬学的管理の意義について説明できる。
			セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。
			災害時の薬局の役割について説明できる。
			医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。
		地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師	地域包括ケアの理念、薬局と薬剤師の役割について説明できる。
			在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。
			学校薬剤師の役割について説明できる。
			地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について説明できる。
			地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について説明できる。

【別表Ⅶ　実務】

大項目	中項目	小項目	小項目の例示
薬学臨床基本事項	医療人としての基本	医療人として	患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。
			患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮した関わり方について説明できる。
			患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を説明できる。
			現代社会が抱える課題（少子・超高齢社会等）に対して、薬剤師が果たすべき役割を説明できる。

			様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について個々の場面に合わせて説明できる。
			常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい行動ができる。
			自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める行動ができる。
			チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすことができる。
			チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚した行動ができる。
			薬学的管理を実施する際のインフォームド・コンセントについて具体的に説明できる。
			患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる。
			医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動ができる。
			一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）について説明できる。
	薬剤師業務の基礎	臨床業務の基礎	医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。
			保険調剤における薬剤師業務を具体的に説明できる。
			健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。
			薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。
			病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連づけて説明できる。
			病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を具体的に説明できる。
			急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。
			周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。
			終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。
			外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。
薬学臨床実践	処方箋に基づく調剤	処方箋と疑義照会	処方箋の記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる。
			注射薬処方箋の記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる。
			処方箋の監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。
			薬歴、診療録、患者の状態等から処方が妥当であるか判断できる。
			薬歴、診療録、患者の状態等から判断して適切に疑義照会ができる。
		処方箋に基づく医薬品の調製	薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。
			適切な手順で後発医薬品を選択できる。
			処方箋に従って計数・計量調剤ができる。
			錠剤の粉砕及びカプセル剤の開封の可否を判断できる。
			一回量（一包化）調剤の必要性を判断できる。
			注射薬処方箋に従って注射薬調剤ができる。
			皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。
			代表的な輸液の種類と適応を説明できる。
			注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。
			無菌操作の原理とその基本的な操作について具体的に説明できる。
			注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作について具体的に説明できる。
			抗悪性腫瘍薬等の取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を具体的に説明できる。
			特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱いができる。
			調製された薬剤の適切な鑑査について具体的に説明できる。
		服薬指導	患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。
			代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。
			患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる。
			医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施できる。
			妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。
			お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。
			収集した患者情報を薬歴や診療録等に適切に記録することができる。
		医薬品の供給と管理	医薬品管理の流れを説明できる。
			医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。
			医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。
			医薬品の適切な在庫管理を実施できる。
			医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。
			劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬及び覚せい剤原料の適切な管理と取扱いができる。
			特定生物由来製品の適切な管理と取扱いができる。
			代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。
			院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理等について説明できる。
			薬局製剤（漢方製剤を含む）の取扱いについて説明できる。
		安全管理	特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる。
			調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。
			インシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を実施することができる。
			感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。
			施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。
			代表的な消毒薬の用途、使用濃度及び調製時の注意点を説明できる。
			臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる。
			施設内での感染対策（予防、蔓延防止等）について具体的に説明できる。
	薬物療法の実践	患者情報の把握	患者・来局者及び種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。
			患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。
			基本的な身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。
			患者の基本的な身体所見を観察・測定・評価し、薬学的管理に活かすことができる。
		医薬品情報の収集と活用	医療スタッフ及び患者のニーズに合った医薬品情報が提供できる。
			緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止等の緊急情報を適切に取り扱うことができる。

		処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）	患者の診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。
			患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、妊婦・授乳婦、小児、高齢者等の生理的特性、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。
			治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。
			処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコルやクリニカルパスを活用できる。
			患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。
			アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。
			患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足等が評価できる。
			入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。
			処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。
		処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果と副作用の評価）	医薬品の効果と副作用について、モニタリングすべき症状と検査所見等を説明できる。
			治療薬物モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。
			薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果、副作用及び相互作用について予測できる。
			臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。
			薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見等から評価できる。
			副作用の発現について、患者の症状や検査所見等から評価できる。
			薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる。
			患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP形式等で適切に記録できる。
			医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に必要事項を記載し、報告できる。
	チーム医療への参画	多職種連携協働とチーム医療	保健、医療における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。
			多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。
			チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。
		医療機関におけるチーム医療	医療機関における多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の目的と構成、構成員の役割、その中での薬剤師の重要性を説明できる。
			病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。
			他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL 等）について情報共有の重要性を説明できる。
			他職種と連携・協力して、患者の最善の治療・ケアが提案できる。
		地域におけるチーム医療	地域の保健、医療、介護、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）及びその意義について説明できる。
			地域住民への情報提供・健康教育の重要性を説明できる。
			地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有ができる。
			かかりつけ薬剤師・薬局の業務を具体的に説明できる。
			健康サポート薬局の具体的な業務を説明できる。
	地域の保健・医療・福祉への参画	在宅（訪問）医療・介護への参画	在宅医療・介護の目的、仕組み、関わる職種、支援の内容を説明できる。
			在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。
			在宅医療・介護に関する薬剤師の役割と管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務、医療廃棄物の取扱い等）について説明できる。
			在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集の方法、他職種との情報共有について説明できる。
			在宅患者の終末期医療について説明できる。
		地域保健への参画	学校薬剤師が行う業務内容とその意義を説明できる。
			地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。
			地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品を使用する場合の危険行為等に対する対処法）における薬剤師活動を説明できる。
		プライマリケア・セルフメディケーション	現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を説明できる。
			薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等のリスクに応じた適切な取扱い、管理ができる。
			来局者から収集した情報や身体所見等に基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。
			来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品、一般用医薬品及び検査薬等の推奨、生活指導等）を選択できる。
			選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品、一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点（副作用・相互作用等含む）等を来局者に適切にわかりやすく説明できる。
			疾病予防及び健康管理について適切な生活指導やアドバイスができる。
		災害時医療と薬剤師	災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。
			災害発生時における病院・薬局の役割と薬剤師の活動について説明できる。
			災害時に派遣される医療チームと薬剤師の関わりを説明できる。

モデル・コア・カリキュラム対応表

薬学教育モデル・コア・カリキュラム

（令和６年度以降入学生対象）

B 社会と薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B-1 薬剤師の責務						
B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム						
(1)プロフェッショナリズムの概念【1)、2)、3)】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ				
(2)職業観の形成【1)、2)、3)】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ				
(3)生命倫理及び研究倫理の歴史や諸原則(ヘルシンキ宣言等)【1)】	早期臨床体験Ⅰ			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)医療や研究における患者及び研究対象者の自律尊重【1)】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)医療行為に伴う倫理的課題【1)】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門					
(7)倫理的感受性の涵養と葛藤の解決【1)】	早期臨床体験Ⅰ					
(8)成人学習理論を活用し、同僚や後輩との協働やフィードバックを実践する。【4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(9)倫理的課題に直面した際の適切な対応について、文脈を踏まえて討議する。【1)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(10)自らの言動を客観的に捉えた学びや経験を省察し、メタ認知能力を高める。【2)、3)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
B-1-2 患者中心の医療						
(1)患者の基本的権利【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)患者・患者家族の心理【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(3)全人的医療【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)患者のナラティブ【1)、2)、3)】						
(5)インフォームド・コンセント、情報共有、共同意思決定(SDM)【1)】	腫瘍感染症薬学入門					薬事行政論
(6)守秘義務、個人情報の保護、情報開示、説明責任【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(7)医療者 - 患者関係が治療に及ぼす影響【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			薬事行政論
(8)ヘルスリテラシー、健康行動理論【4)】						薬事行政論
(9)ライフサイクル理論【4)】						
(10)人生の最終段階におけるケア(エンド・オブ・ライフケア)【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(11)生まれ持った個性や価値観、信条、宗教等の多様性や人間性を尊重する意義について、真摯に討議する。【2)、3)】						
B-1-3 薬剤師の社会的使命と法的責任						
(1)薬学・薬剤師に関わる歴史的・社会的背景【1)、2)、3)】	薬剤師入門					薬事行政論
(2)薬剤師の社会的使命【1)】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)薬剤師が遵守すべき行動規範【1)】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)薬剤師の任務に関わる法令【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)薬剤師の業務に関わる民事責任、刑事責任【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)医薬品等によって生じた健康被害(薬害、医療事故、重篤な副作用等)について調べ、再発防止策を提案する。【3)】						薬事行政論
B-2 薬剤師に求められる社会性						
B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション						
(1)医療コミュニケーションの技法(傾聴、受容、共感、質問法、伝え方、解釈モデル等)【1)、2)、3)】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(2)全人的な評価【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)対人関係に関わる心理的要因【2)】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(4)患者の意思決定支援に役立つナラティブコミュニケーションの実践【1)、2)、3)】						
(5)患者・生活者に悪い知らせを伝える際のコミュニケーション(SPIKESモデル等)の実践【3)】	腫瘍感染症薬学入門		コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
B-2-2 多職種連携						
(1)多職種によるチーム・ビルディング【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)他の医療、保健、介護、福祉関係者の職能の理解【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのアサーティブコミュニケーション(DESC等)【2)、3)】			コミュニケーション学演習Ⅰ 薬学英語演習			
(4)多職種連携におけるリスクコミュニケーション(リスクマネジメント、コミュニケーションエラー防止策等)について、自らの考えを述べる。【2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
B-3 社会・地域における薬剤師の活動						
B-3-1 地域の保健・医療						
(1)健康・障害・疾病の概念【1)】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(2)生活習慣病・健康増進に係る施策【1)】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(3)地域における薬局の機能(健康サポート機能、災害時対応を含む)【1)、2)、3)、4)、5)】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(4)地域の保健・医療に関わる機関・組織【3)、4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(5)医療提供の理念、医療安全の確保、医療提供体制の確保(医療計画を含む)【3)、4)】	早期臨床体験Ⅰ 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ		薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)地域包括ケアシステムの概要【1)、2)、3)、4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(7)ライフステージに応じた健康管理、環境・生活習慣の改善に向けた薬剤師の役割【1)、2)】	早期臨床体験Ⅰ 腫瘍感染症薬学入門	早期臨床体験Ⅱ 医療体験実習				
(8)学校保健、学校薬剤師の役割【1)、2)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(9)医薬品適正使用における薬剤師の役割(適正使用の推進、アンチ・ドーピング等)【1)、2)、3)、4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(10)地域住民のセルフケア、セルフメディケーションにおける薬剤師の役割【1)、2)、3)、4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				薬事行政論
(11)都市部、山間部(へき地)、離島等の地域の特性と保健・医療のニーズ【2)、4)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(12)早期からの体験学習に基づく薬剤師の役割と責務の理解【1)、2)、3)、4)、5)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(13)国内外における薬剤師の業務範囲や活動【5)】	早期臨床体験Ⅰ					薬事行政論

B 社会と薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
B-3-2 医療・介護・福祉の制度						
(1)社会保障制度の概念、仕組み、財源と使途・その推移【1)】	薬剤師入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)医療保険制度の役割、成り立ち、仕組み【2)】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)保険医療機関、保険薬局、保険薬剤師の役割(療養担当規則を含む)【2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)公費負担医療制度の概要【2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)介護保険制度の概要【2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)薬剤師業務に関わる診療報酬、調剤報酬、介護報酬【2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(7)社会保障改革の動向【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
B-3-3 医療資源の有効利用						
(1)医療費の内訳と動向【1)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)国内外の医薬品市場の規模と動向【1)】	薬剤師入門		医薬品開発・経済学			
(3)医薬品の価格決定方法【2)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)薬物療法の適正化と医療費との関係性【2)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)公的医療保険における医療技術評価【2)、3)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(6)薬物療法の経済評価手法【3)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(7)社会保障制度の維持に薬剤師が果たす役割【3)】						薬事行政論
B-4 医薬品等の規制						
B-4-1 医薬品開発を取り巻く環境						
(1)医薬品開発の過程【1)】	薬剤師入門		医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)医薬品開発に関わる法規制・ガイドライン【1)、2)】	薬剤師入門		医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)新薬の開発における化合物やモダリティ(創薬技術や治療手段)の探索及び有効利用等【2)、3)】						
(4)医薬品に係る臨床研究、治験の意義と仕組み【2)】	薬剤師入門		医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)レギュラトリーサイエンスの必要性と意義【1)、2)】						薬事行政論
B-4-2 医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保と薬害の防止						
(1)医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(薬機法)とその関連法令の規定と意義(歴史的背景を含む)【1)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器、再生医療等製品等の定義とその取扱い【1)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(4)薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業【1)、2)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(5)薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)の原因、社会的背景、その後の対応【2)、3)】			医薬品開発・経済学 医薬品安全性学			薬事行政論
(6)薬害を回避するため、医薬品開発から使用に至るまでの全過程に薬剤師が関わる意義と薬剤師に求められる行動【1)、2)、3)】			医薬品開発・経済学 医薬品安全性学			薬事行政論
(7)健康被害救済制度と製造物責任【3)】				薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(8)医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保のために必要な薬剤師の行動【2)、3)】						薬事行政論
B-4-3 医薬品等の供給						
(1)医薬品流通の仕組み【1)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(2)医薬品供給に関わる医薬品の製造販売業・製造業・卸売販売業、医療機関、薬局の役割と責務【1)、2)】			医薬品開発・経済学	薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)医薬品の個人輸入、偽造品等の流通問題における課題と対応策の提案【2)】						薬事行政論
(4)災害時等の医薬品流通・供給の在り方についての提案【2)】	薬剤師入門					薬事行政論
B-4-4 特別な管理を要する医薬品等						
(1)特別な管理を要する医薬品・薬物等について、不適切な取扱いや不適切使用による健康及び公衆衛生への影響【1)】	腫瘍感染症薬学入門			環境衛生学		薬事行政論
(2)特別な管理を要する医薬品・薬物等に係る規制【2)】	腫瘍感染症薬学入門			薬事医事関係法規総合論Ⅰ		薬事医事関係法規総合論Ⅱ 薬事行政論
(3)特別な管理を要する医薬品・薬物等における薬剤師の役割【2)】	薬剤師入門 腫瘍感染症薬学入門					薬事行政論
B-5 情報・科学技術の活用						
B-5-1 保健医療統計						
(1)保健医療統計の種類(人口静態、人口動態、受療状況、医療施設数、医療従事者数等)、特徴、意義【1)、2)】						薬事行政論
(2)保健医療統計に用いられるデータの種類や尺度、データ収集の方法、記述統計及び推測統計【1)、2)】						薬事行政論
(3)国際的に取り組む必要がある医療・健康課題【3)】						薬事行政論
(4)国内外の医療・健康課題に対する薬剤師の活動【3)】						薬事行政論
B-5-2 デジタル技術・データサイエンス						
(1)情報科学技術を取り扱う際に必要な倫理観、デジタルリテラシー【1)、2)、3)】	薬学情報処理リテラシー演習			疫学研究演習		
(2)医療、保健、介護、福祉におけるデジタル技術・ビッグデータに関連する法規制【2)、3)】	薬学情報処理リテラシー演習			疫学研究演習		
(3)医療、保健、介護、福祉におけるデジタル技術の活用例【3)】	薬学情報処理リテラシー演習			疫学研究演習		
(4)医療、保健、介護、福祉におけるビッグデータの活用例【3)】	薬学情報処理リテラシー演習			疫学研究演習		
(5)人々の健康に関する課題の抽出とデジタル技術及びビッグデータを活用した解決策を提案する。【2)、3)】				疫学研究演習		
B-5-3 アウトカムの可視化						
(1)薬剤師の活動が社会・地域にもたらす成果(アウトカム)を説明する。【1)、2)】	早期臨床体験Ⅰ 薬学情報処理リテラシー演習 薬剤師入門	早期臨床体験Ⅱ				
(2)薬剤師の活動の成果を可視化するための測定・評価方法を説明する。【2)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				
(3)薬剤師の職能に対する患者・生活者・他職種の理解を促すための行動や活動を提案する。【2)】	早期臨床体験Ⅰ	早期臨床体験Ⅱ				

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-1 化学物質の物理化学的性質						
C-1-1 化学結合と化学物質・生体高分子間相互作用						
(1)化学結合、混成軌道、共役と共鳴、分子軌道【1)】	薬学化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)静電相互作用【2)】	薬学化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)双極子間相互作用と水素結合【2)】	薬学化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)ファンデルワールス力【2)】	薬学化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)疎水性相互作用【2)】	薬学化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)医薬品・生体高分子間相互作用【3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-1-2 電磁波、放射線						
(1)電磁波の性質、電磁波と物質との相互作用【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)電子遷移、分子の振動と回転【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)スピンと磁気共鳴【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)屈折、旋光性、回折【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)放射性核種と放射壊変【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)電離放射線による化学物質及びヒトをはじめとする生体への影響【3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-1-3 エネルギーと熱力学						
(1)熱力学第一法則とエンタルピー【1)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)熱力学第二法則とエントロピー、熱力学第三法則【1)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)ギブズエネルギー【1)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)気体の分子運動論【1)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)化学ポテンシャルと化学平衡【2)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)平衡と圧力、温度【2)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)酵素反応とギブズエネルギー【2)】	薬学物理化学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8)相平衡と相律、相転移【2)】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(9)物理的配合変化と相平衡【2)】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(10)束一的性質と食塩価法【2)】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(11)活量と活量係数【2)】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(12)電解質溶液の伝導率とイオン強度【2)】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(13)電池と電極電位【3)】	薬学化学入門	薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(14)細胞膜電位【3)】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(15)人工透析の原理と透析膜【4)】		薬学物理化学応用		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-1-4 反応速度						
(1)反応次数と速度定数【1)】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)複合反応【1)】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)反応速度と温度【2)】		薬学物理化学基礎		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)酵素反応と阻害様式【2)】		薬学物理化学基礎 生化学実習		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-2 医薬品及び化学物質の分析法と医療現場における分析法						
C-2-1 分析方法の基礎						
(1)分析器具【1)】	薬学情報処理リテラシー演習	薬品分析学実習	機器分析学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)測定値の取扱い【1)】	薬学情報処理リテラシー演習	薬品分析学実習	機器分析学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)分析法のバリデーション【1)】			分析化学III	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-2-2 溶液の化学平衡と容量分析法						
(1)水素イオン濃度(pH)、pHメーター【1)】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)pHの調節、緩衝作用、緩衝液【2)】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)可逆反応、化学平衡【3)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)分配平衡【3)】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)酸・塩基平衡【3)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)中和滴定、非水滴定【4)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)化学平衡(錯体・キレート生成平衡、沈殿平衡、酸化還元平衡)【3)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)容量分析法(キレート滴定、沈殿滴定、酸化還元滴定)の原理【4)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)容量分析法の代表例【4)】		薬品分析学実習		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-3 定性分析、日本薬局方試験法						
(1)日本薬局方の通則、一般試験法、医薬品各条【1)】		薬品分析学実習 日本薬局方	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)日本薬局方で規定される代表的な医薬品の確認試験、純度試験、定量法【2)】		薬品分析学実習 日本薬局方	機器分析学実習	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)代表的な無機イオンの分析法【3)】		日本薬局方		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-4 電磁波を用いる分析法						
(1)ランベルト-ベールの法則【1)】	薬学情報処理リテラシー演習	生化学実習	機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)紫外可視吸光度測定法【2)、4)】	薬学情報処理リテラシー演習		機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)蛍光光度法【2)、4)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル)測定法【2)、4)】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)代表的な電磁波を用いる分析法【2)、4)】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)原子吸光光度法【3)、4)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-5 有機化合物の特性に基づく構造解析-原理-						
(1)核磁気共鳴(NMR)スペクトル測定法、ゼーマン分裂【1)】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル) 測定法【1)】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)質量分析法、質量電荷比【2)】			機器分析学実習 分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-6 分離分析法						
(1)分離分析法の原理【1)】			機器分析学実習 分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)液体クロマトグラフィー、薄層クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィー【1)、3)、4)】			機器分析学実習 分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)電気泳動法【2)、3)、4)】		生化学実習	分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)代表的な検出器【3)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-7 医療現場における分析法						
(1)検体試料の前処理法【1)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)精度管理【2)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)代表的な免疫学的測定法【3)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)酵素を用いた代表的な分析法【3)】		生化学実習	分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)代表的なドライケミストリー、センサー【3)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)Point of Care Testing(POCT)【4)】			分析化学Ⅲ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-2-8 生体に用いる分析技術・医療機器						
(1)X線検査、コンピュータ断層撮影(X線CT)、透過【1)、2)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)磁気共鳴画像診断(MRI)、緩和【1)、2)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)陽電子放出断層撮影法(PET)、単光子放射型コンピュータ断層撮像法(SPECT)【1)、2)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)超音波診断、内視鏡検査【1)、2)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)正常画像と代表的な疾患画像【2)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)治療用放射性医薬品、診断用医薬品【3)】			分析化学Ⅱ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-3 薬学の中の有機化学						
C-3-1 物質の基本的性質						
(1)有機化合物の名前【1)】	薬学化学入門　有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)有機化合物の化学構造【1)】	薬学化学入門	有機薬化学 II 有機薬化学III		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)共鳴・電子の動き【1)、2)】	薬学化学入門	有機薬化学 II 有機薬化学III	薬化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)反応機構・化学種【1)、2)】	薬学化学入門	有機薬化学 II 有機薬化学III	薬化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)酸・塩基【1)、2)】	薬学化学入門	有機薬化学III		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)基本的な有機化学反応【2)】	薬学化学入門	有機薬化学 II 有機薬化学III	薬化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-3-2 有機化合物の立体化学						
(1)異性体・立体配置・立体配座【1)、2)、3)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)キラリティー【1)、2)、3)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-3-3 有機化合物の基本構造と反応性						
(1)アルカン・シクロアルカン【1)、2)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)アルケンとその反応【1)、2)】	有機薬化学 I	有機薬化学 II		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)アルキンとその反応【1)、2)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)芳香族化合物とその反応【1)、2)】		有機薬化学 II		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)複素環化合物とその反応【1)、2)】		有機薬化学 II		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)有機ハロゲン化合物とその反応【1)、2)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)アルコール・フェノールとその反応【1)、2)】	有機薬化学 I		薬化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8)エーテルとその反応【1)、2)】	有機薬化学 I			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(9)アルデヒド・ケトンとその反応【1)、2)】		有機薬化学 II	薬化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(10)カルボン酸及び誘導体とその反応【1)、2)】		有機薬化学III		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(11)アミンとその反応【1)、2)】		有機薬化学III		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(12)硫黄・リンを含む化合物とその反応【1)、2)】		有機薬化学 II		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-3-4 有機化合物の特性に基づく構造解析						
(1)核磁気共鳴(NMR)スペクトル【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)赤外吸収スペクトル(IRスペクトル)【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)マススペクトル(MS)【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-3-5 無機化合物・錯体						
(1)医薬品及び生体内の無機化合物【1)】	無機薬化学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)無機化合物の酸化物【1)】	無機薬化学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)金属錯体【1)】	無機薬化学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-4 薬学の中の医薬品化学						
C-4-1 医薬品に含まれる官能基の特性						
(1)電子的効果・立体的効果【1)】		医薬品化学 I	医薬品化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)酸性・塩基性【1)】		医薬品化学 I	医薬品化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)親水性・疎水性【1)】		医薬品化学 I	医薬品化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)医薬品と標的分子の基本的な相互作用【1)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-4-2 生体分子とその反応						
(1)生体分子(タンパク質、核酸、糖、脂質、内因性リガンド)【1)】		医薬品化学 I 生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)補酵素【1)、2)】		医薬品化学 I 生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)酵素反応・代謝反応【1)、2)】		医薬品化学 I 生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)生体分子の生合成【1)、2)】		医薬品化学 I 生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-4-3 医薬品のコンポーネント						
(1)ファーマコフォア【1)】		医薬品化学 I	医薬品化学実習	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)バイオアイソスター【1)、2)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)プロドラッグ【1)、2)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)モダリティ(低分子、ペプチド、核酸医薬、抗体医薬等)と有機化学の接点【1)、2)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)ドラッグキャリアと有機化学の接点【2)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-4-4 標的分子に基づく医薬品の分類						
(1)酵素に作用する医薬品【1)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)受容体に作用する医薬品【1)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)核酸に作用する医薬品【1)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)イオンチャネル、トランスポーターに作用する医薬品【1)】		医薬品化学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-4-5 代表的疾患の治療薬とその作用機序						
(1)抗悪性腫瘍薬【1)】	腫瘍感染症薬学入門		医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)代謝系・内分泌系疾患(糖尿病・脂質異常症・高尿酸血症)の医薬品【1)】			医薬品化学 II 内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)循環器系疾患(脳血管障害・心疾患・高血圧症)の医薬品【1)】			医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)精神・神経系疾患の医薬品【1)】			薬理・薬物治療学II 医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)消化器系疾患の医薬品【1)】			医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)免疫・炎症・アレルギー系疾患の医薬品【1)】			医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)感染症の医薬品【1)】			医薬品化学 II 感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8)その他の疾患の医薬品【1)】			医薬品化学 II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-5 薬学の中の生薬学・天然物化学						
C-5-1 生薬学・天然物化学の基礎						
(1)薬用植物に関する基本的知識【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)生薬の種類、基原、成分、薬効・用途【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)生薬の同定と品質評価【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-5-2 天然由来医薬品各論						
(1)天然有機化合物の生合成経路別分類【1)】			天然物化学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)天然有機化合物を基に開発された医薬品【2)】			天然物化学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)天然有機化合物を基に開発された機能性食品、農薬、香粧品【2)】			天然物化学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)生薬を利用した医薬品、天然物を利用した機能性を示す食品【2)】			天然物化学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6 生命現象の基礎						
C-6-1 生命の最小単位としての細胞						
(1)生物体の基本的な構造と機能【1)】	薬学生物学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)細胞を構成する糖質、脂質、タンパク質、核酸等の構造や性質等の特徴【1)】	薬学生物学入門			薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)細胞の基本構造、細胞小器官及び細胞骨格【1)】	薬学生物学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6-2 生命情報を担う遺伝子						
(1)染色体と遺伝子の構造【1)】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)遺伝情報の伝達と発現【1)】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)体細胞分裂と減数分裂による遺伝情報の伝達【1)】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)遺伝子変異と遺伝子型【1)】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6-3 微生物の分類、構造、生活環						
(1)微生物(ウイルス、細菌、真菌)の生物学的系統の相違【1)、4)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)細菌のグラム染色性と系統分類【1)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学 微生物学実習	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)細菌細胞の構造と増殖【2)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)増殖と必要な栄養素【2)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)エネルギー産生と酸素に対する挙動【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)細菌ゲノムの複製と発現【2)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)変異と遺伝子伝達現象【3)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8)ウイルス粒子の構造と複製【2)、3)、4)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(9)真菌細胞の構造と増殖【2)、3)、4)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学	感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(10)無菌操作、分離培養、純培養【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門	微生物学 微生物学実習		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(11)遺伝子工学技術【3)】	腫瘍感染症薬学入門			バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-6-4 生命活動を担うタンパク質						
(1)タンパク質の構造と機能【1)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学 生化学実習		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)酵素反応の特性、補酵素、微量金属【2)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)酵素活性調節機構【2)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)タンパク質の細胞内分解【3)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6-5 生体エネルギーと代謝						
(1)エネルギー代謝の全体像【1)、2)】		生化学		臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)解糖系・乳酸生成【1)、2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)クエン酸回路【1)、2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)電子伝達系【1)、2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)グリコーゲン代謝【2)】		生化学		薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)糖新生【2)】		生化学		薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)脂肪酸の生合成とβ酸化【2)】		生化学		薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8)コレステロール生合成と代謝【2)】		生化学		薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(9)飢餓状態と飽食状態のエネルギー代謝【2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(10)アミノ酸の代謝【2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(11)ヌクレオチドの代謝【2)】		生化学		薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(12)ペントースリン酸回路【2)】		生化学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6-6 細胞内情報伝達及び細胞間コミュニケーション						
(1)イオンチャネル内蔵型受容体を介する情報伝達【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I	内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)Gタンパク質共役型受容体を介する情報伝達【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I	内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)酵素内蔵型受容体を介する情報伝達【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I	内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)核内受容体を介する情報伝達【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I	内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)細胞間コミュニケーション【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門		内分泌薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)細胞接着分子【1)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7)細胞外マトリックス【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-6-7 細胞周期と細胞死						
(1)細胞周期と制御機構【1)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)細胞死【1)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)がん細胞【1)】	腫瘍感染症薬学入門	生化学		バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-7 人体の構造と機能及びその調節						
C-7-1 器官系概論						
(1)人体を観察する際の基準となる体位、方向及び断面【1)】	解剖学演習			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)人体の階層構造(細胞・組織・器官・器官系)【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)人体を構成する各器官系と相互の連携の概要【1)、2)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)主要な器官の名称と解剖学的位置を確認する方法【1)】	解剖学演習			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)主要な組織を構成する細胞やそれらの特徴的配列を確認する方法【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-7-2 神経系						
(1)神経系を構成する細胞【1)】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)神経細胞における興奮の伝導と伝達【2)】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)中枢神経系の構造と機能【1)】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)血液脳関門と脳室周囲器官(化学受容器引き金帯(CTZ))【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)末梢神経系の解剖学的分類と生理学的分類【1)】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)自律神経系による不随意的調節【2)】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-7-3 内分泌系						
(1)ホルモンの分泌様式【1)】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)各内分泌器官の構造と産生されるホルモン及びその作用【1)】	解剖学演習		内分泌薬学	臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)血糖の調節等、ホルモンによる生体機能の調節【2)】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

C 基礎薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-7-4 外皮系						
(1)皮膚及びその付属器の構造と機能【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)皮膚から受容される感覚とそれらの伝導路【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-5 感覚器系						
(1)5つの特殊感覚(視覚、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚)【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)視覚器(眼球)の構造と光の受容、視覚の伝導路【2)】	機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-6 骨格系						
(1)骨、及び軟骨の構造・関節の構造【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主な骨の名称と位置【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)骨代謝と血中カルシウム濃度の調節機構【1)】	機能形態学			薬理・薬物治療学Ⅵ 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-7 筋系						
(1)主な骨格筋の名称と位置【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)3種類の筋(骨格筋、心筋、平滑筋)の特徴、及びその収縮機構と神経支配【1)】	解剖学演習 機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)骨格筋におけるグルコース代謝と乳酸の蓄積と疲労の発生【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)運動の伝導路(錐体路、錐体外路系及び下位運動ニューロン)【1)】	機能形態学	薬理・薬物治療学Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-8 循環器系						
(1)心臓・血管系と体液循環【1)、2)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)心臓の構造と機能、及び興奮と心電図【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)主な血管の名称と位置【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)腹部血管系とその循環経路(門脈循環)【1)、2)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)血圧とその調節機構、及び血圧の測定法【1)】	機能形態学	医療体験実習		臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)血液の組成及び造血【3)】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)血液型とその不適合【3)】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)血液凝固・線溶系【3)】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-9 リンパ系と免疫						
(1)一次及び二次リンパ器官【1)】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)主なリンパ管の名称と位置【1)】	解剖学演習	免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)自然免疫と獲得免疫【2)】		免疫学		臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)主なサイトカインと関与する細胞間ネットワーク【2)】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)抗体分子及びT細胞抗原受容体の多様性【2)】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)抗原認識と免疫寛容及び自己免疫【2)】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)免疫担当細胞の体内循環【2)】		免疫学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-10 消化器系						
(1)消化管と主要な付属器官(肝臓・胆のう・膵臓)【1)】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)消化・吸収・排泄とその調節【1)】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)肝臓の栄養代謝調節【1)】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-11 呼吸器系						
(1)気道を構成する器官と肺【1)】	解剖学演習 機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)呼吸の仕組みとその調節機構【1)】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)酸素・二酸化炭素の運搬と酸・塩基平衡【1)、2)】	機能形態学		薬理・薬物治療学Ⅳ	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
C-7-12 泌尿器系						
(1)腎臓と尿路を構成する器官【1)】	解剖学演習 機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)尿生成の仕組みと体液の恒常性維持機構【1)、2)】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)腎臓に関連したホルモンによる体液調節【1)、2)】	機能形態学			臨床検査学 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)排尿の仕組みとその調節機構【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

C 基礎薬学		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
C-7-13 体液							
	(1)体液の種類とその組成及び生理的食塩水【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(2)体液の浸透圧の調節機構【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(3)体液の酸・塩基平衡の調節機構【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(4)体液量及び血圧の調節機構【1)】	機能形態学			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-7-14 生殖器系							
	(1)男性生殖器系を構成する器官【1)】	解剖学演習			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(2)精子形成(減数分裂)とホルモン調節【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(3)女性生殖器系を構成する器官【1)】	解剖学演習			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(4)女性の性周期及び妊娠とホルモン調節【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
C-7-15 ヒトの発生							
	(1)受精～出産【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(2)胚子(3つの胚葉)形成【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(3)器官形成期【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
	(4)胎盤の構造と通過する分子【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-1 薬物の作用と生体の変化						
D-1-1 薬の作用のメカニズム						
(1)神経系による生体の恒常性【1)】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)代表的な構造活性相関【2)】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)薬の用量と作用の関連性【2)】	薬物治療学入門 腫瘍感染症薬学入門	薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)【2)】	薬物治療学入門	薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)薬効評価法(動物実験を含む)【1)、2)、3)】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)動物実験指針【3)】	薬物治療学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-1-2 身体の病的変化						
(1)代表的な臨床症状の発症するメカニズムとその特異性【1)】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)代表的な症候と関連する病態【1)、2)】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)代表的な臨床検査値と症状の関連性と臨床的意義【2)】	薬物治療学入門			臨床検査学 薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-1-3 医薬品の安全性						
(1)代表的な薬物の有害反応(副作用)、相互作用、薬物中毒、臨床検査値の異常とその対策、対応【1)】	薬物治療学入門		医薬品安全性学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)薬害の原因と被害の実態、事例解析と防止策【2)】			医薬品安全性学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)薬物中毒、薬物依存、アルコール依存、薬物乱用の病態、事例解析と防止策【3)】	薬物治療学入門		医薬品安全性学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)治療の適切性の評価に基づくポリファーマシーによる有害反応事例解析と防止策【4)】			医薬品安全性学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2 薬物治療につながる薬理・病態						
D-2-1 自律神経系に作用する薬						
(1)代表的な自律神経系の異常による病態【1)】		薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)代表的な交感神経に作用する薬、副交感神経に作用する薬【2)、3)、4)】		薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-2 鎮痛作用を有する薬物						
(1)痛みの発生メカニズム【1)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)代表的な消炎鎮痛に用いられる薬【2)、3)、4)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-3 麻酔薬						
(1)代表的な局所麻酔薬、全身麻酔薬【1)、2)、3)】		薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-4 運動神経系や骨格筋に作用する薬						
(1)代表的な末梢性筋弛緩疾患、重症筋無力症【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)筋弛緩薬と筋系疾患の主な治療薬【2)、3)、4)】		薬理・薬物治療学 I	薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-5 中枢神経系、精神系の疾患と治療薬						
(1)脳血管疾患、認知症、てんかん、パーキンソン症候群【1)、2)】			薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)統合失調症、うつ病、双極性障害、睡眠障害、不安障害、片頭痛【1)、2)】			薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2)、3)、4)】			薬理・薬物治療学II	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-6 代謝系・内分泌系及び骨の疾患と治療薬						
(1)糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、甲状腺機能障害、副腎機能障害、骨粗鬆症【1)、2)】			内分泌薬学	薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)電解質代謝異常【1)、2)】				薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)アシドーシス、アルカローシス【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)栄養障害【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)主な治療薬【2)、3)、4)】				薬理・薬物治療学VI 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-7 皮膚・感覚器系の疾患と治療薬						
(1)アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、褥瘡【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)緑内障、白内障、加齢黄斑変性症、メニエール症候群、めまい【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2)、3)、4)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-8 循環器系の疾患と治療薬						
(1)心不全、不整脈、高血圧症・低血圧症、虚血性心疾患【1)、2)】				臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2)、3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-9 血液・造血器系の疾患と治療薬						
(1)貧血、播種性血管内凝固症候群、紫斑病、血友病【1)、2)】				臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬(凝固線溶系のメカニズム及び止血薬を含む)【2)、3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-2-10 免疫・炎症・アレルギー系の疾患と治療薬						
(1)花粉症、アナフィラキシー【1)、2)】				臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、拒絶反応、移植片対宿主病【1)、2)】				臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2)、3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-11 消化器系の疾患と治療薬						
(1)消化性潰瘍、機能性消化管障害、炎症性腸疾患、肝炎・肝硬変(ウイルス性・薬剤性等)、膵炎、胆道疾患【1)、2)】			薬理・薬物治療学IV	臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)悪心・嘔吐、下痢、便秘【1)、2)】			薬理・薬物治療学IV	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2)、3)、4)】			薬理・薬物治療学IV	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-12 呼吸器系の疾患と治療薬						
(1)気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、かぜ症候群、肺炎【1)、2)】			薬理・薬物治療学IV	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2)、3)、4)】			薬理・薬物治療学IV	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-13 泌尿器系の疾患と治療薬						
(1)慢性腎臓病、腎不全、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、排尿障害、尿路結石【1)、2)】				臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2)、3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-14 生殖器系の疾患と治療薬						
(1)前立腺肥大症、子宮内膜症【1)、2)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2)、3)、4)、5)、6)】		薬理・薬物治療学 I		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)妊娠と分娩、切迫早・流産、不妊症、避妊【5)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-15 感染症と治療薬						
(1)ウイルス感染症、細菌感染症、真菌感染症、寄生虫病【1)、2)】			感染症薬学	臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)呼吸器感染症、消化器感染症、尿路感染症、性感染症、皮膚感染症、神経系感染症、感覚器感染症、全身性感染症【1)、2)】			感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)抗感染症薬耐性の獲得と出現の抑制策【3)】			感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)主な治療薬【2)、3)、4)、5)】			感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)消毒薬、滅菌法【3)、4)、5)】			感染症薬学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-16 悪性腫瘍(がん)と治療薬						
(1)「血液・造血器・リンパ系」「神経系」「呼吸器系」「消化器系」「腎・尿路系」「生殖機能」「乳房」「内分泌・栄養・代謝系」「頭頸部」における悪性腫瘍(がん)【1)、5)】	腫瘍感染症薬学入門			臨床検査学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)治療薬に対する耐性獲得メカニズム、耐性出現防止方策、耐性出現時の対応【3)、4)、5)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)主な治療薬【2)、3)、4)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)支持療法の対象と利用する医薬品【1)、2)、3)、4)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-17 緩和医療と治療薬						
(1)がん性疼痛、慢性疼痛、神経因性疼痛、がん悪液質【1)、2)、5)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)主な治療薬【2)、3)、4)、5)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-18 遺伝子治療、移植医療、遺伝子組換え医薬品						
(1)遺伝子治療、移植医療【1)、2)】				バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)遺伝子組換え医薬品【2)、3)】				バイオ医薬品学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-19 漢方療法						
(1)漢方薬の適応となる証、症状、疾患【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-2-20 セルフケア、セルフメディケーション						
(1)セルフケア、セルフメディケーションの対象となる代表的な症状と関連する疾患【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)要指導医薬品、一般用医薬品、薬局製造販売医薬品【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)特別用途食品、保健機能食品、いわゆる健康食品等【2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)食事、運動等の影響【1)、2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-3 医療における意思決定に必要な医薬品情報						
D-3-1 医薬品のライフサイクルと医薬品情報						
(1)医薬品のライフサイクル【1)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)医薬品の有効性・安全性を確保するための制度とその過程で発生する情報【1)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-3-2 医薬品情報の情報源と収集						
(1)代表的な一次資料、二次資料、三次資料【1)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)添付文書、医薬品インタビューフォーム【2)、3)、8)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)ガイドライン、医薬品医療機器総合機構より入手可能な情報【4)、5)、8)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II
(4)代表的なウェブサイトを利用した情報収集【6)、8)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)代表的な医学・薬学文献データベースと文献検索【7)、8)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-3-3 医薬品情報の解析と評価						
(1)情報評価の意味と方法【1)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)研究デザインと使用目的、エビデンスの質【2)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)EBMのプロセス【3)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)臨床研究論文の批判的吟味【4)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)医薬品の有効性評価、安全性評価【1)、2)、3)、4)、5)、6)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)医薬品以外の医療に関わる情報の評価【1)、2)、3)、4)、7)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-3-4 医薬品情報の応用と創生						
(1)医薬品情報の加工・提供・発信【1)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)情報を取り扱う上での注意点(知的所有権、守秘義務など)【1)、2)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)医薬品の比較評価(同種同効薬、先発・後発医薬品など)【1)、2)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)医療ビッグデータの例と特徴【3)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)不足している情報の創生や課題解決を目指した研究計画【3)】		医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-3-5 患者情報						
(1)薬物治療の効果・副作用評価に必要な患者情報(基本的情報、遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能、生理的要因等)【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)問題指向型システム(POS)、SOAP【2)】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)患者情報の媒体(調剤録、薬剤服用歴、お薬手帳、処方箋、診療録など)【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)守秘義務、個人情報保護【4)】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)医療における情報通信技術(ICT)の進展【5)】	腫瘍感染症薬学入門	医療情報学		総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-4 薬の生体内運命						
D-4-1 薬物の体内動態						
(1)生体膜透過、吸収、分布、代謝、排泄【1)、2)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)薬物体内動態に起因する薬物相互作用【2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)年齢、生理状態、臓器機能の変化、遺伝的素因が薬物体内動態に及ぼす影響【1)、2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)個々の患者に適切な薬物の投与経路・投与方法の立案【1)、2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-4-2 薬物動態の解析						
(1)薬物速度論的解析法(コンパートメントモデル(線形・非線形モデル)、生理学的薬物速度論、モーメント解析法)【1)、2)、3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)薬物動態パラメータを利用した薬物投与計画【2)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)治療薬物モニタリング(TDM)の意義・測定法【3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)ポピュレーションファーマコキネティクス(母集団薬物速度論)【3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)薬物動態学/薬力学解析(PK/PD解析)【3)、4)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

D 医療薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
D-5 製剤化のサイエンス						
D-5-1 薬物と製剤の性質						
(1)固形材料の物性と関連する基本的理論【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)半固形材料、液状材料の物性と製剤化に関連する基本的理論【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)分散系材料の物性と製剤化に関連する基本的理論【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)薬物の安定性と安定化に関連する基本的理論【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-5-2 製剤設計						
(1)製剤の種類と特性及び取扱い【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)医薬品添加物、製剤機械及び製造工程、及び製剤試験法【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)医薬品の容器、包装【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)異なる製剤の生物学的同等性【2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-5-3 Drug Delivery System(DDS：薬物送達システム)						
(1)DDSの概念と技術【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)DDSが応用されている代表的な医薬品製剤と適用疾患【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
D-6 個別最適化の基本となる調剤						
D-6-1 処方箋に基づいた調剤						
(1)処方箋に記載すべき事項・内容と調剤に関する基本的事項【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2)適正な投与量、投与方法、投与剤形の評価と疑義照会【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3)内用剤の調剤(計数調剤、計量調剤)と服薬指導【1)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4)注射剤と輸液の調剤と服薬指導【1)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5)外用剤の調剤と服薬指導【1)、3)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6)無菌調製、抗悪性腫瘍(がん)薬調製、調剤薬監査【1)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

E 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E-1 健康の維持・増進をはかる公衆衛生						
E-1-1 環境要因によって起こる疾病の予防と健康被害の防止						
(1) 社会や集団における有害事象の発生とリスク因子との因果関係を解析する疫学【1)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 環境要因によって起こる疾病や健康被害【2)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 環境要因によって起こる疾病や健康被害の基本的な予防法・防止法【2)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 保健統計及び疫学的手法を用いた疾病や健康被害の背景や原因の解析【2)、3)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 疾病や健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【3)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 疾病や健康被害の予防・防止に係る規制・制度や関連法規【3)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 社会的要因によって起こる職業病やストレス関連障害等に対する予防策・防止策【3)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 環境要因によって起こる疾病や健康被害に関するリスクコミュニケーション【4)】			公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-1-2 人の健康を脅かす感染症の予防とまん延防止						
(1)感染症の病原体とその感染経路【1)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)感染症に対する基本的な予防法【1)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)保健統計及び疫学的手法を用いた感染症発生の背景や原因の解析【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)感染症の発生・まん延に関する社会的な影響・国際的な動向【2)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)感染症の予防・まん延防止に係る規制・制度や関連法規【2)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)ワクチンにより感染症を予防する意義と課題、副反応への対応【2)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学 公衆衛生学	感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7)発生した感染症に対する予防策・まん延防止策【2)】	腫瘍感染症薬学入門		感染症薬学	総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8)薬剤師によるワクチン接種のコーディネート【2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9)感染症に関するリスクコミュニケーション【3)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習 総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-2 健康の維持・増進につながる栄養と食品衛生						
E-2-1 食品機能と疾病の予防・治療における栄養						
(1)健康の維持・増進における栄養の役割・機能【1)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2)栄養素の過不足によって起こる疾病や健康障害【1)、2)、3)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3)食薬区分【1)、2)、3)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4)疾病の予防や治療における栄養管理【1)、2)、3)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5)特別用途食品と保健機能食品【1)、2)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6)保健統計及び疫学的手法を用いた国民健康・栄養調査と解析【1)、2)、3)】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
E-2-2 健康をまもる食品衛生						
(1) 食品の変質や食品汚染による健康被害と食中毒【1)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(2) 食品の変質、食品汚染による健康被害や食中毒に対する基本的な対処法【1)、2)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(3) 食品添加物の働きと安全性【1)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(4) 食物アレルギーによる健康被害と安全性管理【1)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(5) 遺伝子組換え食品の安全性管理【1)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(6) 食品の安全性確保のためのリスク分析の意義【1)、2)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(7) 食品の安全性管理に係る規制・制度や関連法規【2)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(8) 食品に起因する健康被害に関する社会的な影響の解析【2)】				総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(9) 食品に起因する健康被害に対する防止策【2)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習
(10)食品の安全性に関するリスクコミュニケーション【3)】		疾患食品衛生学		総合薬学特別講義Ⅰ		総合薬学特別講義Ⅱ 総合薬学演習

E 衛生薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E-3 化学物質の管理と環境衛生						
E-3-1 人の健康に影響を及ぼす化学物質の管理と使用						
(1) 健康に影響を及ぼす様々な化学物質の体内動態と毒性【1)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2) 保健統計及び疫学的手法を用いた化学物質による健康被害の背景や原因の解析【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3) 化学物質の適正な管理・使用、保管・廃棄方法と安全性評価【1)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4) 化学物質による健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【2)】				環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5) 化学物質の管理・使用・廃棄や、薬物乱用、死因究明に係る規制・制度や関連法規【2)】				環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6) 化学物質による健康被害に対する防止策【2)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7) 死因究明における毒性学・法中毒学的アプローチ【3)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(8) 化学物質による健康被害に関するリスクコミュニケーション【4)】			薬毒物代謝学	総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
E-3-2 生活環境・自然環境の保全						
(1) 環境汚染や生活環境の悪化による人の健康や生態系に対する影響【1)】			薬毒物代謝学 衛生化学実習	環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(2) 電離放射線・電磁波の健康に対する影響【1)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(3) 保健統計及び疫学的手法を用いた環境汚染や環境の悪化による健康被害の背景や原因の解析 【1)、2)】				総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(4) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害に関する社会的な影響・国際的な動向【2)】				環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(5) 環境保全に係る規制・制度や関連法規【2)】				環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(6) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害に対する防止策・対応策【2)】			衛生化学実習	環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習
(7) 環境汚染や生活環境の悪化による健康被害や生態系に対する有害な影響に関するリスクコミュニケーション【3)】			薬毒物代謝学	環境衛生学 総合薬学特別講義 I		総合薬学特別講義 II 総合薬学演習

F 臨床薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
F-1 薬物治療の実践						
F-1-1 薬物治療の個別最適化						
(1)適正使用のサイクル、個別最適化、有効性モニタリング、安全性モニタリング、疑義照会・処方提案【1)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(2)薬物治療を個別最適化するために必要な身体的、心理的、社会的患者背景【2)、7)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(3)薬学的管理に必要な身体所見の観察・測定・評価(フィジカルアセスメント)【2)、5)、7)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(4)診療ガイドライン・治療ガイドや医薬品リスク管理計画(RMP)等適切な情報の収集と評価 【3)、7)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(5)主な疾患における薬物治療の計画、立案(薬剤選択、用量設定、剤形選択、投与経路、服薬指導・配慮すべき点、薬物血中濃度モニタリング、有効性・安全性モニタリング等)【2)、3)、4)、5)、6)、7)、8)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(6)患者背景と医療安全を踏まえた処方監査・解析と疑義照会・処方提案【6)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(7)患者背景と製剤の特性を踏まえた計数・計量調剤及び注射薬無菌調製と調剤薬(注射薬含む)監査【6)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(8)患者の状態と背景及び薬剤の特徴(製剤的性質等)を考慮した調剤上の工夫【7)、8)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(9)問題指向型システム(POS)とSOAP形式等による適切な記録【5)、6)】				個別化医療薬学演習		
(10)患者情報に基づく薬物治療上の問題点の抽出とその適切な評価及び薬学的管理の実践【7)、8)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(11)患者の状態を考慮した栄養管理、口腔ケア、生活指導【7)、8)】				個別化医療薬学演習		
(12)患者の継続的なフォローアップ、薬物治療開始後からの継続的なモニタリングの実施、薬物治療の効果と副作用の評価【7)、8)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(13)様々な背景を有する患者の薬物治療の個別最適化【7)、8)、9)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(14)複数の疾患が併存する場合の適切な薬物治療への対応【7)、8)、10)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(15)多数の併用薬が混在する(ポリファーマシー)患者の薬物治療の再検討、改善【7)、8)、10)】				個別化医療薬学演習		
(16)在宅医療やチーム医療等の多職種連携の現場における薬物治療【7)、8)、11)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
(17)プロトコールに基づく薬物治療マネジメント【9)、10)、11)】	腫瘍感染症薬学入門			個別化医療薬学演習		
F-2 多職種連携における薬剤師の貢献						
F-2-1 多職種連携への参画・薬剤師の職能発揮						
(1)多様な医療チームの目的と構成する各職種の役割と責務【1)、8)】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)周術期、救急、集中治療等における医療チームでの薬学的管理の実践【1)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)病院と地域の医療連携における具体的な方法(連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等)【1)、2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)地域包括ケアシステムにおける医療、保健、介護、福祉に関わる各職種の役割と責務【1)、2)、3)、8)】						
(5)施設間連携や地域の医療、保健、介護、福祉における連携に必要な関連制度とその実際【2)、3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)在宅療養支援における薬学的指導と関連多職種との情報共有【2)、3)、4)】						
(7)薬局(地域連携薬局、専門医療機関連携薬局、健康サポート薬局等)と医療機関、地域の介護・福祉関連施設との連携【1)、2)、3)、4)】						
(8)多職種の視点を踏まえた患者の全人的評価【3)、4)】						
(9)連携する職種間の相互尊重に基づくコミュニケーション【4)、5)、6)、7)】	腫瘍感染症薬学入門					
(10)チームの目標達成のために薬剤師の果たす役割の理解と実践【4)、5)、6)、7)、8)】	腫瘍感染症薬学入門					
F-3 医療マネジメント・医療安全の実践						
F-3-1 医薬品の供給と管理						
(1)医薬品の発注、供給、保管、廃棄、記録及びその手続きと在庫管理【1)】						
(2)特別な注意を要する医薬品(劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、覚醒剤原料、ハイリスク薬、抗悪性腫瘍薬、特定生物由来製品、放射性医薬品等)の管理と取扱い【1)】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)院内製剤、薬局製造販売医薬品等の品質管理と取扱い【2)】						
F-3-2 医薬品情報の管理と活用						
(1)医療機関や地域の特性等を考慮した医薬品の情報源・情報媒体の選択と利用【1)】		医療情報学				
(2)医療環境に応じた医薬品情報の伝達と周知、その方法【1)】		医療情報学				
(3)医薬品の安全性情報の収集と報告及び緊急情報(安全性情報、回収・製造中止情報等)への対応【2)】		医療情報学				
(4)医療現場における根拠に基づく医療(EBM)の実践、ビッグデータの活用【3)、4)】		医療情報学				
(5)有効かつ安全で経済的な医薬品の使用方針と、医薬品の適正な採用、採用中止等の流れ 【3)】		医療情報学				
(6)医薬品適正使用の推進と安全対策の立案【4)】		医療情報学				
(7)医療機関等における標準的な薬剤選択の方針(フォーミュラリ)【5)】						
F-3-3 医療安全の実践						
(1)ヒューマンエラーと組織的なリスク【1)、2)】						
(2)医療安全確保のための改善を目的とした報告・事例(インシデント・アクシデント事例等)の把握【1)、3)】						
(3)医療安全管理者(リスクマネージャー)の役割と、医療安全対策に関するマニュアル・指針の把握【1)、2)】						
(4)医療事故発生時の対応(報告・連絡・相談等)と記録の方法【1)、3)】						
(5)医薬品の安全管理体制(未承認・禁忌・適応外医薬品の使用に関するモニタリングを含む医薬品安全管理責任者等の役割)【1)、2)】						
(6)多職種連携における各職種の医療安全業務内容と役割【1)、2)】						

F 臨床薬学	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
F-3-4 医療現場での感染制御						
(1)標準予防策(手指衛生、個人防護具(手袋・マスク等)の適切な使用)【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(2)代表的な感染症の予防策の把握と適切な消毒薬の選択と使用【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(3)感染症発生時及び針刺し事故等の事例発生時における初期対応【1)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(4)施設内の感染症発生時の報告ルート、感染症法等を踏まえた保健所等への報告【1)、3)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(5)施設内の感染制御管理体制と感染制御における多職種連携【1)、2)、3)、4)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(6)新興・再興感染症等に対する対応【4)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
F-4 地域医療・公衆衛生への貢献						
F-4-1 地域住民の疾病予防・健康維持・増進の推進、介護・福祉への貢献						
(1)健康相談、介護・生活相談等のファーストアクセスと薬局の役割【1)】						
(2)食生活(栄養管理・健康食品等)や運動等(基本的生活要因及び精神的要因)の評価・改善【1)】		疾患食品衛生学				
(3)健康相談での情報収集・臨床判断とそれに対応するプライマリケアの地域住民への実践(受診勧奨、救急対応、一般用医薬品等の推奨、生活指導等)【1)】						
(4)要指導医薬品・一般用医薬品、薬局製造販売医薬品、医療機器、衛生材料、特別用途食品、保健機能食品等を活用したセルフケア、セルフメディケーションの指導の実践【1)】						
(5)地域住民個々の健康維持・増進に寄与する活動(禁煙指導、口腔ケア、生活習慣病予防、プレコンセプションケア等)への参画【1)】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)地域包括ケアを推進する介護予防・福祉に関する相談や地域連携活動への参画【2)】						
(7)健康に関する科学的データ及び地域における医療、保健、介護、福祉等の疫学データの評価と活用【3)】	腫瘍感染症薬学入門					
F-4-2 地域での公衆衛生、災害対応への貢献						
(1)地域住民の衛生管理(食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質・農薬等の曝露や誤飲・誤食による中毒への対応、環境有害物質や有害生物の駆除等)【1)】	腫瘍感染症薬学入門	疾患食品衛生学				
(2)地域における感染症予防、拡大防止等の対策と発生時の対応(感染症予防の啓発、消毒薬や衛生用品の供給確保と使用法の指導、ワクチン接種への主体的参画・貢献等)【1)、2)】	腫瘍感染症薬学入門			感染制御学演習		
(3)学校薬剤師による学内環境の評価と指導【2)】				環境衛生学		
(4)住民・児童生徒に向けた薬の正しい使い方や薬物乱用防止、アンチ・ドーピング活動、禁煙指導等に向けた教育・啓発活動や相談対応【2)】						
(5)災害時を想定した業務継続計画(BCP)に基づく準備・災害時の初期対応(医薬品や衛生材料等の備蓄・供給等)、医療救援活動の心構え【3)】						
(6)災害時を想定した、地域医薬品等供給体制の整備や指導(災害薬事コーディネーター等)の重要性と具体的役割【3)】						
F-5 臨床で求められる基本的な能力						
F-5-1 医療・福祉・公衆衛生の現場で活動するための基本姿勢						
(1)患者・生活者の生活全般を広く観察・評価し、その人らしい人生を支える医療の観点からその人に薬剤師として何ができる常に考える。【1)】	腫瘍感染症薬学入門					
(2)自らの健康管理に十分留意し、時間管理を徹底し、必要な業務に支障のないような生活態度への配慮を常に心がける。【2)】	腫瘍感染症薬学入門					
(3)医療人として守らなければならない法令を遵守し、法令の遵守ができていない事例などを見過ごさず、その適切な解決に積極的に参画する。【2)】	腫瘍感染症薬学入門					
(4)患者・生活者、その家族、連携する多職種などで共有する個人情報は、その保護と管理に十分留意する。【2)】	腫瘍感染症薬学入門					
(5)薬剤師が臨床現場で担っている責務をよく観察し、考察し、自覚を深める。【2)】	腫瘍感染症薬学入門					
(6)生と死の現場で薬剤師として何ができるかを考察する。【2)】	腫瘍感染症薬学入門					
(7)医療・介護・福祉関係者及び患者・生活者、家族とコミュニケーションをとる機会を得て、ニーズを把握し、わかりやすく効果的に情報共有する。【3)】	腫瘍感染症薬学入門					
(8)多職種連携の現場で薬剤師の担っている活動に参画する。【4)】	腫瘍感染症薬学入門					
(9)自分が行った活動、調査、研修などは必ず記録を取り、振り返って、より有益な活動に結び付けるとともに、必要な時にすぐにその記録を提示する。【5)】	腫瘍感染症薬学入門					
(10)進化する社会のコミュニケーションや情報関連ツールを適切に活用して、社会の変化に確実に即応するよう努力する。【5)】	腫瘍感染症薬学入門					
(11)地域で必要だと考えられる情報、社会に公表した方が良いと考えられる情報を主体的に発信する。【6)】	腫瘍感染症薬学入門					

G 薬学研究	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
G-1 薬学的課題の探究と薬学研究に取り組む姿勢						
G-1-1 薬学的課題発見に向けた批判的思考と俯瞰的思考						
(1) 薬学や医療に関する研究の学術的重要性や成果の社会的意義【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 科学的な推論と論証【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 科学的根拠に基づいた批判的思考と俯瞰的思考【1)、【2)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-1-2 薬学研究に取り組む姿勢						
(1) 学術研究を通して社会に貢献することの意義【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 研究に対する知的好奇心と新たな課題解決に向けたチャレンジ精神【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 研究に対する使命感・責任感【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 研究における不正行為(捏造、改ざん、盗用・剽窃等)の熟知【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(5) 研究の遂行における行動規範と研究倫理【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(6) 研究において遵守すべき法令や指針【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-2 研究の実践						
G-2-1 研究課題の設定と研究計画の立案						
(1) 薬学的課題に関する文献調査等の情報の収集・解析・評価【1)】	薬学情報処理リテラシー演習			薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 研究課題の設定に向けた作業仮説の立案【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 作業仮説に基づいた研究課題の設定と推論・論証方法の考究【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 研究計画の立案による研究成果に至る科学的アプローチの考究【1)】				薬学研究Ⅰ 疫学研究演習	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
G-2-2 研究の実施と成果の解析・考察						
(1) 研究計画に沿った研究の実施【1)】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(2) 創造的思考による研究成果の解析と考察【2)】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(3) 研究成果の独創性、新規性、普遍性等の学術的意義と社会的波及効果の評価【2)】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(4) 自らの研究に関する卒業論文、学術論文等の作成と発表【2)、3)】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ
(5) 研究成果に関する他者との討論【3)】				薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ	薬学研究Ⅲ

薬学教育モデル・コアカリキュラム

（平成27年度～令和５年度入学生対象）

A 基本事項	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)薬剤師の使命						
①医療人として						
1. 常に患者・生活者の視点に立ち、医療の担い手としてふさわしい態度で行動する。(態度)	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
2. 患者・生活者の健康の回復と維持に積極的に貢献することへの責任感を持つ。(態度)	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
3. チーム医療や地域保健・医療・福祉を担う一員としての責任を自覚し行動する。(態度)	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習 薬学演習	実務実習	
4. 患者・患者家族・生活者が求める医療人について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ		コミュニケーション学			
5 生と死を通して、生きる意味や役割について、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
6 一人の人間として、自分が生きている意味や役割を問い直し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
7 様々な死生観・価値観・信条等を受容することの重要性について、自らの言葉で説明する。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
②薬剤師が果たすべき役割						
1 患者・生活者のために薬剤師が果たすべき役割を自覚する。(態度)	薬学概論					
2 薬剤師の活動分野(医療機関、薬局、製薬企業、衛生行政等)と社会における役割について説明できる。	薬学概論					
3 医薬品の適正使用における薬剤師の役割とファーマシューティカルケアについて説明できる。	薬学概論					
4 医薬品の効果が確率論的であることを説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論		
5 医薬品の創製(研究開発、生産等)における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論		医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規 総合講義
6 健康管理、疾病予防、セルフメディケーション及び公衆衛生における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論			薬学健康管理学		薬事・医事関係法規 総合講義
7 薬物乱用防止、自殺防止における薬剤師の役割について説明できる。	薬学概論					
8 現代社会が抱える課題(少子・超高齢社会等)に対して、薬剤師が果たすべき役割を提案する。(知識・態度)	薬学概論					
③患者安全と薬害の防止						
1 医薬品のリスクを認識し、患者を守る責任と義務を自覚する。(態度)				実務実習事前学習 薬学演習		
2 WHO による患者安全の考え方について概説できる。	薬学概論			薬事関係法規論 実務実習事前学習		
3 医療に関するリスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を説明できる。	薬学概論		医薬品開発・経済学 医療情報学	薬学疾患管理学 実務実習事前学習		
4 医薬品が関わる代表的な医療過誤やインシデントの事例を列挙し、その原因と防止策を説明できる。	薬学概論			実務実習事前学習		
5 重篤な副作用の例について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)	薬学概論		医薬品安全性学			
6 代表的な薬害の例(サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジン等)について、その原因と社会的背景及びその後の対応を説明できる。	薬学概論		医薬品安全性学			

		講義科目名					
A 基本事項		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	7 代表的な薬害について、患者や家族の苦痛を理解し、これらを回避するための手段を討議する。(知識・態度)			医薬品安全性学			
	④薬学の歴史と未来						
	1 薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割について説明できる。	薬学概論		創薬化学I			
	2 薬物療法の歴史と、人類に与えてきた影響について説明できる。	薬学概論		創薬化学I			
	3 薬剤師の誕生から現在までの役割の変遷の歴史(医薬分業を含む)について説明できる。	薬学概論			薬学健康管理学		
	4 将来の薬剤師と薬学が果たす役割について討議する。(知識・態度)	薬学概論					
	(2)薬剤師に求められる倫理観						
	①生命倫理						
	1 生命の尊厳について、自らの言葉で説明できる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
	2 生命倫理の諸原則(自律尊重、無危害、善行、正義等)について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
	3 生と死に関わる倫理的問題について討議し、自らの考えを述べる。(知識・態度)	薬学概論		コミュニケーション学			
	4 科学技術の進歩、社会情勢の変化に伴う生命観の変遷について概説できる。	薬学概論					
	②医療倫理						
	1 医療倫理に関する規範(ジュネーブ宣言等)について概説できる。	薬学概論			薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	2 薬剤師が遵守すべき倫理規範(薬剤師綱領、薬剤師倫理規定等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	3 医療の進歩に伴う倫理的問題について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学	調剤学総論		薬事・医事関係法規総合講義
	③患者の権利						
	1 患者の価値観、人間性に配慮することの重要性を認識する。(態度)	薬学概論		コミュニケーション学		実務実習	
	2 患者の基本的権利の内容(リスボン宣言等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論	実務実習	
	3 患者の自己決定権とインフォームドコンセントの意義について説明できる。	薬学概論		医療情報学	薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	
	4 知り得た情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱いができる。(知識・技能・態度)	薬学概論		医療情報学	薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	
	④研究倫理						
	1 臨床研究における倫理規範(ヘルシンキ宣言等)について説明できる。	薬学概論			薬事関係法規論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬事・医事関係法規総合講義 薬学研究Ⅱ
	2「ヒトを対象とする研究において遵守すべき倫理指針」について概説できる。	薬学概論			薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬事・医事関係法規総合講義 薬学研究Ⅱ
	3 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)	薬学概論			薬学演習	薬学研究Ⅰ	薬学研究Ⅱ

A 基本事項	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3)信頼関係の構築						
①コミュニケーション						
1 意思、情報の伝達に必要な要素について説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
2 言語的及び非言語的コミュニケーションについて説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
3 相手の立場、文化、習慣等によって、コミュニケーションの在り方が異なることを例を挙げて説明できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
4 対人関係に影響を及ぼす心理的要因について概説できる。	薬学概論		コミュニケーション学			
5 相手の心理状態とその変化に配慮し、対応する。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
6 自分の心理状態を意識して、他者と接することができる。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
7 適切な聴き方、質問を通じて相手の考えや感情を理解するように努める。(技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
8 適切な手段により自分の考えや感情を相手に伝えることができる。(技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
9 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
②患者・生活者と薬剤師						
1 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響について説明できる。	薬学概論			実務実習事前学習	実務実習	
2 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観に配慮して行動する。(態度)			コミュニケーション学	実務実習事前学習	実務実習	
(4)多職種連携協働とチーム医療						
1 保健、医療、福祉、介護における多職種連携協働及びチーム医療の意義について説明できる。	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
2 多職種連携協働に関わる薬剤師、各職種及び行政の役割について説明できる。	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
3 チーム医療に関わる薬剤師、各職種、患者・家族の役割について説明できる。	薬学概論 早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
4 自己の能力の限界を認識し、状況に応じて他者に協力・支援を求める。(態度)	早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
5 チームワークと情報共有の重要性を理解し、チームの一員としての役割を積極的に果たすように努める。(知識・態度)	早期臨床体験Ⅰ			実務実習事前学習	実務実習	実務実習事後学習
(5)自己研鑽と次世代を担う人材の育成						
①学習の在り方						
1 医療・福祉・医薬品に関わる問題、社会的動向、科学の進歩に常に目を向け、自ら課題を見出し、解決に向けて努力する。(態度)	薬学概論		感染症治療薬概論	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
2 講義、国内外の教科書・論文、検索情報等の内容について、重要事項や問題点を抽出できる。(技能)	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
3 必要な情報を的確に収集し、信憑性について判断できる。(知識・技能)	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ

Ⅶ. モデル・コアカリキュラム対応表（23台以前）

		講義科目名					
A 基本事項		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	4 得られた情報を論理的に統合・整理し、自らの考えとともに分かりやすく表現できる。（技能）	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	5 インターネット上の情報が持つ意味・特徴を知り、情報倫理、情報セキュリティに配慮して活用できる。（知識・態度）	薬学概論		物理系実習Ⅱ	薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	②薬学教育の概要						
	1「薬剤師として求められる基本的な資質」について、具体例を挙げて説明できる。	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	2 薬学が総合科学であることを認識し、薬剤師の役割と学習内容を関連づける。（知識・態度）	薬学概論			薬学演習	実務実習	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	③生涯学習						
	1 生涯にわたって自ら学習する重要性を認識し、その意義について説明できる。	薬学概論			調剤学総論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	2 生涯にわたって継続的に学習するために必要な情報を収集できる。（技能）	薬学概論			調剤学総論 薬学演習	薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	④次世代を担う人材の育成						
	1 薬剤師の使命に後輩等の育成が含まれることを認識し、ロールモデルとなるように努める。（態度）	薬学概論				薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ
	2 後輩等への適切な指導を実践する。（技能・態度）	薬学概論				薬学研究Ⅰ	総合薬学演習 薬学研究Ⅱ

		講義科目名					
B 薬学と社会		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)人と社会に関わる薬剤師						
	1人の行動がどのような要因によって決定されるのかについて説明できる。			コミュニケーション学			
	2人・社会が医薬品に対して抱く考え方や思いの多様性について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
	3人・社会の視点から薬剤師を取り巻く様々な仕組みと規制について討議する。(態度)				実務実習事前学習	実務実習	
	4薬剤師が倫理規範や法令を守ることの重要性について討議する。(態度)				薬事関係法規論 実務実習事前学習	実務実習	
	5倫理規範や法令に則した行動を取る。(態度)				薬事関係法規論 実務実習事前学習	実務実習 薬学研究 I	薬学研究 II
	(2)薬剤師と医薬品等に係る法規範						
	①薬剤師の社会的位置づけと責任に係る法規範						
	1 薬剤師に関わる法令とその構成について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	2 薬剤師免許に関する薬剤師法の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	3薬剤師の任務や業務に関する薬剤師法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	4 薬剤師以外の医療職種の任務に関する法令の規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	5 医療の理念と医療の担い手の責務に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	6 医療提供体制に関する医療法の規定とその意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	7 個人情報の取扱いについて概説できる	早期臨床体験 I					薬事・医事関係法規総合講義
	8 薬剤師の刑事責任、民事責任(製造物責任を含む)について概説できる						薬事・医事関係法規総合講義
	②医薬品等の品質、有効性及び安全性の確保に係る法規範						
	1 医薬品・医療機器法(現 薬事法)の目的及び医薬品等(医薬品、医薬部外品、化粧品、医療機器)の定義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	2 医薬品の開発から承認までのプロセスと法規範について概説できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	3 治験の意義と仕組みについて概説できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	4 医薬品等の製造販売及び製造に係る法規範について説明できる			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	5 製造販売後調査制度及び製造販売後安全対策について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	6 薬局、医薬品販売業及び医療機器販売業に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	7 医薬品等の取扱いに関する医薬品・医療機器法(現 薬事法)の規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
	8 日本薬局方の意義と構成について説明できる			日本薬局方 I 日本薬局方 II	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義

B 薬学と社会	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
9 生物由来製品の取扱いと血液供給体制に係る法規範について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
10 健康被害救済制度について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
11レギュラトリーサイエンスの必要性と意義について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
③特別な管理を要する薬物等に係る法規範						
1 麻薬、向精神薬、覚せい剤原料等の取扱いに係る規定について説明できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
2 覚せい剤、大麻、あへん、指定薬物等の乱用防止規制について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
3 毒物劇物の取扱いに係る規定について概説できる				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
(3)社会保障制度と医療経済						
①医療、福祉、介護の制度						
1 日本の社会保障制度の枠組みと特徴について説明できる				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
2 医療保険制度について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
3 療養担当規則について説明できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
4 公費負担医療制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
5 介護保険制度について概説できる。				薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
6 薬価基準制度について概説できる。			医薬品開発・経済学	薬物健康管理学 薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
7 調剤報酬、診療報酬及び介護報酬の仕組みについて概説できる。			医薬品開発・経済学	薬物健康管理学 薬事関係法規論		臨床薬学総合講義Ⅰ
②医薬品と医療の経済性						
1 医薬品の市場の特徴と流通の仕組みについて概説できる。			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
2 国民医療費の動向について概説できる。				薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
3 後発医薬品とその役割について説明できる。			医薬品開発・経済学	薬事関係法規論		薬事・医事関係法規総合講義
4 薬物療法の経済評価手法について概説できる。			医薬品開発・経済学			臨床薬学総合講義Ⅰ
(4)地域における薬局と薬剤師						
①地域における薬局の役割						
1 地域における薬局の機能と業務について説明できる。	早期臨床体験Ⅰ			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
2 医薬分業の意義と動向を説明できる。	早期臨床体験Ⅰ			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義

		講義科目名					
B 薬学と社会		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	3 かかりつけ薬局・薬剤師による薬学的管理の意義について説明できる。	早期臨床体験Ⅰ			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義
	4 セルフメディケーションにおける薬局の役割について説明できる。	早期臨床体験Ⅰ			薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
	5 災害時の薬局の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義
	6 医療費の適正化に薬局が果たす役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義
	②地域における保健、医療、福祉の連携体制と薬剤師						
	1 地域包括ケアの理念について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
	2 在宅医療及び居宅介護における薬局と薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
	3 学校薬剤師の役割について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
	4 地域の保健、医療、福祉において利用可能な社会資源について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ
	5 地域から求められる医療提供施設、福祉施設及び行政との連携について討議する。(知識・態度)				薬学健康管理学	実務実習	薬事・医事関係法規総合講義 臨床薬学総合講義Ⅰ

		講義科目名					
C1 物質の物理的性質		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)物質の構造						
	①化学結合						
	1　化学結合の様式について説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　分子軌道の基本概念および軌道の混成について説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3　共役や共鳴の概念を説明できる	薬学化学入門 有機薬化学Ⅰ	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②分子間相互作用						
	1　ファンデルワールス力について説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　静電相互作用について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3　双極子間相互作用について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4　分散力について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5　水素結合について例を挙げて説明できる	薬学化学入門 化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	6　電荷移動相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	7　疎水性相互作用について例を挙げて説明できる	化学	薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	③原子・分子の挙動						
	1　電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる		薬学物理化学Ⅱ	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　分子の振動、回転、電子遷移について説明できある			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3　電子や核のスピンとその磁気共鳴について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4　光の屈折、偏光、および旋光性について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5　光の散乱および干渉について説明できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	6　結晶構造と回折現象について概説できる			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	④放射線と放射能						
	1　原子の構造と放射壊変について説明できる	薬学計算法	同位体化学		実務実習事前学習		
	2　電離放射線の種類を列挙し、それらの性質および物質との相互作用について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
	3　代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		
	4　核反応および放射平衡について説明できる		同位体化学		実務実習事前学習		

		講義科目名					
C1 物質の物理的性質		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	5 放射線測定の原理と利用について概説できる		同位体化学		実務実習事前学習		
	(2)物質のエネルギーと平衡						
	①気体の微視的状態と巨視的状態						
	1 ファンデルワールスの状態方程式について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2 気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3 エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる	薬学物理学入門	薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②エネルギー						
	1 熱力学における系、外界、境界について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2 熱力学第一法則を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3 状態関数と経路関数の違いを説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4 定圧過程、定容過程、等温過程、断熱過程を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5 定容熱容量および定圧熱容量について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	6 エンタルピーについて説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	7 化学変化に伴うエンタルピー変化について説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	③自発的な変化						
	1 エントロピーについて説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2 熱力学第二法則を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3 熱力学第三法則を説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4 ギブズエネルギーについて説明できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5 熱力学関数を使い、自発的な変化の方向と程度を予測できる		薬学物理化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	④化学平衡の原理						
	1 ギブズエネルギーと化学ポテンシャルの関係を説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2 ギブズエネルギーと平衡定数の関係を説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3 平衡定数に及ぼす圧力および温度の影響について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4 共役反応の原理について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

		講義科目名					
C1 物質の物理的性質		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	⑤相平衡						
	1　相変化に伴う熱の移動について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　相平衡と相律について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3　状態図について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	⑥溶液の性質						
	1　希薄溶液の束一的性質について説明できる			薬学物理化学Ⅳ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　活量と活量係数について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3　電解質溶液の電気伝導率およびモル伝導率の濃度による変化を説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4　イオン強度について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	⑦電気化学						
	1　起電力とギブズエネルギーの関係について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2　電極電位（酸化還元電位）について説明できる		薬学物理化学Ⅱ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	(3)物質の変化						
	①反応速度						
	1　反応次数と速度定数について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	2　微分型速度式を積分型速度式に変換できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	3　代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	4　代表的な（擬）一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	5　代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	6　反応速度と温度との関係を説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
	7　代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応、酵素反応など）について説明できる	薬学計算法		薬学物理化学Ⅲ 物理薬剤学	物理系薬学特別講義 医療薬学特別講義Ⅰ		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ

C2 化学物質の分析	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)分析の基礎						
①分析の基本						
1. 分析に用いる器具を正しく使用できる。（知識・技能）		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ	物理系実習Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 測定値を適切に取り扱うことができる。（知識・技能）		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 分析法のバリデーションについて説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ		臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(2)溶液中の化学平衡						
①酸・塩基平衡						
1. 酸・塩基平衡の概念について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. pH および解離定数について説明できる。（知識・技能）	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 溶液のpH を測定できる。（技能）	薬学計算法	分析化学Ⅰ				
4. 緩衝作用や緩衝液について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②各種の化学平衡						
1. 錯体・キレート生成平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 沈殿平衡について説明できる。		分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 酸化還元平衡について説明できる。	薬学化学入門 薬学計算法	分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 分配平衡について説明できる。			日本薬局方Ⅱ 物理系実習Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(3)化学物質の定性分析・定量分析						
①定性分析						
1. 代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。			日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。			日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②定量分析(容量分析・重量分析)						
1. 中和滴定（非水滴定を含む）の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（知識・技能）		分析化学Ⅰ 分析化学Ⅱ 物理系実習Ⅰ		物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

	講義科目名					
C2 化学物質の分析	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6. 日本薬局方収載の代表的な純度試験を列挙し、その内容を説明できる。		分析化学Ⅰ	日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
7. 日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。		分析化学Ⅰ	日本薬局方Ⅰ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
(4)機器を用いる分析法						
①分光分析法						
1. 紫外可視吸光度測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 蛍光光度法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 赤外吸収（IR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 原子吸光光度法、誘導結合プラズマ（ICP）発光分光分析法およびICP 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 旋光度測定法（旋光分散）の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
6. 分光分析法を用いて、日本薬局方収載の代表的な医薬品の分析を実施できる。（技能）			分析化学Ⅲ 物理系実習Ⅲ			
②核磁気共鳴スペクトル測定法						
1. 核磁気共鳴（NMR）スペクトル測定法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析法						
1. 質量分析法の原理および応用例を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④X線分析法						
1. X線結晶解析の原理および応用例を概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 粉末X線回折測定法の原理と利用法について概説できる。		同位体化学	分析化学Ⅲ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
⑤熱分析						
1. 熱重量測定法の原理を説明できる。			薬学物理化学Ⅳ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
2. 示差熱分析法および示差走査熱量測定法について説明できる。			薬学物理化学Ⅳ 製剤学	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ
(5)分離分析法						
①クロマトグラフィー						
1. クロマトグラフィーの分離機構を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 薄層クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. 液体クロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. ガスクロマトグラフィーの特徴と代表的な検出法を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

		講義科目名					
C2 化学物質の分析		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	5. クロマトグラフィーを用いて試料を定性・定量できる。（知識・技能）			日本薬局方Ⅱ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②電気泳動法						
	1. 電気泳動法の原理および応用例を説明できる。		生物系実習Ⅰ	日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	(6)臨床現場で用いる分析技術						
	①分析の準備						
	1. 分析目的に即した試料の前処理法を説明できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2. 臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。				臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	②分析技術						
	1. 臨床分析で用いられる代表的な分析法を列挙できる。			日本薬局方Ⅰ 日本薬局方Ⅱ	臨床検査学 物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	2. 免疫化学的測定法の原理を説明できる。		同位体医療薬学	日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	3. 酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	4. 代表的なドライケミストリーについて概説できる。			日本薬局方Ⅱ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
	5. 代表的な画像診断技術（X 線検査、MRI、超音波、内視鏡検査、核医学検査など）について概説できる。		同位体医療薬学	分析化学Ⅲ	物理系薬学特別講義 実務実習事前学習		物理系薬学総合講義 医療薬学総合講義Ⅱ

C3 化学物質の性質と反応	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)化学物質の基本的性質						
①基本事項						
1. 代表的な化合物をIUPAC規則に基づいて命名することができる。	薬学化学入門 有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 薬学領域で用いられる代表的な化合物を慣用名で記述できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 基本的な化合物を、ルイス構造式で書くことができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 有機化合物の性質と共鳴の関係について説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. ルイス酸・塩基、ブレンステッド酸・塩基を定義することができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 基本的な有機反応（置換、付加、脱離）の特徴を理解し、分類できる。	有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルボアニオン、ラジカル）の構造と性質を説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. 反応の過程を、エネルギー図を用いて説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
9. 基本的な有機反応機構を、電子の動きを示す矢印を用いて表すことができる。	薬学化学入門 有機薬化学I		化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②有機化合物の立体構造						
1. 構造異性体と立体異性体の違いについて説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. キラリティーと光学活性の関係を概説できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。	薬学化学入門 有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. ラセミ体とメソ体について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 絶対配置の表示法を説明し、キラル化合物の構造を書くことができる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
6. 炭素一炭素二重結合の立体異性（*cis*, *trans* ならびに*E*, *Z* 異性）について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
7. フィッシャー投影式とニューマン投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
8. エタン、ブタンの立体配座とその安定性について説明できる。	有機薬化学I		創薬化学I 創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2)有機化合物の基本骨格の構造と反応						
①アルカン						
1. アルカンの基本的な性質について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルカンの構造異性体を図示することができる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. シクロアルカンの環のひずみを決定する要因について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

	講義科目名					
C3 化学物質の性質と反応	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4. シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトアル）を図示できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。	有機薬化学I			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②アルケン・アルキン						
1. アルケンへの代表的な付加反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. アルケンの代表的な酸化、還元反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. アルキンの代表的な反応を列挙し、その特徴を説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③芳香族化合物						
1. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質と反応性を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 芳香族性の概念を説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族炭化水素化合物の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 代表的な芳香族炭化水素化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 代表的な芳香族複素環の求電子置換反応の反応性、配向性、置換基の効果について説明できる。		有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(3) 官能基の性質と反応						
①概説						
1. 代表的な官能基を列挙し、性質を説明できる。	有機薬化学II		創薬化学I 創薬化学II 化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。			化学系実習I			
②有機ハロゲン化合物						
1. 有機ハロゲン化合物の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 求核置換反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 脱離反応の特徴について説明できる。	有機薬化学II			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③アルコール・フェノール・エーテル						
1. アルコール、フェノール類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II	有機薬化学III	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. エーテル類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機薬化学II					化学系薬学総合講義
④アルデヒド・ケトン・カルボン酸・カルボン酸誘導体						
1. アルデヒド類およびケトン類の基本的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学III 有機薬化学IV	化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. カルボン酸の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学IV	化学系実習III	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

	講義科目名					
C3 化学物質の性質と反応	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
3. カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド）の基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学Ⅳ	化学系実習Ⅲ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑤アミン						
1. アミン類のの基本的性質と反応を列挙し、説明できる。		有機薬化学Ⅳ	創薬化学Ⅰ 創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
⑥電子効果						
1. 官能基が及ぼす電子効果について概説できる。	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅳ				化学系薬学総合講義
⑦酸性度・塩基性度						
1. アルコール、フェノール、カルボン酸、炭素酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機薬化学Ⅰ	有機薬化学Ⅳ	化学系実習Ⅲ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 含窒素化合物の塩基性度を比較して説明できる。		有機薬化学Ⅳ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4) 化学物質の構造決定						
①核磁気共鳴(NMR)						
1. ^{1}H および ^{13}C NMR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 有機化合物中の代表的プロトンについて、おおよその化学シフト値を示すことができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. ^{1}H NMR の積分値の意味を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. ^{1}H NMR シグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する基本的な分裂様式を説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
5. 代表的な化合物の部分構造を ^{1}H NMR から決定できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
②赤外吸収(IR)						
1. IR スペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. IR スペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
③質量分析(MS)						
1. マススペクトルより得られる情報を概説できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
2. 測定化合物に適したイオン化法を選択できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
3. ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）説明できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
4. 代表的な化合物のマススペクトルを解析できる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義
④総合演習						
1. 代表的な機器分析法を用いて、代表的な化合物の構造決定ができる。			分析化学Ⅳ 物理系実習Ⅲ	物理系薬学特別講義		物理系薬学総合講義

		講義科目名					
C3 化学物質の性質と反応		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(5)無機化合物・錯体の構造と性質						
	①無機化合物・錯体						
	1. 代表的な典型元素と遷移元素を列挙できる。	化学			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. 代表的な無機酸化物、オキソ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		化学系実習I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 活性酸素と窒素化合物の名称、構造、性質を列挙できる。	化学		創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. 代表的な錯体の名称、構造、基本的な性質を説明できる。	化学		創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	5. 医薬品として用いられる代表的な無機化合物、および錯体を列挙できる。	化学			化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

	講義科目名					
C4 生体分子・医薬品の化学による理解	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)医薬品の標的となる生体分子の構造と化学的な性質						
①医薬品の標的となる生体高分子の化学構造						
1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、ヌクレオチドなど）の構造に基づく科学的な性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ 生体機能分子学Ⅱ		創薬化学I			化学系薬学総合講義
2. 医薬品の標的となる生体高分子（タンパク質、核酸など）の立体構造とそれを規定する化学結合、相互作用について説明できる。	生体機能分子学Ⅰ 生体機能分子学Ⅱ		創薬化学I			化学系薬学総合講義
②生体内で機能する小分子						
1. 細胞膜受容体および細胞内（核内）受容体の代表的な内因性リガンドの構造と性質について概説できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な補酵素が酵素反応で果たす役割について、有機反応機構の観点から説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 活性酸素、一酸化窒素の構造に基づく生体内反応を化学的に説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. 生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能を化学的に説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2)生体反応の化学による理解						
①生体内で機能するリン、硫黄化合物						
1. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の構造と化学的性質を説明できる。			創薬化学I			化学系薬学総合講義
2. リン化合物（リン酸誘導体など）および硫黄化合物（チオール、ジスルフィド、チオエステルなど）の生体内での機能を化学的性質に基づき説明できる。			創薬化学I			化学系薬学総合講義
②酵素阻害剤と作用様式						
1. 不可逆的酵素阻害薬の作用を酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I	化学系薬学特別講義		
2. 基質アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I	化学系薬学特別講義		
3. 遷移状態アナログが競合阻害薬となることを酵素の反応機構に基づいて説明できる。			創薬化学I	化学系薬学特別講義		
③受容体のアゴニストおよびアンタゴニスト						
1. 代表的な受容体のアゴニスト（作用薬、作動薬、刺激薬）とアンタゴニスト（拮抗薬、遮断薬）との相違点について、内因性リガンドの構造と比較して説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 低分子内因性リガンド誘導体が医薬品として用いられている理由を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④生体内で起こる有機反応						
1. 代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を有機化学の観点から説明できる。			創薬化学I			化学系薬学総合講義
2. 異物代謝の反応（発がん性物質の代謝的活性化など）を有機化学の観点から説明できる。						化学系薬学総合講義
(3)医薬品の化学構造と性質、作用						
①医薬品と生体分子の相互作用						
1. 医薬品と生体分子との相互作用を化学的な観点（結合親和性と自由エネルギー変化、電子効果、立体効果など）から説明できる。			創薬化学I	創薬化学III		化学系薬学総合講義

		講義科目名					
C4 生体分子・医薬品の化学による理解		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	②医薬品の化学構造に基づく性質						
	1. 医薬品の構造からその物理化学的性質（酸性、塩基性、疎水性、親和性など）を説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. プロドラッグなどの薬物動態を考慮した医薬品の化学構造について説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	③医薬品のコンポーネント						
	1. 代表的な医薬品のファーマコフォアについて概説できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. バイオアイソスター（生物学的等価体）について、代表的な例を挙げて概説できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 医薬品に含まれる代表的な複素環を構造に基づいて分類し、医薬品コンポーネントとしての性質を説明できる。			創薬化学I	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	④酵素に作用する医薬品の構造と性質						
	1. ヌクレオチドおよび核酸塩基アナログを有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. フェニル酢酸、フェニルプロピオン酸構造などをもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. スルホンアミド構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			化学系実習III	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. キノロン骨格をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	5. β－ラクタム構造をもつ代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	6. ペプチドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。			創薬化学II	創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑤受容体に作用する医薬品の構造と性質						
	1. カテコールアミン骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I 創薬化学II	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. アセチルコリンアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I	創薬化学I	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. ステロイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. ベンゾジアゼピン骨格およびバルビタール骨格を有する代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	5. オピオイドアナログの代表的医薬品を列挙し、化学構造に基づく性質について説明できる。		疾患薬理学 I		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑥DNAに作用する医薬品の構造と性質						
	1. DNAと結合する医薬品（アルキル化剤、シスプラチン類）を列挙し、それらの化学構造と反応機構を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. DNAにインターカレートする医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. DNA鎖を切断する医薬品を列挙し、それらの構造上の特徴を説明できる。				創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	⑦イオンチャネルに作用する医薬品の構造と性質						
	1. イオンチャネルに作用する医薬品の代表的な基本構造（ジヒドロピリジンなど）の特徴を説明できる。		疾患薬理学 I		創薬化学III 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

	講義科目名					
C5 自然が生み出す薬物	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)薬になる動植鉱物						
①薬用植物						
1. 代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを挙げることができる。		生薬学I 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 代表的な薬用植物を外部形態から説明し、区別できる。(知識、技能)				化学系薬学特別講義		
3. 植物の主な内部形態について説明できる。	天然医薬資源学			化学系薬学特別講義		
4. 法律によって取り扱いが規制されている植物(ケシ、アサ)の特徴を説明できる。		生薬学I 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		
②生薬の基原						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類由来)を列挙し、その基原、薬用部位を 説明できる。	天然医薬資源学	生薬学I 生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
③生薬の用途						
1. 日本薬局方収載の代表的な生薬(植物、動物、藻類、菌類、鉱物由来)の薬効、成分、用途などを 説明できる。	天然医薬資源学	生薬学I 生薬学Ⅱ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 副作用や使用上の注意が必要な代表的な生薬を列挙し、説明できる。		生薬学I 生薬学Ⅱ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
④生薬の同定と品質評価						
1. 生薬の同定と品質評価法について概説できる。			化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。			化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 代表的な生薬を鑑別できる。(技能)			化学系実習Ⅱ			
4. 代表的な生薬の確認試験を説明できる。		生薬学I 生薬学Ⅱ	化学系実習Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. 代表的な生薬の純度試験を説明できる。		生薬学Ⅱ		化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(2)薬の宝庫としての天然物						
①生薬由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 生薬由来の代表的な生物活性物質を化学構造に基づいて分類し、それらの生合成経路を概説できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
2. 脂質や糖質に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
3. 芳香族化合物に分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
4. テルペノイド、ステロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
5. アルカロイドに分類される生薬由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
②微生物由来の生物活性物質の構造と作用						
1. 微生物由来の生物活性物質を化学構造に基づいて分類できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
C5 自然が生み出す薬物		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	2. 微生物由来の代表的な生物活性物質を列挙し、その作用を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③天然生物活性物質の取扱い						
	1. 天然生物活性物質の代表的な抽出法、分離精製法を概説し、実施できる。(知識、技能)			化学系実習II			
	④天然生物活性物質の利用						
	1. 医薬品として使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. 天然生物活性物質を基に化学修飾等により開発された代表的な医薬品を列挙し、その用途、リード化合物を説明できる。			天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 農薬や香粧品などとして使われている代表的な天然生物活性物質を列挙し、その用途を説明できる。	天然医薬資源学		天然物化学	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義

	講義科目名					
C6 生命現象の基礎	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)細胞の構造と機能						
①細胞膜						
1. 細胞膜を構成する代表的な生体成分を列挙し、その機能を分子レベルで説明できる。	生体機能分子学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. エンドサイトーシスとエキソサイトーシスについて説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞小器官						
1. 細胞小器官(核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど)やリボソームの構造と機能を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞骨格						
1. 細胞骨格の構造と機能を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2)生命現象を担う分子						
①脂質						
1. 代表的な脂質の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②糖質						
1. 代表的な単糖、二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な多糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③アミノ酸						
1. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学I 食品栄養学	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④タンパク質						
1. タンパク質の構造(一次、二次、三次、四次構造)と性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学I	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤ヌクレオチドと核酸						
1. ヌクレオチドと核酸(DNA、RNA)の種類、構造、性質を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学I	創薬化学I	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥ビタミン						
1. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学I 食品栄養学		生物系薬学特別講義 衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦微量元素						
1. 代表的な必須微量元素の種類、役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学I 食品栄養学		衛生薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧生体分子の定性、定量						
1. 脂質、糖質、アミノ酸、タンパク質、もしくは核酸の定性または定量試験を実施できる。(技能)		生物系実習II				

C6 生命現象の基礎	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(3)生命活動を担うタンパク質						
①タンパク質の構造と機能						
1. 多彩な機能をもつタンパク質(酵素、受容体、シグナル分子、膜輸送体、運搬・輸送タンパク質、 貯蔵タンパク質、構造タンパク質、接着タンパク質、防御タンパク質、調節タンパク質)を列挙し概説できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ 人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②タンパク質の成熟と分解						
1. タンパク質の翻訳後の成熟過程(細胞小器官間の輸送や翻訳後修飾)について説明できる。		人体生化学Ⅱ	創薬化学Ⅰ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。		人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③酵素						
1. 酵素反応の特性と反応　度論を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ 生物系実習Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。	生体機能分子学Ⅰ	人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 酵素反応速度を測定し、解析できる。(技能)		人体生化学Ⅰ 生物系実習Ⅱ				
④酵素以外のタンパク質						
1. 膜輸送体の種類、構造、機能を説明できる。		人体生化学Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血漿リポタンパク質の種類、構造、機能を説明できる。		人体生化学Ⅰ		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(4)生命情報を担う遺伝子						
①概論						
1. 遺伝情報の保存と発現の流れを説明できる。		人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. DNA、遺伝子、染色体、ゲノムとは何かを説明できる。		人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②遺伝情報を担う分子						
1. 染色体の構造(ヌクレオソーム、クロマチン、セントロメア、テロメアなど)を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子の構造(プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど)を説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. RNA の種類(hnRNA、mRNA、rRNA、tRNAなど)と機能について説明できる。		人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③遺伝子の複製						
1. DNA の複製の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学Ⅱ		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

	講義科目名					
C6 生命現象の基礎	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
④転写・翻訳の過程と調節						
1. DNA から RNA への転写の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. エピジェネティックな転写制御について説明できる。		人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 転写因子による転写制御について説明できる。		人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. RNAのプロセシング(キャップ構造、スプライシング、snRNP、ポリA鎖など)について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. RNA からタンパク質への翻訳の過程について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学II		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤遺伝子の変異・修復						
1. DNAの変異と修復について説明できる。	生体機能分子学Ⅱ	人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥組換えDNA						
1. 遺伝子工学技術(遺伝子クローニング、cDNA クローニング、PCR、組換えタンパク質発現法など)を 概説できる。	生体機能分子学Ⅱ	生物系実習I		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子改変生物(遺伝子導入･欠損動物、クローン動物、遺伝子組換え植物)について概説できる。		生物系実習I		遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系						
①概論						
1. エネルギー代謝の概要を説明できる。		人体生化学I 食品栄養学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②ATPの産生と糖質代謝						
1. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. クエン酸回路(TCA サイクル)について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 電子伝達系(酸化的リン酸化)と ATP 合成酵素について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. グリコーゲンの代謝について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 糖新生について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③脂質代謝						
1. 脂肪酸の生合成とβ酸化について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④飢餓状態と飽食状態						
1. 飢餓状態のエネルギー代謝(ケトン体の利用など)について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

	講義科目名					
C6 生命現象の基礎	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑤その他の代謝系						
1. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝(尿素回路など)について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. ヌクレオチドの生合成と分解について説明できる。		人体生化学II		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. ペントースリン酸回路について説明できる。		人体生化学I		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達						
①概論						
1. 細胞間コミュニケーションにおける情報伝達様式を説明できる。		人体生化学II	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞内情報伝達						
1. 細胞膜チャネル内蔵型受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞膜受容体から G タンパク系を介する細胞内情報伝達について説明できる。		人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介する細胞内情報伝達について説明できる。		人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 細胞内情報伝達におけるセカンドメッセンジャーについて説明できる。		人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5. 細胞内(核内)受容体を介する細胞内情報伝達について説明できる。		人体生化学II 疾患薬理学 I	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞間コミュニケーション						
1. 細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 主な細胞外マトリックス分子の種類と特徴を説明できる。	生体機能分子学 II			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(7)細胞の分裂と死						
①細胞分裂						
1. 細胞周期とその制御機構について説明できる。			人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 体細胞と生殖細胞の細胞分裂について説明できる。				生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②細胞死						
1. 細胞死(アポトーシスとネクローシス)について説明できる。			人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③がん細胞						
1. 正常細胞とがん細胞の違いについて説明できる。			人体機能調節学	疾患薬理学IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. がん遺伝子とがん抑制遺伝子について概説できる。			人体機能調節学 環境衛生学I	疾患薬理学IV 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)人体の成り立ち						
①遺伝						
1. 遺伝子と遺伝のしくみについて概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 遺伝子多型について概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 代表的な遺伝疾患を概説できる。				遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②発生						
1. 個体発生について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 細胞の分化における幹細胞、前駆細胞の役割について概説できる。	薬学生物学入門	人体生化学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③器官系概論						
1. 人体を構成する器官、器官系の名称、形態、体内での位置および機能を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 組織、器官を構成する代表的な細胞の種類(上皮、内皮、間葉系など)を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 実験動物・人体模型・シミュレーターなどを用いて各種臓器の名称と位置を確認できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 代表的な器官の組織や細胞を顕微鏡で観察できる。(技能)			生物系実習Ⅳ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④神経系						
1. 中枢神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 末梢(体性・自律)神経系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ 人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤骨格系・筋肉系						
1. 骨、筋肉について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床検査学 病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な骨格筋および関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥皮膚						
1. 皮膚について概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑦循環器系						
1. 心臓について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 血管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. リンパ管系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑧呼吸器系						
1. 肺、気管支について概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

	講義科目名					
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑨消化器系						
1. 胃、小腸、大腸などの消化管について概説できる。	機能形態学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 肝臓、膵臓、胆嚢について概説できる。	機能形態学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑩泌尿器系						
1. 泌尿器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑪生殖器系						
1. 生殖器系について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑫内分泌系						
1. 内分泌系について概説できる。	機能形態学Ⅰ		人体機能調節学	臨床検査学 病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑬感覚器系						
1. 感覚器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		病態・薬物治療学Ⅳ 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑭血液・造血器系						
1. 血液・造血器系について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2) 生体機能の調節						
①神経による調節機構						
1. 神経細胞の興奮と伝導、シナプス伝達の調節機構について説明できる。	機能形態学Ⅰ		疾患薬理学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な神経伝達物質を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ		疾患薬理学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。	機能形態学Ⅰ		疾患薬理学Ⅱ	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 神経による筋収縮の調節機構について説明できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②ホルモン・内分泌系による調節機構						
1. 代表的なホルモンを挙げ、その産生器官、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ		人体機能調節学	臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③オータコイドによる調節機構						
1. 代表的なオータコイドを挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
④サイトカイン・増殖因子による調節機構						
1. 代表的なサイトカイン、増殖因子を挙げ、生理活性および作用機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑤血圧の調節機構						
1. 血圧の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
⑥血糖の調節機構						

		講義科目名					
C7 人体の成り立ちと生体機能の調節		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	1. 血糖の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ		人体機能調節学	臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑦体液の調節						
	1. 体液の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 尿の生成機構、尿量の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ	人体機能調節学	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑧体温の調節						
	1. 体温の調節機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑨血液凝固・線溶系						
	1. 血液凝固・線溶系の機構について概説できる。		機能形態学Ⅱ		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑩性周期の調節						
	1. 性周期の調節機構について概説できる。	機能形態学Ⅰ			生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

C8 生体防御と微生物	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)身体をまもる						
①生体防御反応						
1異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアー、および補体の役割について説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2免疫反応の特徴（自己と非自己の識別、特異性、多様性、クローン性、記憶、寛容）を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3自然免疫と獲得免疫、および両者の関係を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4体液性免疫と細胞性免疫について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②免疫を担当する組織・細胞						
1免疫に関する組織を列挙し、その役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③分子レベルで見た免疫のしくみ						
1自然免疫および獲得免疫における異物認識を比較して説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2MHC抗原の構造と機能および抗原提示での役割について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3T細胞とB細胞による抗原認識の多様性（遺伝子再構成）と活性化について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4抗体分子の基本構造、種類、役割を説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5免疫系に関わる主なサイトカインを挙げ、その作用を概説できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(2)免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用						
①免疫応答の制御と破綻						
1炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2アレルギーを分類し、担当細胞および反応機構について説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3自己免疫疾患と免疫不全症候群について概説できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4臓器移植と免疫応答との関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
5感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。		免疫学		臨床検査学 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
6. 腫瘍排除に関与する免疫反応について説明できる。		免疫学		生物系薬学特別講義		生物系薬学特別講義
(3)微生物の基本						
①総論						

		講義科目名					
C8 生体防御と微生物		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	②細菌						
	1.細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。		微生物学 生物系実習Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。		微生物学 生物系実習Ⅰ		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	6. 代表的な細菌毒素について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③ウイルス						
	1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	④真菌・原虫・蠕虫						
	1. 真菌の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑤消毒と滅菌						
	1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。		同位体化学 微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。		同位体化学 微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	⑥検出方法						
	1. グラム染色を実施できる。(技能)		生物系実習Ⅰ				
	2. 無菌操作を実施できる。(技能)		生物系実習Ⅰ				
	3. 代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。(技能)		生物系実習Ⅰ				
	(4) 病原体としての微生物						
	①感染の成立と共生						
	1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	2. 日和見感染と院内感染について説明できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	②代表的な病原体						
	1. DNAウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B型肝炎ウイルスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

		講義科目名					
C8 生体防御と微生物		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	2. RNAウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイ ルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイ ルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)に ついて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レ ジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ/コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腟トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。		微生物学		生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義

	講義科目名					
D1 健康	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)社会・集団と健康						
①健康と疾病の概念						
1 健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
②保健統計						
1 集団の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握する上での人口統計の意義を概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 人口統計および傷病統計に関する指標について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 人口動態（死因別死亡率など）の変遷について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
③疫学						
1 疾病の予防における疫学の役割を説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2 疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3 疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
4 リスク要因の評価として、オッズ比、相対危険度、寄与危険度および信頼区間について説明し、計算できる。（知識・技能）			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
(2)疾病の予防						
①疾病の予防とは						
1疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2健康増進政策（健康日本２１など）について概説できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
②感染症とその予防						
1現代における感染症（日和見感染、院内感染、新興感染症、再興感染症など）の特徴について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2感染症法における、感染症とその分類について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3代表的な性感染症を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
4予防接種の意義と方法について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
③生活習慣病とその予防						
1生活習慣病の種類とその動向について説明できる。		食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
2生活習慣病の代表的なリスク要因を列挙し、その予防法について説明できる。		食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
3食生活や喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて討議する。（態度）		食品栄養学	公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

		講義科目名					
D1 健康		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	④母子保健						
	1新生児マススクリーニングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2母子感染する代表的な疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	⑤労働衛生						
	1代表的な労働災害、職業性疾病について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2労働衛生管理について説明できる。			公衆衛生学	衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	(3) 栄養と健康						
	①栄養						
	1五大栄養素を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3食品中の三大栄養素の栄養的な価値を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4五大栄養素以外の食品成分（食物繊維、抗酸化物質など）の機能について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	5エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、推定エネルギー必要量の意味を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	6日本人の食事摂取基準について説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	7栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	8疾病治療における栄養の重要性を説明できる。		食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	②食品機能と食品衛生						
	1炭水化物・タンパク質が変質する機構について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	4食品成分由来の発がん性物質を列挙し、その生成機構を説明できる。				衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	5代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	6特別用途食品と保健機能食品について説明できる。		食品衛生学 食品栄養学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	7食品衛生に関する法的規制について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

		講義科目名					
D1 健康		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	③食中毒と食品汚染						
	1代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品 および予防方法について説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	2食中毒の原因となる代表的な自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義
	3化学物質（重金属、残留農薬など）やカビによる食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影 響を説明できる。		食品衛生学		衛生薬学特別講義		衛生薬学総合講義

		講義科目名					
D2 環境		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)化学物質・放射線の生体への影響						
	①化学物質の毒性						
	1代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。			環境衛生学I 生物系実習III	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	2 肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す代表的な化学物質を列挙できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	3 重金属、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質や農薬の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	4 重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	5薬物の乱用による健康への影響について説明し、討議する。（知識・態度）				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	6 代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。		食品衛生学	環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	7 代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）の試験法を列挙し、概説できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	②化学物質の安全性評価と適正使用						
	1個々の化学物質の使用目的に鑑み、適正使用とリスクコミュニケーションについて討議する。（態度）			環境衛生学I			
	2 化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	3毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	4化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	5有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法、化管法など）を説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	③化学物質による発がん						
	1発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	2遺伝毒性試験（Ames試験など）の原理を説明できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	3発がんに至る過程（イニシエーション、プロモーションなど）について概説できる。			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	④放射線の生体への影響						
	1電離放射線を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
	2代表的な放射性核種（天然、人工）と生体との相互作用を説明できる。		同位体化学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
	3電離放射線を防御する方法について概説できる。		同位体医療薬学		衛生薬学特別講義 実務実習事前学習		総合衛生薬学総合講義
	4非電離放射線（紫外線、赤外線など）を列挙し、生体への影響を説明できる。		同位体化学		環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

	講義科目名					
D2 環境	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(2)生活環境と健康						
①地球環境と生態系						
1地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3化学物質の環境内動態（生物濃縮など）について例を挙げて説明できる。			環境衛生学I	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4地球環境の保全に関する国際的な取り組みについて説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5人が生態系の一員であることをふまえて環境問題を討議する。（態度）			環境衛生学I	衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
②環境保全と法的規制						
1典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2環境基本法の理念を説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3環境汚染（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染など）を防止するための法規制について説明できる。				衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
③水環境						
1原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
水の浄化法、塩素処理について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習III	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
4下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
5水質汚濁の主な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）			生物系実習III	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
6富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
④大気環境						
1 主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源、健康影響について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 主な大気汚染物質を測定できる。(技能)				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
3 大気汚染に影響する気象要因(逆転層など)を概説できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
⑤室内環境						
1 室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。(知識・技能)			生物系実習III	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
2 室内環境と健康との関係について説明できる。			生物系実習III	環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

		講義科目名					
D2 環境		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	⑥廃棄物						
	1 廃棄物の種類と処理方法を列挙できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	2 廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義
	3 マニフェスト制度について説明できる。				環境衛生学II 衛生薬学特別講義		総合衛生薬学総合講義

	講義科目名					
E 医療薬学、 E1 薬の作用と体の変化	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E1 薬の作用と体の変化						
(1)薬の作用						
①薬の作用						
1. 薬の用量と作用の関係を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
2. アゴニスト(作用薬、作動薬、刺激薬)とアンタゴニスト(拮抗薬、遮断薬)について説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
3. 薬物が作用するしくみについて、受容体、酵素、イオンチャネルおよびトランスポーターを例に挙げて説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
4. 代表的な受容体を列挙し、刺激あるいは遮断された場合の生理反応を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
5. 薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化あるいは抑制された場合の生理反応を説明できる。(C6(6)【2細胞内情報伝達】1.～5.参照)		疾患薬理学Ⅰ		医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
6. 薬物の体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)と薬効発現の関わりについて説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
7. 薬物の選択(禁忌を含む)、用法、用量の変更が必要となる要因(年齢、疾病、妊娠等)について具体例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析 臨床薬学総合講義Ⅰ
8. 薬理作用に由来する代表的な薬物相互作用を列挙し、その機序を説明できる。(E4(1)【2吸収】5.【4代謝】5.【5排泄】5.参照)			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析 臨床薬学総合講義Ⅰ
9. 薬物依存性、耐性について具体例を挙げて説明できる。		疾患薬理学Ⅰ				
②動物実験						
1. 動物実験における倫理について配慮できる。(態度)			生物系実習Ⅳ			
2. 実験動物を適正に取り扱うことができる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
3. 実験動物での代表的な投与方法が実施できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
③日本薬局方						
1. 日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ				
(2)身体の病的変化を知る						
①症候						
1. 以下の症候・病態について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を挙げ、患者情報をもとに疾患 を推測できる。 ショック、高血圧、低血圧、発熱、けいれん、意識障害・失神、チアノーゼ、脱水、全身倦怠感、 肥満・やせ、黄疸、発疹、貧血、出血傾向、リンパ節腫脹、浮腫、心悸亢進・動悸、胸水、胸痛、 呼吸困難、咳・痰、血痰・喀血、めまい、頭痛、運動麻痺・不随意運動・筋力低下、腹痛、悪心・ 嘔吐、嚥下困難・障害、食欲不振、下痢・便秘、吐血・下血、腹部膨満(腹水を含む)、タンパク 尿、血尿、尿量・排尿の異常、月経異常、関節痛・関節腫脹、腰背部痛、記憶障害、知覚異常(しびれを含む)・神経痛、視力障害、聴力障害			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ

	講義科目名					
E 医療薬学、 E1 薬の作用と体の変化	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
②病態・臨床検査						
1尿検査および糞便検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
2. 血液検査、血液凝固機能検査および脳脊髄液検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
3. 血液生化学検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
4. 免疫学的検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
5. 動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
6. 代表的な生理機能検査(心機能、腎機能、肝機能、呼吸機能等)、病理組織検査および画像検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
7. 代表的な微生物検査の検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
8. 代表的なフィジカルアセスメントの検査項目を列挙し、目的と異常所見を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ
(3)薬物治療の位置づけ						
1. 代表的な疾患における薬物治療、食事療法、その他の非薬物治療(外科手術など)の位置づけを説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 代表的な疾患における薬物治療の役割について、病態、薬効薬理、薬物動態に基づいて討議する。(知識・技能)			病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学
(4)医薬品の安全性						
1. 薬物の主作用と副作用、毒性との関連について説明できる。			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
2. 薬物の副作用と有害事象の違いについて説明できる。			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学 医療薬学総合講義Ⅰ
3. 以下の障害を呈する代表的な副作用疾患について、推定される原因医薬品、身体所見、検査所見お よび対処方法を説明できる。 血液障害・電解質異常、肝障害、腎障害、消化器障害、循環器障害、精神障害、皮膚障害、呼吸器 障害、薬物アレルギー(ショックを含む)、代謝障害			医薬品安全性学 病態・薬物治療学Ⅱ	病態・薬物治療学Ⅳ 薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		薬科処方解析学
4. 代表的薬害、薬物乱用について、健康リスクの観点から討議する。(態度)					実務実習	

		講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
E2 薬理・病態・薬物治療							
	(1)神経系の疾患と薬						
	①自律神経系に作用する薬						
	1. 交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態。薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態。薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態。薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. 自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。(技能)			生物系実習Ⅳ			
	②体性神経系に作用する薬・筋の疾患の薬、病態、治療						
	1. 知覚神経・運動神経に作用する代表的な薬物(局所麻酔薬など)を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態。薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態。薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系実習Ⅳ			
	4. 以下の疾患について説明できる。 進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（重複）		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	③中枢神経系の疾患の薬、病態、治療						
	1.全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		
	2. 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用（WHO 三段階除痛ラダーを含む）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 中枢興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		
	4. 統合失調症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	5. うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	6. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症、不眠症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	7. てんかんについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	8.脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	9. Parkinson（パーキンソン）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
10.認知症（Alzheimer（アルツハイマー）型認知症、脳血管性認知症等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅱ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11.片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12.中枢神経系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物実習Ⅳ			
13.中枢神経系疾患の社会生活への影響および薬物治療の重要性について討議する。（態度）			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論
14.以下の疾患について説明できる。 脳炎・髄膜炎（重複）、多発性硬化症（重複）、筋萎縮性側索硬化症、Narcolepsy（ナルコレプシー）、薬物依存症、アルコール依存症			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。			創薬化学I 創薬化学II			
(2)免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬						
①抗炎症薬						
1.抗炎症薬（ステロイド性および非ステロイド性）および解熱性鎮痛薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2.抗炎症薬の作用機序に基づいて炎症について説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3.創傷治癒の過程について説明できる。				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②免疫・炎症・アレルギー疾患の薬・病態・治療						
1.アレルギー治療薬（抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2.免疫抑制薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3.以下のアレルギー疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、接触性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支喘息（重複）			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4.以下の薬物アレルギーについて、原因薬物、病態（病態生理、症状等）および対処法を説明できる。Stevens-Johnson（スティーブンス-ジョンソン）症候群、中毒性表皮壊死症（重複）、薬剤性過敏症症候群、薬疹			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5.アナフィラキシーショックについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

		講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	6. 以下の疾患について、病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。尋常性乾癬、水疱症、光線過敏症、ベーチェット病			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	7. 以下の臓器特異的自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。バセドウ病（重複）、橋本病（重複）、悪性貧血（重複）、アジソン病、1型糖尿病（重複）、重症筋無力症、多発性硬化症、特発性血小板減少性紫斑病、自己免疫性溶血性貧血（重複）シェーグレン症候群			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	8. 以下の全身性自己免疫疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。全身性エリテマトーデス、強皮症、多発筋炎／皮膚筋炎、関節リウマチ（重複）			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	9. 臓器移植（腎臓、肝臓、骨髄、臍帯血、輸血）について、拒絶反応および移植片対宿主病（GVHD）の病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	③骨・関節・カルシウム代謝の疾患薬、病態、治療						
	1. 関節リウマチについて、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 骨粗鬆症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 変形性関節症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. カルシウム代謝の異常を伴う疾患（副甲状腺機能亢進（低下）症、骨軟化症（くる病を含む）、悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	④化学構造と薬効						
	1. 免疫・炎症・アレルギー疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	(3)循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬						
	①循環器系疾患の薬、病態、治療						
	1. 以下の不整脈および関連疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。不整脈の例示：上室性期外収縮（PAC）、心室性期外収縮（PVC）、心房細動（Af）、発作性上室頻拍（PSVT）、WPW症候群、心室頻拍（VT）、心室細動（VF）、房室ブロック、QT 延長症候群			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
2. 急性および慢性心不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 以下の高血圧症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症（ASO）、心原性ショック、弁膜症、先天性心疾患				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 循環器系に作用する薬物の効果を動物実験で測定できる。（技能）			生物系実習Ⅳ			
②血液・造血器系疾患の薬、病態、治療						
1. 止血薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗血栓薬、抗凝固薬および血栓溶解薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 以下の貧血について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血(悪性貧血等)、再生不良性貧血、自己免疫性溶血性貧血（AIHA）、腎性貧血、鉄芽球性貧血				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 播種性血管内凝固症候群（DIC）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の疾患について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。血友病、血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）、白血球減少症、血栓塞栓症、白血病（重複）、悪性リンパ腫（重複）〔E2（7）【⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療】参照〕				疾患薬理学Ⅳ 病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
③泌尿器系、生殖器系疾患の薬、病態、薬物治療						
1. 利尿薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 急性および慢性腎不全について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. ネフローゼ症候群について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 過活動膀胱および低活動膀胱について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の泌尿器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。慢性腎臓病（CKD）、糸球体腎炎（重複）、糖尿病性腎症（重複）、薬剤性腎症（重複）、腎盂腎炎（重複）、膀胱炎（重複）、尿路感染症（重複）、尿路結石		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

	講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
6. 以下の生殖器系疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。前立腺肥大症、子宮内膜症、子宮筋腫		疾患薬理学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅰ	病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 妊娠・分娩・避妊に関連して用いられる薬物について、薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の生殖器系疾患について説明できる。 異常妊娠、異常分娩、不妊症				病態・薬物治療学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
④化学構造と薬効						
1. 循環系・泌尿器系・生殖器系疾患の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物 動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
(4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬						
①呼吸器系疾患の薬、病態、治療						
1. 気管支喘息について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 慢性閉塞性肺疾患および喫煙に関連する疾患（ニコチン依存症を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 間質性肺炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 鎮咳薬、去痰薬、呼吸興奮薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
②消化器系疾患の薬、病態、治療						
1. 以下の上部消化器疾患について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。 胃食道逆流症（逆流性食道炎を含む）、消化性潰瘍、胃炎			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ 病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 肝疾患（肝炎、肝硬変（ウイルス性を含む）、薬剤性肝障害）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 膵炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 胆道疾患（胆石症、胆道炎）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 機能性消化管障害（過敏性腸症候群を含む）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 便秘・下痢について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

		講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	8.悪心・嘔吐について、治療薬および関連薬物（催吐薬）の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	9.痔について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅱ	医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	③化学構造と薬効						
	1. 呼吸器系・消化器系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動態)の関連 を概説できる。			創薬化学Ⅱ	化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	(5)代謝系・内分泌系の疾患と薬						
	①代謝系疾患の薬、病態、治療						
	1.糖尿病とその合併症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2.脂質異常症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3.高尿酸血症・痛風について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ	疾患薬理学Ⅲ	病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	②内分泌系疾患の薬、病態、治療						
	1.性ホルモン関連薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）および臨床適用を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2.Basedow（バセドウ）病について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3.甲状腺炎（慢性（橋本病）、亜急性）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4.尿崩症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	5.以下の疾患について説明できる。先端巨大症、高プロラクチン血症、下垂体機能低下症、ADH 不適合分泌症候群(SIADH)、副甲状腺機能亢進症・低下症、Cushing（クッシング）症候群、アルドステロン症、褐色細胞腫、副腎不全 （急性、慢性）、子宮内膜症（重複）、アジソン病（重複）			人体機能調節学	病態・薬物治療学Ⅳ 臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	③化学構造と薬効						
	1.代謝系・内分布系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。			創薬化学Ⅱ 疾患薬理学Ⅲ	創薬化学Ⅲ 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	(6)感覚器・皮膚の疾患と薬						
	①眼疾患の薬、病態、治療						
	1.緑内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。		疾患薬理学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2.白内障について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3.加齢性黄斑変性について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

		講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	4. 以下の疾患について概説できる。 結膜炎（重複）、網膜症、ぶどう膜炎、網膜色素変性症		疾患薬理学Ⅰ		病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	②耳鼻咽喉の疾患の薬、病態、治療						
	1. めまい（動揺病、Meniere（メニエール）病等）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 以下の疾患について概説できる。 アレルギー性鼻炎（重複）、花粉症（重複）、副鼻腔炎（重複）、中耳炎（重複）、口内炎・咽頭炎・扁桃腺炎(重複)、喉頭蓋炎				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	③皮膚疾患の薬、病態、治療						
	1. アトピー性皮膚炎について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。〔E2 (9) 【⑨免疫・炎症・アレルギーの薬				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 皮膚真菌症について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。〔E2 (7) 【⑤真菌感染症の薬、病態、治療】				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 褥瘡について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	4. 以下の疾患について概説できる。 蕁麻疹（重複）、薬疹（重複）、水疱症（重複）、乾癬(重複)、接触性皮膚炎（重複）、光線過敏症（重複）				病態・薬物治療学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		臨床診療科概論 医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	④化学構造と薬効						
	1. 感覚器・皮膚の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効（薬理・薬物動態）の関連を概説できる。				化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	(7)病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬						
	①抗菌薬						
	1. 以下の抗菌薬の薬理(薬理作用、機序、抗菌スペクトル、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適用を説明できる。β-ラクタム系、テトラサイクリン系、マクロライド系、アミノ配糖体(アミノグリコシド)系、キノロン系、グリコペプチド系、抗結核薬、サルファ剤(ST 合剤を含む)、その他の抗菌薬			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤(ワクチン等)を挙げ、その作用機序を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	衛生薬学特別講義 生物系薬学特別講義		衛生薬学総合講義 生物系薬学総合講義
	②抗菌薬の耐性						
	1. 主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
	③細菌感染症の薬、病態、治療						
	1. 以下の呼吸器感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医 薬品の選択等)を説明できる。 上気道炎(かぜ症候群(大部分がウイルス感染症)を含む)、気管支炎、扁桃炎、細菌性肺炎、肺 結核、レジオネラ感染症、百日咳、マイコプラズマ肺炎			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	2. 以下の消化器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説 明できる。 急性虫垂炎、胆嚢炎、胆管炎、病原性大腸菌感染症、食中毒、ヘリコバクター・ピロリ感染症、赤痢、コレラ、腸チフス、パラチフス、偽膜性大腸炎				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
	3. 以下の感覚器感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 副鼻腔炎、中耳炎、結膜炎				医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4. 以下の尿路感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明 できる。 腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎			病態・薬物治療学 I	医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
5. 以下の性感染症について、病態(病態生理、症状等)、予防方法および薬物治療(医薬品の選択等) を説明できる。 梅毒、淋病、クラミジア症等			病態・薬物治療学 I	医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
6. 脳炎、髄膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を説明でき る。				医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
7. 以下の皮膚細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)を 説明できる。 伝染性膿痂疹、丹毒、癰、毛嚢炎、ハンセン病				医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
8. 感染性心内膜炎、胸膜炎について、病態(病態生理、症状等)および薬物治療(医薬品の選択等)				医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
9. 以下の薬剤耐性菌による院内感染について、感染経路と予防方法、病態(病態生理、症状等)およ び薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 MRSA、VRE、セラチア、緑膿菌等			感染症治療薬概論	医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
10. 以下の全身性細菌感染症について、病態(病態生理、症状等)、感染経路と予防方法および薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 ジフテリア、劇症型 A 群 β 溶血性連鎖球菌感染症、新生児 B 群連鎖球菌感染症、破傷風、敗血症				医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
④ウイルス感染症およびプリオン病の薬、病態、治療						
1. ヘルペスウイルス感染症(単純ヘルペス、水痘・帯状疱疹)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学 I 感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
2. サイトメガロウイルス感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病 態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学 I 感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
3. インフルエンザについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法お よび病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
4. ウイルス性肝炎(HAV、HBV、HCV)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経路と予防方法および病態(病態生理(急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝細胞がん)、症状等)・ 薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。(重複)			感染症治療薬概論 病態・薬物治療学 II	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
5. 後天性免疫不全症候群(AIDS)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、感染経 路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
6. 以下のウイルス感染症(プリオン病を含む)について、感染経路と予防方法および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。伝染性紅斑(リンゴ病)、手足口病、伝染性単核球症、突発性発疹、咽頭結膜熱、ウイルス性下痢 症、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、風邪症候群、Creutzfeldt-Jakob(クロイツフェルト-ヤコブ) 病			病態・薬物治療学 II	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
⑤真菌感染症の薬、病態、治療						
1. 抗真菌薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。			病態・薬物治療学 I 感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		
2. 以下の真菌感染症について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。皮膚真菌症、カンジダ症、ニューモシステス肺炎、肺アスペルギルス症、クリプトコックス症			病態・薬物治療学 I	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
⑥原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療						
1. 以下の原虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態生 理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。マラリア、トキソプラズマ症、トリコモナス症、アメーバ赤痢			病態・薬物治療学 I 感染症治療薬概論	医療薬学特別講義 II		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV

E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
2. 以下の寄生虫感染症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)、および病態(病態 生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。回虫症、蟯虫症、アニサキス症			病態・薬物治療学Ⅰ 感染症治療薬概論	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑦悪性腫瘍						
1. 腫瘍の定義(良性腫瘍と悪性腫瘍の違い)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 悪性腫瘍について、以下の項目を概説できる。 組織型分類および病期分類、悪性腫瘍の検査(細胞診、組織診、画像診断、腫瘍マーカー(腫瘍関 連の変異遺伝子、遺伝子産物を含む))、悪性腫瘍の疫学(がん罹患の現状およびがん死亡の現状)、悪性腫瘍のリスクおよび予防要因			病態・薬物治療学Ⅰ	臨床検査学 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけを概説できる。			病態・薬物治療学Ⅰ			医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
⑧悪性腫瘍の薬、病態、治療						
1. 以下の抗悪性腫瘍薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用、相互作用、組織移行性)および臨床適 用を説明できる。 アルキル化薬、代謝拮抗薬、抗腫瘍抗生物質、微小管阻害薬、トポイソメラーゼ阻害薬、抗腫瘍ホルモン関連薬、白金製剤、分子標的治療薬、その他の抗悪性腫瘍薬			人体機能調節学 病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
2. 抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
3. 抗悪性腫瘍薬の主な副作用(下痢、悪心・嘔吐、白血球減少、皮膚障害(手足症候群を含む)、血小板減少等)の軽減のための対処法を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
4. 代表的ながん化学療法のレジメン(FOLFOX 等)について、構成薬物およびその役割、副作用、対象疾患を概説できる。				創薬化学Ⅲ 疾患薬理学Ⅳ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
5. 以下の白血病について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 急性(慢性)骨髄性白血病、急性(慢性)リンパ性白血病、成人 T 細胞白血病(ATL)				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
6. 悪性リンパ腫および多発性骨髄腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等) を説明できる。				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
7. 骨肉腫について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
8. 以下の消化器系の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 胃癌、食道癌、肝癌、大腸癌、胆嚢・胆管癌、膵癌				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
9. 肺癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
10. 以下の頭頸部および感覚器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。脳腫瘍、網膜芽細胞腫、喉頭、咽頭、鼻腔・副鼻腔、口腔の悪性腫瘍				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
11. 以下の生殖器の悪性腫瘍について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明 できる。前立腺癌、子宮癌、卵巣癌				創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
12. 腎・尿路系の悪性腫瘍(腎癌、膀胱癌)について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ
13. 乳癌について、病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学Ⅰ	疾患薬理学Ⅳ 創薬化学Ⅲ 医療薬学特別講義Ⅱ		医療薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅲ 医療薬学総合講義Ⅳ

	講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑨がん終末期医療と緩和ケア						
1. がん終末期の病態(病態生理、症状等)と治療を説明できる。			病態・薬物治療学 I	疾患薬理学IV		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
2. がん性疼痛の病態(病態生理、症状等)と薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。			病態・薬物治療学 I	疾患薬理学IV		医療薬学総合講義 I 医療薬学総合講義III 医療薬学総合講義IV
⑩化学構造と薬効						
1. 病原微生物・悪性新生物が関わる疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬効(薬理・薬物動 態)の関連を概説できる。			感染症治療薬概論	創薬化学III 医療薬学特別講義 II		
(8) バイオ・細胞医薬品とゲノム情報						
①組換え体医薬品						
1. 組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 代表的な組換え体医薬品を列挙できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 組換え体医薬品の安全性について概説できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
②遺伝子治療						
1. 遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
③細胞、組織を利用した移植医療						
1. 移植医療の原理、方法と手順、現状およびゲノム情報の取り扱いに関する倫理的問題点を概説できる。(知識・態度)				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
2. 摘出および培養組織を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
3. 臍帯血、末梢血および骨髄に由来する血液幹細胞を用いた移植医療について説明できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
4. 胚性幹細胞(ES 細胞)、人工多能性幹細胞(iPS 細胞)を用いた細胞移植医療について概説できる。				創薬化学III 遺伝子工学概論 生物系薬学特別講義		生物系薬学総合講義
(9) 要指導医薬品・一般用医薬品・セルフメディケーション						
1. 地域における疾病予防、健康維持増進、セルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を概説できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
2. 一般用医薬品のリスクの程度に応じた分類（第一類、第二類、第三類）について説明し、各分類に含まれる代表的な製剤を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
3. 代表的な症候について、関連する頻度の高い疾患、見逃してはいけない疾患を列挙できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
4. 一般用医薬品の選択、受診勧奨の要否を判断するために必要な患者情報を収集できる。（技能）				薬学健康管理学	実務実習	
5. 以下の疾患・症候に対するセルフメディケーションに用いる一般用医薬品等に含まれる成分・作用・副作用を列挙できる。発熱、痛み、かゆみ、消化器症状、呼吸器症状、アレルギー、細菌・真菌感染症、生活習慣病 等				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
6. 主な養生法（運動・食事療法、サプリメント、保健機能食品を含む）とその健康の保持・促進における意義を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I
7. 一般用医薬品と医療用医薬品、サプリメント、保健機能食品等との代表的な相互作用を説明できる。				薬学健康管理学		臨床薬学総合講義 I

		講義科目名					
E 医療薬学、 E2 薬理・病態・薬物治療		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	8. 一般用医薬品等による治療効果と副作用を判定するための情報を収集し評価できる。（技能）				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅰ
	(10) 医療の中の漢方薬						
	①漢方薬の基礎						
	1. 漢方の特徴について概説できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. 以下の漢方の基本用語を説明できる。陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証		生薬学Ⅰ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 配合生薬の組み合わせによる漢方薬の系統的な分類が説明できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	4. 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保険機能食品などとの相違について説明できる。	天然医薬資源学			漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	②漢方薬の応用						
	1. 漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	2. 日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる				漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	3. 現代医療における漢方薬の役割について説明できる。		生薬学Ⅰ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	③漢方薬の注意点						
	1. 漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。		生薬学Ⅰ 生薬学Ⅱ		漢方薬学概論 化学系薬学特別講義		化学系薬学総合講義
	(11) 薬物療法の最適化						
	①総合演習						
	1. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などの情報に基づいて薬物治療の最適化を討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習		実務実習事後学習
	2. 過剰量の医薬品による副作用への対応（解毒薬を含む）を討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習		実務実習事後学習
	3. 長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について討議する。（知識・態度）				実務実習事前学習		実務実習事後学習

		講義科目名					
E3 薬物治療に役立つ情報		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)医薬品情報						
	①情報						
	1. 医薬品を使用したり取り扱う上で、必須の医薬品情報を列挙できる			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 医薬品(後発医薬品等を含む)の開発過程で行われる試験(非臨床試験、臨床試験、安定性試験等)と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. 医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5. 医薬品情報に関係する代表的な法律・制度(「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、GCP、GVP、GPSP、RMP など)とレギュラトリーサイエンスについて概 説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	②情報源						
	1. 医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料の分類について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 厚生労働省、医薬品医療機器総合機構、製薬企業などの発行する資料を列挙し、概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の法的位置づけについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5. 医薬品添付文書(医療用、一般用)の記載項目(警告、禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意など)を列挙し、それらの意味や記載すべき内容について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	6. 医薬品インタビューフォームの位置づけと医薬品添付文書との違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	③収集・評価・加工・提供・管理						
	1. 目的(効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など)に合った適切な情報源 を選択し、必要な情報を検索、収集できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. MEDLINE などの医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理 解し、検索できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 医薬品情報の信頼性、科学的妥当性などを評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. 臨床試験などの原著論文および三次資料について医薬品情報の質を評価できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5. 医薬品情報をニーズに合わせて加工・提供し管理する際の方法と注意点(知的所有権、守秘義務など)について説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	④EBM(Evidence-Based Medicine)						
	1. EBM の基本概念と実践のプロセスについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 代表的な臨床研究法(ランダム化比較試験、コホート研究、ケースコントロール研究など)の長所と短所を挙げ、それらのエビデンスレベルについて概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ

E3 薬物治療に役立つ情報		講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	3. 臨床研究論文の批判的吟味に必要な基本的項目を列挙し、内的妥当性(研究結果の正確度や再現性)と外的妥当性(研究結果の一般化の可能性)について概説できる。(E3(1)【3収集・評価・加工・提供・管理】参照)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. メタアナリシスの概念を理解し、結果を説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	⑤生物統計						
	1. 臨床研究における基本的な統計量(平均値、中央値、標準偏差、標準誤差、信頼区間など)の意味と違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 帰無仮説の概念および検定と推定の違いを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 代表的な分布(正規分布、t分布、二項分布、ポアソン分布、$\chi 2$ 分布、F 分布)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. 主なパラメトリック検定とノンパラメトリック検定を列挙し、それらの使い分けを説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5. 二群間の差の検定(t検定、$\chi 2$ 検定など)を実施できる。(技能)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	6. 主な回帰分析(直線回帰、ロジスティック回帰など)と相関係数の検定について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	7. 基本的な生存時間解析法(カプラン・マイヤー曲線など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	⑥臨床研究デザインと解析						
	1. 臨床研究(治験を含む)の代表的な手法(介入研究、観察研究)を列挙し、それらの特徴を概説で きる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 臨床研究におけるバイアス・交絡について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 観察研究での主な疫学研究デザイン(症例報告、症例集積、コホート研究、ケースコントロール研究、ネステッドケースコントロール研究、ケースコホート研究など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4. 副作用の因果関係を評価するための方法(副作用判定アルゴリズムなど)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5. 優越性試験と非劣性試験の違いについて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	6. 介入研究の計画上の技法(症例数設定、ランダム化、盲検化など)について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	7. 統計解析時の注意点について概説できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	8. 介入研究の効果指標(真のエンドポイントと代用のエンドポイント、主要エンドポイントと副次的エンドポイント)の違いを、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	臨床研究の結果(有効性、安全性)の主なパラメータ(相対リスク、相対リスク減少、絶対リスク、絶対リスク減少、治療必要数、オッズ比、発生率、発生割合)を説明し、計算できる。(知識・技能)			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	⑦医薬品の比較・評価						
	1. 病院や薬局において医薬品を採用・選択する際に検討すべき項目を列挙し、その意義を説明できる。			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
E3 薬物治療に役立つ情報		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	2. 医薬品情報にもとづいて、代表的な同種同効薬の有効性や安全性について比較・評価できる。(技 能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3. 医薬品情報にもとづいて、先発医薬品と後発医薬品の品質、安全性、経済性などについて、比較・ 評価できる。(技能)			医療情報学(新規)	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ 臨床薬学総合講義Ⅱ
	(2)患者情報						
	①情報と情報源						
	1. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	②収集・評価・管理						
	1. 問題志向型システム(POS)を説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. SOAP 形式などの患者情報の記録方法について説明できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 医薬品の効果や副作用を評価するために必要な患者情報について概説できる。			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. 患者情報の取扱いにおける守秘義務と管理の重要性を説明できる。(A(2)【3患者の権利】参照)			医療情報学	薬学疾患管理学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	(3)個別化医療						
	①遺伝的素因						
	1. 薬物の主作用および副作用に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因(薬物代謝酵素・トランスポーターの遺伝子変異など)について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	②年齢的要因						
	1. 低出生体重児、新生児、乳児、幼児、小児における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 高齢者における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	③臓器機能低下						
	1. 腎疾患・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 肝疾患・肝機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3.心臓疾患を伴った患者における薬物動態と、薬物治療・投与設計において注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	④その他の要因						
	1. 薬物の効果に影響する生理的要因(性差、閉経、日内変動など)を列挙できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. 妊娠・授乳期における薬物動態と、生殖・妊娠・授乳期の薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
E3 薬物治療に役立つ情報		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	3. 栄養状態の異なる患者（肥満、低アルブミン血症、腹水など）における薬物動態と、薬物治療で注意すべき点を説明できる。			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅱ
	⑤個別化医療の計画・立案						
	1. 個別の患者情報（遺伝的素因、年齢的要因、臓器機能など）と医薬品情報をもとに、薬物治療を計 画・立案できる。（技能）			医療情報学	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅱ
	2. コンパニオン診断にもとづく薬物治療について、例を挙げて説明できる。			医療情報学	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
E4 薬の生体内運命		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)薬物の体内動態						
	①生体膜透過						
	1. 薬物の生体膜透過における単純拡散、促進拡散および能動輸送の特徴を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 薬物の生体膜透過に関わるトランスホ♂ーターの例を挙げ、その特徴と薬物動態における役割を説明できる			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	②吸収						
	1. 経口投与された薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 非経口的に投与される薬物の吸収について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 薬物の吸収に影響する因子(薬物の物性、生理学的要因など)を列挙し、説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. 薬物の吸収過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	5. 初回通過効果について説明できる。			薬物動態理論			臨床薬学総合講義Ⅰ
	③分布						
	1. 薬物が結合する代表的な血漿タンパク質を挙げ、タンパク結合の強い薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 薬物の組織移行性(分布容積)と血漿タンパク結合ならびに組織結合との関係を、定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 薬物のタンパク結合および結合阻害の測定・解析方法を説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. 血液-組織関門の構造・機能と、薬物の脳や胎児等への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	5. 薬物のリンパおよび乳汁中への移行について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅱ
	6. 薬物の分布過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	④代謝						
	1. 代表的な薬物代謝酵素を列挙し、その代謝反応が起こる組織ならびに細胞内小器官、反応様式につ いて説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 薬物代謝の第Ⅰ相反応(酸化・還元・加水分解)、第Ⅱ相反応(抱合)について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 代表的な薬物代謝酵素(分子種)により代謝される薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. プロドラッグと活性代謝物について、例を挙げて説明できる。			薬物動態理論	薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	5. 薬物代謝酵素の阻害および誘導のメカニズムと、それらに関連して起こる相互作用について、例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	⑤排泄						
	1. 薬物の尿中排泄機構について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 腎クリアランスと、糸球体ろ過、分泌、再吸収の関係を定量的に説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ

		講義科目名					
E4 薬の生体内運命		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	3. 代表的な腎排泄型薬物を列挙できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. 薬物の胆汁中排泄と腸肝循環について説明できる。			薬物動態理論	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	5. 薬物の排泄過程における相互作用について例を挙げ、説明できる。			薬物動態理論	臨床薬物動態学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	(2)薬物動態の解析						
	①薬物速度論						
	1. 線形コンパートメントモデルと、関連する薬物動態パラメータ(全身クリアランス、分布容積、消失半減期、生物学的利用能など)の概念を説明できる。	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. 線形1-コンパートメントモデルに基づいた解析ができる(急速静注・経口投与[単回および反復投与]、定速静注)。(知識、技能)	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 体内動態が非線形性を示す薬物の例を挙げ、非線形モデルに基づいた解析ができる。(知識、技能)	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. モーメント解析の意味と、関連するパラメータの計算法について説明できる。	薬学計算法		臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	5. 組織クリアランス(肝、腎)および固有クリアランスの意味と、それらの関係について、数式を使って説明できる。			薬物動態理論 臨床薬物動態解析学	医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
	6. 薬物動態学-薬力学解析(PK-PD 解析)について概説できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	②TDM (Therapeutic Drug Monitoring)と投与設計						
	1. 治療薬物モニタリング(TDM)の意義を説明し、TDMが有効な薬物を列挙できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	2. TDM を行う際の採血ポイント、試料の取り扱い、測定法について説明できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	3. 薬物動態パラメータを用いて患者ごとの薬物投与設計ができる。(知識、技能)			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ
	4. ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。			臨床薬物動態解析学	実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅰ

E5 製剤化のサイエンス	講義科目名					
	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
(1)製剤の性質						
①固形材料						
1 粉体の性質について説明できる。			物理薬剤学 製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 結晶(安定形および準安定形)や非晶質、無水物や水和物の性質について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 固形材料の溶解現象(溶解度、溶解平衡など)や溶解した物質の拡散と溶解度について説明できる。〔C2(2)【1酸・塩基平衡】1.及び【2各種の化学平衡】2. 参照〕	薬学計算法		物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
4 固形材料の溶解に影響を及ぼす因子(pHや温度など)について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
5 固形材料の溶解度や溶解度を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
②半固形・液状材料						
1 流動と変形(レオロジー)について説明できる。			物理製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 高分子の構造と高分子溶液の性質(粘度など)について説明できる。			物理製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
③分散系材料						
1 界面の性質(界面張力、分配平衡、吸着など)や代表的な界面活性剤の種類と性質について説明で きる。〔C2(2)【2各種の化学平衡】4. 参照〕			物理薬剤学 物理系実習II	医療薬学特別講義I		
2 代表的な分散系(分子集合体、コロイド、乳剤、懸濁剤など)を列挙し、その性質について説明で きる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
3 分散した粒子の安定性と分離現象(沈降など)について説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		
4 分散安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
④薬物及び製剤材料の物性						
1 製剤分野で汎用される高分子の構造を理解し、その物性について説明できる。			物理薬剤学 製剤学	医療薬学特別講義I		臨床薬学総合講義I
2 薬物の安定性(反応速度、複合反応など)や安定性に影響を及ぼす因子(pH、温度など)について 説明できる。〔C1(3)【1反応速度】1.~7. 参照〕	薬学計算法		物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 薬物の安定性を高める代表的な製剤的手法を列挙し、説明できる。			物理薬剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
(2)製剤設計						
①代表的な製剤						
1 製剤化の概要と意義について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		
2 経口投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II
3 粘膜に適用する製剤(点眼剤、吸入剤など)の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義I		医療薬学総合講義II

	講義科目名					
E5 製剤化のサイエンス	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
4 注射により投与する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
5 皮膚に適用する製剤の種類とその特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
6 その他の製剤(生薬関連製剤、透析に用いる製剤など)の種類と特性について説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
②製剤化と製剤試験法						
1 代表的な医薬品添加物の種類・用途・性質について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
2 製剤化の単位操作、汎用される製剤機械および代表的な製剤の具体的な製造工程について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
3 汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学	医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
4 製剤に関連する試験法を列挙し、説明できる。			製剤学	薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ 医療薬学総合講義Ⅱ
③生物学的同等性						
1 製剤の特性(適用部位、製剤からの薬物の放出性など)を理解した上で、生物学的同等性について 説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
(3)DDS(Drug Delivery System: 薬物送達システム)						
①DDSの必要性						
1 DDS の概念と有用性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
2 代表的な DDS 技術を列挙し、説明できる。〔プロドラッグについては、E4(1)【4代謝】4.も参照〕				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		医療薬学総合講義Ⅱ
②コントロールドリリース(放出制御)						
1 コントロールドリリースの概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
2 投与部位ごとに、代表的なコントロールドリリース技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
3 コントロールドリリース技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
③ターゲティング(標的指向化)						
1 ターゲティングの概要と意義について説明できる				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
2 投与部位ごとに、代表的なターゲティング技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
3 ターゲティング技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
④吸収改善						
1 吸収改善の概要と意義について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		
2 投与部位ごとに、代表的な吸収改善技術を列挙し、その特性について説明できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ
3 吸収改善技術を適用した代表的な医薬品を列挙できる。				薬物送達学 医療薬学特別講義Ⅰ		臨床薬学総合講義Ⅰ

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1) 薬学臨床の基礎						
	①早期臨床体験						
	1 患者・生活者の視点に立って、様々な薬剤師の業務を見聞し、その体験から薬剤師業務の重要性について討議する	早期臨床体験Ⅰ					
	2 地域の保健・福祉を見聞した具体的体験に基づきその重要性や課題を討議する。	早期臨床体験Ⅰ					
	3 一次救命処置（心肺蘇生、外傷対応等）を説明し、シミュレータを用いて実施できる。		早期臨床体験Ⅱ		実務実習事前学習		
	②臨床における心構え						
	1 前）医療の担い手が守るべき倫理規範や法令について討議する。				実務実習事前学習	実務実習	
	2 前）患者・生活者中心の医療の視点から患者・生活者の個人情報や自己決定権に配慮すべき個々の対応ができる				実務実習事前学習	実務実習	
	3 前）患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の向上に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する				実務実習事前学習	実務実習	
	4 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守し、ふさわしい態度で行動する					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 患者・生活者の基本的権利、自己決定権について配慮する					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ 実務実習事後学習
	6 薬学的管理を実施する際に、インフォームド・コンセントを得ることができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ 実務実習事後学習
	7 職務上知り得た情報について守秘義務を遵守する					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ 実務実習事後学習
	③臨床実習の基礎						
	1 前）病院・薬局における薬剤師業務全体の流れを概説できる。	薬学概論			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）病院・薬局で薬剤師が実践する薬学的管理の重要性について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）病院薬剤部門を構成する各セクションの業務を列挙し、その内容と関連を概説できる。	薬学概論			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。	薬学概論			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）薬剤師の関わる社会保障制度（医療、福祉、介護）の概略を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 病院における薬剤部門の位置づけと業務の流れについて他部門と関連付けて説明できる。				調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
	7 代表的な疾患の入院治療における適切な薬学的管理について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	実務実習事後学習
	8 入院から退院に至るまで入院患者の医療に継続して関わることができる。					実務実習	実務実習事後学習
	9 急性期医療（救急医療・集中治療・外傷治療等）や周術期医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
	10 周産期医療や小児医療における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
	11 終末期医療や緩和ケアにおける適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	12 外来化学療法における適切な薬学的管理について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
	13 保険評価要件を薬剤師業務と関連付けて概説することができる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
	14 薬局における薬剤師業務の流れを相互に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	実務実習事後学習
	15 来局者の調剤に対して、処方せんの受付から薬剤の交付に至るまで継続して関わることができる。					実務実習	実務実習事後学習
	(2)処方せんに基づく調剤						
	①法令・規則等の理解と遵守						
	1 前）調剤業務に関わる事項（処方せん、調剤録、疑義照会等）の意義や取り扱いを法的根拠に基づいて説明できる。				実務実習事前学習		臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 調剤業務に関わる法的文書（処方せん、調剤録等）の適切な記載と保存・管理ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 法的根拠に基づき、一連の調剤業務を適正に実施する。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 保険薬局として必要な条件や設備等を具体的に関連付けて説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	②処方せんと疑義照会						
	1 前）代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用を列挙できる。				薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）処方オーダリングシステムおよび電子カルテについて概説できる。				調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。				薬学疾患管理学 実務実習事前学習 調剤学総論	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。				薬学疾患管理学 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。				薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 前）処方せん等に基づき疑義照会ができる。				薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	7 処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量等）が適切であるか確認できる				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	8 注射薬処方せんの記載事項（医薬品名、分量、投与速度、投与ルート等）が適切であるか確認できる				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	9 処方せんの正しい記載方法を例示できる				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	10 薬歴、診療録、患者の状態から処方が妥当であるか判断できる					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	11 薬歴、診療録、患者の状態から判断して適切に疑義照会ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	③処方せんに基づく医薬品の調製						
	1 前）薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。	薬学計算法			実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。	薬学計算法			薬学疾患管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	3 前）処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。	薬学計算法			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）後発医薬品選択の手順を説明できる。	薬学計算法			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）代表的な注射剤・散剤・水剤等の配合変化のある組合せとその理由を説明できる。	薬学計算法			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 前）無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。	薬学計算法			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	7 前）抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる	薬学計算法			調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	8 前）処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる	薬学計算法			薬学疾患管理学 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	9 主な医薬品の一般名・剤形・規格から該当する製品を選択できる。	薬学計算法				実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	10 適切な手順で後発医薬品を選択できる	薬学計算法				実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	11 処方せんに従って計数・計量調剤ができる。	薬学計算法				実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	12 錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる	薬学計算法				実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	13 一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。	薬学計算法				実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	14 注射処方せんに従って注射薬調剤ができる	薬学計算法			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	15 注射剤・散剤・水剤等の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。	薬学計算法			調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	16 注射剤（高カロリー輸液等）の無菌的混合操作を実施できる。	薬学計算法			調剤学総論	実務実習	実務実習事後学習
	17 抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の手技を実施できる	薬学計算法				実務実習	実務実習事後学習
	18 特別な注意を要する医薬品（劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・抗悪性腫瘍薬等）の調剤と適切な取扱 いができる。	薬学計算法				実務実習	実務実習事後学習
	19 調製された薬剤に対して、監査が実施できる	薬学計算法				実務実習	実務実習事後学習
	④患者・来局者応対、服薬指導、患者教育						
	1 前）適切な態度で、患者・来局者と応対できる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列挙できる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保管方法等について適切に説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。				実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	6 前）患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い方法を説明できる				実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	7 前）薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	8 前）代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる				調剤学総論 薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	9 患者・来局者に合わせて適切な応対ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	10 患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	11 医師の治療方針を理解した上で、患者への適切な服薬指導を実施する。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	12 患者・来局者の病状や背景に配慮し、医薬品を安全かつ有効に使用するための服薬指導や患者教育ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	13 妊婦・授乳婦、小児、高齢者等特別な配慮が必要な患者への服薬指導において、適切な応対ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	14 お薬手帳、健康手帳、患者向け説明書等を使用した服薬指導ができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	15 収集した患者情報を薬歴や診療録に適切に記録することができる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	⑤医薬品の供給と管理						
	1 前）医薬品管理の意義と必要性について説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）医薬品管理の流れを概説できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬および覚せい剤原料等の管理と取り扱いについて説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）特定生物由来製品の管理と取り扱いについて説明できる。		同位体医療薬学		調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）代表的な放射性医薬品の種類と用途、保管管理方法を説明できる。		同位体医療薬学		調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 前）院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	7 前）薬局製剤・漢方製剤について概説できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	8 前）医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。				調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	9 医薬品の供給・保管・廃棄について適切に実施できる。					実務実習	実務実習事後学習
	10 医薬品の適切な在庫管理を実施する					実務実習	
	11 医薬品の適正な採用と採用中止の流れについて説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
	12 劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬および覚醒剤原料の適切な管理と取り扱いができる。					実務実習	実務実習事後学習
	13 特定生物由来製品の適切な管理と取り扱いを体験する					実務実習	

F 薬学臨床	講義科目名 1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
⑥安全管理						
1 前）処方から服薬（投薬）までの過程で誤りを生じやすい事例を列挙できる。				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の特徴と注意点を列挙できる				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前）代表的なインシデント（ヒヤリハット）、アクシデント事例を解析し、その原因、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を討議する				薬学疾患管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前）感染予防の基本的考え方とその方法が説明できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 前）衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 前）代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。				調剤学総論	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
7 前）医薬品のリスクマネジメントプランを概説できる。					実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
8 特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、糖尿病治療薬、使用制限のある薬等）の安全管理を体験する。					実務実習	
9 調剤ミスを防止するために工夫されている事項を具体的に説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
10 施設内のインシデント（ヒヤリハット）、アクシデントの事例をもとに、リスクを回避するための具体策と発生後の適切な対処法を提案することができる					実務実習	実務実習事後学習
11 施設内の安全管理指針を遵守する					実務実習	実務実習事後学習
12 施設内で衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションを実施する					実務実習	実務実習事後学習
13 臨床検体・感染性廃棄物を適切に取り扱うことができる					実務実習	実務実習事後学習
14 院内での感染対策（予防、蔓延防止など）について具体的な提案ができる					実務実習	実務実習事後学習
(3)薬物療法の実践						
①患者情報の把握						
1 前）基本的な医療用語、略語の意味を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
2 前）患者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
3 前）身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活用について説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
4 前）基本的な身体所見を観察・測定し、評価できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
5 基本的な医療用語、略語を適切に使用できる				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
6 患者・来局者および種々の情報源（診療録、薬歴・指導記録、看護記録、お薬手帳、持参薬等）から、薬物療法に必要な情報を収集できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	7 患者の身体所見を薬学的管理に活かすことができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	②医薬品情報の収集と活用						
	前）薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 施設内において使用できる医薬品の情報源を把握し、利用することができる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 薬物療法に対する問い合わせに対し、根拠に基づいた報告書を作成できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 医療スタッフおよび患者のニーズに合った医薬品情報提供を体験する。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 安全で有効な薬物療法に必要な医薬品情報の評価、加工を体験する				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 緊急安全性情報、安全性速報、不良品回収、製造中止などの緊急情報を施設内で適切に取扱うことができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	③処方設計と薬物療法の実践（処方設計と提案）						
	1 前）代表的な疾患に対して、疾患の重症度等に応じて科学的根拠に基づいた処方設計ができる。				疾患薬理学Ⅳ 臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）病態（肝・腎障害など）や生理的特性（妊婦・授乳婦、小児、高齢者など）等を考慮し、薬剤の選択や用法・用量設定を立案できる。				疾患薬理学Ⅳ 臨床薬物動態学 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）患者のアドヒアランスの評価方法、アドヒアランスが良くない原因とその対処法を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	薬科処方解析学 臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）皮下注射、筋肉内注射、静脈内注射・点滴等の基本的な手技を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	5 前）代表的な輸液の種類と適応を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	6 前）患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などが評価できる。				疾患薬理学Ⅳ 調剤学総論 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	7 代表的な疾患の患者について、診断名、病態、科学的根拠等から薬物治療方針を確認できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	8 治療ガイドライン等を確認し、科学的根拠に基づいた処方を立案できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
	9 患者の状態（疾患、重症度、合併症、肝・腎機能や全身状態、遺伝子の特性、心理・希望等）や薬剤の特徴（作用機序や製剤的性質等）に基づき、適切な処方を提案できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
	10 処方設計の提案に際し、薬物投与プロトコールやクリニカルパスを活用できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
	11 入院患者の持参薬について、継続・変更・中止の提案ができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	12 アドヒアランス向上のために、処方変更、調剤や用法の工夫が提案できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	13 処方提案に際して、医薬品の経済性等を考慮して、適切な後発医薬品を選択できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	14 処方提案に際し、薬剤の選択理由、投与量、投与方法、投与期間等について、医師や看護師等に判りやすく説明できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	④処方設計と薬物療法の実践（薬物療法における効果 と副作用の評価）						

F 薬学臨床		講義科目名					
		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	1 前）代表的な疾患に用いられる医薬品の効果、副作用に関してモニタリングすべき症状と検査所見等を具体的に説明できる。				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学
	2 前）代表的な疾患における薬物療法の評価に必要な患者情報収集ができる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	薬科処方解析学
	3 前）代表的な疾患の症例における薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で記録できる				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	薬科処方解析学
	4 医薬品の効果と副作用をモニタリングするための検査項目とその実施を提案できる				疾患薬理学Ⅳ 薬学疾患管理学	実務実習	
	5 薬物血中濃度モニタリングが必要な医薬品が処方されている患者について、血中濃度測定の提案ができる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	6 薬物血中濃度の推移から薬物療法の効果および副作用について予測できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	7臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	8 薬物治療の効果について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	9 副作用の発現について、患者の症状や検査所見などから評価できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	10 薬物治療の効果、副作用の発現、薬物血中濃度等に基づき、医師に対し、薬剤の種類、投与量、投与方法、投与期間等の変更を提案できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	
	11 報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した患者情報を正確に記載できる。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
	12 患者の薬物治療上の問題点を列挙し、適切な評価と薬学的管理の立案を行い、SOAP 形式等で適切に記録する。				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
	13 医薬品・医療機器等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる				疾患薬理学Ⅳ	実務実習	実務実習事後学習
	(4)チーム医療への参画						
	①医療機関におけるチーム医療						
	1 前）チーム医療における薬剤師の役割と重要性について説明できる。				薬学疾患管理 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）多様な医療チームの目的と構成、構成員の役割を説明できる。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）病院と地域の医療連携の意義と具体的な方法（連携クリニカルパス、退院時共同指導、病院・薬局連携、関連施設との連携等）を説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 薬物療法上の問題点を解決するために、他の薬剤師および医師・看護師等の医療スタッフと連携できる					実務実習	実務実習事後学習
	5 医師・看護師等の他職種と患者の状態（病状、検査値、アレルギー歴、心理、生活環境等）、治療開始後の変化（治療効果、副作用、心理状態、QOL 等）の情報を共有する。					実務実習	実務実習事後学習
	6 医療チームの一員として、医師・看護師等の医療スタッフと患者の治療目標と治療方針について討議（カンファレンスや患者回診への参加等）する					実務実習	実務実習事後学習
	7 医師・看護師等の医療スタッフと連携・協力して、患者の最善の治療・ケア提案を体験する					実務実習	実務実習事後学習

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	8 医師・看護師等の医療スタッフと連携して退院後の治療・ケアの計画を検討できる。					実務実習	実務実習事後学習
	9 病院内の多様な医療チーム（ICT、NST、緩和ケアチーム、褥瘡チーム等）の活動に薬剤師の立場で参加できる。					実務実習	実務実習事後学習
	②地域におけるチーム医療						
	1前）地域の保健、医療、福祉に関わる職種とその連携体制（地域包括ケア）およびその意義について説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）地域における医療機関と薬局薬剤師の連携の重要性を討議する。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 地域における医療機関と薬局薬剤師の連携を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
	4 地域医療を担う職種間で地域住民に関する情報共有を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
	(5)地域の保健・医療・福祉への参画						
	①在宅(訪問)医療・介護への参画						
	1 前）在宅医療・介護の目的、仕組み、支援の内容を具体的に説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）在宅医療・介護を受ける患者の特色と背景を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）在宅医療・介護に関わる薬剤師の役割とその重要性について説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 在宅医療・介護に関する薬剤師の管理業務（訪問薬剤管理指導業務、居宅療養管理指導業務）を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
	5 地域における介護サービスや介護支援専門員等の活動と薬剤師との関わりを体験する。					実務実習	実務実習事後学習
	6 在宅患者の病状（症状、疾患と重症度、栄養状態等）とその変化、生活環境等の情報収集と報告を体験する。					実務実習	実務実習事後学習
	②地域保健(公衆衛生、学校薬剤師、啓発活動)への						
	1 前）地域保健における薬剤師の役割と代表的な活動（薬物乱用防止、自殺防止、感染予防、アンチドーピング活動等）について説明できる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）公衆衛生に求められる具体的な感染防止対策を説明できる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 学校薬剤師の業務を体験する。					実務実習	
	4 地域住民の衛生管理（消毒、食中毒の予防、日用品に含まれる化学物質の誤嚥誤飲の予防等）における薬剤師活動を体験する。					実務実習	
	③プライマリケア、セルフメディケーションの実践						
	1 前）現在の医療システムの中でのプライマリケア、セルフメディケーションの重要性を討議する。				実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	2 前）代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、適切な対応の選択ができる				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	3 前）代表的な症候に対する薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品の適切な取り扱いと説明ができる。				薬学健康管理学	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ
	4 前）代表的な生活習慣の改善に対するアドバイスができる。				薬学健康管理学 実務実習事前学習	実務実習	臨床薬学総合講義Ⅱ

		講義科目名					
F 薬学臨床		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	5 薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等 をリスクに応じ適切に取り扱い、管理できる					実務実習	実務実習事後学習
	6 来局者から収集した情報や身体所見などに基づき、来局者の病状（疾患、重症度等）や体調を推測できる。					実務実習	実務実習事後学習
	7 来局者に対して、病状に合わせた適切な対応（医師への受診勧奨、救急対応、要指導医薬品・一般用医薬品および検査薬などの推奨、生活指導等）を選択できる					実務実習	実務実習事後学習
	8 選択した薬局製剤（漢方製剤含む）、要指導医薬品・一般用医薬品、健康食品、サプリメント、医療機器等の使用方法や注意点などを来局者に適切に判りやすく説明できる					実務実習	実務実習事後学習
	9 疾病の予防および健康管理についてのアドバイスを体験する。					実務実習	
	④災害時医療と薬剤師						
	1 前）災害時医療について概説できる。				薬学健康管理学	実務実習	
	2 災害時における地域の医薬品供給体制・医療救護体制について説明できる。					実務実習	実務実習事後学習
	3 災害時における病院・薬局と薬剤師の役割について討議する					実務実習	

		講義科目名					
G 薬学研究		1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
	(1)薬学における研究の位置づけ						
	1. 基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	2. 研究には自立性と独創性が求められていることを知る。				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	3. 現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。（知識・技能・態度）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	4. 新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。（態度）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	今日の薬学研究 薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	(2)研究に必要な法規範と倫理						
	1. 自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	2. 研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	3. 正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。（態度）A-(2)-4-3 再掲	薬学概論			総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	(3)研究の実践						
	1. 研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。（知識・技能）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計画を立案する。（知識・技能）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	3. 研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。（技能・態度）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	4. 研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。（知識・技能・態度）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	5. 研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。（知識・技能・態度）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ
	6. 研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。（技能）				総合薬学演習 （含む薬学研究基礎）	薬学研究Ⅰ	薬学特別研究 薬学研究Ⅱ

Ⅸ

学籍について

● 学籍について

学籍について

1 学籍とは

学籍とは、本学に入学することによって取得するものであり、本学の学生（在籍者）であることを意味します。また、卒業・退学・除籍となった場合は、離籍となります。

2 休学

病気、その他やむを得ない事情で長期にわたり欠席しようとする場合は、下の【休学届出期間】内に届け出ることにより１年単位（通年）または各学期単位（前期・後期）で休学することができます（医学部医学科および薬学部は原則１年単位）。

休学を届け出る場合は、「休学に必要な費用」の納入、および本学所定の「休学届」の提出が必要です。（学則第25条）

【休学届提出までの流れ】

① 所属学部の事務部署に申し出て、休学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
② 面談後に、「休学届」を教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で受け取り、記入してください。「休学に必要な費用」の納入、保証人（父母等）の署名が必要です。
③ 「休学届」を下の【休学届出期間】内に、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）へ提出してください。

【休学届出期間】

<table>
<tr><th>学部(学科)</th><th>制度</th><th>休学期間</th><th>休学届出期間
（※１）</th><th>休学に必要な費用（※２）</th></tr>
<tr><td rowspan="3">人文
法
経済
商
商二部
理
工
医(看護)
スポーツ科</td><td>通年休学</td><td>2025年４月１日
～
2026年３月31日</td><td rowspan="3">2025年２月１日
～
2025年５月31日</td><td>在籍料
委託徴収金</td></tr>
<tr><td>前期休学</td><td>2025年４月１日
～
2025年９月13日</td><td>在籍料（半期分）
委託徴収金</td></tr>
<tr><td>後期休学</td><td>2025年９月14日
～
2026年３月31日</td><td>2025年７月１日
～
2025年10月31日</td><td>在籍料（半期分）</td></tr>
<tr><td>医(医)</td><td rowspan="2">通年休学</td><td rowspan="2">2025年４月１日
～
2026年３月31日</td><td rowspan="2">2025年２月１日
～
2025年10月31日</td><td>在籍料
委託徴収金
医学部医学科における特別教育充実費</td></tr>
<tr><td>薬</td><td>在籍料
委託徴収金</td></tr>
</table>

※１　休学届出期間の最終日が土日祝にあたる場合は、その直前の事務窓口対応日までに提出してください。
※２　「休学に必要な費用」に関しては、p. 230、p. 232～238を参照。
入学年度で異なりますが、およそ学費の１/３程度の金額となります。

【注意事項】
・提出した「休学届」は撤回できません。
・入学年度の前期については原則として休学をすることができません。
・休学できる期間は、学部に関係なく通算して４年を超えることができません。

休学期間は、在学期間への算入、単位の認定や卒業はできません。大学を卒業するには休学期間以外に４年以上の在学期間が必要となります（医学部医学科および薬学部は６年以上）。なお、半期休学期間終了後において、卒業をするために必要な科目が履修できない場合は、半期以上卒業が延期される可能性があります。（学則第25条、第33条の５の６）

3 復学

休学期間終了に際し、休学の理由が解消された場合または引続き休学する場合は、下の【復学届出期間】内に、教務一課に「復学届」または「休学届」を提出してください。「復学届」、「休学届」は下の【復学届出期間】内に保証人（父母）宛に郵送します。万が一、届かない場合は早急に教務一課に連絡してください。

休学後に退学する場合は、まず所属学部の事務部署に申し出てください。面談後、教務一課（商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署）で「退学届」をお渡しします。

なお、下の【復学届出期間】内に「復学届」「休学届」「退学届」のいずれも提出しない場合は除籍になりますので注意してください。（学則第25条、第28条）

【復学届出期間】

<table>
<tr><th>学部(学科)</th><th>制度</th><th>休学期間</th><th>復学届出期間</th><th>復学日</th></tr>
<tr><td rowspan="3">人文
法
経済
商
商二部
理
工
医(看護)
スポーツ科</td><td>通年休学</td><td>2025年４月１日
～
2026年３月31日</td><td>2026年２月１日
～
2026年２月下旬</td><td>2026年４月１日</td></tr>
<tr><td>前期休学</td><td>2025年４月１日
～
2025年９月13日</td><td>2025年７月下旬
～
2025年８月下旬</td><td>2025年９月14日</td></tr>
<tr><td>後期休学</td><td>2025年９月14日
～
2026年３月31日</td><td rowspan="2">2026年２月１日
～
2026年２月下旬</td><td rowspan="2">2026年４月１日</td></tr>
<tr><td>医(医)
薬</td><td>通年休学</td><td>2025年４月１日
～
2026年３月31日</td></tr>
</table>

4 退学

諸事情で大学を退学する場合は、本学所定の「退学届」の提出が必要です。(学則第27条)

【退学届提出までの流れ】

① 所属学部の事務部署に申し出て、退学の理由等を説明してください。必要に応じて、面談を行います。
② 面談後に、「退学届」を教務一課(商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署)で受け取り、記入してください。保証人(父母等)の署名が必要です。
③ 「退学届」を教務一課(商学部第二部・医学部の学生は所属学部の事務部署)へ提出してください。

【注意事項】

・提出した「退学届」は撤回できません。
・退学時の学期の学費または休学に必要な費用が未納の場合は、退学できません。

【退学届出期間】

退学届出期間	納入が必要な学費		退学日
	第1期(前期)	第2期(後期)	
4月1日～4月下旬(※)	× (新入生は必要)	×	前年度後期末日付(前年度3月31日付) ＊新入生は、前期末日付(9月13日付) または受理月末付
5月1日～8月31日	必要	×	前期末日付(9月13日付)または受理月末付
9月1日～9月下旬(※)	必要	×	前期末日付(9月13日付)
10月1日～翌年3月下旬(※)	必要	必要	後期末日付(3月31日付)または受理月末付

※退学届出期間は年度によって異なりますので、早めに教務一課に問い合わせてください。

退学を考えるその前に

●学費を支払うことができない
⇒学生課で奨学金や提携教育ローンについての相談ができます。
●学部、学科を変更したい
⇒転部・転科の制度があります。p.416「転部・転科」を参照してください。
●退学か休学か迷っている
⇒所属学部の事務部署や学生課、学生心理相談室など、あなたが話しやすい窓口へ相談してください。休学や退学を回避するためのサポートができるかもしれません。

ひとりで悩まず相談を！

5 除籍

除籍とは、本人の意思にかかわらず離籍することです。次に該当する者に対して除籍を行います。(学則第28条)

・授業料等納入金を納入しない者
・成績不振等で成業の見込みがないと認められる者
・休学期間満了時に、正当な理由がなく復学、休学又は退学のいずれの手続も行わない者

6 再入学

本学を退学した、または除籍となった学生が再び本学で学業を継続することができるように、「再入学」の制度を設けています。入学時から起算して８年（医学部医学科および薬学部は12年）を超えない限り、退学した、または除籍となった時点において所属していた学部学科に再入学を願い出ることができます。

再入学の可否は、必要に応じて、学力検査および面接を行い決定します。

出願資格など詳細については、教務一課に問い合わせてください。

7 転部・転科

本学の学生が、学生生活を通して、自分の進路に変化が生じた場合、ある一定の条件を満たせば、進路変更の機会が与えられる制度です。

所属している学部から別の学部へ転部を希望する、あるいは同学部内で別の学科へ転科を希望する場合、欠員のあるときに限り、希望する学部学科が提示する条件を満たした上で、毎年３月初旬に行われる転部・転科試験において、在学中の成績や試験の結果を総合的に選考し、これを許可することがあります。

なお、第２年次以上の法学部内の転科、医学部医学科・看護学科、薬学部への転部・転科制度はありません。

出願資格や選考方法等については、11月頃に転部・転科試験説明会を開催しますので、希望する学生は必ず出席してください（９月上旬からオンデマンド配信型の事前説明会も実施します）。

説明会の開催については、FU ポータルにてお知らせします。詳細については、教務一課に問い合わせてください。

8 氏名・性別・国籍等の学籍情報変更

学籍情報（氏名・性別・国籍等）の変更には、本学所定の「学籍情報変更届」の提出が必要です。

「学籍情報変更届」は、教務一課で配付します。提出する際には、変更の事実が確認できる公的書類（運転免許証、戸籍抄本、住民票等）を添付してください。

学生証の氏名変更は、教務一課で「学籍情報変更届」の写しを受け取り、学生課で手続をしてください。

9 住所変更・保証人変更

本人および父母や保証人（学費負担者）の住所などの情報に変更が生じた場合は、速やかに学生本人が FU ポータルのカテゴリ「共通」にある「プロフィール情報修正」で修正してください。事務室での変更はできませんので注意してください。

Web プロフィールは、大学から皆さんに連絡をとる際や、郵送物を送る際に使用する情報です。常に最新の情報を登録してください。

履修登録の手引

FUKUOKA UNIVERSITY

目　　次

1 履修登録の流れ……1

1-1 履修登録スケジュール表……2

1-2 履修登録用紙（下書き用）……3

1-3 Web プロフィール（下書き用）……4

2 履修登録を行う前に必ず実施すること……5

3 履修登録について……6

4 「FU ポータル」にログイン……7

5 履修登録の開始……9

6 履修登録の画面説明……11

7 制限科目（抽選・先着順）の申請……13

8 履修科目の選択……15

8-1 曜日・時限から履修科目を選択……15

8-2 科目群から履修科目を選択……16

8-3 集中講義科目等を選択……17

9 履修科目の申請……18

10 その他の操作……19

11 登録科目の詳細の表示……20

12 卒業（進級）見込予測チェックの実行・結果参照……21

13 授業科目確認表作成・印刷……23

14 時間割表（教室割）照会……26

付録①　履修申請時エラー一覧表……28

付録②　Web プロフィールを事前登録する方法……29

付録③　シラバスの閲覧方法について……31

付録④　休講・補講情報の確認方法……33

付録⑤　よくある質問Q＆A……35

1 履修登録の流れ

履修登録の詳細はFUポータル「Web履修登録」→履修登録の手引を参照ください。

事前準備

- 「FU ポータル」にログインする（P. 7 参照）
- 履修計画を立てる
  - 学修ガイドや学部から配付される資料などをよく読んで「授業時間割」、「試験時間割」、「Webシラバス」をもとに自分の履修計画をたてましょう。
- 「スタートアップ授業」を確認する
  - シラバスの「スタートアップ授業」のリンクにアクセスすると、各授業科目の詳細が確認できます。履修科目を選ぶ際に、自分が受けたい授業の内容について深く知るために活用しましょう。
  - ※シラバスの閲覧方法は P. 31の付録③を参照してください。
- Web プロフィールの入力
  - 履修登録をスムーズに行うため、履修登録期間前に入力しておきましょう。
  - ※入力方法は P. 29 の付録②を参照してください。
- アンケートの入力（新入生のみ）

制限科目登録期間

- 制限科目の申請をする
  - 制限科目を履修する場合は申請が必要です。詳しくは、『学修ガイド』の全学部共通留意事項・各学部留意事項、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程　履修の手引』の該当部分を参照してください。
- YES
  - 制限科目（抽選・先着順）を申請する（P. 13～14 参照）
- NO

履修登録期間

- 履修科目を登録する
  - 履修登録の画面についてわからない場合は、P. 11 『履修登録の画面説明』を参照してください。
- 授業科目確認表を作成・印刷する（P. 23 参照）
  - 登録作業が済んだら、必ず授業科目確認表を印刷して、登録した内容に間違いがないか確認してください。

開講前

- 第 1 回目の授業として「スタートアップ授業」を受講する（P. 31 参照）
  - スタートアップ授業を行う科目では、第 1 回目の授業は遠隔授業（オンデマンド）で行われます。履修科目のシラバスのリンクにアクセスし、『スタートアップ授業』を必ず視聴してください。
- 時間割表（教室割）を照会する（P. 26 参照）
  - 授業教室は開講日の前日までに FU ポータルでお知らせします。 あらかじめ確認して登学してください。

1-1 履修登録スケジュール表（学部・学科別）

毎年、20：00以降の夜間利用、特に最終日前日や前々日に履修登録アクセスが集中し、サーバ負荷により「スムーズな履修登録ができない」、「履修登録画面に繋がらない」状況が多数発生しています。最終日は指定学部以外は履修登録を行うことができません。
※卒業や進級に関わる重要科目の登録忘れや履修登録エラーのままで終了しているケースが発生しています。
※上記の日程以外の登録は、原則認められません。
登録アクセスが集中しない昼間の指定時間を有効に活用し、早めの申請を心がけてください。

在学生

時限	3/21(金)・22(土)・23(日)	3/24(月)	3/25(火) 学部	3/25(火) 年台	3/26(水) 学部	3/26(水) 年台	3/27(木) 学部	3/27(木) 年台	3/28(金) 学部	3/28(金) 年台
【1限】9:00開始	制限科目登録 ※詳細は学修ガイド参照	全学部利用可能	開始時間：9：00							
			J 24台以前 S 24台以前 G 24台以前		L 24台以前 MN 24台以前 P 24台以前		E 24台以前 C 24台以前 T 24台以前		S 24台以前 G 24台以前	
【2限】10:40開始			終了時間：12：10							
【3限】13:00開始			開始時間：13：00							
			L 24台以前 MN 24台以前 P 24台以前		E 24台以前 C 24台以前 T 24台以前		J 24台以前 S 24台以前 G 24台以前		E 24台以前	
【4限】14:40開始			終了時間：16：10							
【5限】16:20開始			開始時間：16：20							
			E 24台以前 C 24台以前 T 24台以前		J 24台以前 S 24台以前 G 24台以前		L 24台以前 MN 24台以前 P 24台以前			
【6限】18:00開始			終了時間：19：30							
20:00～25:00			開始時間：20：00							
			J E BB S T P MN 24台以前		L C BB T MN P G 24台以前		L J E C BB S G 24台以前		L J C BB T MN P 24台以前	
			終了時間：25：00							

新入生

時限	4/3(木)・4/4(金)	4/5(土) 学科	4/5(土) 年台	4/6(日) 学科	4/6(日) 年台
【1限】9:00開始	制限科目登録 ※詳細は学修ガイド参照	開始時間：9：00			
		JB 25 PP 25 MM 25		CC 25 CB 25	
		(対象者583人)		(対象者534人)	
【2限】10:40開始		終了時間：10：30			
		開始時間：10：40			
		JJ 25 SC 25 SE 25		CF 25 LJ 25 LP 25 LE 25 LA 25	
		(対象者611人)		(対象者567人)	
【3限】13:00開始		終了時間：12：10			
		開始時間：13：00			
		SM 25 SP 25 GS 25 GH 25 MN 25		LC 25 LH 25 LG 25 LF 25 EI 25	
		(対象者584人)		(対象者517人)	
【4限】14:40開始		終了時間：14：30			
		開始時間：14：40			
		TK 25 TC 25 TA 25		EE 25	
		(対象者363人)		(対象者506人)	
【5限】16:20開始		終了時間：16：10			
		開始時間：16：20			
		TM 25 TE 25 TL 25		全学部利用可能	
		(対象者407人)			
【6限】18:00開始		終了時間：17：50			
		開始時間：18：00			
		BB 25			
		(対象者182人)			
20:00～25:00		終了時間：19：30			
		開始時間：20：00			
		全学部利用可能			
		終了時間：25：00			

□ の時間帯は、アクセスが集中した場合、スムーズな履修登録ができない可能性があります。
■ の時間帯は登録不可。
※指定された学部学科のみ履修登録メニューが表示されます。
●20：00～25：00の学部回数は、3／28の1～4限の理・スポーツ科・経済学部を含めて各学部3回とした（商学部二部は4回）。
●新入生の対象者数は定員数の1.10倍で記載。

授業科目履修表

※あらかじめ記入して履修登録に臨んでください。

		月	火	水	木	金
		授業科目	授業科目	授業科目	授業科目	授業科目
1限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
2限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
3限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
4限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
5限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
6 二部1限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
二部2限	前期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
	後期	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）
集中講義 ・ その他		期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	
		担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	
		期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	期別(　　)・期間(　月　日～　月　日)	
		担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	担当者（　　）	

①既得単位数	
②今年度登録単位数	
①+②合計	

※課程科目・随意科目の単位は除く

1-2 履修登録用紙（下書き用）

事前準備

重要

3

1-3 Webプロフィール（下書き用）

事前準備 ☜重 要

※履修登録は、「Webプロフィール」の入力を完了しなければ、履修科目の登録ができません。
あらかじめ、下記のWebプロフィール下書き用紙を作成し、事前に入力をしてください。あなたの住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することができます。

プロフィール情報入力項目（下書き用）

◆ 必須項目〈※〉は必ず入力してください。未記入の項目を残した場合は、後日必ず訂正してください。
◆ この他に、本人の生活情報（課外活動、技能、資格など）や就労に関する情報を入力する画面があります。

【緊急連絡先】

連絡先	※	
電話番号（携帯電話）	※	－　－　（内線　）

【学生本人に関する情報】

郵便番号	※	〒
都道府県	※	
市区町村	※	
町名番地	※	
マンション・アパート名		
電話番号	※（いずれか）	－　－　（内線　）
携帯電話	※（いずれか）	－　－
通学手段	※	

※「父母・保証人情報」、「学費負担者に関する情報」は大学からの案内・連絡等に使用しますので正確に記載し入力してください。

【父母・保証人に関する情報】

※留学生は入学時に提出した日本の保証人を記入してください。

氏名	※	姓　名
郵便番号	※	〒
都道府県	※	
市区町村	※	
町名番地	※	
マンション・アパート名		
電話番号	※（いずれか）	－　－　（内線　）
携帯電話	※（いずれか）	－　－

【学費負担者に関する情報】

※「父母・保証人」「本人情報」と同じ場合は入力は不要

氏名		姓　名
郵便番号	※	〒
都道府県	※	
市区町村	※	
町名番地	※	
マンション・アパート名		
電話番号	※（いずれか）	－　－　（内線　）
携帯電話	※（いずれか）	－　－

キリトリ

2 履修登録を行う前に必ず実施すること

大学から学生一人ひとりに割り当てるメールアドレスは、履修登録の確認、修正等の連絡手段の一つとなっています。履修登録を行う前に必ず設定を確認しましょう。

〔メールについて〕

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大 ID のアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

アカウント名@cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号（小文字）：例　ee250001

◆　「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。

Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook

3 履修登録について

(1) 履修登録

履修登録は、FUポータルで行いますが、これには以下のような利点があります。

・インターネット環境があれば、自宅など学外からも登録手続きを行うことができます。
・登録しながら、卒業(進級)見込予測、登録エラーを確認することができます。
・シラバスで授業内容を参照、またスタートアップ授業を視聴してから履修登録が行えます。

(2) 履修登録の期間

履修登録は、学部学科（年台）別に履修登録できる日時が決められています。必ずP.2の「履修登録スケジュール表」を確認してください。

(3) 制限科目の申請

制限科目の申請期間は、科目毎に異なります。『学修ガイド』（Ⅳ.履修の手引）を確認の上、申請してください。選考結果は履修画面に表示されます（一部の制限科目を除く）。

(4) 事前準備について

必修科目・選択必修科目をP.3の「履修登録用紙（下書き用）」に記入し、時間割上で埋めた後、授業時間割とシラバスを参照して自分が受講する科目を決めてください。科目区分等の説明やシラバを見るポイントなどは、別冊「福大生のための学習ナビ」を参照してください。

(5) FUプラスアップ授業について

FUプラスアップ授業には、「スタートアップ授業」と「中間フォローアップ授業」の2種類があり、授業は、オンデマンドの動画形式で実施されます。その授業のＦＵプラスアップ授業が「スタートアップ授業」なのか、「中間フォローアップ授業」なのかは、シラバスの「授業計画」の欄で確認できます。

「スタートアップ授業」は、第1回目の授業となり、履修登録期間前の3月上旬から1年間、いつでも視聴可能で、履修登録をしていない授業でも閲覧できます。また、その授業がどのような授業なのかについての説明も含んだ内容になっているので、履修科目を選ぶ際に、自分が受けたい授業の内容について深く知るために活用することができます。

(6) 課程科目の履修登録

教職課程、博物館学芸員課程、社会教育主事課程は、別冊『教職課程・博物館学芸員課程・社会教育主事課程履修の手引』を参照の上、履修登録を行ってください。日本語教員課程についてはFUポータルのお知らせで登録方法を確認してください。

(7) アカウントとパスワード

「FUポータル」にログインするには、『福大ID』と呼ばれる「アカウント名」と「パスワード」が必要です。

(8) 漢字の表示について

履修登録における氏名等の漢字表記について、JIS第1水準・第2水準文字が適用されます。

4 「FU ポータル」にログイン

履修登録申請をするには、まず福岡大学「ＦＵポータル」システムにログインします。「ＦＵポータル」は、福岡大学がWeb上で提供している様々なサービスを受ける入口となるページです。インターネットブラウザ を起動し、「アドレス」 欄に、次のアドレスを入力して接続してください。

https://portal.fukuoka-u.ac.jp/

アカウント名：学籍番号（小文字）
（例：ee250001）

入学時（４月）に配付される仮パスワードの有効期限は、その年の５月末です。直ちにパスワードの変更を行ってください。

【 重 要！】

学外から福岡大学の情報システム『FU ポータル』および『FU__box』にアクセスする際は、アカウント名とパスワードの入力に加えて**「ワンタイムパスワード」**の入力が求められます。

入学式後に履修関係書類と一緒に配付される情報基盤センター発行の**「福岡大学情報処理システム USERS’ GUIDE 利用の心得 編」**にパスワードの変更方法やワンタイムパスワードの設定方法が記載されていますので、履修登録が始まる前までに、必ず確認してくさい。

ワンタイムパスワードの発行は「メール認証」と「トークン」の2種類があります。

ワンタイムパスワード入力画面です。発行されるワンタイムパスワードは6桁の数字となっています。

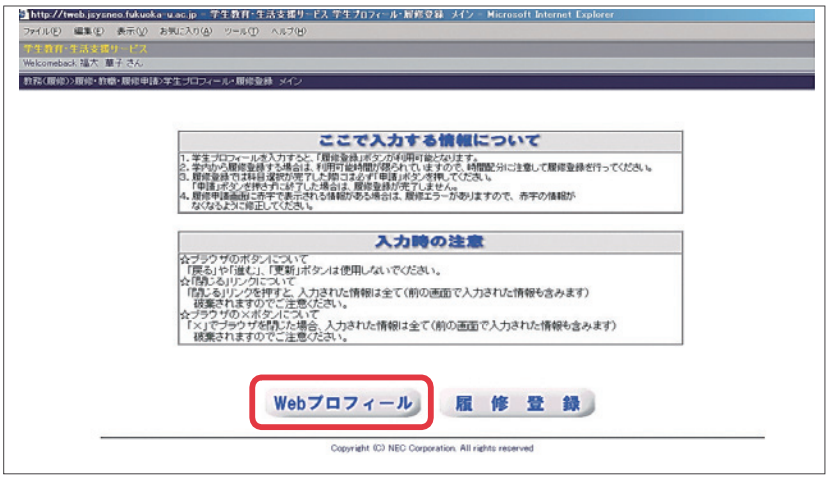
「FUポータル」画面にある「履修登録」を選択するとメニューに「Web履修登録」が表示されます。

項　目	概　　要
履修申請	Web プロフィールの入力およびアンケートの回答後、履修登録ができます。 （アンケートは新入生と3年生のみ表示されます。） ※制限科目申請期間は、「Web プロフィール」入力画面は表示されません。 ※登録したら、即座に卒業（進級）見込予測のチェックが可能です。 （卒業・進級の判定が必要ない人には、予測ボタンは表示されません。）
授業科目確認表作成	授業科目確認表（PDF 形式）のダウンロードと印刷ができます。
時間割表（教室割）照会	自分が登録した時間割表（教室割）の表示とPDF 形式でのダウンロード・印刷ができます。

5 履修登録の開始

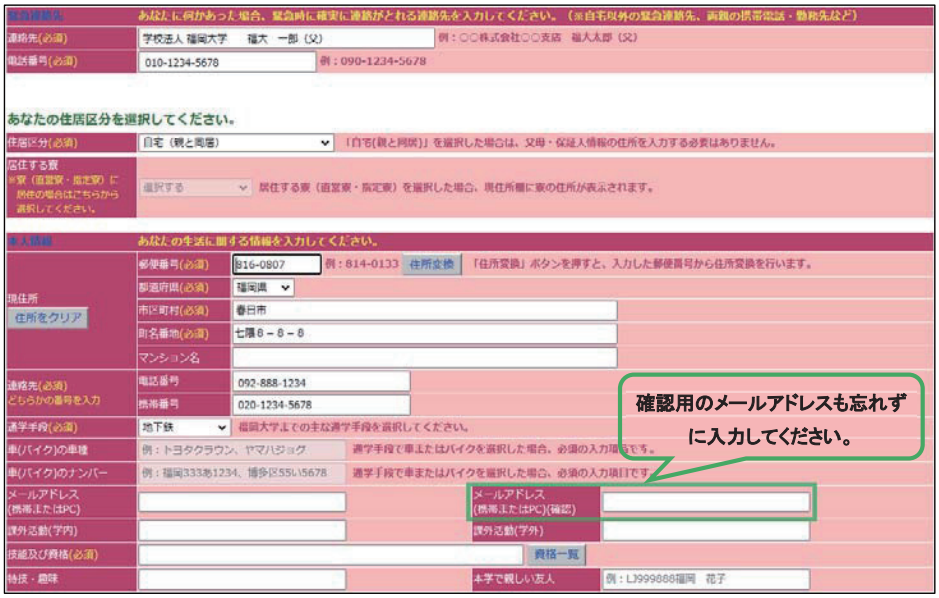
重 要

必ずP.3、4の事前準備を行ったうえで、履修登録に臨んでください。
Webプロフィールの入力をしなければ、履修登録を行うことができません。
履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめWebプロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。（P.29参照）



Webプロフィールを入力してください。

※ここで入力する情報は、大学からの連絡や資料（成績や学費に関する資料等）発送、事件・事故発生時の緊急連絡などに利用しますので、正確に登録してください。
※住所や電話番号の登録にあたっては、あなたが提出した志願情報を利用して登録することもできます。
※住居区分の「自宅（親と同居）」を選択すると、保証人の住所など自動的に入力されます。
※メールアドレスは、確認用も入力が必要です。



「Webプロフィール」の画面は、表示された項目の登録が終わると、確認画面へ進みますので、入力内容の確認を行ってください。全て完了したら最後に「登録する」ボタンをクリックしてください。

〔新入生のみ〕

Webプロフィールの入力終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。
アンケートは後日回答することもできます。その場合は「回答しない」ボタンを押して履修登録に進んでください。

表示されたアンケートに回答し、全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

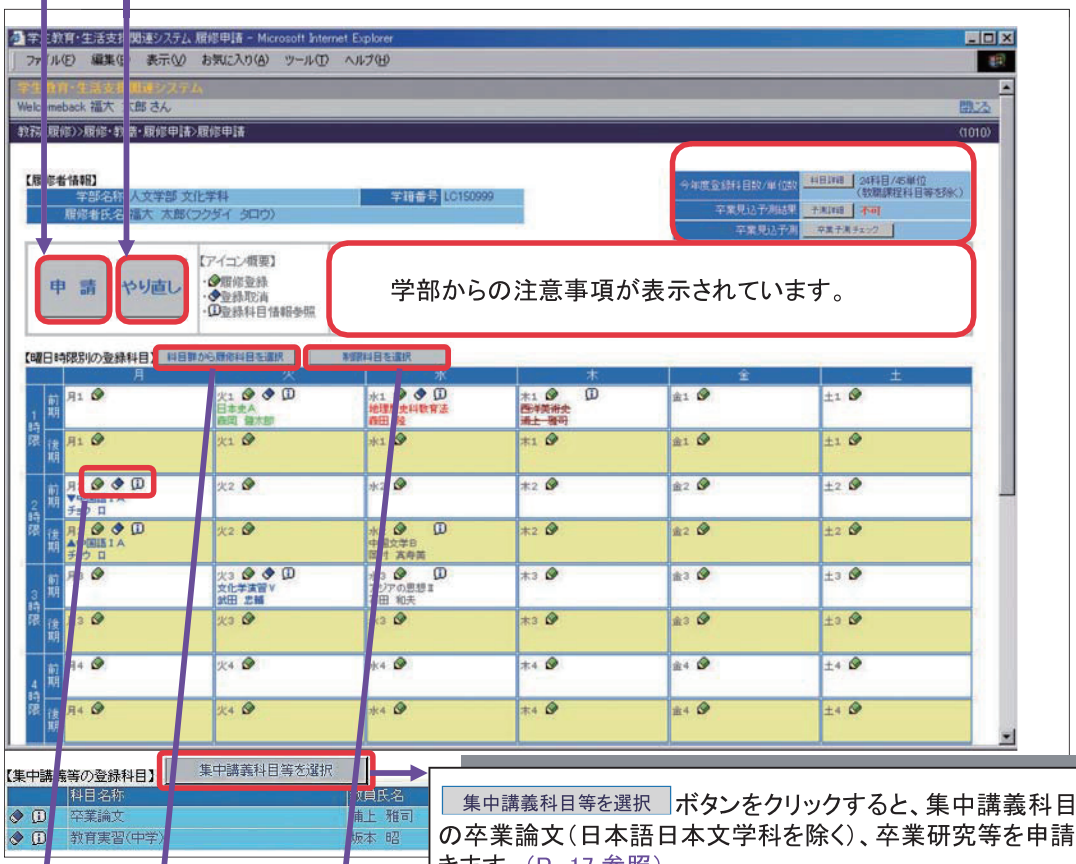
次に履修登録を進めてください。

6 履修登録の画面説明

「Web履修登録」メニューの 履修申請 をクリックします。P.9の画面が表示されますので「履修登録」をクリックします。履修登録の初期画面の詳細は次のとおりです。

申請 ボタンをクリックすると選択(緑色で表示)した科目が登録され青色で表示されます。また、 で取消をした科目(茶色〈取消線付き〉)は再度 申請 ボタンをクリックすることで完全に取り消されます。

やり直し ボタンをクリックすると、前回「申請」ボタンをクリックした直後の状態に戻ります。



集中講義科目等を選択 ボタンをクリックすると、集中講義科目・人文学部の卒業論文(日本語日本文学科を除く)、卒業研究等を申請することができます。(P. 17 参照)

制限科目を選択 ボタンをクリックすると制限科目を申請することができます。(P. 13 参照)

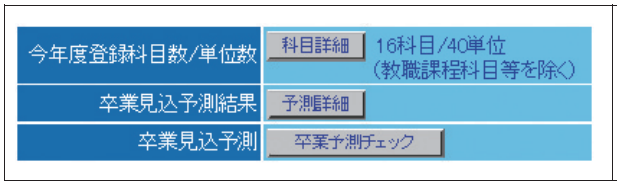
科目群から履修科目を選択 ボタンをクリックすると曜日時限に限らず科目一覧から科目を選択できます。(P. 16 参照)

アイコン	説　　明
履修登録(鉛筆)	曜日時限から履修科目を選択します。 をクリックすると、その曜日時限での履修登録ができます。
登録取消(消しゴム)	選択(緑色で表示)状態で をクリックすると削除されます。申請(青色で表示)状態で をクリックすると(茶色〈取消線付き〉)で表示されます。その場合、申請 ボタンをクリックしないと削除は完了できませんので注意してください。
登録科目情報参照	をクリックすると、科目の科目区分(分野)名、単位、曜日時限、担当者を表示します。

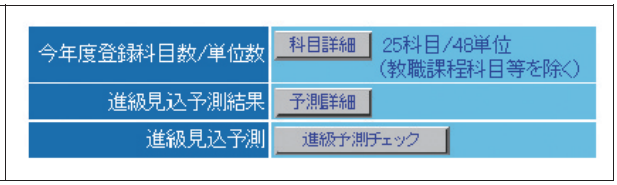
画面説明の続き（前ページ画面右上の説明です）

通常の場合（登録科目数／単位数） 科目詳細 **ボタンのみ表示されます。**

卒業見込判定対象者の場合



進級見込判定対象者の場合



ボタン等の説明

ボタン等	説　明
今年度登録科目数/単位数	申請科目（画面上に表示している科目）の科目数/単位数を表示します。（教職課程科目等を除く）
科目詳細	「既得科目一覧」および「単位集計一覧」を表示します。 （P. 20 参照）
卒業予測チェック 進級予測チェック	卒業（進級）見込予測チェックを実行します。（P. 21参照）
予測詳細	卒業（進級）見込予測チェックの結果を見ることができます。 「卒業見込予測」もしくは「進級見込予測」が「可」の場合は**「見込」**とボタンの横に表示されます。（予測実行後クリック可能となります）「不可」の場合は**「不可」**と表示されます。（P. 21参照）

科目の画面上の表示について

登録状態により、科目名称および担当者の文字色がかわります。

文字色	登録科目の状態	
青	申請中	履修申請が完了しています。制限科目の場合は、抽選結果によって文字色が変わります。（P. 14参照）
赤	登録エラー	登録に何らかの問題があります。やり直してください。
茶（取消線付き）	取消	登録を一時取り消した状態です。（まだ削除されていません） ⇒「申請」ボタンをクリックすると完全に削除します。
緑	選択中	科目を選択した状態です。（まだ決定ではありません） ⇒「申請」ボタンをクリックすると申請（決定）します。
灰	登録確定	履修申請期間が終了しているか、事前登録されています。 登録科目は履修取消できません。

〔注意〕申請画面において、画面を複数立ち上げたり、ブラウザの「戻る」ボタンで操作しないでください。

7 制限科目（抽選・先着順）の申請

制限科目受講者の選考

抽選、先着順の取り扱いや選考結果の発表等は科目によって異なりますので、必ず学修ガイドの「Ⅳ. 履修の手引」を参照してください。

- 先着順：定員になり次第締め切ります。登録エラーの表示（赤色で表示）が出なければ、登録は完了となります。
- 抽選：結果発表日は学修ガイドの「Ⅳ. 履修の手引」を参照して必ず結果を確認してください。抽選が外れた場合は、その科目を削除する必要があります。

※自動的に削除されません。必ず で削除してください。

「Web履修登録」メニューの 履修申請 をクリックします。
※登録制限を実施する科目については、決められた期間に登録画面で申請をする必要があります。
各学部の履修可能な制限科目については、学修ガイドの「Ⅳ.履修の手引」を参照してください。

制限科目を選択する場合

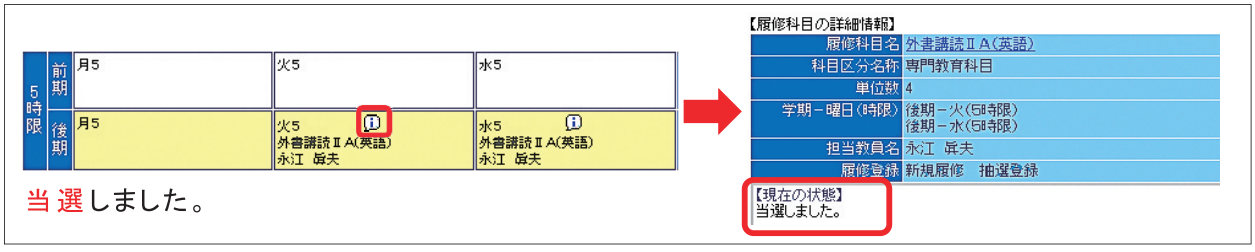
画面の 制限科目を選択 をクリックすると、申請可能な科目の一覧が表示されます。

科目一覧より履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠) をクリックし、▼選択 ボタンをクリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中（緑色で表示）となります。その後、申請 ボタンをクリックすると、科目名称・担当者名が申請中（青色で表示)、またはエラー（赤色で表示）となります。

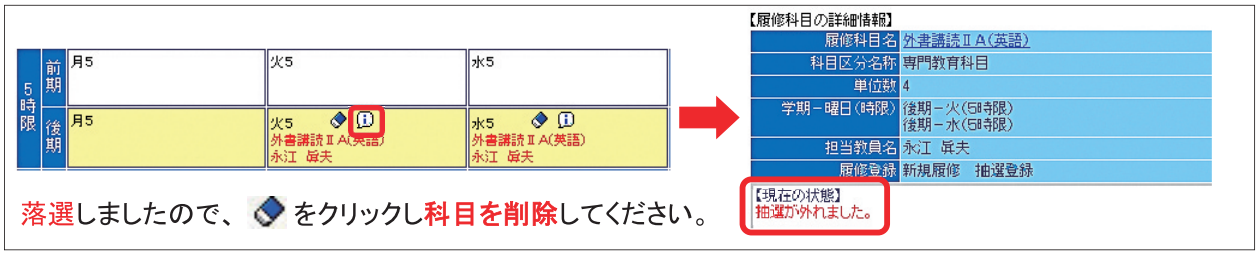
制限科目の選考結果を確認する場合

科目毎に指定された結果発表期間に応募した科目の ⓘ をクリックしてください。当選した場合「当選しました。」と表示されます。抽選が外れた場合「抽選が外れました。」と赤字で表示されます。

【当選の場合】



【抽選が外れた場合】



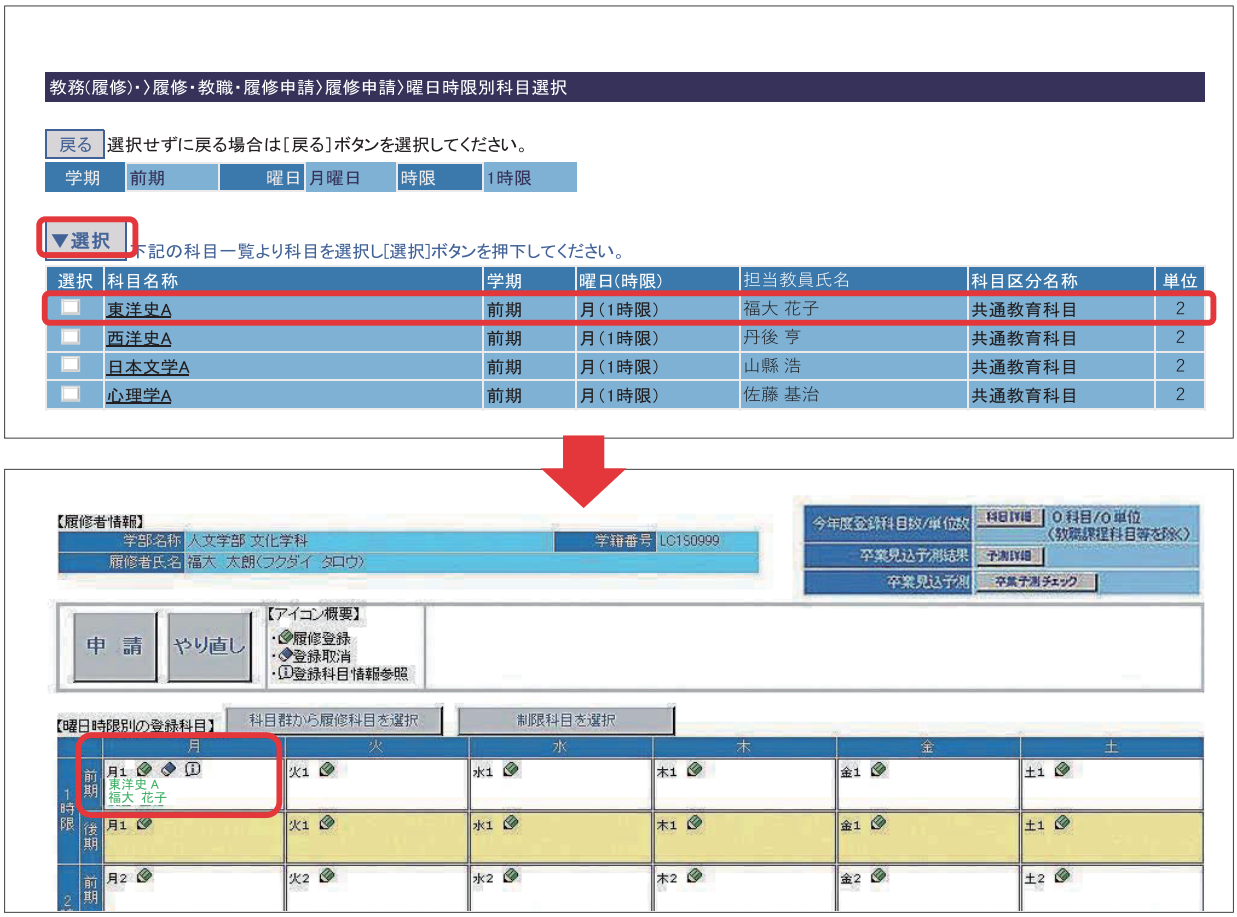
8 履修科目の選択

8-1 曜日・時限から履修科目を選択

曜日・時限から履修科目を選択する場合は、受講したい曜日・時限枠内の をクリックします。

※この例では月曜日、1時限の「東洋史A」を登録します。

履修可能な科目の一覧が画面に表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」(「選択」の枠) をクリックし、▼選択 ボタンをクリックします。クリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中（緑色で表示）となります。

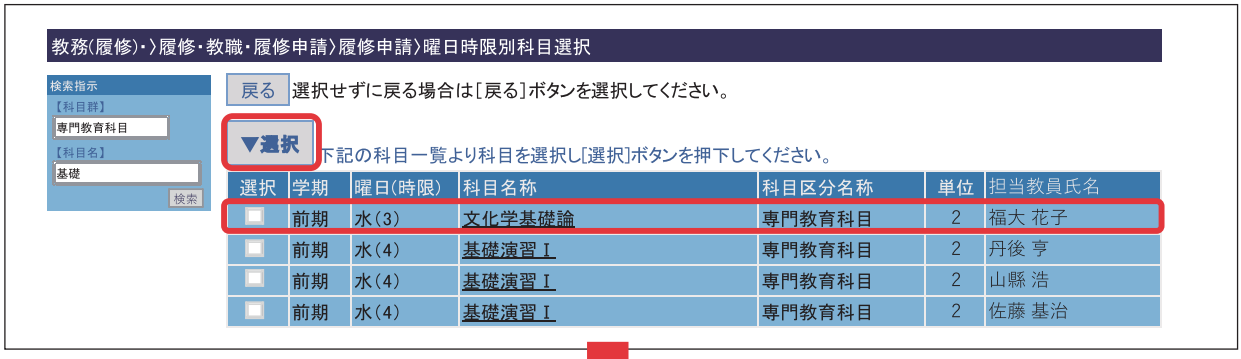


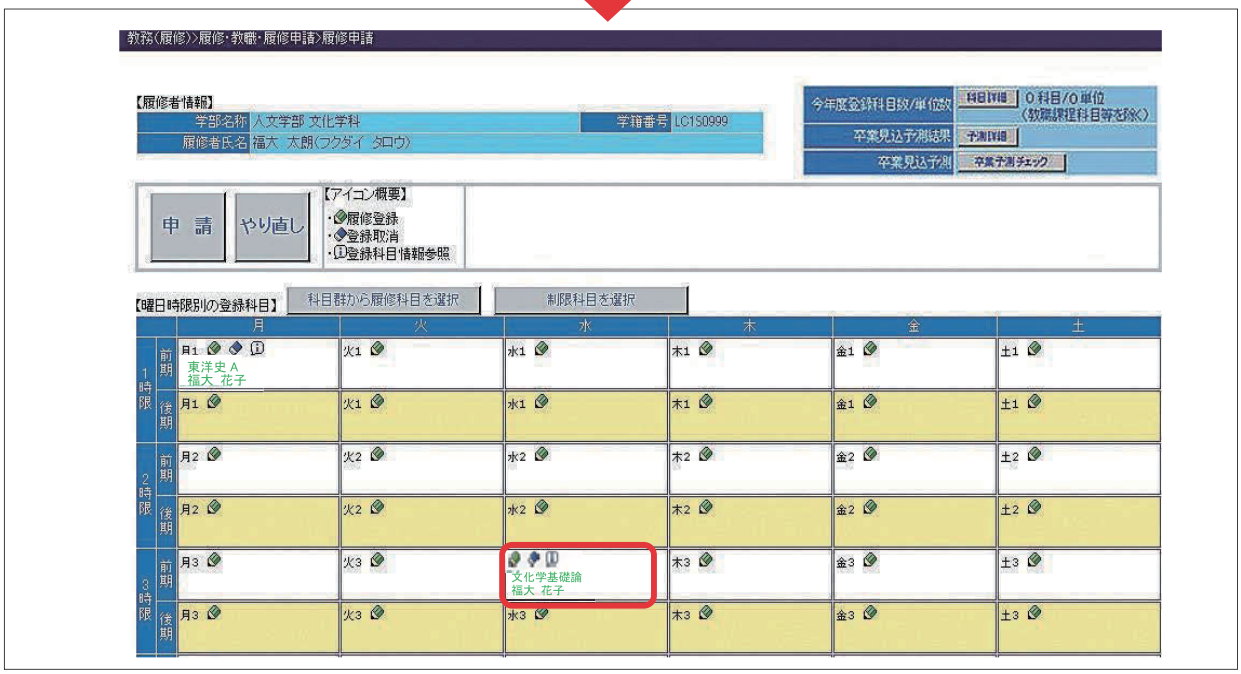
8-2 科目群から履修科目を選択

科目群から履修科目を選択する場合は、画面の 科目群から履修科目を選択 ボタンをクリックします。

※この例では水曜日、3時限の「文化学基礎論」を登録します。

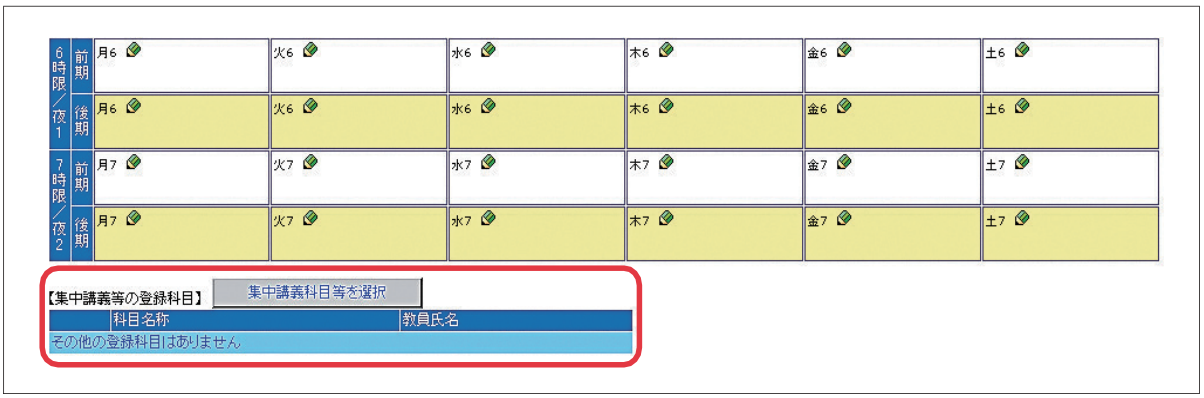
次の画面が表示されますので、左上の「検索指示」画面に検索条件を入力し「検索」ボタンをクリックします。「科目名」は必ず入力してください（あいまい検索可能）。検索条件にあった科目の一覧が表示されます。履修を希望する科目の「チェックボックス」（「選択」の枠）をクリックし、▼選択 ボタンをクリックします。クリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中（緑色で表示）となります。





8-3 集中講義科目等を選択

集中講義科目等を選択する場合は、画面の最下部にある「【集中講義等の登録科目】」の 集中講義科目等を選択 ボタンをクリックします。
※この例では「教育実習（中学）」を登録します。



履修を希望する科目の「チェックボックス」（「選択」の枠）をクリックし、 ▼選択 ボタンをクリックします。クリックするともとの画面に戻り、科目名称・担当者名が選択中（緑色で表示）となります。

「データサイエンス・AI 入門」について

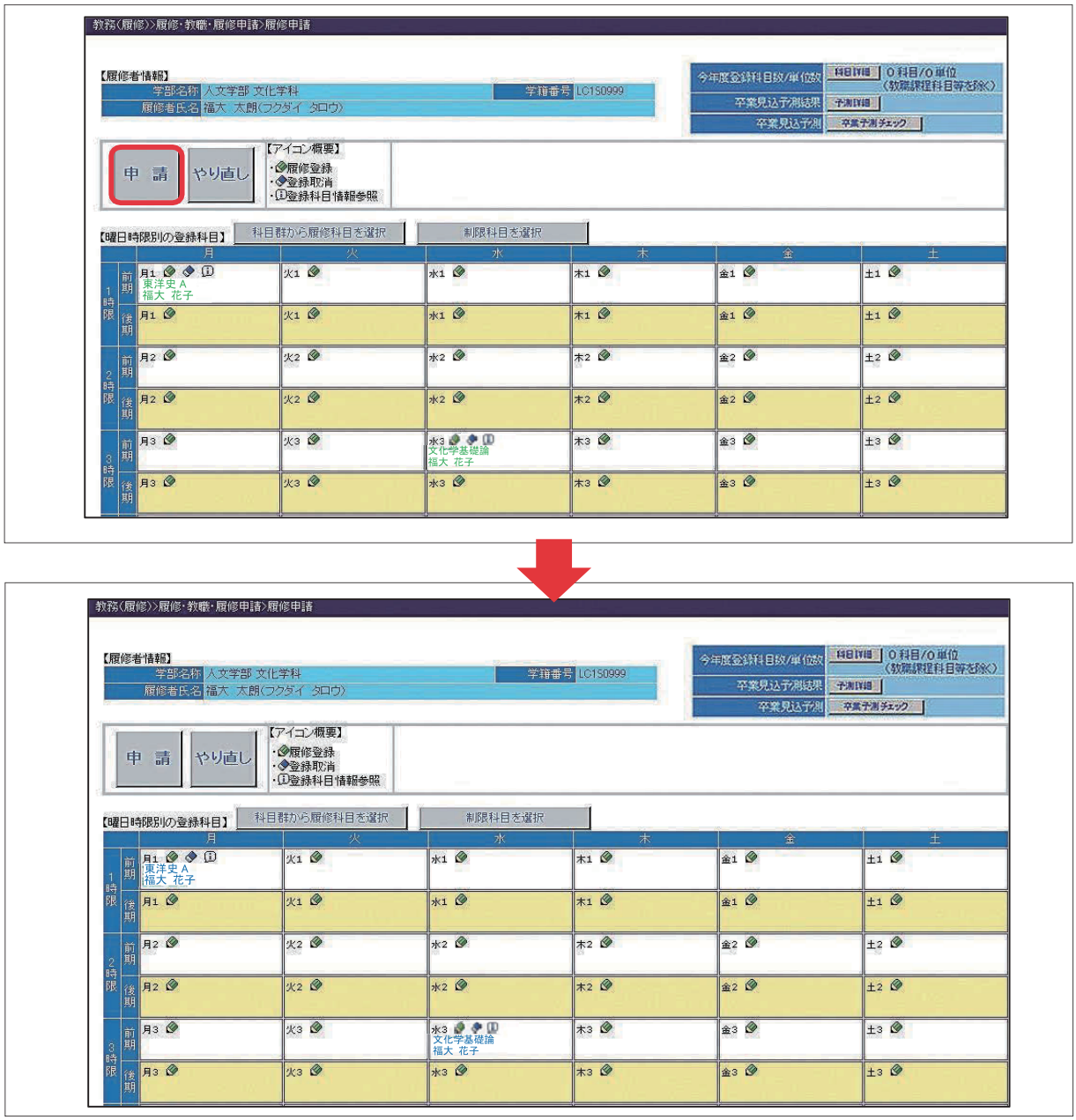
学修基盤科目「データサイエンス・AI 入門」は、 集中講義科目と同様の方法で登録してください。

人文学部の科目について

人文学部の卒業論文（日本語日文学科を除く）、卒業研究は、集中講義科目と同様の方法で登録してください。

9 履修科目の申請

選択した科目は緑色で表示となり、科目を登録するには 申請 ボタンをクリックします。
エラーがなければ、科目名称・担当者名が申請中（青色で表示）で表示となります。



全ての科目の選択が終わったら！

必ず 申請 ボタンをクリックしてください。
申請 ボタンをクリックすることで登録科目のチェックが自動的に行われます。

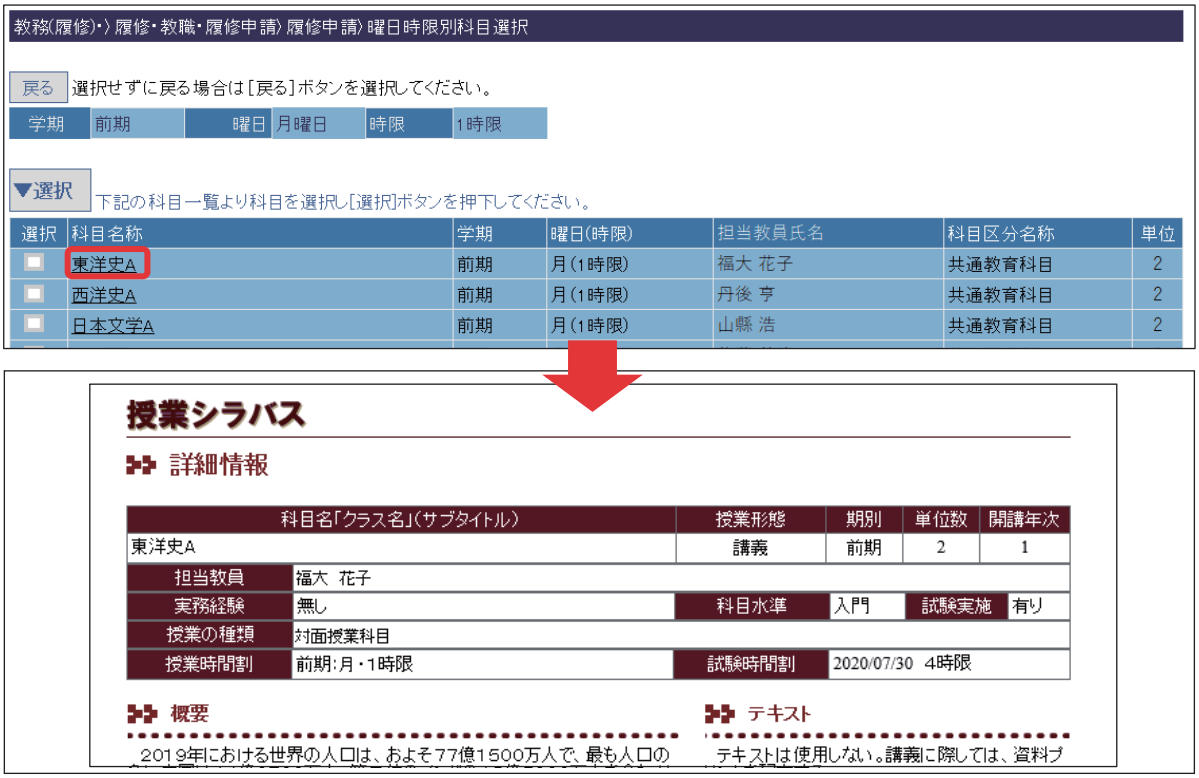
- エラーがない場合　　選択中（緑色で表示）から申請中（青色で表示）に変わります。
- エラーがある場合　　選択中（緑色で表示）からエラー（赤色で表示）に変わります。

一度登録した後、修正して何度でもクリックすることが可能です。
※履修申請時のエラーの内容はP. 28付録①の「履修申請時エラー一覧表」に説明がありますので参照してください。
※エラーが出た場合は科目の選択をやり直し、再度「申請」ボタンをクリックしてください。
全てのエラー（赤色）がなくなるまで繰り返してください。

10 その他の操作

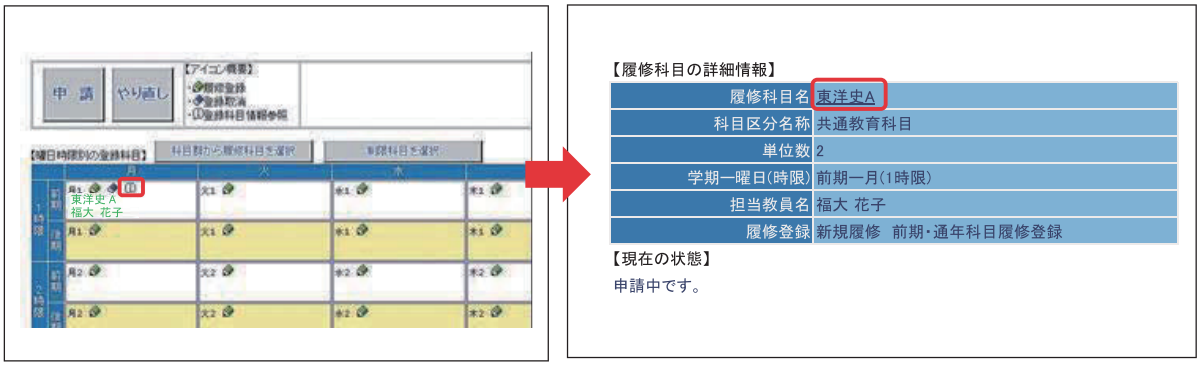
科目のシラバスを見る時

科目選択の画面で ▼選択 ボタンをクリックする前に「科目名称」をクリックするとシラバスが表示されます。



申請した科目の詳細を見る時

をクリックすると次の画面が表示され、選択中または申請中の科目の詳細を見ることができます。
この画面からシラバスを参照するには、「履修科目名」をクリックします。



表示上で注意すること

履修科目の表示

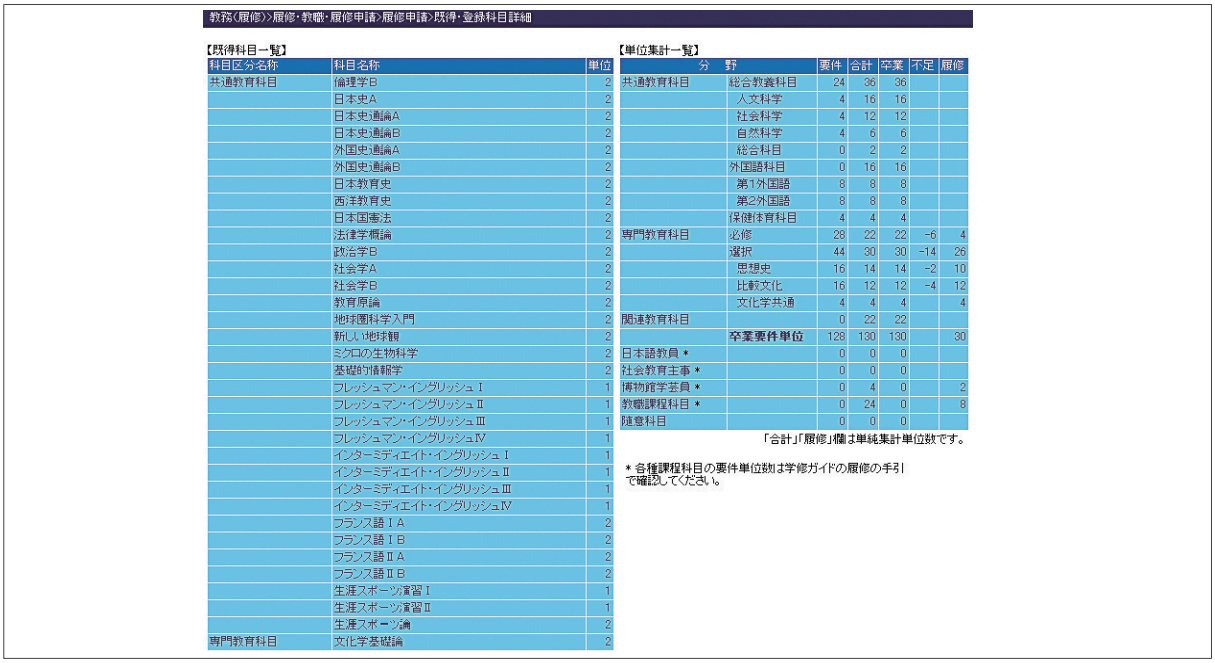
・通年科目は、前期枠の科目名の前に「▼」、後期枠に「▲」を付けて前・後期とも表示します。
・週2コマの科目は、いずれかの1コマ選択すると2コマとも選択されます。

申請した科目を削除する時

をクリックすると、科目名称・担当者名が茶色〈取消線付き〉で表示されます。
申請 ボタンを押して、科目が削除されたことを確認してください。

11 登録科目の詳細の表示

画面右上の 科目詳細 ボタンをクリックすると、下図のとおり、左側に「既得科目一覧」、右側に「単位集計一覧」が表示されます。



※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「卒業」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されるとは限りません。

「既得科目一覧」

科目区分（分野）毎に、前年度までに単位を取得した科目名および単位数が表示されます。

「単位集計一覧」

科目区分（分野）毎の単位集計を表示します。卒業（進級）における「必要単位数（要件）」、「既得単位数（卒業）」、「不足単位数（不足）」および「今年度登録申請する単位数（履修）」を表示します。

12 卒業(進級)見込予測チェックの実行・結果参照

（※対象学部・学科・年台のみ）

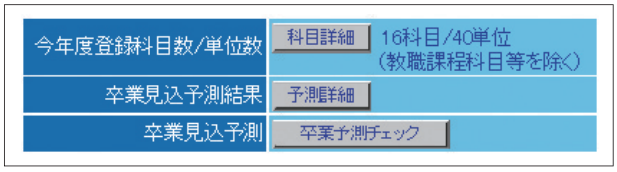
科目申請が完了したら、次に、卒業（進級）見込予測チェックを行います。

卒業対象年次の場合、 卒業予測チェック ボタンが表示されます。

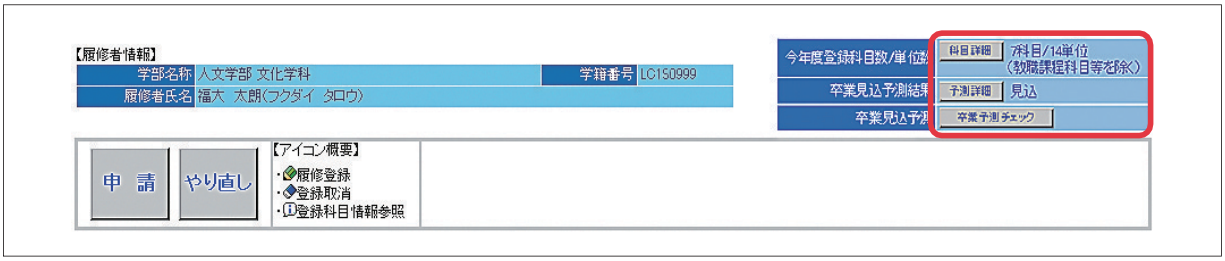
進級対象年次の場合、 進級予測チェック ボタンが表示されます。

この例では、卒業見込予測チェックを実行します。

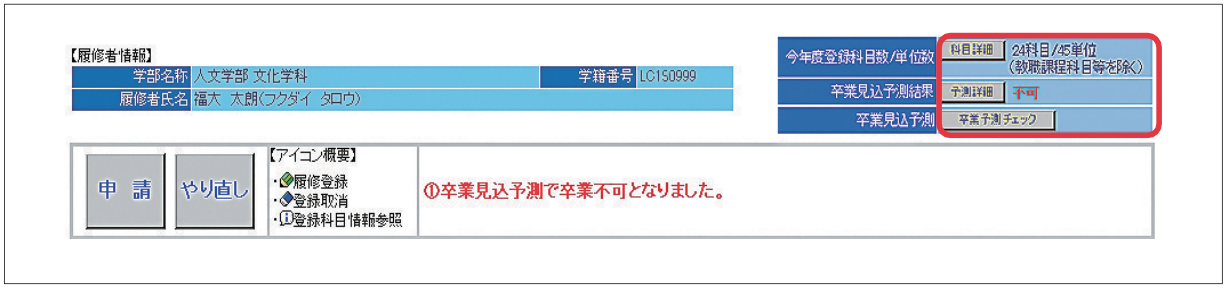
画面右上の 卒業予測チェック または 進級予測チェック ボタンをクリックすると、今回登録した科目の単位を全て取得したと仮定した卒業（進級）見込予測を行います。



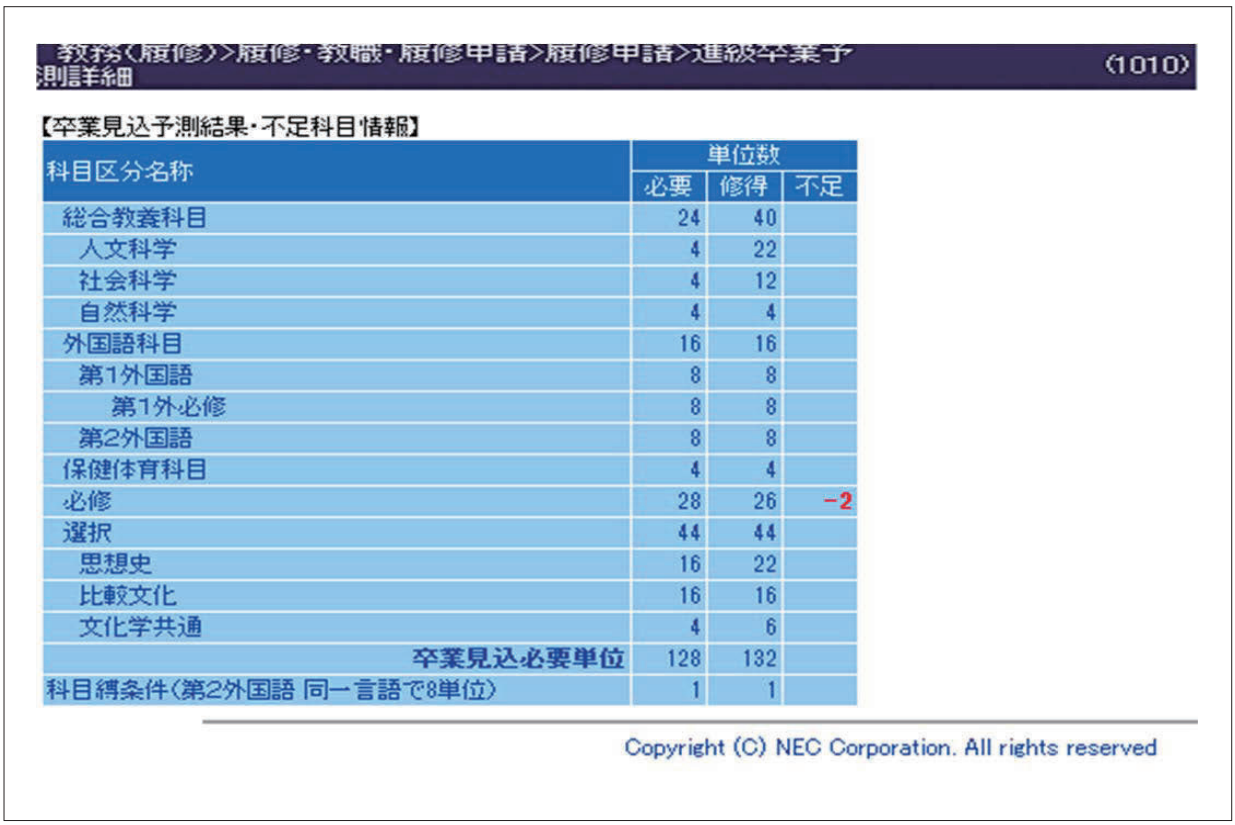
≪例1≫卒業見込予測が「可」の場合



≪例1≫卒業見込予測が「不可」の場合



卒業見込予測を実行すると 予測詳細 ボタンがクリック可能になります。クリックすると「卒業見込予測結果・不足科目情報」が表示されます。



教務(履修)>履修・教職・履修申請>履修申請>進級卒業予測詳細 (1010)

【卒業見込予測結果・不足科目情報】

科目区分名称	単位数		
	必要	修得	不足
総合教養科目	24	40	
人文科学	4	22	
社会科学	4	12	
自然科学	4	4	
外国語科目	16	16	
第1外国語	8	8	
第1外必修	8	8	
第2外国語	8	8	
保健体育科目	4	4	
必修	28	26	-2
選択	44	44	
思想史	16	22	
比較文化	16	16	
文化学共通	4	6	
卒業見込必要単位	128	132	
科目縛条件(第2外国語 同一言語で8単位)	1	1	

Copyright (C) NEC Corporation. All rights reserved

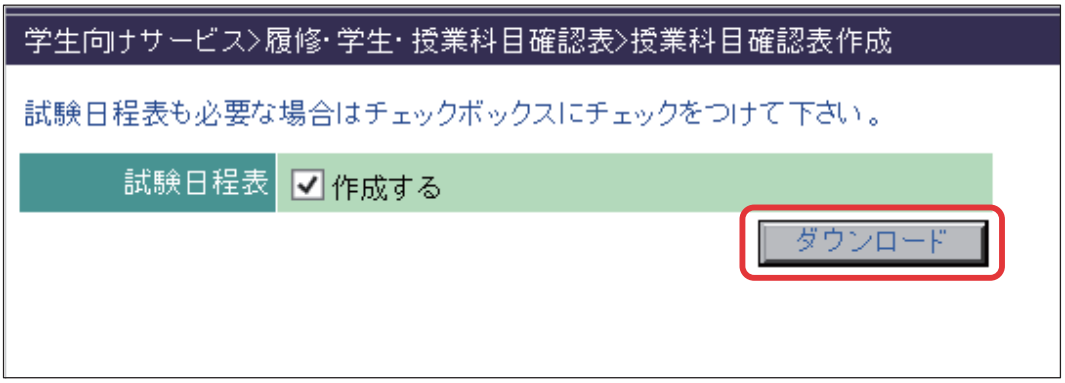
科目区分（分野）毎に卒業（進級）見込予測チェック後の、必要単位数、修得予定単位数、不足している単位数を表示します。不足している科目区分（分野）を確認した上で、履修申請をやり直してください。

※履修方法に条件のある科目区分は、条件を満たしていない場合、「修得」欄と「不足」欄には必ずしも修得した単位数および差し引いた不足単位数が表示されるとは限りません。

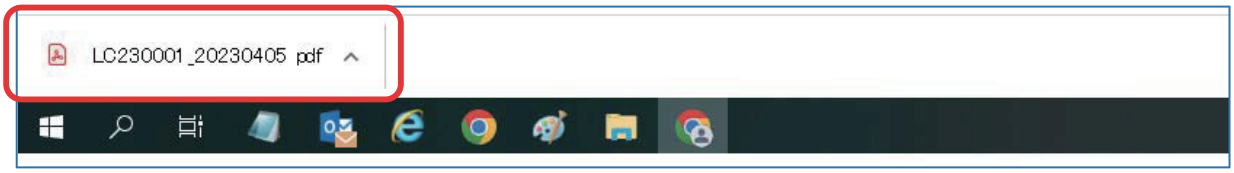
13 授業科目確認表作成・印刷

「履修申請」で登録した科目の授業科目確認表（PDF形式）を表示・印刷します。
「Web履修登録」メニューより、「授業科目確認表作成」をクリックします。

次の画面が表示されますので、試験日程表も必要な場合はチェックボックスをクリックして
ダウンロードボタンを押してください。



授業科目確認表が画面左下にダウンロードされますので、表示する時は、クリックしてください。



授業科目確認表を印刷する場合はプリンターのアイコンをクリックしてください。

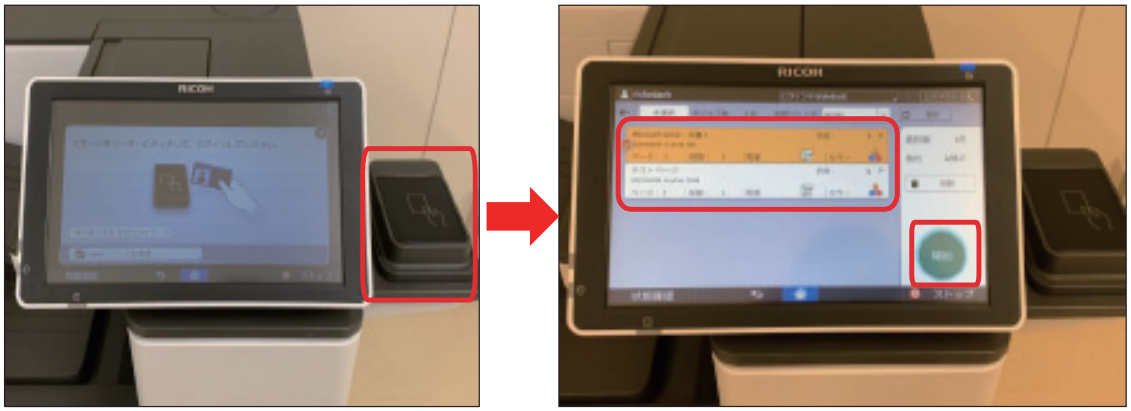
1 / 1　−　94%　+

授業科目確認表

学部名称：人文学部 文化学科
学籍番号：LC231001
カナ氏名：フクダイ　タロウ
学生氏名：福大　太郎
履修学年　：1
学生クラス：LC01
NO.1
最終登録日：2023年04月05日
出　力　日：2023年04月05日

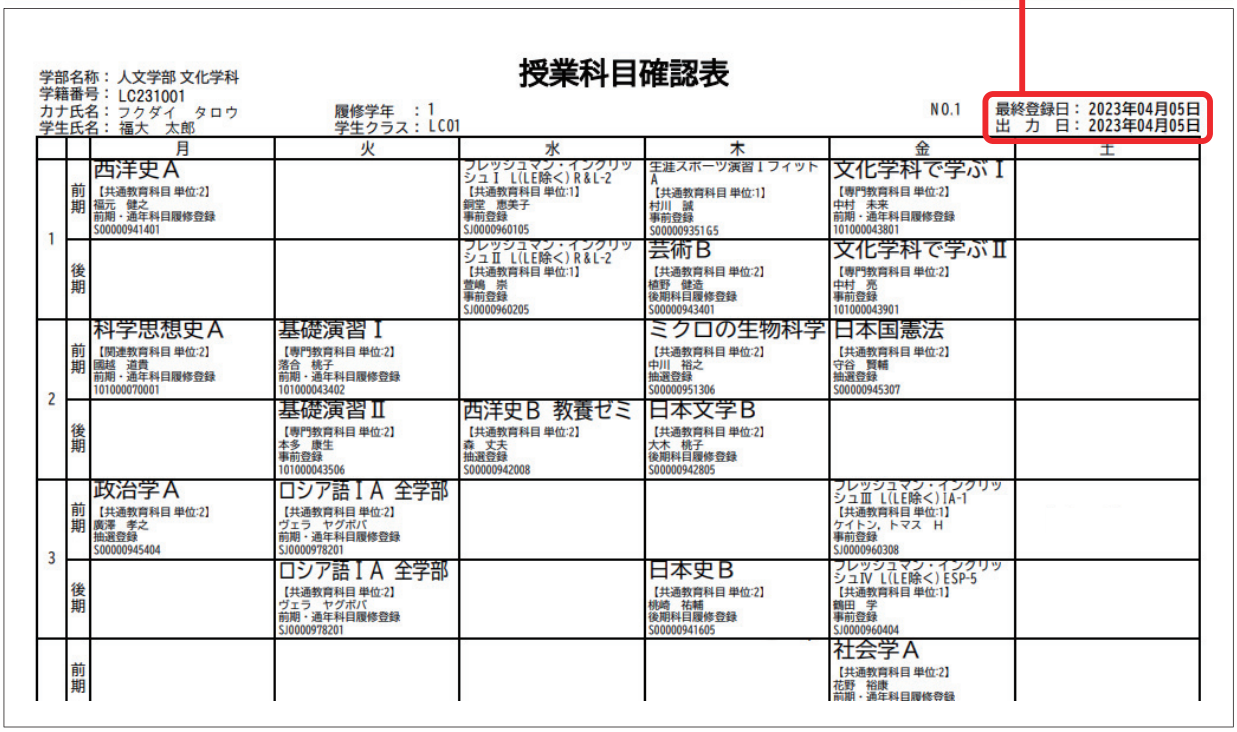
		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史A 【共通教育科目 単位:2】 福元　健之 前期・通年科目履修登録 S0000941401		フレッシュマン・イングリッシュⅠ L(LE除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 銅堂　恵美子 事前登録 SJ0000960105	生涯スポーツ演習Ⅰフィットネス 【共通教育科目 単位:1】 村川　誠 事前登録 S0000093516S	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村　未来 前期・通年科目履修登録 101000043801	
	後期			フレッシュマン・イングリッシュⅡ L(LE除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 雲崎　崇 事前登録 SJ0000960205	芸術B 【共通教育科目 単位:2】 植野　健造 後期科目履修登録 S0000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村　亮 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史A 【関連教育科目 単位:2】 國越　道貴 前期・通年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 落合　桃子 前期・通年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川　裕之 抽選登録 S0000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷　賢輔 抽選登録 S0000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多　康生 事前登録 101000043506	西洋史B 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森　丈夫 抽選登録 S0000942008	日本文学B 【共通教育科目 単位:2】 大木　桃子 後期科目履修登録 S0000942805		
3	前期	政治学A 【共通教育科目 単位:2】 廣澤　孝之 抽選登録 S0000945404	ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ　ヤグボバ 前期・通年科目履修登録 SJ0000978201			フレッシュマン・イングリッシュⅢ L(LE除く)IA-1 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン，トマス　H 事前登録 SJ0000960308	
	後期		ロシア語ⅠA 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ　ヤグボバ 前期・通年科目履修登録 SJ0000978201		日本史B 【共通教育科目 単位:2】 桃崎　祐輔 後期科目履修登録 S0000941605	フレッシュマン・イングリッシュⅣ L(LE除く)ESP-5 【共通教育科目 単位:1】 鶴田　学 事前登録 SJ0000960404	
	前期					社会学A 【共通教育科目 単位:2】 花野　裕康 前期・通年科目履修登録	

教室または廊下などに設置されているプリンタの端末横のリーダーに学生証をかざします。
オンデマンド端末画面に印刷ジョブの一覧が表示されますので、印刷したいジョブのチェックボックスをチェックして「印刷」ボタンをタッチしてください。



【授業科目確認表の説明】

右上部分に最終履修登録の日付と確認表出力の日付を表示します。

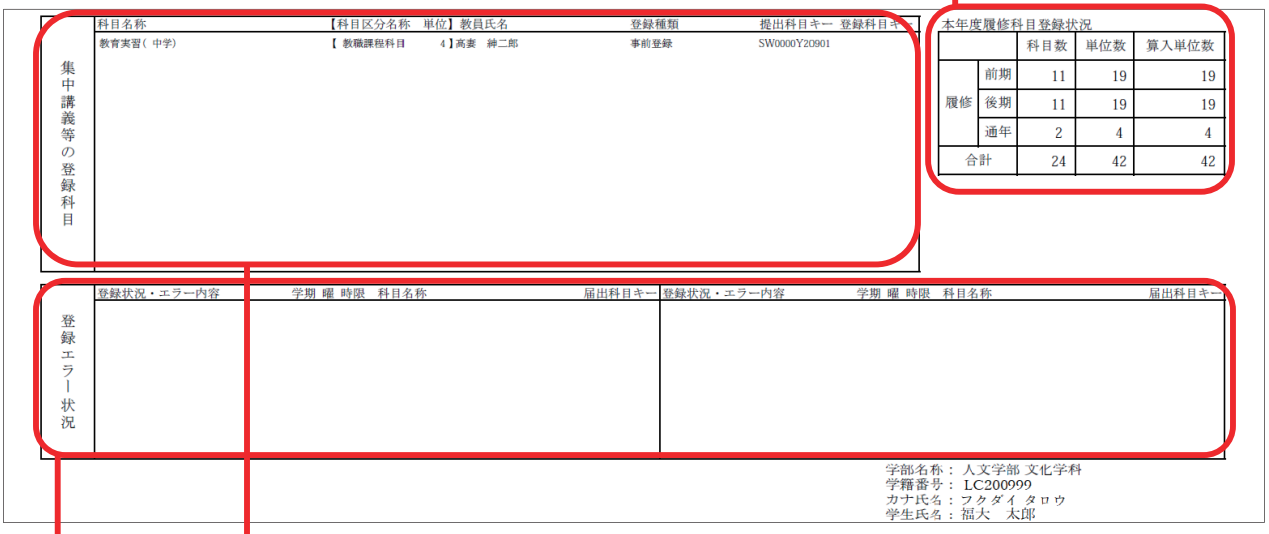


授業科目確認表

学部名称：人文学部 文化学科
学籍番号：LC231001
カナ氏名：フクダイ　タロウ
学生氏名：福大　太郎
履修学年　：1
学生クラス：LC01
NO.1
最終登録日：2023年04月05日
出　力　日：2023年04月05日

		月	火	水	木	金	土
1	前期	西洋史Ａ 【共通教育科目 単位:2】 福元　健之 前期・通年科目履修登録 S00000941401		フレッシュマン・イングリッシュⅠ L(LE除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 銅堂　恵美子 事前登録 SJ0000960105	生涯スポーツ演習Ⅰフィットネス 【共通教育科目 単位:1】 村川　誠 事前登録 S0000935１G5	文化学科で学ぶⅠ 【専門教育科目 単位:2】 中村　未来 前期・通年科目履修登録 101000043801	
	後期			フレッシュマン・イングリッシュⅡ L(LE除く)R&L-2 【共通教育科目 単位:1】 豊嶋　崇 事前登録 SJ0000960205	芸術Ｂ 【共通教育科目 単位:2】 植野　健造 後期科目履修登録 S00000943401	文化学科で学ぶⅡ 【専門教育科目 単位:2】 中村　亮 事前登録 101000043901	
2	前期	科学思想史Ａ 【関連教育科目 単位:2】 國越　道貴 前期・通年科目履修登録 101000070001	基礎演習Ⅰ 【専門教育科目 単位:2】 落合　桃子 前期・通年科目履修登録 101000043402		ミクロの生物科学 【共通教育科目 単位:2】 中川　裕之 抽選登録 S00000951306	日本国憲法 【共通教育科目 単位:2】 守谷　賢輔 抽選登録 S00000945307	
	後期		基礎演習Ⅱ 【専門教育科目 単位:2】 本多　康生 事前登録 101000043506	西洋史Ｂ 教養ゼミ 【共通教育科目 単位:2】 森　丈夫 抽選登録 S00000942008	日本文学Ｂ 【共通教育科目 単位:2】 大木　桃子 後期科目履修登録 S00000942805		
3	前期	政治学Ａ 【共通教育科目 単位:2】 廣澤　孝之 抽選登録 S00000945404	ロシア語ⅠＡ 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ　ヤグボバ 前期・通年科目履修登録 SJ0000978201			フレッシュマン・イングリッシュⅢ L(LE除く)A-1 【共通教育科目 単位:1】 ケイトン，トマス　H 事前登録 SJ0000960308	
	後期		ロシア語ⅠＡ 全学部 【共通教育科目 単位:2】 ヴェラ　ヤグボバ 前期・通年科目履修登録 SJ0000978201		日本史Ｂ 【共通教育科目 単位:2】 桃崎　祐輔 後期科目履修登録 S00000941605	フレッシュマン・イングリッシュⅣ L(LE除く)ESP-5 【共通教育科目 単位:1】 鶴田　学 事前登録 SJ0000960404	
	前期					社会学Ａ 【共通教育科目 単位:2】 花野　裕康 前期・通年科目履修登録	

今年度履修科目の登録状況を表示します。



集中講義等の登録科目

科目名称	【科目区分名称　単位】教員氏名	登録種類	提出科目キー 登録科目キー
教育実習（中学）	【教職課程科目　4】高妻　紳二郎	事前登録	SW0000Y20901

本年度履修科目登録状況

		科目数	単位数	算入単位数
履修	前期	11	19	19
	後期	11	19	19
	通年	2	4	4
合計		24	42	42

登録エラー状況

登録状況・エラー内容	学期 曜 時限　科目名称	届出科目キー	登録状況・エラー内容	学期 曜 時限　科目名称	届出科目キー

学部名称：人文学部 文化学科
学籍番号：LC200999
カナ氏名：フクダイ タロウ
学生氏名：福大　太郎

<u>集中講義等の登録科目の表示</u>

集中講義科目・人文学部の卒業論文（日本語日本文学科を除く）、卒業研究を履修登録している場合にその情報を表示します。

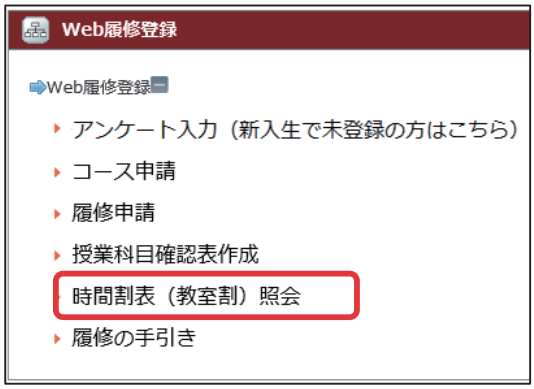
<u>登録エラーの状況</u>

登録エラー科目のエラー内容と履修科目情報を表示します。

14 時間割表（教室割）照会

開講日の前日以降、「Web履修登録」メニューの「時間割表（教室割）照会」をクリックすると、今年度の時間割表（教室割）を画面で参照・印刷することができます。

なお、その際は通年科目、前期完結科目の教室のみ表示します。後期完結科目の教室については、後期開講前に再度、確認してください。



時間割表の作成

［出力］ボタンをクリックすると、「時間割表（教室割）を作成しました。ダウンロードはこちらから。」とメッセージが表示され、時間割表（教室割）（PDF 形式）が作成されます。

時間割表（教室割）のダウンロード

［こちら］リンクをクリックすると、時間割表（教室割）をダウンロードできます。

集中講義等の登録科目の表示

集中講義・人文学部の卒業論文（日本語日本文学科を除く）、卒業研究の履修科目を表示します。

時間割表（教室割）（PDF形式）を確認します。

時 間 割 表（教 室 割）

学部名称：人文学部 文化学科
学籍番号：LC231001
氏　　名：福大　太郎

2024年度

2024/03/25
1

		月	火	水	木	金	土
1限	前期	自然科学入門 林　辰弥 A203		フレッシュマン・イングリッシュⅠ L(LE除く)R&L-2 西村　恵 A711		文化学科で学ぶⅠ 浦上　雅司 A101	
	後期			フレッシュマン・イングリッシュⅡ L(LE除く)R&L-2 石井　和仁 A717		文化学科で学ぶⅡ 縄田　健悟 AB02	
2限	前期		基礎演習Ⅰ 本多　康生 24L				
	後期		基礎演習Ⅱ 落合　桃子 1015	社会学B 開田　奈穂美 A402	心理学B 教養ゼミ 縄田　健悟 A711		
3限	前期		朝鮮語ⅠA LC1・LJ1・LH 申　鎬 821			フレッシュマン・イングリッシュⅢ L(LE除く)1A-1 ダタール，ニティン A616	
	後期	数学入門 日比野　雄嗣 A202	朝鮮語ⅠA LC1・LJ1・LH 申　鎬 821	生活と環境の化学 中津　可道 845		フレッシュマン・イングリッシュⅣ L(LE除く)ESP-5 ベヴァン，グレッグ A616	
4限	前期		社会学A 本多　康生 823		生涯スポーツ演習Ⅰフィットネス 築山　泰典		
	後期	統計入門 日比野　雄嗣 A202	西洋史B 山本　達夫 A403		生涯スポーツ演習Ⅱバドミントン/卓球 川面　剛	自然科学と人間 柴田　智郎 A203	
5限	前期		西洋文学A 野田　康文		哲学A 大西　克智 A201	朝鮮語ⅠB LC1・LJ1・LH 姜　姫銀 A610	
	後期					朝鮮語ⅠB LC1・LJ1・LH 姜　姫銀 A610	
6限・夜間1	前期						
	後期						
7限・夜間2	前期						
	後期						

集中講義等	学期　曜日 時限　科目名	教員氏名	教室
	前期　集　　その他　データサイエンス・AI入門	瀬川　波子	

※授業教室の公開は、開講日の前日以降を予定しています。
FU ポータルでお知らせしますので、事前に授業教室を確認したうえで
登学してください。

FU ポータル　https://portal.fukuoka-u.ac.jp/

付録①　履修申請時エラー一覧表

・登録内容にエラーがあった場合に表示されるエラーメッセージとその説明です。
・登録科目を変更し、［申請］ボタンを押して、登録エラーが無い状態にしてください。

No.	メッセージ	説　　明
1	同一科目クラス違いを申請しているエラー	登録した科目と同一科目のクラス違いを履修登録している為、登録できません。 クラス違いの同一科目を削除してください。
2	登録科目が修得済または登録済	登録した科目は既に修得済または登録済です。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
3	登録科目において曜日・時限で重複しているエラー	登録した科目の曜日・時限が重複しています。 重複している科目を削除してください。
4	登録科目において試験日・時限間で重複しているエラー	登録した科目の試験日程が重複しています。 重複している科目を削除してください。
5	登録科目において前提科目が未履修もしくは未修得であるエラー	前提科目を履修もしくは修得していません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、前提科目を確認して、科目を登録または削除してください。
6	登録科目において前提科目が履修済もしくは修得済であるエラー	前提科目を履修もしくは修得しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、履修条件を確認して、科目を削除してください。
7	登録科目において並行履修不可であるエラー	同時に履修できない科目を履修登録しています。 科目を削除してください。
8	登録制限単位数超過エラー	制限単位数を超えて履修登録しています。 『学修ガイド』（履修の手引）で、制限単位数を確認して超過分を削除してください。
9	登録制限単位数不足エラー	登録単位数が制限単位数を満たしていません。 『学修ガイド』（履修の手引）で、最低単位数を確認して不足分を登録してください。
10	必修科目未履修エラー	必修科目（外国語科目等）が未登録です。 『学修ガイド』（履修の手引）で、必修科目を確認して登録してください。
11	抽選が外れました。	制限科目が抽選で外れました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。
12	定員オーバーのため、登録できません。	制限科目（先着順）が定員オーバーとなりました。 履修登録できませんので、登録した科目を削除してください。

制限科目のエラーについて

制限科目がエラーになった時は、制限科目の申請期間内に削除してください。制限科目の申請期間を過ぎると削除や修正ができません。申請期間が過ぎて削除等ができなくなった時は、所属学部の事務部署へ申し出てください。

付録②　Web プロフィールを事前登録する方法

履修登録は、Web プロフィールの入力をしなければ、履修科目の登録ができません。在学中に住所等に変更があれば修正してください。

履修登録に十分な時間を確保するため、あらかじめ Web プロフィールの入力およびアンケート（新入生のみ）の回答を完了させてください。

〔履修申請メニュー以外から、Web プロフィールを登録・修正する方法〕

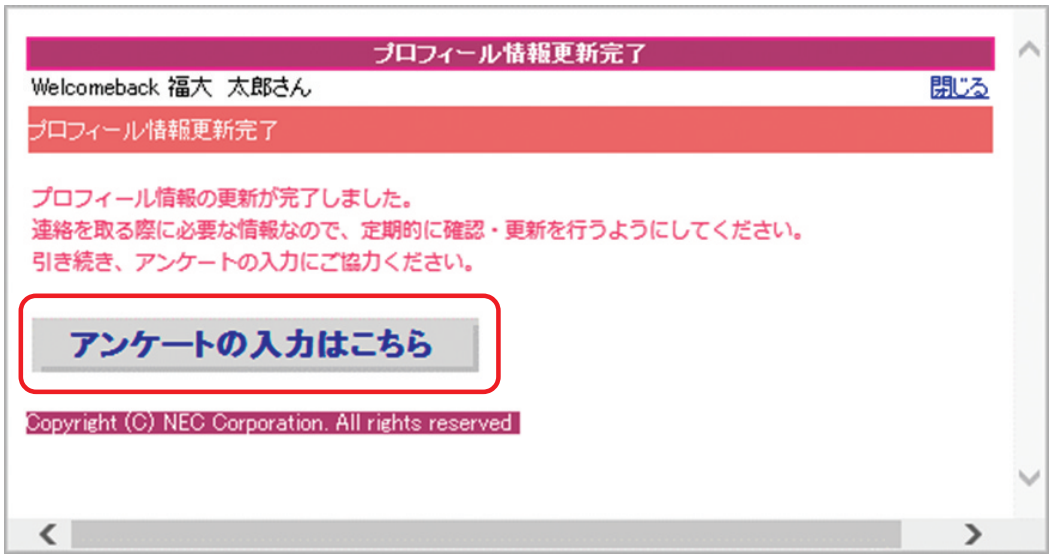
履修申請メニューは、あなたの所属する学部学科の時間帯しか表示されませんので、履修登録時以外に事前に「Web プロフィール」を登録・修正する場合、以下の方法で実施してください。

「FU ポータル」の「共通」メニューを選択すると、左下に「Web プロフィール」が表示されます。

「プロフィール情報修正」を選択すると、履修登録時以外でも「Web プロフィール」を登録・修正することができます。※プロフィールに変更があった場合は、必ずプロフィール情報修正を行ってください。

※Web プロフィール情報の入力方法の詳細は入力マニュアルで確認してください。

Web プロフィール終了後、アンケート画面（新入生のみ）に進みます。



表示されたアンケートに回答してください。

全て完了したら最後に「提出する」ボタンをクリックしてください。

以上で事前登録は終了です。

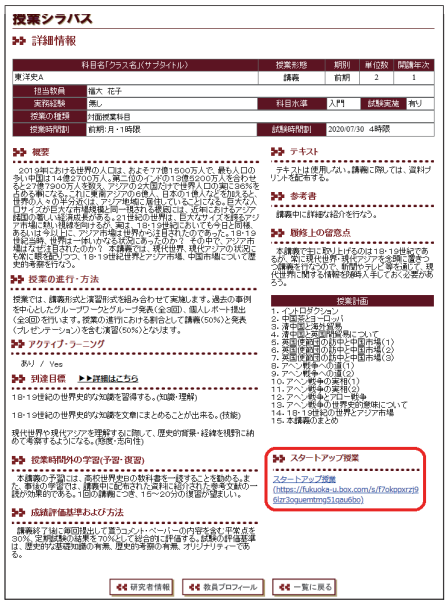
付録③　シラバスの閲覧方法について

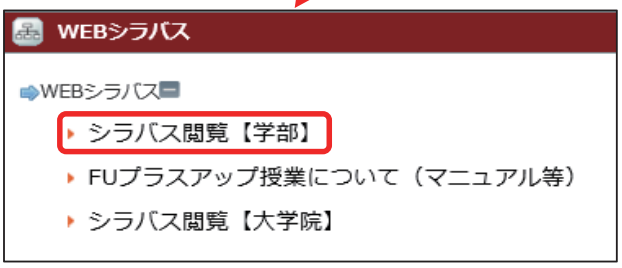
シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。シラバスには、科目名だけではわからない詳細な情報が記載されています。活用方法等については、本書「第Ⅳ章 履修の手引」の「シラバス」の項目を参照してください。

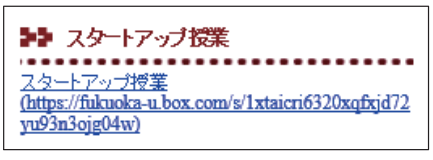
〔閲覧方法〕

「授業関連」メニュー から「WEB シラバス」の「シラバス閲覧（学部）」をクリックすると、シラバスの検索画面が表示されます。検索画面から教員名、科目名、学科等から検索し、閲覧することができます。

シラバス検索で科目を選択後、 このように表示されます。







スタートアップ授業について

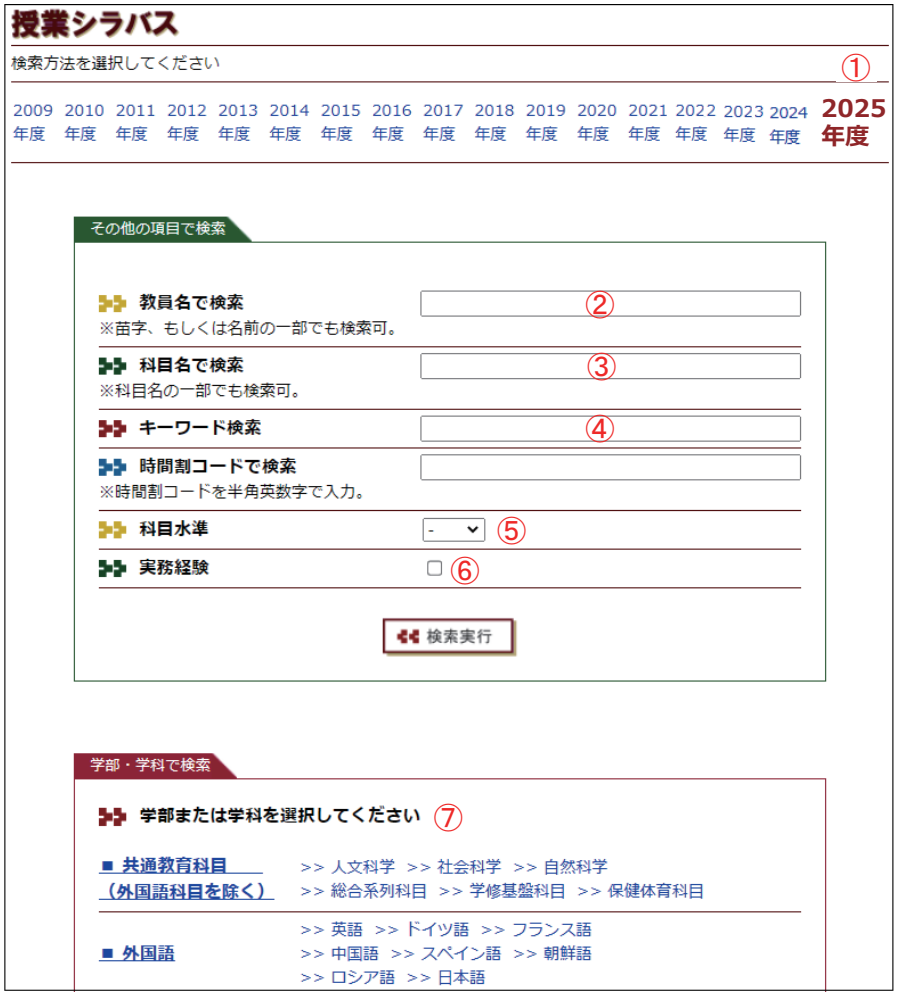
URLをクリックすると、 スタートアップ授業の動画を閲覧することができます。

スタートアップ授業とは、 第 1 回目に行われるシラバスの丁寧な説明を含んだ授業です。

本学の学生は全てのスタートアップ授業を 3 月上旬から 1 年間、 いつでも閲覧することができるため、履修登録前に視聴することで、 より主体的な履修選択ができます。

※スタートアップ授業を行う科目では、 第 1 回目の授業はスタートアップ授業で行われます。
必ず第 1 週目の授業開始までに視聴してください。

〔シラバス閲覧検索画面〕



① 閲覧したい年度をクリックしてくだい。

② 教員名で検索　▸苗字、または名前の一部でも検索が可能です。

③ 科目名で検索　▸科目名の一部でも検索が可能です。

④ キーワードで検索　▸入力したキーワードを元に検索します。

⑤ 科目水準で検索　▸科目水準（1：入門、2：初級、3：中級、4：上級）ごとに検索します。

⑥ 実務経験で検索　▸実務経験を有する教員による、実務経験を活かした授業科目を検索することができます。

⑦ 学部・学科で検索　▸選択した学部・学科に開講している科目が表示されます。

付録④　休講・補講情報の確認方法

休講や補講は、FUポータルで確認できます。なお、補講については原則として、補講日の一週間前にFUポータルで、日時・教室等をお知らせします。また、休講・補講の情報は大学から入学時に付与されたメールアドレスにお知らせが届きます。

〔休講・補講情報の確認〕

◆ 「FUポータル」画面にある「授業関連」メニューを選択すると「休講・補講」が表示されます。
休講および補講の情報はこちらのメニューから確認することができます。

◆ 休講情報照会

◆ 補講情報照会

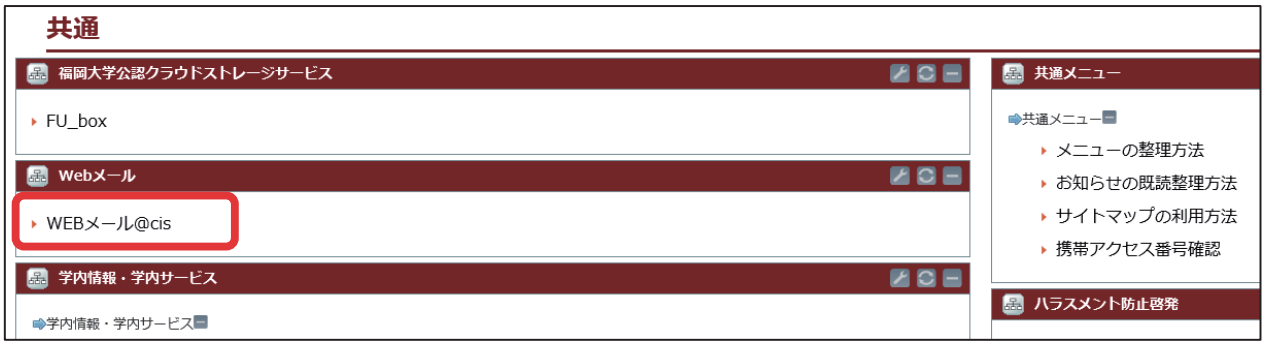
〔メールについて〕

大学から次のようなメールアドレスが付与されます。メールアドレスの一部となる学籍番号の部分は、福大IDのアカウント名と同様に、学部や学科名称を表すアルファベットは小文字となります。

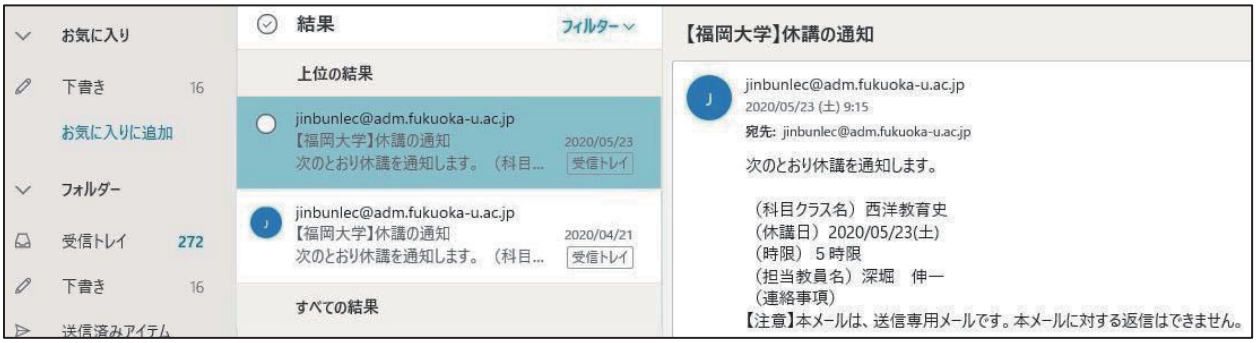
アカウント名＠cis.fukuoka-u.ac.jp

学籍番号（小文字）：例　ee250001

◆　「共通」メニューに「Web メール」が表示されているので、こちらでメール確認ができます。



【休講の通知メール】



【補講の通知メール】

Microsoft Outlook のアプリをスマートフォンに入れ、大学のメールアドレスを設定すると、都度ログインすることなく、メールを確認することができます。

休講・補講の通知メールは担当教員からの連絡事項がある場合がありますので、必ず確認してください。

Microsoft Outlook

付録⑤　よくある質問Q＆A

Q.パスワードがわからない（忘れた）

A.学生証を持参のうえ、文系センター棟 3F の情報基盤センター利用者受付か、所属学部の事務室で手続きしてください。なお、パスワードは新入生の学生証交付時または対面の履修ガイダンスで配付しています。

Q.履修申請画面がでてこない

A.履修登録の日時は、学部・学科別に指定されています。「履修登録の手引」P2 の履修登録スケジュール表を確認してください。なお、履修申請画面は指定の日時のみ表示されます。

Q.履修登録した科目が登録されていない

A.［申　請］ボタンは押しましたか？［申　請］ボタンを押すことによって科目が登録され、登録科目のチェックが自動的に行われます。

※履修登録中にエラーになることがあるので、［申　請］ボタンはこまめに押しましょう。

Q. パソコンの画面が固まって、全く操作できない

A.［申　請］ボタンを押して保存をした時点まで戻ります。再度ログインし、登録科目を確認してから、履修登録をすすめてください。

※画面が止まったままのパソコンは電源ボタンを5秒以上長押しして電源を切り、再度起動してください。

Q.履修登録のボタンが押せない

A.「Web プロフィール」は登録済ですか？「Web プロフィール」を入力しなければ、履修登録はできません。

※「Web プロフィール」の入力方法の詳細は「Web プロフィール」登録画面右上の 入力マニュアルはこちら をクリックして確認してください。（本書P29 付録②を参照）

Q.授業科目確認表の印刷方法がわからない

A.本書の P23 を参照してください。

Q.履修登録が学部・学科の指定日時に終わらなかった

A.学部学科の指定時間以外に、「全学部利用可能時間」を設けています。履修登録が完了しなかった場合は、この時間を利用し、必ず登録作業を完了させてください。

全学部利用可能時間（新入生のみ）	・4 月 5 日（土）　20:00～25:00 ・4 月 6 日（日）　16:20～17:50

個人情報の取扱いについて

本学では「個人情報の保護に関する法律」に基づき、「学校法人福岡大学個人情報保護規程」を定め個人情報の保護に努めています。「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」に基づく、「個人番号」および「特定個人情報」に関しても同様です。本学学生の個人情報に関する基本的な姿勢と取扱いについてご説明いたします。

1．法令の遵守と学内規程の整備

本学は、「個人情報の保護に関する法律」その他法令の規定を遵守すると共に、個人情報の取得、保管、利用など取扱いに関する必要な事項を定め、個人情報の適切な保護に努めます。

2．個人情報の取得

本学は、本学の学生から個人情報を取得する際には、あらかじめ利用目的を特定し、その利用目的の達成に必要な範囲内において、公正な手段により取得します。また、思想、信条及び宗教に関する個人情報は取得しません。

〈主な利用目的〉

○学生募集、入学試験に関する業務
○履修・成績管理に関する業務
○入学、卒業、退学、休学等の学籍管理に関する業務
○課外活動、健康管理に関する業務
○奨学金に関する業務
○授業料その他納付金等の収納・督促に関する業務
○就職・進路支援に関する業務
○教育改善のための教学情報の活用に関する業務
○個人番号関係業務
○一般社団法人福岡大学同窓会有信会の運営に関する業務
○福岡大学父母後援会の運営に関する業務
○その他学生生活、修学指導に関する業務

※詳しくは、大学ホームページに掲載している「学校法人福岡大学個人情報保護規程別表」等をご覧ください。

3．個人情報の利用

本学が保有する個人情報を本人の同意を得ないで、定められた利用目的以外の利用や、第三者への提供は行いません。ただし、法令等に基づくもののほか、次の場合は当該個人データを提供するものとします。

①在学生の父母及び学費負担者に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、課外活動情報の提供
②一般社団法人福岡大学同窓会有信会に対して卒業後の住所、進路・就職先情報の提供
③福岡大学父母後援会に対して学籍情報、履修・成績情報、出席情報、家族情報の提供

4．個人情報の管理

本学は、個人情報の管理体制を整備し、個人データについては利用目的の達成に必要な範囲内において正確かつ最新の内容に保ち、漏えい、滅失又は毀損の防止など安全管理のために必要かつ適切な措置を講じます。

なお、個人情報の取扱いを外部に委託する場合は、委託先が個人情報の安全管理のために適切な措置を講じるよう監督し、その内容を委託契約に明記します。

5．個人情報の開示等

本学は、本人からの当該保有個人データの開示、訂正（追加、削除含む）、利用停止の請求を受け付けます。

6．個人情報に関する問合せ先

本学の個人情報に関する苦情やご質問は、個人情報の内容によって受付窓口が異なります。大学公式ホームページの個人情報関連のページをご覧いただくか、下記あてにお問い合せください。

【問合せ先】　福岡大学　総務課

Faculty of Pharmaceutical Sciences